香芝市立二上小学校増築工事

2010. 9

OGAWA Architects Office

図番	図面番号	縮尺
A－1	特記仕様書(1)	―――
A－2	特記仕様書(2)	―――
A－3	特記仕様書(3)	―――
A－4	特記仕様書(4)	―――
A－5	特記仕様書(5)	―――
A－6	特記仕様書(6)	―――
A－7	特記仕様書(7)	―――
A－8	特記仕様書(8)・工事区分表	―――
A－9	外部仕上表・内部仕上表	―――
A－10	付近見取図	1／2500
A－11	現況図	1／100
A－12	配置図兼外構平面図	1／100
A－13	外構詳細図	1／30
A－14	丈量図・建物求積図	1／100・200
A－15	1階平面図（校舎棟・渡り廊下）	1／100
A－16	2階平面図（校舎棟・渡り廊下）	1／100
A－17	屋根伏図（校舎棟・渡り廊下）	1／100
A－18	立面図・断面図（校舎棟）	1／100
A－19	立面図・断面図（渡り廊下）	1／100
A－20	矩計図(1)	1／30
A－21	矩計図(2)	1／30
A－22	階段平面詳細図	1／30
A－23	階段断面詳細図(1)	1／30
A－24	階段断面詳細図(2)	1／30
A－25	階段断面詳細図(3)	1／30
A－26	階段詳細図	1／5
A－27	普通教室　平面詳細図・展開図	1／50
A－28	普通教室(2F南東側)　平面詳細図・展開図	1／50
A－29	男女便所　平面詳細図・展開図	1／50
A－30	天井伏図	1／100
A－31	建具配置図・建具表	1／50・100
A－32	家具詳細図(1)	1／50
A－33	家具詳細図(2)	1／50
A－34	家具詳細図(3)	1／50
A－35	スクールパーテーション参考図	1／25

図番	図面番号	縮尺
A－36	既設校舎　現況平面詳細図・矩計図	1／50
A－37	既設校舎　改修平面詳細図	1／50
A－38	既設校舎　接続部立面図・矩計図	1／50
B－1	構造特記仕様書	―――
B－2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	―――
B－3	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	―――
B－4	鉄骨工作標準図(1)	―――
B－5	鉄骨工作標準図(2)	―――
B－6	デッキプレート標準図	―――
B－7	土質柱状図	―――
B－8	基礎伏図・基礎詳細図	1／20・100
B－9	1・2階　柱ブレース割付図	1／100
B－10	2・R階　梁伏図　部材リスト	1／100
B－11	軸組図(1)	1／100
B－12	軸組図(2)	1／100
B－13	鉄骨詳細図	1／30
B－14	部分詳細図(1)	1／5
B－15	部分詳細図(2)	1／5

図番	図面番号	縮尺
E－1	電気設備工事　特記仕様(1)	―――
E－2	電気設備工事　特記仕様(2)	―――
E－3	結線図・凡例	―――
E－4	全体配置図	1／200
E－5	照明器具姿図	―――
E－6	動力設備平面図	1／100
E－7	電灯設備平面図	1／100
E－8	コンセント設備平面図	1／100
E－9	弱電機器姿図	―――
E－10	放送設備平面図	1／100
E－11	自火報設備平面図	1／100
E－12	弱電設備系統図	―――
M－1	機械設備工事特記仕様書(1)	―――
M－2	機械設備工事特記仕様書(2)	―――
M－3	機器・器具表	―――
M－4	給排水衛生設備　配置図	1／100
M－5	給排水衛生設備　平面図	1／100
M－6	便所廻り平面詳細図、換気設備　平面図	1／50・100
M－7	空調設備　平面図	1／100
M－8	浄化槽詳細図	1／40

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	図面リスト	―	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

特記仕様書

Ⅰ．工事概要

１．工事場所：奈良県香芝市畑四丁目573番地他

２．敷地面積：　476.55㎡

３．工事種目：

建築工事・・・・・１式
電気設備工事・・・１式
機械設備工事・・・１式
外構工事・・・・・１式

Ⅱ．建築工事仕様

１．共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書（最新版）」（以下共仕という。）による。

２．特記仕様

（１）　項目は、番号に○印のついたものを適用する。
（２）　特記事項は、◎印のついたものを適用する。
　　◎のつかない場合は、＊印のついたものを適用する。
　　◎印と＊印のついた場合は、共に適用する。
（３）　特記事項に記載の（　　）内表示番号は、共仕１章～２３章の当該項目、当該図面又は当該表を示す。
　　また、［　　］内表示番号は、共仕別図　各部配筋の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　　目	特　記　事　項
①一般共通事項	① 適用基準等	＊一般仕様として、下記の共通仕様書を適用する。 ◎建築工事共通仕様書　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎建築工事監理指針（上下巻）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎建築工事標準詳細図　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎建築構造設計基準及び同解説　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎工事写真の撮り方　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎土木部建築工事監督及び検査必携　奈良県土木部 ◎建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集　奈良県土木部 ◎機械設備工事共通仕様書　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎機械設備工事監理指針　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎電気設備工事共通仕様書　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎電気設備工事監理指針　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ◎鉄筋コンクリート構造配筋要領　［最新版］　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	② 工事実績情報の登録	＊適用する。　（１．１．４）
	③ 発生材の処理	・引渡しを要するもの　（１．３．８） ・特別管理産業廃棄物 ・現場において再利用を図るもの ◎再生資源化を図るもの ・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　◎建設発生木材 ◎再生資源利用［促進］計画書（実施書）を提出する。 （建設副産物対策近畿地方連絡協議会） ◎産業廃棄物の処理 ・関係法令に従い構外搬出適切処理とし、搬出書類等提出する。 ◎産業廃棄物管理表（マニフェスト）を提出する。
	④ 電気保安技術者	＊適用する。　（１．３．３）
	⑤ 技能士	（１．５．２） 技能検定の職種　作業の種別 鉄筋工事（　・鉄筋施工）　・全て コンクリート工事（　・左官　・型枠施工）　・全て 鉄骨工事（　・とび）　・全て ブロック・ＡＬＣパネル工事・ＰＣカーテンウォール工事（　・ブロック建築　・ＡＬＣパネル施工　・カーテンウォール施工）　・全て 防水工事（　・防水施工）　・全て 石工事（　・石材施工） タイル工事（　・タイル張り）　・全て 木工事（　・建築大工）　・全て 屋根及びとい工事（　・建築板金　・スレート施工　・かわらぶき）　・全て 金属工事（　・内装仕上げ施工（鋼製下地））　・全て 左官工事（　・左官）　・全て 建具工事（　・サッシ施工　・ガラス施工）　・全て 塗装工事（　・塗装）　・全て 内装工事（　・内装仕上げ施工（床、天井仕上げ等）　・表装）　・全て 植栽工事（　・造園）　・全て

①一般共通事項	⑥ 建築材料等	＊下記に掲げる材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」に記載されたもの（但し、評価の有効期限内のものに限る）を使用する。この場合、評価書の写しをもって、共仕１．４．２．（ｂ）による品質及び性能を有することの証明となる資料に代える。ただし、これと同等のものとする場合は、監督職員の承諾をを受ける。 （材料品目） 床型枠用デッキプレート（フラットデッキ）、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材（プレミックス形、現場調合形）、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材（防水立上部押出成形セメント板、金属複合板） 陶磁器質タイル（陶器質タイル、せっ器質タイル、磁器質タイル、再生材利用タイル）、透水・保水性歩行用ブロック及び床タイル、既製調合モルタル（タイル工事用）、ルーフドレン、吸水調整材（モルタル用）、 アルミニウム製建具（７００－２００－８－３５、７０－２４０－８－３５ １００－２８０－２－５０） 鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類（モノロック、本締付モノロック、シリンダ箱錠［シリンダ箱錠、レバーハンドル］、シリンダ本締錠）、クローザー類（ドアクローザー、ヒンジクローザー、フロアヒンジ）、自動扉機構（制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置、検出装置、（大型回転自動ドアに適用）、自閉式上吊り引き戸機構（手動開き式）、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、 ガラス（フロート板ガラス、型板ガラス、網入板ガラス及び線入板ガラス、合わせガラス、強化ガラス、熱線吸収板ガラス、複層ガラス、 倍強度ガラス、熱線反射ガラス、）、ガラスブロック（中空） 防水剤、ビニル床シート（床シート）、ビニル床タイル（床タイル）、 現場発泡断熱材（特定フロンによるものを除く）、 フリーアクセスフロア（３０００Ｎ．５０００Ｎ）、移動間仕切（スライディングドア）、可動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、 天井点検口、床点検口、グレーチング、インターロッキングブロック、 人工屋上緑化用システム、トップライト エポキシ樹脂（パテ状エポキシ樹脂、可とう性エポキシ樹脂、エポキシ樹脂モルタル）、タイル部分張替用接着剤（ポリウレタン樹脂系）、 変成シリコーン樹脂系、エポキシ樹脂、シリコーン樹脂系変成シリコーン・エポキシ樹脂系） ポリマーセメントモルタル、既製調合目地材、 鋳鉄製ふた（マンホールふた・弁桝ふた） ＊本工事に使用する材料のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものを使用する。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ＊建物内部（天井裏、床下を含む）に使用する下記に掲げる各材料等は、それぞれに定められた基準等に適合するものを選定する。 ①（合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層板、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材） 次の１及び２を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ②（ユリア樹脂板） 次の１及び２を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ③（壁紙） 次の１及び２を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ④（接着剤） 次の１、２及び３を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ３、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないものであること。 尚、可塑剤を使用している接着剤はフタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。 ⑤（保温材、緩衝材、断熱材） 次の１及び２を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ⑥（塗料） 次の１、２及び３を満足するものとする。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ３、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないものであること。 ⑦（仕上塗材） 次の１及び２を満足するものとする。 １、ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合していること。 ２、アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散がきわめて少ないものであること。 ⑧（家具、書架、実験台、その他付器等） ①、④、⑥に掲げる材料等を使用している場合は、それぞれの基準等に合致した材料等を使用しているものとする。 ⑨（木材保存（木材の防腐・防蟻処理）剤） クロルピリオス、ダイアジノン、及びフェノルカルブを含有しない非有機リン系の薬剤とする。尚、加圧防腐、防蟻処理等は工場で行い、十分に、乾燥させたものとする。 尚、Ｆ☆☆☆☆の規格に適合するものと規定された材料等で、適合する材料等がない場合は、監督員と協議を行うこと。
	⑦ 特殊な材料の工法	＊共仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。
	⑧ 完成図書図	◎完成図（施工図及び施工計画書を除く）（１．７．１）（１．７．２）（１．７．３） ＊作成する。 ＊請負者に於いて完成図を作成し、糊張り製本「３」部提出する（原図共） ＊完成図は原則として黒表紙金文字製本とし表紙の書き方は監督職員の指示とする。 ◎完成図ＣＡＤデータの提出 参考ＣＡＤデータ貸与　◎有り　・無し ◎引渡し書類 保全に関する資料、施工図、施工計画書、各種承認図、工事写真、保証書 その他各種検査書類を整理し、各必要部数提出する。
	⑨ 工事写真・完成写真	＊奈良県土木監修「工事写真の撮影マニュアル」による。 （ただし、上記写真は、アルバム製本とする。） ・完成写真として、全紙パネルを　２部提出する。 ・完成写真撮影業者（完成写真撮影場所は監督職員の指示による。） ・監督職員の承諾する撮影業者
	⑩ 設備工事との取り合い	施工範囲 ・図示した貫通孔・開口部の型枠及びそれらの補強（図面番号　　） ◎図示した壁・天井の仕上げ材、下地材の切込み及び下地材の補強（図面番号　　） ・駆動装置が電動による建具類の２次側配線及び操作スイッチ ・自動閉鎖装置取付箇所切り込み及び補強 施工図 ＊設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑪ 設計ＧＬ	⊙図示（図面番号　　） ・督職員の指示する場所とするが、再度測量し決定する。
	⑫ 風圧に対する性能値	＊建築基準法に基づき定められた風速（ＶＯ）及び地表面粗度区分 ＶＯ（ｍ／秒）　◎３２・３４ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　◎Ⅲ　・Ⅳ ＊ＡＬＣパネル工事、押出成形板工事、合成高分子系ルーフィングシート工事（機械的固定工法）、石工事（乾式工法）、屋根工事、金属工事（アルミニウム製笠木取付）及び建具工事（ガラスブロック積み）にあっては、指定された条件により、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法等を、施工計画書における品質計画で定める。
	１３　多雪区域	＊適用する。
	１４　概成工期	＊現場説明時の現場説明事項による。
	⑮ 施工条件	◎現場説明時の現場説明事項による。 ：
	１６　見本施工の実施	＊図示（図面番号　　）
	１７　中間技術検査の実施	（１．６．２） ・「土木建築工事監督及び検査必携（奈良県土木部）」に定める中間検査による。 ・
	⑱ 設計図書の優先順位	＊以下（１）から（５）の順番のとおりとする。ただし、明示なき材料、仕上げ等については監督職員の指示による。（１・１・１） （１）現場説明に対する質問回答書 （２）現場説明書 （３）特記仕様書 （４）設計図書 （５）標準仕様書
	⑲ 官公署その他への届出手続き	＊工事関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続き等は全て請負者が行う。この場合、「建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集（奈良県土木部）」の書式に従い、日程管理を行う。（１・１・３）
	⑳ 疑義に対する協議等	＊設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取り合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じた時は、監督職員と協議する。（１・１・８）
	㉑ 総合施工計画書	＊工事着手に先立ち総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。（１・２・２）
	㉒ 環境保全等	＊工事現場周辺の状況を調査判断し、本工事施工によって生じる騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。 工事に関して、第三者から説明の要求又は苦情があった場合は、請負者の責任において直ちに誠意をもって対応する。
	㉓ 交通安全管理	＊工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に、工事関係車両の出入りについては、必ず誘導員又は交通整理員を立て、交通渋滞、住民などの安全に留意する。また、工事着工前に警察、その他関係機関、地元自治会、監督職員などと十分打合せの上、安全管理を行う。尚、交通整理員については、現場説明時の現場説明事項による。

①一般共通事項	㉔ 材料試験	＊材料の品質及び性能を試験により証明する場合は、試験に先立ち試験計画書を作成の上、監督職員に提出し、原則として監督職員の立会いを受けて行う。 但し、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。
	２５　テレビ受信状況の障害調査	＊行う。（現場説明時の現場説明事項による。）
	２６　六価クロム溶出試験等	＊六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験） 本工事は、「六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）」の対象工事であり、下記に示す工手についての六価クロム溶出試験（及びタンクリーチング試験）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出する。 尚、試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領による。 六価クロム溶出試験対象工種名及び検体数 工　法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体 工　法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体 合計　検体 タンクリーチング試験対象工種名及び検体数 工　法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体 工　法　：　配合設計段階　検体、施工後段階　検体 合計　検体 ＊試験について監督職員と協議の上、最終決定とする

②仮設工事

１　監督職員事務所　＊設ける。　（２．３．１）
規模　・１号　・２号　・３号　・４号　・５号
・移動オフィス（２．４×７．２）

２　総合会議室　＊設ける。　規模　㎡程度

３　監督職員事務所の備品　＊特に指定する設備、備品は下記による。

備品の種類　（２．３．１）

備品の種類	・机、いす	・書棚	・応接セット	・会議用机、いす
数　量	組	台	組	組
備品の種類	・黒板	・衣装ロッカー	・掃除具	・食器棚
数　量	個	人用	個	台
備品の種類	・流し台	・湯沸かし室	・掛け時計	・温度計
数　量	台	台	個	個
備品の種類	・加入電話機	・冷暖房機器	・パソコン	・パソコン周辺機器
数　量	台	台	台	台
備品の種類	・保護帽	・安全帯	・ゴム長靴	・雨カッパ
数　量	個	個	足	着
備品の種類	・懐中電灯	・消火器	・	・
数　量	個	個		

４　工事用水　構内既存の施設
・利用できる。（　・有償　・無償）
◎利用できない

５　工事用電力　構内既存の施設
・利用できる。（　・有償　・無償）
◎利用できない

③土工事

１　埋戻し及び盛土　種別　・Ａ種　◎Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　（３．２．３）（表３．２．１）
◎購入土（外構工事）
Ｃ種の場合（建設発生土受入量　㎥　発生場所　）

２　建設発生土の処理　◎構外搬出適切処理　（３．２．５）
・構内指示場所に敷き均し
・構内指示場所にたい積
・構内指定場所に処分（搬出調書等を提出する）
受入れ施設名
受入れ場所
仮置場所

３　山留めの存置　＊図示（図面番号　　）　（３．３．３）

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	特記仕様書(1)	－	2010.9		＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

④ 地業工事

1 既製コンクリート杭地業

材料　（4．3．2）（4．3．6）（表4．3．1）

種類、規格		鉄筋コンクリート杭 (JIS A 5372)	プレキャストコンクリート杭 (JIS A 5373)	
曲げ強度による		・1種　・2種A	・A種　・B種	
区分		・2種B　・2種C	・C種	
寸法	長さ			
	図面寸法			
継手の箇所数				
杭先端部の形状		・閉放形　・閉塞平坦形　・半閉放形　・閉塞凹形		
杭の継手の工法		・アーク溶接による溶接継手		

杭頭の切断方法　＊ダイヤモンドカッター方式　・外圧方式　（4．3．7）

工法

・打込み工法

設計支持力

掘削深さ及び径（プレボーリングと打撃を併用する場合）

掘削深さ及び算定方法　＊標仕4．3．3(ｹ)(3)による

・セメントミルク工法

支持地盤　＊図示（図面番号　　）

支持地盤への掘削深さ　＊共仕4．3．4（f）（1）による

・特定埋込杭工法

支持地盤　＊図示（図面番号　　）

2 鋼杭地業

材料　（4．4．2）（4．4．4）（表4．4．1）（表4．4．2）

	・鋼管杭	・H型鋼杭
種類の記号	・SKK400　・SKK490	・SHK400　・SHK400M　・SHK490M
寸法	＊図示（図面番号　　） ・	＊図示（図面番号　　） ・
先端部形状	＊開放形	
先端部補強	＊共仕4．4．4及び 共仕表4．4．2による ・	・
継手の形状	・JIS A 5525 による ・	・

工法　（4．3．3）（4．3．5）

・打込み工法

杭の設計支持力

施工法の種類

掘削深さ及び径（プレボーリングと打撃を併用する場合）

・特定打込杭工法

支持地盤　＊図示（図面番号　　）

溶接部の確認　（4．4．4）

＊共仕7．6．10による

杭頭処理　（4．4．5）

3 場所打コンクリート杭地業

型枠　（4．5．3）

規格		
・JIS G 3112	・SR235	・
	・SR295	・
	＊SD295A	・SD10　・SD13　・SD16
	・SD295B	・
	＊SD345	・SD19　・SD22　・SD25　・SD29　・SD32
	・SD390	・
・JIS G 3117	・SDR295	・
	・SDR345	・
・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋	・	・ ・

鉄筋かごの補強　＊共仕4．5．3（a）（2）（ ）による

かぶり厚さ（mm）　＊最小100

コンクリート　（4．5．3）

セメントの種類　＊高炉セメントB種

設計基準強度

種別　・A種　・B種

掘削工法　（4．5．4）（4．5．5）

・アースドリル工法（安定液　＊使用する　・使用しない）

・リバース工法

・オールケーシング工法（孔内の水張り　＊行う　・行わない）

・場所打鋼管コンクリート杭工法（　　）

・拡底杭工法（　　）

支持地盤　＊図示（図面番号　　）　（4．5．4）

孔壁確認　＊超音波測定器　・目視　（4．5．4）（4．5．5）

4 試験杭

位置及び本数　・最初の1本　・図示（図面番号　　）

杭の書類　＊本杭に同じ

杭の寸法　長さ

断面寸法　＊本杭に同じ

杭の工法　（4．3．3）（4．3．4）（4．3．5）（4．4．3）（4．5．4）

・打込み工法

掘削深さ及び算定方法　＊標仕4．3．3(ｹ)(3)による

・セメントミルク工法

支持地盤への掘削深さ　＊共仕4．3．4（f）（1）による

・特定埋込工法

・アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法

孔壁確認　＊超音波測定器　・目視

5 杭及び地盤の載荷試験

（4．2．3）（4．2．4）（4．4．3）

	載荷試験	位置	載荷荷重
・杭	・鉛直載荷試験 ・水中載荷試験	＊図示 （図面番号　　） ・	・
・地盤	＊平板載荷試験	＊図示 （図面番号　　） ・	・

試験方法等は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「敷地調査共通仕様書」による

6 砂利地業及び砂地業

砂利地業に使用する砂利

◎再生クラッシャラン　・切込み砂利及び切込み砕石

砂利及び砂地業の厚さ（mm）　図示による

7 捨てコンクリート地業

厚さ（mm）　＊50

8 床下防湿層

防湿層の材料及び施工範囲

材料	施工範囲
◎ポリエチレンフィルム 厚さ0．15mm 重ね幅、縦横共250mm以上 ・	＊図示（図面番号　　） ◎建物内土間床版及び土間コンクリート下地（ピット下は除く） ・

⑤ 鉄筋工事

1 鉄筋

規格		
・JIS G 3112	・SR235	
	・SR295	
	＊SD295A	D10、D13、D16
	・SD295B	
	＊SD345	
	・SD390	
・JIS G 3117	・SDR295 ・SDR345	・ ・
・建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋	・	・ ・

2 溶接金網

（5．2．2）

網目の形状寸法	鉄線の径（mm）
・　100◎150	◎　φ6

3 鉄筋の継手

（5．3．4）

部位	接合方法	径（mm）
柱、梁の主筋	＊ガス圧接　◎重ね継手	
その他	＊重ね継手	D16　D13　D10

4 鉄筋のかぶり厚さ

◎かぶり厚さは目地底から算定する。　（5．3．5）（表5．3．6）

＊耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下記による。

施工箇所等	共仕表5．3．5の値に加える数字（mm）
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	◎10

・特殊な鉄筋継手のあき寸法（mm）

5 杭基礎の杭頭補強

既製コンクリート杭　・A形　＊B形　［1．1］［図1．1］

既製コンクリート杭外　＊図示（図面番号　　）

6 柱主筋

柱頭の定着方法　［2．1］［図2．1］

＊共仕別図　図2．1による　・図示（図面番号　　）

・柱頭定着長さが確保できない場合　・図示（図面番号　　）

7 帯筋

帯筋の種類及び間隔　＊図示（図面番号　　）　［2．2］

帯筋の割付　＊共仕別図　図2．3による　［2．2］［図2．3］

組立ての形の種類　［2．2］［図2．2］

＊H形　・W－1形　・SP形　・丸形

［2．3］［図2．4］

8 柱の打増し補強

打増し補強	打増し補強
70mm以上200mm以下	＊共仕別図　図2．4
200mmを超える	＊図示（図面番号　　）

9 大梁主筋

梁のハンチの傾斜　＊1：4　［3．1］

10 あばら筋等

あばら筋の種類、径及び間隔　＊図示（図面番号　　）　［1．5］［3．2］

壁梁の場合の腹筋の定着長さ及び継手長さ　［3．2］

＊L2

腹筋及び幅止め筋（梁せいが1，500mmを超える場合）　［1．5］

＊図示（図面番号　　）

11 梁の打増し補強

［3．3］［図3．11］

打増し補強	打増し補強
70mm以上200mm以下	＊共仕別図　図3．11
200mmを超える	＊図示（図面番号　　）

12 壁の配筋

耐震壁の表示　＊EW　［4．1］

土圧を受ける壁の表示　＊BW　［4．1］

壁の配筋種別　＊図示（図面番号　　）　［4．1］［表4．1］

片持ちスラブ形階段を受ける壁の配筋種別　［4．1］［表4．2］

＊図示（図面番号　　）

13 壁の補強

一般壁の開口部補強　・A形　◎B形　［4．2］［表4．3］［表4．4］

耐震壁の開口部補強　＊図示（図面番号　　）　［4．2］

コンセントボックス等の補強　＊図示（図面番号　　）　［4．2］

壁の打増し補強　［4．2］［図4．4］

打増し補強	打増し補強
50mm以上200mm以下	＊共仕別図　図4．　4
200mmを超える	＊図示（図面番号　　）

パラペットのコンクリートの厚さ　［4．3］［表4．5］

＊図示（図面番号　　）

スラブの配筋種別及び厚さ　［5．1］［表5．1］［図5．1］

＊図示（図面番号　　）

片持ちスラブの配筋及び厚さ　［5．2］［表5．2］［図5．4］［図5．5］

＊図示（図面番号　　）

出隅部の補強配筋　＊D10－100◎ダブル　［5．2］［図5．7］

出隅受け部の配筋　＊図示（図面番号　　）　［5．2］［図5．7］

［5．3］［図5．8］

最大径が700mm以下　＊共仕別図　図⑤．8による

上記以外　＊図示（図面番号　　）

土間スラブの打継ぎ補強筋　［5．3］［図5．10］

＊共仕別図　図5．　10による

［5．3］［図5．11］

	補強方法
	＊D10－200◎シングル

土間コンクリートの打継ぎ補強　［5．3］［図5．11］

＊共仕別図　図5．11による

＊図示（図面番号　　）　［6．1］［表6．1］［図6．1］

＊図示（図面番号　　）

［6．2］［表6．2］［図6．2］［図6．3］

・H形　・MH　・M形　［7．1］［表7．1］［表7．2］［表7．3］［図7．1］

・既設の梁貫通補強材（建築技術評価制度「鉄筋コンクリート造の梁貫通補強材の開発」において評価を取得したもの。又は、（財）日本建築センターの評価をうけたもの。）

21 コンクリートブロック帳壁との取合い

コンクリートブロック帳壁の控え壁の配置　［7．2］［図7．4］

＊図示（図面番号　　）

22 機械吊上げ用フック

・A種　・B種　・C種　［7．3］［表7．4］［図7．6］

23 圧接完了後の試験

＊超音波探傷試験　・引張試験　（5．4．9）

⑥ コンクリート工事

1 コンクリートの強度

・普通コンクリート　（6．1．4）

設計基準強度Fc　（N／mm²）	適用範囲
・24	
◎21	基礎・地中梁・柱型・土間コンクリート
◎18	捨てコン、外構

◎構造体コンクリートと供試体強度との差を考慮した割増し

設計基準強度Fc＋3N　（mm²）

◎調合強度　呼び強度を満たし、かつ、10節に定める試験に合格するように製造工場が定める

◎呼び強度　24　＋　温度補正値

2 レディーミクストコンクリートの類別

JIS認定工場の製品　（6．1．5）（表6．1．1）（6．4．1）（6．4．2）

※規格品以外は試し練りを実施すること　（6．4．4）

3 気乾単位容積質量

普通コンクリートの気乾単位容積質量（t／m³）　（6．2．2）

＊2．3程度

4 スランプ

所要のスランプ値　（6．2．3）（表6．2．1）

打込み箇所	所要スランプ（cm）
基礎、基礎梁	＊15又は18
柱、梁、スラブ、壁	＊18

5 材料及び調合の条件

所要空気量　＊4．5％　（6．2．4）

塩化物量（塩化物イオン換算）　＊0．30kg／m³ 以下

アルカリ総量　＊3．0kg／m³ 以下

空気量　4．5％±1．5％

スランプ　所要スランプ　±1．5

◎水セメント比　60％以下

◎単位水量185kg/m³ 以下

6 セメントの種類

セメントの種類　（6．3．2）（表6．3．1）（6．13．2）（6．16．2）

＊普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種

上記の普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210（ポルトランドセメント）に示された規定の他、次の規定に適合するものとする。

水和熱：7日目で352J／g以下かつ28日目で402J／g以下

・高炉セメントのB種

7 骨材

品質　（6．3．3）

◎砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分（JIS A 5308）

＊A　・B

・砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分（JIS A 5005）

＊A　・B

・フェロニッケルスラグ細骨材及び銅スラグ細骨材のアルカリシリカ反応性による区分

＊A　・B

細骨材の塩分含有量　＊0．04％以下

8 混和材料

混和材料の種類　（6．3．5）

◎混和剤

◎AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤（JIS A 6204）

・混和剤

・フライアッシュⅠ種又はⅡ種（JIS A 6201）

・高炉スラグ微粉末（JIS A 6206）

・膨張材（JIS A 6202）

混和材料の使用量　（6．4．8）

＊6．4．8（a）（b）（c）（d）による

・監督職員の承諾する量による

9 軽量コンクリート

（6．11．1）（6．11．3）（表6．11．1）

種別	所要気乾単位容積質量（t／m ）³	スランプ（cm）	適用場所
・1種	＊1．7～2．0	・21	
・2種	＊1．4～1．7	・21	

所要空気量　＊5．0％　（6．11．3）

10 寒中コンクリート

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

寒中コンクリートの適用期間　（6．12．1）

強度管理の材令　（6．12．3）

＊供仕6．12．3（c）（1）による

初期養生を行う期間　（6．12．5）

＊供仕6．12．5（b）（1）による

11 マスコンクリート

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

セメントの種類　（6．13．2）

・高炉セメントB種

・普通ポルトランドセメントにJIS A 6206によるコンクリート用高炉スラグ微粉末の4000を混合したもの

混和剤　（6．13．2）

・AE減水剤遅延形又は減水剤遅延形（JIS A 6204）

混和材　（6．13．2）

・コンクリート用高炉スラグ微粉末の4000

スランプ（cm）　（6．13．3）

・15

12 無筋コンクリート

品質、適用基準　（6．14．1）（6．14．2）（6．14．3）

設計基準強度（N／mm²）	スランプ（cm）	粗骨材の最大寸法	施工箇所
＊18	＊15又は18	・共仕6．14．2（a）による	＊共仕6．14．1（c）（1） ＊共仕6．14．1（c）（2） ＊共仕6．14．1（c）（3） ＊共仕6．14．1（c）（4） ＊共仕6．14．1（c）（5）

コンクリートの種類　＊普通コンクリート　・軽量コンクリート

13 高い強度のコンクリート

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

設計基準強度（N／mm²）　（6．15．1）

混和材料　（6．15．3）

＊AE減水剤、高性能AE減水剤標準形又は遅延形（JIS A 6204）

型枠の存置期間　（6．15．8）（6．9．5）（表6．9．2）（表6．9．3）

＊共仕6．9．5による

14 高炉セメントB種を用いる普通セメント

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

15 流動化コンクリート

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

16 特殊なコンクリート

適用箇所　＊図示（図面番号　　）　（6．1．3）

17 コンクリートの仕上がり

部材の位置及び断面寸法の許容差　（6．2．5）（表6．2．2）

◎共仕表6．2．2による

・許容差　0～＋20　適用箇所

仕上がりの平坦さ　（6．2．5）（表6．2．4）

◎共仕表6．2．4による

・平坦さの程度　適用箇所

18 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地

打継ぎ目地の寸法　（6．9．3）

＊共仕9．6．36（a）81）による

ひび割れ誘発目地　（6．9．2）

位置　＊図示（図面番号　　）

形状及び寸法　＊共仕9．6．3（a）（1）による

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	特記仕様書(2)	－	2010.9		＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

⑥ コンクリート工事

⑲ 打放し仕上げの種別

打放し仕上げの種別　（6．2．5）（6．9．3）

＊合板せき板を用いる場合

種別	せき板	施工箇所
・A種	＊共仕6．9．3（b）（1）	
◎B種	＊共仕6．9．3（b）（2）	
・C種	＊共仕6．9．3（b）（2）	

・合板せき板を用いない場合
　せき板の種類
　コンクリートの仕上がり面の補修　＊共仕6．2．5（b）（1）（　）による

外部に面するコンクリートの打放し仕上げ（仕上げ塗材、吹付け又は塗装材の仕上げを行う場合を含む）の打増し厚さ（mm）　（6．9．1）
　＊２０

㉒ せき板の材料

＊合板せき板　（6．9．3）

せき板の規模	厚さ（mm）	塗装
◎共仕6．9．3（b）（1）	＊１２	☆無　・有
・共仕6．9．3（b）（2）	＊１２	☆無　・有

・断熱材を兼用した型枠材　（6．9．3）
☆使用する　適用箇所（　　）
・MCR工法用シート　（6．9．3）
☆使用する　適用箇所（　　）
・円形型枠
　・寸法　・適用箇所
・メッシュ型枠

メッシュ材質	桟用パイプ材質	適用箇所
＊鋼板　ＪＩＳ　Ｇ　３３０２ 板厚０．５mm メッキ８０kg／㎡ ・	＊ＪＩＳ　Ｇ　８３０５ 直径２５mm以上 厚さ１．２mm以上 ・	・地中梁側面 ・ルーフィング側面 ・見掛りで仕上げのない部分は除く ・

＊組立て桟用パイプの立て込み間隔は３００mm以下とする。
＊組立てパイプは製造所の施工要領書に従う。
＊桟用パイプの在置期間は共仕6．9．5により、型枠用メッシュは取り外さない。
＊スリーブ（配管用等）　（6．9．3）（表6．9．1）
＊共仕6．9．3（1）（1）、（2）（　）（　）（　）（　）及び共仕表6．9．1による。
・床型枠用鋼製デッキプレート　（6．9．3）

使用箇所	厚さ（mm）	備考

7 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

・旧建設省告示第１１０３号の規定に基づき認定された工場、又は建築基準法第６８条の２６第１項の規定に基づき、建築基準法施工規則第１条の３第１項の規定に適合する工場　（7．1．3）
◎監督職員の承諾する工場
・

② 施工管理技術者

鉄骨製作管理技術者の適用　（7．1．4）
☆適用する

③ 鋼材

鋼材の材質　（7．2．1）（表7．2．1）

種類の記号	規格番号	規格名称等
◎SS400	・ＪＩＳ　Ｇ　３１０１	・一般構造用圧延鋼材
◎SSC400	・ＪＩＳ　Ｇ　３３５０	・一般構造用軽量形鋼
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・

鋼材の形状、寸法及び使用箇所　（7．2．1）（表7．2．1）
　＊図示（図面番号　　）
板厚方向に引張力を受ける鋼材　（7．2．1）（表7．2．1）（7．2．10）
＊SN規格C材（ＪＩＳ　Ｇ　３１３６建築構造用圧延鋼材でのC材）
・共仕7．2．10（c）の試験（ＪＩＳ　Ｇ　０９０１）を共仕7．2．10（a）により行い、ＪＩＳ　Ｇ　３１３６でのC材に相応することが確認された鋼材

④ 高力ボルト

高力ボルトの適用　（7．2．2）
・トルシア形高力ボルト　（建築基準法に基づき指定又は認定を受けたもの）（Ｓ１０Ｔ）
◎ＪＩＳ形高力ボルト　（ＪＩＳ　Ｂ　１１８６）　（Ｆ１０Ｔ）
・溶融亜鉛メッキ高力ボルト（建築基準法に基づき指定又は認定をうけたもの）（Ｆ８Ｔ相当）
　高力ボルトの径　（7．2．2）
　＊図示（図面番号　　）

⑤ 普通ボルト

普通ボルト及びナットの材料等　（7．2．3）（表7．2．3）
　＊共仕7．2．3による
　普通ボルトの径　（7．2．3）
　＊図示（図面番号　　）

⑥ アンカーボルト

構造用アンカーボルトの材料　（7．2．4）
　＊ＳＮＲ４００（ＪＩＳ　Ｇ　３１３８）
建方用アンカーボルトの材料　（7．2．4）
　・ＳＳ４００（ＪＩＳ　Ｇ　３１０１）
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格等　（7．2．4）（表7．2．3）
　＊共仕表7．2．3による
構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状並びに寸法　（7．2．4）
　＊図示（図面番号　　）

⑦ 溶接材料

＊溶接棒等の種類は共仕７．２．４により、母材の種類、寸法及び溶接条件に相当したものを選定する。　（７．２．５）（表７．２．４）
・

⑧ ターンバックル

鋼の材料　＊割枠式　・パイプ式　（7．2．6）
ボルトの種類　（7．2．6）
　＊羽子板ボルト　・両ねじボルト　・アイボルト
ねじの呼び　＊図示（図面番号　　）　（7．2．6）
（7．2．7）

⑨ デッキプレート

◎構造床として使用するデッキプレート又は合成スラブとして使用するデッキプレート（建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。）
　材質、形状及び寸法　＊図示（図面番号　　）
・床型枠鋼製デッキプレート　（7．2．7）（6．9．3）

１０ レール

＊天井クレーン走行用等に使用するレール等　（7．2．8）（表7．2．5）
　材料　＊共仕表７．２．５による
　形状及び寸法等　＊図示（図面番号　　）

⑪ 工作図

現寸図　・作成する　・作成しない　（7．3．2）
高力ボルト及び普通ボルトのゲージ、ピッチ、へりあき等　（7．3．2）
＊国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準」による

⑫ 鉄骨の製作精度

＊（社）日本建築学会「建築工事標準仕様書６　鉄骨工事（以下「ＪＡＳＳ　６」という）付則６．鉄骨精度検査基準」による　（7．3．3）

１３ 仮組

＊実施する　（部位：　　）　（7．3．10）

１４ 摩擦面の性能及び処理

摩擦面のすべり係数試験　（7．4．2）
　試験の実施範囲
　・溶融亜鉛メッキ高力ボルト接合の摩擦面
　試験の方法
　＊監督職員が承諾する方法

１５ 材料準備

開先の形状等　（7．6．4）
＊国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準」による

１６ 溶接施工

エンドタブの切除　（7．6．7）

	切除する部分
・見え隠れ部分	・配筋上支障と」なる部分等 適用箇所　＊鉄骨鉄筋コンクリート造柱梁接合部 ・疲労を考慮する必要がａる部分 適用箇所　＊図示（図面番号　Ｃ－９　　） ・
・見え掛り部分	＊図示（図面番号　　） ・

溶接部の余盛の高さ　（7．6．7）
＊国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築鉄骨設計基準」による
＊ＪＡＳＳ　６　付則６．「鉄骨精度検査基準」付表３［溶接］による

１７ 溶接部の試験

・完全溶込み溶接の超音波探傷試験（7．6．11）（7．6．12）（表7．6．2～表7．6．4）
　工場溶接部の場合
　平均出検品質限界（ＡＯＱＬ）　＊４．０％　・２．５％
　検査水準　＊第６水準
　工場現場溶接部の場合
　平均出検品質限界（ＡＯＱＬ）　＊４．０％　・２．５％
・放射線試験およびマクロ試験の実施　（7．6．11）（7．6．12）
　・放射線試験
　　試験箇所　抜取方法及び抜取率
　・マクロ試験
　　試験箇所　抜取方法及び抜取率

⑱ デキプレートの溶接

デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合の工法　（7．7．8）
　＊アークスポット又は隅肉溶接
合成スラブとして使用するデッキプレートの接合　（7．7．8）
　＊焼抜き栓溶接

１９ 錆止め塗料

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別　（7．8．3）（表１８．３．１）
　＊共仕表１８．３．１のＢ種
耐火被覆材の接着する面の塗装　（7．8．3）
　＊行わない　・行う（塗料の種別および適用箇所　　）

２０ 耐火被覆

　＊耐火被覆の種別、性能及び適用箇所　（7．9．2）
　＊図示（図面番号　　）
＊耐火材吹付け材料及び工法並びに成形耐火被覆材は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。　（7．9．5）（7．9．6）

２１ 建方精度

建方等の工事現場施工の制度　（7．10．2）
＊ＪＡＳＳ　６　付則６．「鉄骨精度検査基準」付表５［工事現場］による

㉒ アンカーボルトの保持、埋込み工法及び柱底均しモルタルの工法

アンカーボルト	・建方用	・構造用
アンカーボルトの保持及び埋込み工法	・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
柱底均しモルタルの工法	＊Ａ種　・Ｂ種	＊Ａ種　・Ｂ種
柱底均しモルタルの厚さ（mm）	・５０　・３０	・５０　・３０

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形版セメント板工事

２３ 軽量形鋼構造

２４ 溶融亜鉛メッキ

鉄筋の溶融亜鉛メッキの適用　（7．12．3）（表14．2．2）

種別	規格	記号又は等級	適用箇所
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・＊溶融亜鉛メッキ（ＪＩＳ　Ｈ　８６４１）の２種	・ＨＤＺ５５ ・ＨＤＺ４５ ・ＨＤＺ３５	

摩擦面のりん酸塩処理　（7．12．4）
・行う（適用箇所　　）　・行わない

１　補強コンクリートブロック造

ブロックの種類	厚さ（mm）
・空洞ブロック－１６（防水）	１００
・型枠用ブロック－２０（防水）	
・	

共仕表８．２．２以外のコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）（Ｎ／mm²）　（8．2．4）
　＊２１以上
各部の配筋　（8．2．5）［8．1］［8．2］［図8．1］［図8．2］［図8．3］
　交差部及び端部（開口部）
　　＊共仕別図　図８．１による
　まぐさ
　　＊共仕別図　図８．２及び８．３による
　壁その他　＊図示（図面番号　　）

２　コンクリートブロック張壁及び腰

ブロックの種類　（8．3．2）（表8．3．1）
　＊共仕表８．３．１による
ブロックの厚さ　（8．3．2）（表8．3．1）

施工箇所	厚さ（mm）	化粧有りブロックの適用
・塀の高さが２m以下の箇所	◎１２０	◎リブブロック
・塀の高さが２mを超える箇所	＊１５０	

各部の配筋　（8．3．3）［9．1～5］［表9．1］［図9．1～3］
　＊共仕別図　各部配筋　９節による

３　ＡＬＣパネル

パネルの種類　（8．4．2）

種類	単位荷重（Ｎ／mm²）	厚さ（mm）	耐火性能
・外壁パネル（意匠）			
・外壁パネル（平）			
・間仕切壁パネル			
・屋根パネル			
・床パネル			

出隅入隅部の目地幅（mm）　＊２０　（8．4．4）
　外壁パネルの取付け工法　（8．4．3）（表8．4．2）
　　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
　間仕切りパネルの取付け工法　（8．4．5）（表8．4．3）
　　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　・Ｆ種　・Ｇ種
共仕表８．４．４の開口の限度を超える場合の補強　（8．4．6）（表8．4．4）
　開口部の幅が１．２m以下　＊共仕表８．４．７（Ｃ）（２）による

上記以外　＊図示（図面番号　　）

４　押出成形セメント板

種類　・タイプⅡ（無石綿タイプ）　（8．5．2）
（8．5．2）（8．5．4）（8．5．5）（表8．5．1）（表8．5．2）

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	取付工法種別
・外壁パネル	・フラットパネル	・50　・60	・Ａ種
	・デザインパネル（図示）（図面番号　　）	・50　・60	・Ｂ種
	・タイルベースパネル	・60	
・間仕切壁パネル	・フラットパネル	・50　・60	・Ｂ種
	・デザインパネル（図示）（図面番号　　）	・50　・60	・Ｃ種
	・タイルベースパネル	・60	

パネルの相互の目地幅（mm）　（8．5．3）
　＊長辺８以上、短辺１５以上
耐火構造以外の目地、隙間の処理　（8．5．3）
　＊パネル製造所の仕様による
出隅入隅部の伸縮調整目地の目地幅（mm）　（8．5．3）
　＊１５
共仕表８．５．３の開口の限度を超える場合の補強　（8．5．5）（表8．5．3）
　＊図示（図面番号　　）

⑨ 防水工事

① 防水層の下地

（9．2．4）（9．3．4）（9．4．4）（9．5．4）

	下地	施工箇所
◎平場	◎床コンクリート直均し	
	・均しモルタル塗り	
	・	
◎立上り	・コンクリート打放し仕上げ（仕上げの種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種）	
	◎均しモルタル塗り	
	・	

２　アスファルト防水

防水層の種別　（9．2．3）（表9．2．3～9．2．8）

工法	種別	施工箇所
・屋根保護防水密着工法	・Ａ－１　・Ａ－２	
・屋根保護防水密着断熱工法	・ＡＩ－１　・ＡＩ－２	
・屋根保護防水絶縁工法	・Ｂ－１　・Ｂ－２	
・屋根保護防水絶縁断熱工法	・ＢＩ－１　・ＢＩ－２	
・屋根露出防水絶縁工法	・Ｄ－１　・Ｄ－２	
・屋内防水密着工法	・Ｅ－１　◎Ｅ－２	

アスファルトの種類　＊３種　・４種　（9．2．2）
押さえ金物の材質、形状及び寸法（mm）　（9．2．2）
　＊アルミニウム製、Ｌ－３０×１５×２．０程度
屋根保護防水断熱工法の断熱材　（9．2．2）
材質＊ＪＩＳ　Ａ　９５１１の押出法ポリスチレンフォーム３種ｂのスキン層付き
　・　（特定フロンを含まないもの）
　厚さ（mm）　・２５
絶縁用シートに使用する材料　（9．2．2）
＊ポリエチレンフィルム厚さ０．１５mm以上（屋根保護防水工法の場合）
　フラットヤーンクロス（７０ｇ／㎡程度）（屋根保護防水断熱工法の場合）

屋根露出防水絶縁工法の脱気装置　（9．2．3）
　・設ける

種類	材質	設置装置
・平面部脱気型	・ポリエチレン樹脂	＜　＞個／＜　＞㎡
	・ＡＢＳ樹脂	
	・ステンレス	
	・鋳鉄	
	・	
・立上り部脱気型	・合成ゴム	＜　＞個／＜　＞㎡
	・塩化ビニル樹脂	
	・ステンレス	
	・銅	
	・	

屋内防水密着工法．の保護層　（9．2．3）
　・設ける（種類　　）
各屋根保護防水工法の防水層立上り部の端部の処理方法　（9．2．4）
　・共仕９．２．４（ｄ）（３）（　）による
　・押さえ金物で押える
保護層等の施工　（9．2．5）
　平場の保護コンクリートの厚さ
　＊共仕９．２．５（ｄ）（２）による
　立上り部の保護の方法　（9．2．2）（9．2．5）（表9．2．5～8）
　・れんが押さえ（れんがの種類　ＪＩＳ　Ｒ　１２５０の２種　・　　）
　・モルタル押さえ（屋内等）
　・乾式保護材（押出成形板）
　・コンクリート押さえ
屋上排水溝　・設けない　・設ける　（9．2．5）

③ 改質アスファルトシート防水

防水層の種別　（9．3．2）（9．3．3）（表9．3．1）

種別		種類	厚さ（mm）	施工箇所
◎ＡＳ－１	下層用	＊非露出複層防水用Ｒ種	＊２．５以上 ・	2階便所
	上層用	＊露出複層防水用Ｒ種	＊３．０以上 ・	
・ＡＳ－２		＊露出単層防水用Ｒ種	＊４．０以上 ・	

４　合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別　（9．4．2）（9．4．3）（表9．4．1）

種別	厚さ（mm）	仕上げ塗料（露出の場合）	施工箇所
・Ｓ－Ｆ１	＊１．２	・カラー　・シルバー	
・Ｓ－Ｆ２	＊２．０	・カラー　・シルバー	
・Ｓ－Ｆ３	＊２．０		
・Ｓ－Ｍ１	＊１．５	・カラー　・シルバー	
・Ｓ－Ｍ２	＊１．５		

絶縁用シートの材質　（9．4．2）
　＊発砲ポリエチレンシート
ＰＣコンクリート部材下地の目地処理　（9．4．4）
　・図示（図面番号　　）
ＰＣコンクリート部材下地の増張り　（9．4．4）
　・図示（図面番号　　）

⑨ 防水工事

5 塗膜防水

防水層の種類　（9．5．3）（表9．5．1）（表9．5．2）

種別	施工箇所
・X－1	
・X－2	
・Y－1	
・Y－2	

ウレタン系塗膜防水（X－1）の脱気装置　（9．5．3）
・設ける

種類	材質	設置装置
・平面部脱気型	・ポリエチレン樹脂 ・ＡＢＳ樹脂 ・ステンレス ・錆鉄 ・	＜　＞個／＜　＞㎡
・立上り部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス ・錆鉄 ・	＜　＞個／＜　＞㎡

ゴムアスファルト系塗膜防水（Y－2）の保護層　（9．5．3）（表9．5．2）
・設ける

⑥ 漏水試験

室内の水張り試験　＊行う

7 施工票

＊工事完了後に監督職員の指示する位置に取り付ける

⑧ シーリング

シーリング材の種類、施工箇所　（9．6．2）（表9．6．1）

◎シーリング材の材料及びプライマー

箇所	充填幅×深さ	シーリング材	プライマー
打継目地	１５×１５	ポリウレタン系	
屋根水切回り	１５×１０	変成シリコン系	
外部建具廻り	１５×１０	変成シリコン系	
内部上框見切り	１０×１０	シリコン系	
内部流し台廻り	１０×１０	シリコン系	

接着性試験　（9．6．5）
＊簡易接着性試験
・引張接着性試験（部位　　）

１０ 石工事

1 石の割付

・図示（図面番号　　）　（10．1．3）
標仕１０．１．３（ａ）による

2 天然石

のみ込みとなる部分の仕上げ（粗面仕上げの場合）　（10．1．3）
・
（10．2．1）（表10．2．1）（表10．2．2）

施工箇所	品質	種類（産地、名称）	表面仕上げの種類
床	・１等　＊２等		＊粗磨き
床以外	＊１等　・２等		

石材の形状及び寸法
＊図示（図面番号　　）

3 テラゾ

（10．2．1）（表10．2．2）

種類	種石の種類及び大きさ（mm）	形状による区分
・テラゾブロック	＊大理石　＊１．５～１２ ＊	・平もの ・役もの
・テラゾタイル	＊大理石　＊１．５～１２ ＊	

寸法による区分	仕上げによる区分	表面仕上げの種類
	・片面仕上げ ・両面仕上げ	・粗磨き ・水磨き ・本磨き
・３００型 ・４００型		・粗磨き ・水磨き ・本磨き

4 取付け金物

外壁湿式工法、内壁空積工法用金物の材質、形状及び寸法　（10．2．2）
受け金物
＊共仕１０．２．２（ａ）（２）による
乾式工法用金物の方式　（10．2．2）（表10．2．4）
方式　・スライド方式　・ロッキング方式
特殊部位用金物の材質・形状等　（10．2．2）
引き金物、だぼ、かすがい及び受け金物
＊共仕１０．２．２（ａ）による
吊り金物
材質　＊ステンレス（ＳＵＳ３０４）
形状　＊径６mm×長さ８０mmの加工物
化粧吊りボルト
材質　＊ステンレス（ＳＵＳ３０４）
形状　＊Ｍ１０化粧ナット付
乾式工法金物
＊共仕１０．２．２（Ｃ）（３）による
アンカーの材質、寸法　（10．2．2）
湿式工法、空積工法の場合
材質　＊ＳＳ４００
形状　＊Ｍ１２
乾式工法、特殊部位の場合
材質　＊ステンレス（ＳＵＳ３０４）
形状　＊Ｍ１０
あと施工アンカーの材質、寸法等　（10．2．2）
材質
寸法

5 その他の材料

取付け用モルタル　（10．2．3）
・石材施工業者の指定する製品とし、実績等の資料を監督職員に提出する。

既調合の目地用モルタル　（10．2．3）
・石材施工業者の指定する製品とし、実績等の資料を監督職員に提出する。

石裏面処理材　（10．2．3）
・石材施工業者の指定する製品とし、実績等の資料を監督職員に提出する。

裏打ち処理材　（10．2．3）
・石材施工業者の指定する製品とし、実績等の資料を監督職員に提出する。

充填材料等（金物の固定に使用）　（10．2．3）
・石材施工業者の指定する製品とし、実績等の資料を監督職員に提出する。

6 外壁湿式工法

石材の厚さ（mm）　（10．3．2）
＊有効厚さ２５以上
ドレンパイプの材質　（10．2．3）
材質　＊ステンレス（ＳＵＳ３０４）
石裏面処理　・行う　（10．3．2）
裏打ち処理　・行う　（10．3．2）
下地ごしらえ　（10．3．3）
＊流し筋工法　・あと施工アンカー施工　・あと施工アンカー　・横筋流し工法
一般目地　（10．3．3）
目地幅（mm）　＊６以上
シーリング材　・適用する
伸縮調整目地　（10．3．3）
位置　＊共仕表１１．１．１による
シーリング材の目地寸法　＊共仕９．６．３（ａ）（３）による

7 内壁空積工法

石材の厚さ（mm）　（10．4．2）
＊有効厚さ２０以上
石裏面処理　・行う　（10．4．2）
裏打ち処理　・行う　（10．4．2）
下地ごしらえ　（10．4．3）
・あと施工アンカー施工　・あと施工アンカー　・横筋流し工法
一般目地　（10．4．3）
目地幅（mm）　＊６以上
シーリング材　・適用する
伸縮調整目地　（10．4．3）
位置　＊６m程度ごと　・図示（図面番号　　）
シーリング材の目地寸法　＊共仕９．６．３（ａ）（３）による

8 乾式工法

石材の厚さ（mm）　（10．5．2）
外壁　＊有効厚さ３０以上
内壁　＊有効厚さ２５以上
だぼ用穴の位置　（10．5．2）
＊共仕１０．５．２（ｂ）（１）による　・図示（図面番号　　）
裏打ち処理　・行う　（10．5．2）
石裏面処理　・行う　（適用箇所　　）　（10．5．2）
目地幅（mm）　＊８以上　（10．5．2）

9 床の石張り

石材の厚さ（mm）　（10．6．2）
石裏面処理　・行う　（10．6．2）
一般目地　（10．6．2）
目地幅（mm）
目地のシーリング材　・適用する
伸縮調整目地の位置　（10．6．2）
＊共仕１０．６．２（ｅ）（２）による　・図示（図面番号　　）
ワックス（屋内で本磨きの場合）　・使用する　（10．1．5）

10 階段の石張り

石材の厚さ（mm）　（10．6．3）
一般目地　（10．6．3）
目地幅（mm）
目地のシーリング材　・適用する
伸縮調整目地の位置　（10．6．3）
＊共仕１０．６．２（ｅ）（２）による　・図示（図面番号　　）
ワックス（屋内で本磨きの場合）　・使用する　（10．1．5）

11 アーチ、上げ裏等の石張り

石材の厚さ（mm）　（10．7．2）
取付工法　（10．7．1）
・外壁湿式工法　・内壁空積工法　・乾式工法
石裏面処理　・行う　（適用箇所　　）　（10．7．2）
裏打ち処理　・行う　（10．7．2）
一般目地　（10．7．2）
目地幅（mm）　＊６以上
目地のシーリング材　・適用する
伸縮調整目地の位置　（10．7．2）
位置　＊共仕１０．７．２（ｆ）（２）による　・図示（図面番号　　）
シーリング材の目地寸法　＊標仕９．６．３（ａ）（３）による

12 笠木、甲板等の石張り

石材の厚さ（mm）　（10．7．3）
取付工法　（10．7．1）
・外壁湿式工法　・内壁空積工法　・乾式工法
石裏面処理　・行う　（10．7．3）
取付けしろ（乾式工法の場合）　（10．7．3）
＊標仕１０．５．３（ｂ）による
石裏の補強用モルタル（乾式工法の場合）　・適用する　（10．7．3）
一般目地　（10．7．3）
目地幅（mm）　外壁湿式工法の場合　＊６以上
乾式工法の場合　＊８以上
目地のシーリング材（外壁湿式工法）　・適用する
伸縮調整目地の位置（外壁湿式工法）　（10．7．3）
位置　＊標仕１１．１．１による　・図示（図面番号　　）
シーリング材の目地寸法　＊共仕９．６．３（ａ）（３）による

13 隔て板

石材の厚さ（mm）　＊４０　（10．7．4）
取付工法
・外壁湿式工法　・内壁空積工法　・乾式工法

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

外壁　（11．1．3）（表11．1．1）
位置　＊共仕１１．１．１による
・図示（図面番号　　）
外壁以外
位置　・図示（図面番号　　）

② 陶磁器タイル

タイルの種類　（11．2．1）

施工箇所	形状、寸法	品質の程度
トイレ床	50角モザイクタイル	KYタイル　スペクタル50角程度
トイレ腰	100角	KYタイル　ブライト&アタック100角程度

きじ			上薬		役物		色		再資源
磁器	セッ器	陶器	施釉	無釉	あり	なし	標準	特注	化タイル
◎	・	・	◎	◎	・	◎	◎	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

品質の程度は、参考商品名である。

3 試験張り、見本焼き等

試験張り　・行う　（11．2．1）
見本焼き　・行う

4 型枠先付け工法

種別　（11．2．2）（11．4．2）（表11．4．1）

適用タイル形状	種別	タイル型枠先付け面のせき板の種別
小口タイル	・タイルシート法	＊共仕６．９．３（ｂ）（２）又は金属製タイル
二丁掛けタイル	・目地桟法	先付け用パネル
大型タイル	・桟木法	・

5 後張り工法

種別　（11．3．3）（表11．3．2）

適用タイル形状	種別	工法
内装タイル	・	・改良積上げ張り ・壁タイル接着剤張り
外装タイル	・	・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り
内装タイル以外のユニットタイル	・	・マスク張り ・モザイクタイル張り

下地ごしらえ（モルタル塗りのコンクリート素地面）　（11．3．3）
ＭＣＲ工法の適用　・適用する
目荒し工法の適用　・適用する

12 木工事

① 表面仕上げ

（12．1．4）（表12．1．1）

適用箇所	壁下地、天井下地	
種類	・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種	

② 木材

現場搬入時の含水率　（12．2．1）（表12．2．1）
構造材、下地材　＊Ａ種　・Ｂ種
造作材　＊Ａ種　・Ｂ種
保存処理木材の適用箇所　（12．2．1）

構造材、下地材の品質の基準　（12．2．1）
＊共仕１２．２．１．（ｂ）（４）による
造作材の材面の表面の基準　＊Ａ種　・Ｂ種　（12．2．1）（表12．2．2）
樹種　・共仕１２章２～８節による
代用樹種を使用しない箇所

3 集成材等

構造用集成材　（12．2．2）
・適用する

適用範囲		
強度等級		
材面の品質	＊２種	＊２種
樹種名		
接着性能		
寸法		

構造用単板積層材　（12．2．2）
・適用する

適用範囲		
樹種名		
寸法		
等級		
曲げ性能		
水平せん断性能		

造作用集成材　（12．2．2）
・適用する

適用範囲		
樹種名		
見付け材面の品質	＊１等	＊１等
寸法		

化粧ばり造作用集成材　（12．2．2）
・適用する

適用範囲		
心材の樹種名		
化粧薄板の樹種名		
化粧薄板の厚さ		
見付け材面の品質	＊１等	＊１等
寸法		

造作用単板積層材　（12．2．2）
・適用する

適用範囲	
表面の品質	＊天然木化粧加工
防虫処理	
寸法	

4 床張り用合板

厚さ５．５mmの合板　（12．2．3）

	広葉樹	針葉樹
樹種名		
合板の接着の程度	＊１類	＊１類
表面の品質	＊２類	＊ｃｄ

厚さ１２mmの合板　（12．2．3）
＊標仕１２．２．３（２）による

5 防蟻処理

＊行う　（適用範囲　　）　（12．2．9）

⑥ 防虫処理

＊行う　（適用範囲　　）　（12．2．10）

株式会社 尾川建築設計事務所
一級建築士 第216100号 尾川　佳永

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

（13．2．2）（13．2．3）（表13．2．1）

屋根葺形式	長尺金属板 板・コイルの種類 塗膜の耐久性の種類 メッキの付着量　等	厚さ（mm）	下葺材料
・瓦棒板 ・平葺 ・	＊JIS　G　3312による CGCCR-20-Z25 ・	＊0．4 ・	＊アスファルトルーフィング９４０ （ＪＩＳ　Ａ　６００５）

2 折板葺

折板の区分　（13．3．2）（表13．2．1）

形式による区分	＊重ね形又ははぜ締め形　・かん合形
山高（mm）	８５（産肉検定舎）　１５０（飼料卵卵舎）　⊙　８８
山ピッチ（mm）	２００（産肉検定舎）　２５０（飼料卵卵舎）　⊙　２００
耐力	２８００Ｎ／㎡（産肉検定舎）　２１００Ｎ／㎡（飼料卵卵舎）⊙４５００Ｎ/㎡
材料による区分	＊鋼板製（・　　） ・

軒先面戸板　⊙適用する　（13．3．2）

断熱材張り　（13．3．2）

⊙適用する（種別無機質断熱シート）

⊙適用する（　厚さ４．０ mm）

（防火性能　　）

3 スレート波板葺

多雪地域でのボルト締めの工法

・図示（図面番号　　）

波の種類

屋根　・大波　・中波　・小波

外壁　・大波　・中波　・小波

軒先面戸板　・適用する

壁出隅の工法

＊共仕13．4．3（8）による　・図示（図面番号　　）

4 粘土瓦葺

（13．4．2）

種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	
いぶし桟瓦	５３形Ａ	淡路	図示による	防災瓦

（13．4．2）

下葺材料　＊アスファルトルーフィング９４０（ＪＩＳ　Ａ　６００５）　（13．4．3）

棟の工法　◎図示（図面番号　Ａ－２２）　（13．4．3）

葺工法　◎ロック式縦桟工法

5 とい

といの種類　（13．5．2）（表13．5．1）

・　配管用鋼管　◎硬質塩化ビニル管　＊カラー硬質塩化ビニル管

◎硬質塩化ビニル雨とい　・ステンレス鋼板

・表面処理鋼板（規格番号　・　　）

といの養生管の材種

・配管用鋼管

排除口　・設ける

ルーフドレンの種別　（13．5．2）（表13．5．1）

種別	施工箇所
・　ろく屋根用（　縦型　・横型）	
・　バルコニー用	
・　バルコニー中継用	

鋼管製といの防露巻き　（13．5．3）（表13．5．5）

＊行う（施工箇所　＊標仕表13．5．5による　・　　）

14 金属工事

1 あと施工アンカーの引き抜き耐力確認試験

＊適用する　（14．1．3）

設計用引張強度　（14．1．3）（1．2．2）

＊標仕１．２．２の品質計画で定めたもの

2 ステンレスの表面仕上げ

（14．2．1）

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
＊ＨＬ程度	
・№２Ｂ程度	
・	

3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

（14．2．2）（表14．2．1）

種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）

陽極酸化皮膜の着色方法　（14．2．2）

＊二次電解着色　・三次電解着色

色合

＊監督職員の指示による

4 鉄鋼の亜鉛メッキ

（14．2．3）（表14．2．2）

表面処理方法	種別	試験	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛メッキ	・Ａ種	＊行わない　・行う	
	・Ｂ種	＊行わない　・行う	
	・Ｃ種	＊行わない　・行う	
電気亜鉛メッキ	・Ｄ種	＊行わない　・行う	
	・Ｅ種	＊行わない　・行う	
	・Ｆ種	＊行わない　・行う	

15 左官工事

1 既製目地材

＊適用する（形状　　）　（15．2．2）

2 モルタル塗り

床の目地

◎設ける（目地工法　◎共仕15．2．5（b）（3）による　・　　）

3 床コンクリート直均し仕上げ

塗物、敷物、張物等の下地への適用

◎適用する（適用範囲　　）

4 セルフレベリング材塗り

（15．4．2）（15．4．3）（表15．4．1）

種類	厚さ（mm）	施工箇所
・石こう系	＊10	
・セメント系	・	

5 仕上げ塗材仕上げ

（15．5．2）（15．5．1［（その他1）］）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
◎薄付け仕上げ塗材	◎外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ◎着色骨材砂壁状	吹付け 吹付け	
	・可とう系外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	吹付け ローラー	
	・防水系外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状	ローラー 吹付け	
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状	吹付け	
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく	吹付け	
・厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材Ｃ	スタッコ状・吹放し ・凸部処理	吹付け	
		スタッコ状・ひき起し ・凸部処理	コテ塗り	
	・内装厚塗材Ｃ	スタッコ状・吹放し ・凸部処理	吹付け	
		スタッコ状・ひき起し ・凸部処理	コテ塗り	
	・外装厚塗材Ｅ	スタッコ状・吹放し ・凸部処理	吹付け	上塗材 ・適用する
・複層仕上げ塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状	ローラー	耐候性 ＊耐候形３種 上塗材種類 ＊水系アクリルのつやあり
		・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け	

6 ロックウール吹付け

（15．5．2）（15．5．1［（その他2）］）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・複層仕上げ塗材	・可とう系複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様	ローラー 吹付け	耐候性 ＊耐候形３種
	・複層塗材ＳＩ	・ゆず肌状	ローラー	上塗材種類
	・複層塗材Ｅ	・凸部処理		＊水系アクリルのつやあり
	・複層塗材ＲＥ	・凹凸模様		
	・複層塗材ＲＳ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様	ローラー 吹付け	
	・防水系複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状	ローラー	増塗材
	・防水系複層塗材Ｅ	・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け	・適用する
	・防水系複層塗ＲＳ			
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	平たん状	コテ塗り	

・屋内の壁、天井の仕上げ材は、防火材料（建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。以下同じ。）とする。

・次の場所を除き、防火材料とする。　（15．5．2）

（　　）

ＡＬＣパネルの内壁目地部の形状　（15．5．4）

＊Ｖ形目地付き

所要量等の確認　（15．5．7）

＊共仕表15．5．4による

吹付け厚さ（mm）　（15．7．3）

16 建具工事

1 防火戸

（16．1．3）

防火戸（建築基準法第２条９号の２項の規定に基づき定められたもの又は認定を受けたものをいう。以下同じ。）の指定　＊図示（図面番号　　）

防火戸の自動開閉機構及び防火戸をヒューズ装置、熱感知装置又は煙感知装置と連動させる場合　＊図示（図面番号　　）

2 見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具番号　　）　（16．1．4）

・工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの

・納まり等がわかる程度のもの

特殊な建具の仮組み　・行う（建具番号　　）　（16．1．4）

3 アルミニウム製建具

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級（16．2．2）（16．2．4）（表16．2．1）

性能等級	＊Ａ種	＊Ｂ種	＊Ｃ種
耐風圧性	＊Ｓ－４	＊Ｓ－５	＊Ｓ－６
気密性	＊Ａ－３		＊Ａ－４
水密性	＊Ｗ－４		＊Ｗ－５
枠の見込み寸法（mm）	＊７０　・１００		＊１００

耐風圧性　⊙Ｓ－３　気密性　◉Ａ－４　水密性　◉Ｗ－３

・住宅用　・ブラウン

表面処理　（16．2．4）（14．2．2）（表14．2．1）

施工箇所	種別	着色
外部に面する建具	＊Ｂ－１種	・ブラウン　・ステンカラー
	・Ｂ－２種	・ブラウン　・ステンカラー
屋内の建具	＊Ｃ－１種	・ブラウン　・ステンカラー
	・Ｃ－２種	・ブラウン　・ステンカラー

水切り、ぜん板等の取り付け　・図示（図面番号　　）　（16．2．2）

防音ドアセット、防音サッシ

・適用する（建具番号　）　遮音性（　　）　（16．2．2）

断熱ドアセット、断熱サッシ

・適用する（建具番号　）　断熱性（　　）　（16．2．2）

耐震ドアセット

・適用する（建具番号　）　面内変形追随性（　　）

4 網戸

防虫網　（16．2．3）

・合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　◎ステンレス（ＳＵＳ３１６）製

線径（mm）　＊０．２５以上

網目メッシュ　＊１６～１８

5 鋼製建具

簡易気密性ドアセット　（16．3．2）（表16．3．1）

・適用する

外部に面する鋼製建具の耐風圧性　（16．2．2）（表16．2．1）

・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６

防音ドアセット、防音サッシ　（16．3．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　遮音性（　　）

断熱ドアセット、断熱サッシ　（16．3．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　断熱性（　　）

耐震ドアセット　（16．3．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　面内変形追随性（　　）

鋼板メッキの付着量　（16．3．3）

＊Ｚ１２又はＦ１２を満足するもの

鋼板類の厚さ

＊共仕表16．3．2による。ただし、片開き、親子及び両開き戸の１枚の戸の有効開口幅が９５０mm又は有効高さが２，１００mmを超える場合は図示による。

（図面番号　　）

6 鋼製軽量建具

簡易気密性ドアセット　（16．4．2）

・適用する

防音ドアセット、防音サッシ　（16．4．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　遮音性（　　）

断熱ドアセット、断熱サッシ　（16．4．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　断熱性（　　）

耐震ドアセット　（16．4．2）（16．2．2）

・適用する（建具番号　）　面内変形追随性（　　）

ビニル被覆鋼板　（16．4．3）

・適用する

カラー鋼板

・適用する

召合わせ、縦小口包み板等の材質　（16．4．3）

＊ステンレス鋼板　・鋼板　・アルミニウム合金の押出形材

7 ステンレス製建具

ステンレス鋼板（ＪＩＳ　Ｇ　４３０５）　＊ＳＵＳ３０４　（16．5．3）

表面仕上げ　（14．2．1）（16．5．4）

＊ＨＬ仕上げ

曲げ加工　＊普通曲げ　・角出し曲げ（補強有り）　（16．5．5）

8 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　（16．6．2）（表16．6．1）

・Ａ種　＊Ｂ種　・Ｃ種

枠の材料　（16．6．2）

くつずりの材料　（16．6．2）

フラッシュ戸（16．6．2）（16．6．3）（16．6．4）（表16．6．6）（表16．6．7）

表面材の合板の品質

＊共仕１６．６．２（ｂ）（１）（　）（　）による　（16．6．2）

表面材の合板の種類、厚さ

種類	厚さ（mm）
・普通合板	＊２．５以上
・難燃合板	＊５．５以上
・特殊合板	＊２．７以上

定規縁（引き戸）の召し合わせかまち

・いんろう付き

かまち戸　（16．6．2）（16．6．3）（16．6．4）（表16．6．8）

かまちの樹種（　　）

鏡板の樹種　（　　）

見込み寸法（mm）　＊３６を標準

定規縁（引き戸）の召し合わせかまち

・いんろう付き

ふすま　（16．6．2）（16．6．3）（16．6．4）（表16．6．9）

上張りの種類

・鳥の子　・新鳥の子　・ビニル紙　・雲花紙（押入等の裏紙）

カシュー塗料　＊２回塗り　・３回塗り

見込み寸法（mm）　＊２１を標準

戸ふすま　見込み寸法（mm）　＊３０を標準　（16．6．3）

紙張り障子　見込み寸法（mm）　＊３０を標準　（16．6．3）

9 建具金物

見掛り分の材質　（16．7．2）（表16．7．1）

＊共仕表１６．７．１による

金物の種類、握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセント、ドアストッパー等の取付け位置

＊図示（図面番号　　）　（16．7．3）

10 自動ドア開閉装置

スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値　（16．8．2）（表16．8．1）

＊共仕１６．８．１による

スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値　（16．8．2）（表16．8．2）

＊共仕１６．８．２による

戸の開閉方法　（16．8．3）

・引き戸　・開き戸　・折り戸　・回転ドア

センサーの種類　（16．8．3）（表16．8．3）

・マットスイッチ　・電子（電磁）マットスイッチ　・光線（反射）スイッチ

・音波スイッチ　・熱線スイッチ　・光電スイッチ　・タッチスイッチ

・ペダルスイッチ　・押しボタンスイッチ

寒冷地における凍結防止措置　・行う　（16．8．3）

11 自閉式上吊り引き戸装置

性能　（16．8．3）（表16．9．1）

＊共仕表１６．９．１による

12 重量シャッター

シャッターの種類　（16．10．2）

・一般重量シャッター　・外壁用防火シャッター　・屋内用防火シャッター

・屋内用防煙シャッター

一般重量シャッター及び外壁用防火シャッターの耐風圧性能　（16．10．2）

・ＪＩＳ　Ａ　４７０５による区分（　・５０　・８０　・１２０）

開閉機能による種類　（16．10．2）（表16．10．1）

＊上部電動式（手動併用）　・上部移動式

煙又は熱感知器連動機能により閉鎖する防火又は防煙シャッターの危害防止機構

＊障害物感知装置（自動閉鎖型）　・シャッターの二段降下方式　（16．10．2）

シャッターケース　（16．10．2）

・防火シャッター及び防煙シャッター　＊設置する

・上記以外のシャッター　・設置する　・設置しない

16 建具工事

13 軽量シャッター

開閉機能による種類　（16．11．2）（表16．11．1）
＊手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧性能　・ＪＩＳ　Ａ　４７０４による区分（　・５０　・６５　・８０）（16．11．2）
スラット　（16．11．3）（16．11．4）
材質　＊塗装溶融亜鉛メッキ鋼板
形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

14 オーバーヘッドドア

（16．12．2）（16．12．3）

セクション材料による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
＊スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	＊バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーチカル形	・溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ステンレス鋼板

耐風圧性能　（16．12．2）
・ＪＩＳ　Ａ　４７１５による区分（　・５０　・７５　・１００　・１２５）

15 ガラス

フロート板ガラス　厚さ（mm）　・３　（16．13．2）
型板ガラス　厚さ（mm）　・４　（16．13．2）

網入り板ガラス及び線入り板ガラス　（16．13．2）
品種
・ひし網入り板型ガラス　・角網入り型板ガラス
・ひし網入り磨き板型ガラス　・角網入り磨き板ガラス
・線入り型板ガラス　・線入り磨き板ガラス
厚さ（mm）

合わせガラス　（16．13．2）

形状	特性による種類	材料板ガラスの種類、厚さ	合計厚（mm）
・平面	・Ⅰ類　・Ⅱ－２類 ・Ⅱ－１類　・Ⅲ類	＜ガラス種類（厚さ）＋ガラス種類（厚さ）＋・・・＞	
・曲面	・Ⅰ類	＜ガラス種類（厚さ）＋ガラス種類（厚さ）＋・・・＞	

強化ガラス　（16．13．2）

形状	特性による種類	材料板ガラスの種類による名称	材料板ガラス
⊙平面	⊙Ⅰ類 ・Ⅲ類	⊙フロート強化ガラス	⊙フロートガラス ・磨き板ガラス ・熱線吸収フロートガラス ・熱線吸収磨き板ガラス
		・型板強化ガラス	・型板ガラス
		・熱線反射強化ガラス	・熱線強化ガラス
・曲面	・Ⅰ類	・フロート強化ガラス	・フロートガラス ・磨き板ガラス ・熱線吸収フロートガラス ・熱線吸収磨き板ガラス

熱線吸収板ガラス　（16．13．2）

材料板ガラスの種類	厚さ（mm）		色調
熱線吸収フロート板ガラス	＊６．８	・１種　・２種	・ブルー　・グレー
熱線吸収磨き板ガラス		・１種　・２種	・ブロンズ
熱線吸収網入り磨き板ガラス		・１種　・２種	・グレー　・ブロンズ
熱線吸収線入り磨き板ガラス		・１種　・２種	
熱線吸収網入り型板ガラス		・１種　・２種	・ブロンズ

複層ガラス　（16．13．2）

断熱性・日射熱遮へい性による種類		材料板ガラスの種類、厚さ	厚さ（mm）
・断熱複層ガラス	・１類 ・２類 ・３類	＜ガラス種類（厚さ）＋ガラス種類（厚さ）＋・・・＞	
日射熱遮へい複層ガラス	・４類 ・５類	＜ガラス種類（厚さ）＋ガラス種類（厚さ）＋・・・＞	

熱線反射板ガラス　（16．13．2）（16．3．4）

材料板ガラスの種類	日射熱遮へい性による区分	反射皮膜の使い方	色調	映像調整	厚さ（mm）
フロートガラス 磨き板ガラス 熱線吸収フロートガラス 熱線吸収磨き板ガラス 平面強化ガラス	・１類 ・２類 ・３類	・内面 ・外面	・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー	・行う ・行わない	

倍強度ガラス　（16．13．2）

材料板ガラスの種類	厚さ（mm）	色調
・フロート板ガラス	・６　８　１０	──
・熱線吸収板ガラス	・６　８　１０	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

16 ガラス留め材

（16．13．2）

建具の種類	種類
アルミニウム製	・ガスケット ＊グレイジングチャンネル形（枠見込み７０mmの引違い、片引き障子の場合） ・ ⊙シーリング材（ＳＲ－１）◎シリコン系９０３０Ｇ
鋼製	・シーリング材（ＳＲ－１）
ステンレス製	・シーリング材（ＳＲ－１）

ただし、防火戸のガラス留め材は、防火戸が定められ又は認定を受けた条件による。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　（16．13．3）（表16．13．1）
＊共仕表16．13．1による
（強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合を除く。）

17 ガラスブロック積み

ガラスブロック　（16．13．5）

表面形状	呼び強度（mm）	厚さ（mm）
・正方形	・１２５×１２５　・１６０×１６０ ・２００×２００　・３２０×３２０	・８０　・９５　・１２５
・長方形	・２５０×１２５　・３２０×１６０	・８０　・９５

力骨　（16．13．5）

材質	寸法（mm）	形状
＊ステンレス鋼（ＳＵＳ３０４） ・	＊径５．５ ・	＊はしご形状複筋及び単筋

壁用金属枠及び補強材　（16．13．5）
・図示（図面番号　　）
金属製化粧カバーの材質、寸法及び形状　（16．13．5）
・図示（図面番号　　）
シーリング材　（16．13．5）（9．6．1）
＊被着体に応じたものとし、共仕９．６．１を標準とする。
・

目地　（16．13．5）

	目地幅	色
平積み	＊８mm以上、１５mm以下 ・	＊白 ・
曲面積み	＊共仕１６．１３．５（ｂ）（２）（　）②による ・	＊白 ・

伸縮調整目地　（16．13．5）
位置　＊共仕１６．１３．５（ｂ）（２）（　）による
力骨の補強方法　＊ガラスブロック製造所の仕様による　（16．13．5）

18 鍵

マスターキー　（16．7．4）
⊙製作する　・在来マスターに合わせる
＊鍵は、３本１組とし、室名札を付け、一括して鍵箱に収納して引き渡す。
鍵箱は、鍵の個数に相応した鋼製既製品とする。

17 カーテンウォール工事

1 カーテンウォールの性能

性能値　（17．1．3）

耐風圧性	・Ｓ－４　・Ｓ－５ ・Ｓ－６	耐温度差性 （℃）	
耐震性	・水平方向 ・鉛直方向	遮音性	・Ｔ－１　・Ｔ－２ ・Ｔ－３　・Ｔ－４
水密性	・Ｗ－４　・Ｗ－５	断熱性	
気密性	・Ａ－３　・Ａ－４		
耐火性（ｈ）			

性能の確認方法及び判定方法　（17．1．3）
＊共仕１７．１．３（ｃ）による

2 メタルカーテンウォール

金属材料の種類　（17．2．2）
・アルミニウム製　・鋼製　・ステンレス製
見え掛り部分の仕上げ　（17．2．3）
製品の寸法許容差　（17．2．3）（表17．2．1）
＊共仕表１７．２．１による（アルミニウム合金鋳物を除く）
躯体付け金物取付け位置の寸法許容差　（17．2．5）（表17．2．2）
＊共仕表１７．２．２による
カーテンウォールの部材取付け位置の寸法許容差　（17．2．5）（表17．2．3）
＊共仕表１７．２．３による
ガラス溝の形状及び寸法等　（17．2．3）
＊カーテンウォール製作所の仕様による

3 ＰＣカーテンウォール

コンクリート　（17．3．2）（表6．1．1）

種類	設計基準	所要スランプ	所要気乾単位	単位数量の
	強度（Ｆｃ）		容積質量	最大値
＊共仕６．１．１の１種 ・	・３０Ｎ／㎟ ・	・８cm以下 ・	・１．９ｔ／㎥以下 ・	・１８０ｋｇ／㎥ ・

鉄筋の種類の記号　（17．3．2）
＊ＳＤ２９５Ａ
補強鉄筋の寸法　（17．3．2）
＊径３．２mm以上
ゴンドラ用ガイドレール　（17．3．2）
・図示（図面番号　　）
製品の見え掛り部分の寸法許容差　（17．3．3）（表17．3．1）
＊共仕表１７．３．３（ａ）（１）（２）による
ＰＣカーテンウォールの仕上げ　（17．3．3）
・タイル　・天然石
鉄筋の配筋　（17．3．4）
配筋　＊共仕１７．３．４（ｂ）（１）による
検査　＊行う　・行わない
カーテンウォールの部材取付け位置の寸法許容差　（17．3．5）（表17．3．2）
＊共仕表１７．３．２による
アンカー溝の寸法及び寸法許容差　（17．3．3）
・図示（図面番号　　）

18 塗装工事

1 材料

＊屋内の壁、天井に使用するものは、防火材料とする。　（18．1．3）
・次の場所を除き、防火材料とする。（　　）

2 素地ごしらえ

種別　（18．2．2）（表18．2．1）
木部
不透明塗料塗りの場合　＊Ａ種　・Ｂ種
透明塗料塗りの場合　・Ａ種　＊Ｂ種
鉄鋼面　・Ａ種　・Ｂ種　＊Ｃ種　（18．2．3）（表18．2．2）
モルタル、プラスター面　・Ａ種　＊Ｂ種　（18．2．5）（表18．2．4）
コンクリート・ＡＬＣパネル面　・Ａ種　＊Ｂ種　（18．2．6）（表18．2．5）
（２液性ポリウレタンエナメル塗り、アクリルシリコン樹脂エナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り以外の場合）
石こうボード、その他ボード面　（18．2．7）（表18．2．7）

石こうボードの目地処理が継目処理工法の場合	＊Ａ種　・Ｂ種
上記以外	・Ａ種　＊Ｂ種

3 錆止め塗料塗り

錆止め塗料の種別（多彩模様塗料塗りの場合を除く）

鉄鋼面	（18．3．2）（表18．3．1）
屋外	＊Ａ種　・Ｂ種
屋内	・Ａ種　＊Ｂ種

亜鉛メッキ鋼面	（18．3．2）（表18．3．2）
錆止め塗料塗りの種別がＣ種の場合	・Ａ種　＊Ｂ種
上記以外	＊Ａ種　・Ｂ種

錆止め塗料の種別（多彩模様塗料塗りの場合を除く）

鉄鋼面	（18．3．3）（表18．3．3）
見掛り部分	＊Ａ種　・Ｂ種
見隠れ部分	・Ａ種　＊Ｂ種

亜鉛メッキ鋼面	（18．3．3）（表18．3．4）
鋼製の建具	＊Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
上記以外	・Ａ種　・Ｂ種　＊Ｃ種

4 合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）

塗料の種類　（18．4．2）
＊１種　・２種
鉄鋼面の合成樹脂調合ペイント塗りの種別　（18．4．4）（表18．4．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

5 クリヤラッカー塗り（ＣＬ）

クリヤラッカー塗りの種別　（18．5．2）（表18．5．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

6 フタル酸樹脂エナメル塗り（ＦＥ）

木部フタル酸樹脂エナメル塗りの種別　（18．6．2）（表18．6．1）
・Ａ種　＊Ｂ種
鉄鋼面、亜鉛メッキ鋼面フタル酸樹脂エナメル塗りの種別　（18．6．3）（表18．6．2）
・Ａ種　＊Ｂ種

7 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの種別　（18．7．2）（表18．7．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

8 アクリル樹脂エナメル塗り（ＡＥ）

アクリル樹脂エナメル塗りの種別　（18．8．2）（表18．8．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

9 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）

つや有合成樹脂エマルションペイント塗りの種別　（18．12．2）（表18．12．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

10 合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）

合成樹脂エマルションペイント塗りの種別　（18．13．2）（表18．13．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

11 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）

（18．14．2）（表18．14．1）
合成樹脂エマルションペイント模様塗料塗りの種別

下地の種別	種別
コンクリート、モルタル、プラスター、石こうボード等	・Ａ種　＊Ｂ種
鉄鋼面、亜鉛メッキ鋼面	・Ａ種　＊Ｂ種

4 シーリング材

種類　（17．2．2）817．3．2）（表9．6．1）
・被着体に応じたものとし、共仕表９．６．１を標準とする。
・下記による

種類（記号）	施工箇所

5 ガラス取付材料

シーリング材　（17．2．2）（17．3．2）（表9．6．1）
種類　・被着体に応じたものとし、共仕表９．６．１を標準とする。
・下記による

種類（記号）	施工箇所

構造用ガスケット　（17．2．2）（17．2．6）（17．3．2）（17．3．6）
形状及び寸法　・図示（図面番号　　）
ガラスの取付方法
・図示（図面番号　　）

6 断熱材

（17．2．2）（17．3．2）

工法	種類	難燃性	厚さ（mm）	適用箇所
・現場発泡工法 ・	・硬質ウレタンフォーム	・２級 ・３級 ・		

上記保温材は、特定フロンを含まないものとする

19 内装工事

12 ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

ウレタン樹脂ワニス塗りの種別　（18．15．2）（表18．15．1）
・Ａ種　＊Ｂ種

13 マスチック塗材塗り

マスチック塗材塗りの種別　（18．17．2）（表18．17．1）

種別	凸面処理仕上げ	仕上げ材塗りの種別
・Ａ種	・行う	・アクリル樹脂エナメル
・Ｂ種		・つや有合成樹脂エマルションペイント
・Ｃ種	・行う	

1 ビニル床シート

（19．2．2）

種類	記号	厚さ（mm）	色柄	工法
◎発砲層のないもの ・	◎ＮＣ ・	◎２．０ ・	◎マーブル ⊙木目調	◎突付け ・熱溶接

便所：タジマ　パーマリュムリミット同等品　　東り製フロアリューマーブル同等品
昇降口・廊下手洗部分タジマ　アクサンスソフトSE同等品　　東り製マチュア同等品
渡り廊下：タキロン　タキストロンM同等品

2 ビニル床タイル

（19．2．2）

種類	厚さ（mm）
・ホモジニアスビニル床タイル	＊２．０
・コンポジションビニル床タイル（半硬質）	・３．０
・コンポジションビニル床タイル（軟質）	

3 帯電防止床シート、床タイル

（19．2．2）

種類	性能	厚さ（mm）
・帯電防止床シート ・帯電防止床タイル	＊体積抵抗値１．０×１０＾Ω以下	・

4 誘導用、注意喚起用床材

視覚障害者用タイル　（19．2．2）

種類	寸法	厚さ（mm）
・塩化ビニル系 ・レンジコンクリート系	＊３００×３００	・

5 耐動荷重性床シート

（19．2．2）

種類	厚さ（mm）
・	・

6 ビニル幅木

（19．2．2）

材質	高さ（mm）	厚さ（mm）
＊軟質　・硬質	◎６０　・７５　・１００	◎１．５　・２．０

7 ゴム床タイル

（19．2．2）

種類	厚さ（mm）
・	・３．０　・４．５　・６．０　・９．０ ・

8 カーペット敷き

織じゅうたん　（19．3．3）（19．3．4）（表19．3．2）

種別	パイル形状	帯電性	品質の程度
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	＊人体帯電圧３ＫＶ以下 ・	

品質の程度は参考品番である

タフテッドカーペット　（19．3．3）（19．3．4）（表19．3．1）

パイル形状	パイル長さ（mm）	帯電性	工法	品質の程度
・カットパイル ・マルチレーベルループ ・レーベルループパイル ・カット、ループ併用 ・		＊人体帯電圧 電圧３ＫＶ以下 ・	＊全面接着工法 ＊グリッパー工法	

品質の程度は参考品番である

グリッパー工法に使用する下地敷き材　（19．3．3）

品質	呼び厚さ（mm）
＊ＪＩＳ　Ｋ　３２０４の第２種２号 ・	＊８ ・

見切り、押え金物　（19．3．3）
見切り　（材質＜　＞　種類＜　＞　形状＜　＞
押え金物　（材質＜　＞　種類＜　＞　形状＜　＞
ニードルパンチカーペット
タイルカーペット　（19．3．3）

種別	パイル形状	寸法（mm）	総厚さ（mm）	品質の程度
・１種 ・２種	・カットパイル ＊ループパイル	＊５００×５００ ・	＊６．５ ・	・

品質の程度は参考品番である
敷き方　（19．3．4）

平場	＊市松敷き　・模様流し
階段部分	・市松模様　＊模様流し

9 弾性ウレタン塗床

仕上げの種類　（19．4．2）（表19．4．1）
＊平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ

10 エポキシ樹脂塗床

仕上げの種類
＊模様流し展べ仕上げ　・厚幕流し展べ仕上げ　（19．4．2）（表19．4．1）
・樹脂モルタル仕上げ　・防滑仕上げ

11 階段手摺

⊙ アトラス　リンダープロテクター34φ同等品

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	特記仕様書(6)	ー	2010.9		＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－6

19 内装工事

11 フローリング張り

（19．5．2）（19．5．4～7）（表19．5．1～3）

単層フローリング	樹種	厚さ（mm）	大きさ（mm）	塗装
・フローリングボード	＊なら・			＊ウレタン樹脂ワニス塗り ・油性ステイン塗り
・フローリングブロック	＊なら・	＊１．５・	＊３００×３００・	・生地のままワックス塗り
・モザイクパーケット	・	・	・	

複合フローリング	樹種	種別	防湿処理	塗装
・複合１種フローリング	＊なら・	・Ａ種		＊ウレタン樹脂ワニス塗り
・複合２種フローリング		・Ｂ種		・油性ステイン塗り
・複合３種フローリング		・Ｃ種	・行う	・生地のままワックス塗り

工法（19．5．3）

・モルタル埋込み工法　・釘留め工法　・接着工法

接着工法の場合のフローリング裏面の緩衝材（19．5．6）

＊合成樹脂発砲シート

12 畳敷き

種別（19．6．2）（表19．6．1）

・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　◎Ｄ種（　・ＫＴ－Ⅰ　・ＫＴ－Ⅱ　◎ＫＴ－Ⅲ）

13 石こうボード、その他ボード及び合板張り

（19．7．2）（表19．7．1）

名所	種類		区分・規格	厚さ（mm）
せっこうボード製品	◎せっこうボード（ＧＢ－Ｒ）		◎ＪＩＳＡ６９０１	12.5、9.5
	・シージングせっこうボード（ＧＢ－Ｓ）		◎ＪＩＳＡ６９０１	12.5
	・強化せっこうボード（ＧＢ－Ｆ）			
	・せっこうラスボード（ＧＢ－Ｌ）			
	◎化粧せっこうボード（ＧＢ－Ｄ）		◎ＪＩＳＡ６９０１	9.5
吸音材料	ロックウール吸音材	・ロックウール吸音フェルト（ＲＷ－Ｆ）		
		・ロックウール吸音ボード（ＲＷ－Ｂ）		
		・ロックウール吸音ブランケット（ＲＷ－ＢＥ）		
	グラスウール吸音材	・グラスウール吸音フェルト（ＧＷ－Ｆ）		
		・グラスウール吸音ボード（ＧＷ－Ｂ）		
	・ロックウール化粧吸音板（ＤＲ）			
	・吸音用インシュレーションファイバーボード（ＩＤ）			
	・吸音木毛セメント板（ＷＷＣＢ）			
	・吸音用穴あきせっこうボード（ＧＢ－Ｐ）			
	・吸音用穴あきハードファイバーボード（ＨＢ－Ｐ）			
繊維強化板	無石綿ケイ酸カルシウム板	・ケイ酸カルシウム板（０．８ＦＫ）	◎ＪＩＳＡ５４３０	10
木毛合板	・難燃木毛セメント板			
	・断熱木毛セメント板		◎ＪＩＳＡ５４０４	25
	・難燃合板			
	・天然木化粧合板			化粧単板0.3未満・12
	・構造用　１類合板			板＊4．2
	・特殊加工化粧合板			

＊壁又は天井に使用するものは、防火材料とする（19．7．2）

遮音シール材　・適用する（19．7．2）

下地　・軽量鉄骨下地　・木造下地（19．7．3）

合板類の張り付け（19．7．2）（表19．7．3）

種別　・Ａ種　＊Ｂ種

せっこうボードの目地処理（19．7．2）（表19．7．4）

・目透し工法　・突付け工法　・突付けＶ目地工法　◎継目処理工法

14 壁紙張り

（19．8．2）

施工箇所	品質程度	防火性能の等級
壁、天井	教室壁・サンゲツサンマグネット程度 便所壁：シンコールベスト（消臭・抗菌）程度 便所天井：シンコールベスト（消臭・抗菌）程度	・１級　◎２級　・ ・１級　・２級　・
		・１級　・２級　・

品質の程度は、参考商品である。

素地ごしらえ

モルタル、プラスター面　・Ａ種　＊Ｂ種（19．8．3）（表18．2．4）

コンクリート面　・Ａ種　＊Ｂ種（19．8．3）（表18．2．5）

せっこうボード面　・Ａ種　＊Ｂ種（19．8．3）（表18．2．7）

15 断熱材

・断熱材打込み工法（19．9．2）

種類	種別	厚さ（mm）	施工箇所
・スタイロフォーム	Ａ種3ｂ	・５０	土間下
同　上		・５０	屋根スラブ下
・木毛セメント板		・２５	物置屋根スラブ下
◎グラスウールマット		⊙１００	２階天井裏
◎グラスウールマット		❍５０	外壁

◎断熱材現場発泡工法（発砲ウレタンホーム）（19．9．3）

難燃性	厚さ（mm）	施工箇所
・Ａ種１（ノンフロン）	・２０	・外壁面

◎グラスウール　厚１００　（密度２４ｋｇ／㎥品）

◎グラスウール　厚５０　（密度１６ｋｇ／㎥品）

20 排水工事

1 排水管

（21．2．1）（表21．2．1）

材種	管の種類	形状	強さ（KN/m）	呼び径	厚さ（mm）
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（１種）				
◎硬質塩化ビニル管	◎ＶＰ ・ＳＵ			５０　７５ １００　１２５	４．１　６．６

2 側塊、排水桝等

側塊　形状　・図示（図面番号　　）　寸法　・図示（図面番号　　）

排水桝　形状　・図示（図面番号　　）　寸法　・図示（図面番号　　）

マンホール蓋（21．2．2）

種類	名称	適用荷重	鍵の有無
・マンホール蓋 ・化粧マンホール蓋 ・インターロッキング用マンホール蓋	・	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有 ・無

グレーチング（21．2．2）

種類	形式	用途	適用荷重	普通目	粗目	メインバー ピッチ（mm）	備考
鋼製	・受枠付・	・溝ふた（横断用）	・歩行用				
			・Ｔ－２用	◎		２０	
		・溝ふた（側溝用）	・Ｔ－６用		◎		
			・Ｔ－１４用				
		◎桝ふた	・Ｔ－２０用				
		・Ｕ字溝用	・				
ステンレス製	・受枠付・	・溝ふた（横断用）	・歩行用				
			・Ｔ－２用				
		・溝ふた（側溝用）	・Ｔ－６用				
			・Ｔ－１４用				
		・桝ふた	・Ｔ－２０用				
		・Ｕ字溝用	・				

3 地業の材料

＊共仕４．６．２（ａ）による（21．2．3）（４．６．２）

4 コンクリート

設計基準強度（Ｎ／㎟）　◎１８（21．2．3）

5 埋め戻し用材料

共仕表３．２．１による種別（21．2．3）（表３．２．１）

・Ａ種　◎Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種

21 舗装工事

1 アスファルト舗装及びカラー舗装

（２２．４．２）（表２２．４．１）

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
⊙ アスファルト舗装		
・ カラー舗装	・ 無し　・ 有り	・ 顔料を用いた加熱アスファルト混合物

アスファルト　・　再生アスファルト　・　ストレートアスファルト（２２．４．３）

表層の加熱アスファルト混合物の種類（２２．４．４）（表２２．４．６）

表層	⊙ 密粒度アスファルト混合物　（１３）
	・ 細粒度アスファルト混合物　（１３）
	・
基層	⊙ 粗粒度アスファルト混合物　（２０）
	・ 再生加熱アスファルト混合物

シールコート　・　行う　・　行わない（２２．４．５）

アスファルト混合物の抽出試験　・　行う　・　行わない（２２．４．６）

2 アスファルト舗装の試験

・　締固め度　　密度（基準密度Ｘ９５％以上）（２２．４．６）

試験場　・　県土木部舗装試験室　・　公的機関試験場

3 コンクリート舗装

早強セメント　・　使用する　・　使用しない（２２．５．３）

コンクリート版厚さ試験　・　行う　・　行わない（２２．５．６）

・　切り下げ及び設備配管に伴う歩道復旧（２２．８．３）

4 ブロック系舗装

コンクリート平板　・　Ｎ３００　・　厚さ　８０（２２．８．３）

インターロッキングブロックの種類　厚さ（mm）　◎６０　◎８０

製造所

コンクリート平板舗装のクッション材　＊　砂　・　空練りモルタル（２２．８．３）

インターロッキングブロック舗装のクッション材　＊　砂　・　空練りモルタル

5 縁石

歩車道境界ブロックのＪＩＳによる呼び名　◎　Ａ　・　Ｂ　・　Ｃ（２２．９．２）

地先境界ブロックのＪＩＳによる呼び名　◎　Ａ　・　Ｂ　・　Ｃ

現場打ちコンクリートの設計基準強度（２２．９．２）

Ｆｏ（ｋｇ／ｃｍ^2）［Ｎ／ｍｍ^2］　（　　）

6 コンクリート側溝

鉄筋コンクリートＬ型のＪＩＳによる呼び名（２２．９．２）

・　２５０Ａ　・　２５０Ｂ　・　３００　・　３５０

コンクリートＬ型のＪＩＳによる呼び名（２２．９．２）

・　２５０Ａ　・　２５０Ｂ

鉄筋コンクリートＵ型のＪＩＳによる呼び名（２２．９．２）

◎　１５０　・　１８０　・　２４０　・　３００Ａ　・　３００Ｂ　・　３００Ｃ

現場打ちコンクリートの設計基準強度（２２．９．２）

Ｆｏ（ｋｇ／ｃｍ^2）［Ｎ／ｍｍ^2］　（　　）

地業の材料　＊　４．８．１　・

22 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロアー

（２０．２．２）

施工箇所		
工法	＊パネル工法　独立支柱型	
構成材の材質	＊スチール（無機質充填）	
表面仕上げ材の材質	・タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル	
高さ（mm）	・	
寸法（mm）	・５００×５００ ・	
耐荷重性能	＊３０００Ｎ－たわみ２．０mm以下 ・５０００Ｎ－たわみ２．０mm以下 ・	
耐震性能	＊３０００Ｎ／㎡－１．０Ｇクリア ・５０００Ｎ／㎡－１．０Ｇクリア ・	

2 可動間仕切

（２０．２．３）

構造形式による種類		・スタッド式　・スタッドパネル式 ・パネル式
構造材の種類	スタッド	・化粧鋼板　・アルミ押出成形
	パネル	・塗装鋼板　・合成樹脂張鋼板
パネル表面仕上げ		・
遮音性		・無　・有（　　）
耐火性能		・無　・耐火１時間以上　・不燃　・準不燃

形状及び寸法　＊図示（図面番号　　）（２０．２．３）

3 移動間仕切

（２０．２．４）

パネルの操作方法による種類		・
パネル	材質	＊鋼板
表面材	仕上げ	・焼付け塗装　・壁紙張り
パネル圧接装置の操作方法		・ハンドル回転式　・プッシュ式 ・
遮音性能		・一般タイプ　・遮音タイプ
厚さ（mm）		・

形状及び寸法　＊図示（図面番号　　）

ハンガーレール取付け下地の補強（２０．２．４）

＊共仕２０．２．４（ｃ）（３）による

ハンガーレールの固定方法（２０．２．４）（１４．１．３）

＊溶接又はあと施工アンカー

材質：　径：　（あと施工アンカーの場合）

4 トイレブース

（２０．２．５）

表面材の材質

⊙メラニン樹脂系化粧板

・ポリエステル樹脂系化粧板

脚部　⊙幅木タイプ　・脚具タイプ（２０．２．５）

5 間段滑止め

（２０．２．６）

材種	形状	寸法（mm）	取付方法
			＊接着工法 ・埋込工法

6 黒板及びホワイトボード

・黒板（２０．２．８）

種類　＊焼付け

色　＊緑

・ホワイトボード（２０．２．８）

7 鏡

ガラスの厚さ（mm）　＊５（２０．２．９）

8 表示

・対人衝突防止表示（２０．２．１０）

材質、形状及び寸法　＊図示（図面番号　　）

・非常用進入口の表示（２０．２．１０）

＊消防法に適合する市販品とする

・誘導標識の表示（２０．２．１０）

＊消防法に適合する市販品とする

・

・室名札、ピクトグラフ及び案内板等（２０．２．１０）

形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等

＊図示（図面番号　　）

9 煙突ライニング

煙突用成形ライニング材（２０．２．１１）

10 ブラインド

（２０．２．１２）

形式	・横形ブラインド	・縦形ブラインド	
ブラインドの種類	＊ギア式	開閉形式	・片開き　・両開き
	＊コード式	操作形式	・１本操作コード
	・操作棒式		＊２本操作コード
スラットの幅（mm）	＊２５	・	
ヘッドボックスの材種	＊鋼製		
ボトムレールの材種	＊鋼製		
スラットの材種	＊アルミニウム合金製	・アルミスラット ・クロススラット	

11 ロールスクリーン

（２０．２．１３）

ロールスクリーンの操作方法	・スクリーンの材種、品質等
・電動　・オウルコード　・チェーン	・
・電動　・オウルコード　・チェーン	・
・電動　・オウルコード　・チェーン	・

材種、品質の程度は参考商品名である

＊ロールスクリーンの取付け箇所等（２０．２．１３）

＊図示（図面番号　　）

12 カーテン

（２０．２．１４）（表２０．２．１）

名称、品質	シングル・ダブルの別		形式		開閉操作方式			ひだの種類
	シングル	ダブル	片引き	引分け	電動	ひも引き	手引き	
ドレープカーテン 東リRAT7064	⊙	・	・	⊙	・	・	⊙	箱ひだ
	・	・	・	・	・	・	・	
	・	・	・	・	・	・	・	

品質の程度は参考商品名である

・暗業用カーテンの両端、上部、召し合わせの重なり（mm）（２０．２．１４）

＊３００以上

13 カーテンレール

（２０．２．１４）

レール及びブラケットの強さによる区分	レールの材料による区分	レールの仕上げ	レールの形状
＊１０－９０ ＊１０－６０	＊アルミニウム及び・アルミニウム合金の・押出成形材	＊アルマイト・	＊角型 ・Ｃ型 ・Ｄ型

14 カーテンボックス

材種　・アルミニウム

色彩　・シルバー　・着色　（色　　）

15 アコーディオンドア

表面材　・ビニルレザー張り（防炎加工）

16 プレキャストコンクリート

補強鉄線の径（mm）（２０．３．２）

＊３．２以上

コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）（２０．３．３）

＊水セメント比６５％以下、単位セメント量の最小値２８５ｋｇ／ｍ^{3}を満足する程度

配筋　＊共仕２０．３．３（ｄ）（１）による（２０．３．３）

取付方法　＊図示（図面番号　　）（２０．３．４）

17 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

（２０．４．２）

区分	材料	質量区分
・間知石		
・コンクリート間知ブロック		

地業の材料（２０．４．２）（４．６．２）

＊再生材料　・割石　・砂　・砂利

間知石積み（２０．４．３）

積み方	目地塗り	伸縮調整目地の材種、厚さ（mm）
・布積み		
＊谷積み		

18 天井見切縁

材種　・アルミニウム製　◎樹脂製

19 鋼製書架及び棚

区分	品質、規格等
・固定式	・鋼製書架（ＪＩＳ　Ｓ　１０３９による） ・鋼製物品棚（ＪＩＳ　Ｓ　１０４０による）
・移動式	・スチール製ラック棚

20 点検口

形式	材種	寸法（mm）	形式		
天井	◎アルミニウム製・	◎４５０×４５０ ・６００×６００ ・	一般形	（外枠） ・額縁タイプ ・目地タイプ	（内枠） ・額縁タイプ ・目地タイプ
				・密閉形	
床	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・３００×３００ ・６００×６００ ・	・屋内外用　・屋内用 ・一般形　・密閉形 ・結露防止形		

21 既製家具

・

22 カウンター

・

23 流し台ユニット

・システムキッチン　メーカー同等品　・コンパクトキッチン　メーカー同等品

24 コンロ台ユニット

・システムキッチン　メーカー同等品　・コンパクトキッチン　メーカー同等品

25 吊り戸棚

・システムキッチン　メーカー同等品　・コンパクトキッチン　メーカー同等品

26 水切り棚

・システムキッチン　メーカー同等品　・コンパクトキッチン　メーカー同等品

27 くつふきマット

材種	受わく
・塩化ビニル又はゴム製	・ステンレス製（ＳＵＳ３０４）
・硬質アルミニウム合金製	・硬質アルミニウム合金製
・ステンレス製（ＳＵＳ３０４）	・ステンレス製（ＳＵＳ３０４）
・	

28 旗竿

形式	材種	
・テーパー式 ・同一断面式	・アルミニウム合金製	

29 旗竿受金物

材種　ステンレス鋼製（ＳＵＳ３０４）

30 室名札

⊙ 神フジタ　同等品　各教室　ＮＡ－１０２　男子便所　ＮＡ－１０３　女子便所　ＮＡ－１０４　倉庫　ＮＡ－１０９

その他

1	車止め支柱	ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　径１１４．３mm　t＝２．５mm　h：GL＋７００mm ※スオウリング付　・スプリング無し
②	揮発性有機化合物の室内濃度の測定	図示した室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生省が定める指針値以下どぁることを確認し、監督職員に報告する。 測定方法 ※検知管法　・検知紙法　・定電位電解法　・吸光光度法
3	ユニットバス	呼称サイズ　・１２１６ 製造所　タカラスタンダード（株）　同等品
4	コンパクトキッチン	※図示 製造所　サンウェーブ工業（株）　クリナップ（株）　タカラスタンダード（株）　同等品
5	システム床	※図示　高耐久パネルシステム床　t=20 製造所　三洋工業（株）、フクビ化学工業（株）、万協（株）　同等品
⑥	門・袖ユニット	※図示　カラーアルミ型材製 製造所　東洋エクステリア（株）　四国化成（株）　同等品
7	ユニット階段	※図示　天然木突板化粧合板製 製造所　大建工業（株）　パナソニック電工（株）　同等品
8	物干し金物	※図示　アルミ自在物干金物　勾配天井仕様　H900タイプ 製造所・品番　杉田エース（株）　２４３－１００　同等品
9	通気ガラリ	※図示　ＳＵＳ製深形フード　φ１５０、φ１００　防虫網付 製造所・品番　杉田エース（株）　３２７－３１９、３２７－３２１　同等品 ※図示　ＳＵＳ製丸形フード　φ１００　防虫網付 製造所・品番　杉田エース（株）　３１４－６６４　同等品
10	クーラースリーブ	※図示　丸型プラスティック製 製造所・品番　杉田エース（株）　３１１－２５２　同等品
⑪	学校用間仕切	文化シャッター㈱プレオール　PW-SA80同等品
⑫	プレハブ本体	⊙ 関西ハウス工業㈱　ＭＳＤタイプ同等品

工事区分

本工事の各工事区分は、下記による。（○印が適応を示す）

		建築	電気	給排水衛生	空調換気	瓦斯	備考
一般事項	仮設用の電力、上下水の使用料金	○					負担金含む
	本設の電力、上下水の引き込み負担金	○					
	同上本設後引渡しまでの基本料金	○					
	同上本設後引渡しまでの使用料金	○					
躯体貫通	梁、壁、床貫通スリーブ工事	○					小屋裏換気、ピット通気 クーラースリーブ
	梁、壁、床貫通スリーブ工事		○	○	○	○	配管、ダクト
	梁、壁、床貫通スリーブ補強鉄筋工事	○					
	以上の貫通孔余隙部分のモルタル詰め工事	○	○	○	○	○	各々の責任工事 （表面仕上げは建築工事）
孔明け	天井取付け機器開口部の孔あけ工事		○		○		埋込み照明器具、天井扇
	同上開口補強工事		○		○		補強方法は監督員の指示を受ける事
機器、器具類	インターホン門側子機設置工事	○					
	上記以外の設備機器。器具設置工事		○	○	○	○	
屋外	雨水排水設備工事	○					
	汚水、雑排水マンホール設置工事			○			インターロッキング部分化粧蓋を含む
その他							
	クーラスリーブ及びインサート金物設置工事	○					

工事に含まない事項

特記事項

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

外部仕上表

区分	仕上	区分	仕上	区分	仕上
屋根	折板：山高88　カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.6	軒裏	折板裏現し	基礎巾木	コンクリート打ち放し
	裏貼り：無機質高充填フォームｔ＝4			建具	アルミサッシ
外壁	窯業系サイディングｔ＝14（塗装品）	鼻隠	化粧板：カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.5　Ｈ＝350	玄関・アプローチ	スロープ
		軒樋			
		竪樋			
断熱材	2階天井断熱材グラスウールt=100（24K）				
	外壁断熱材グラスウールt=50（16K）				

内部仕上表

室名			床	巾木	腰壁	壁	天井	ＣＨ	廻縁	備　考
1階		昇降口	防滑性長尺シートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ	2,800	塩ビ製	誘導ブロック（シート）
		普通教室	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ	2,800	塩ビ製	黒板・地図掛（1室のみ）、カーテン、室名札
			（木目調）							
		廊下	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ	2,800	塩ビ製	誘導棚設
		男子・女子便所	磁器質50角モザイクタイル貼り　モルタル下地		腰壁：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ貼り　色目地	上部：ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	ビニルクロス貼り　ＬＧＳ	2,500	塩ビ製	衛生器具一式・手摺・ＳＵＳ面台・室名札
					下地ラスカット　モルタル下地					
		便所（手洗部・ＳＫ）	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60	腰壁：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ貼り　色目地	上部：ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	ビニルクロス貼り　ＬＧＳ	2,500	塩ビ製	衛生器具一式・手摺・ＳＵＳ面台・室名札
					モルタル下地					
		階段下倉庫	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		PBｔ＝12.5	階段裏現し			
2階		普通教室	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ	2,800	塩ビ製	スライダー黒板・掲示板　（南東側の普通教室のみ取付） 地図掛け・カーテン・室名札
			（木目調）							
		廊下	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60		ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ	2,800	塩ビ製	誘導棚設
		男子・女子便所	磁器質50角モザイクタイル貼り　モルタル下地		腰壁：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ貼り　色目地	上部：ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	ビニルクロス貼り　ＬＧＳ	2,500	塩ビ製	衛生器具一式・手摺・ＳＵＳ面台・室名札
					下地ラスカット　モルタル下地					
		便所（手洗部・ＳＫ）	長尺塩ビシートｔ＝2.5　ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え	ソフト巾木Ｈ60	腰壁：半磁器100角ｶﾗｰﾀｲﾙ貼り　色目地	上部：ビニルクロス貼り　PBｔ＝12.5	ビニルクロス貼り　ＬＧＳ	2,500	塩ビ製	衛生器具一式・ＳＵＳ面台　・室名札
					下地ラスカット　モルタル下地					
共通		階段室	防滑性長尺シートｔ＝2.5　ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え	ササラ桁　ＳＯＰ			化粧石膏ボードｔ＝9.5　ＬＧＳ		塩ビ製	手摺・段鼻ノンスリップ 表示札　誘導ブロック（シート）

認定リスト

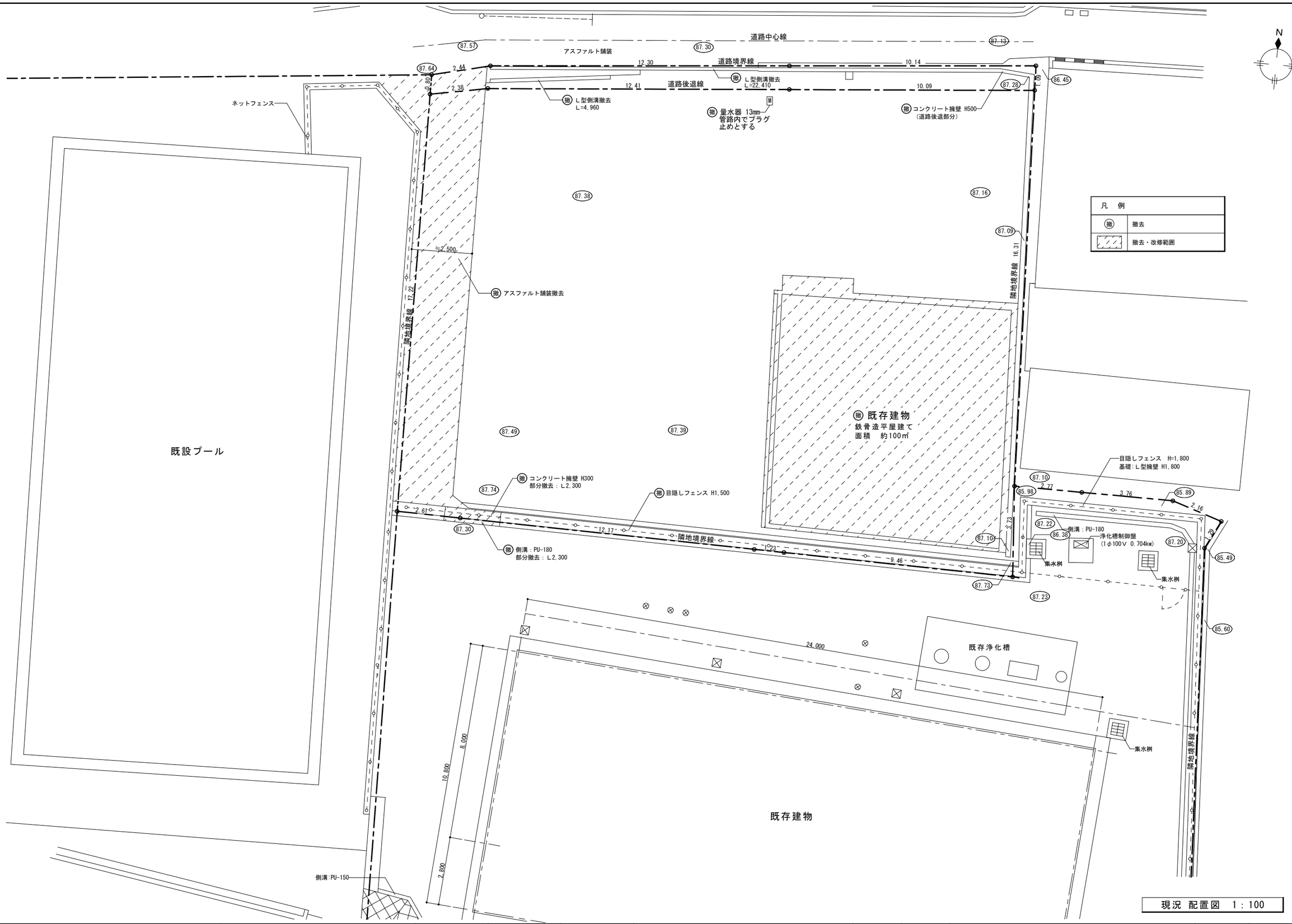
部位	耐火仕様	不燃認定	認定番号
屋根	折版：カラーＧＬｔ＝0.6　山高８８　裏貼り：無機質高充填フォームｔ＝４	不燃ＮＭ－８６９７	屋根３０分耐火構造　ＦＰ０３０ＲＦ-９３６２
外壁	窯業系サイディングｔ＝１４（塗装品）木下地	不燃ＮＭ―０５２３	防火構造　ＰＣ０３０ＢＥ-９２０１
主要間仕切（教室）	木下地　強化石膏ボードｔ＝12.5　二重貼（両面）		

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	外部仕上表・内部仕上表	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－９

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	付近見取図	1:2500	2010. 8	10018		山縣	尾川

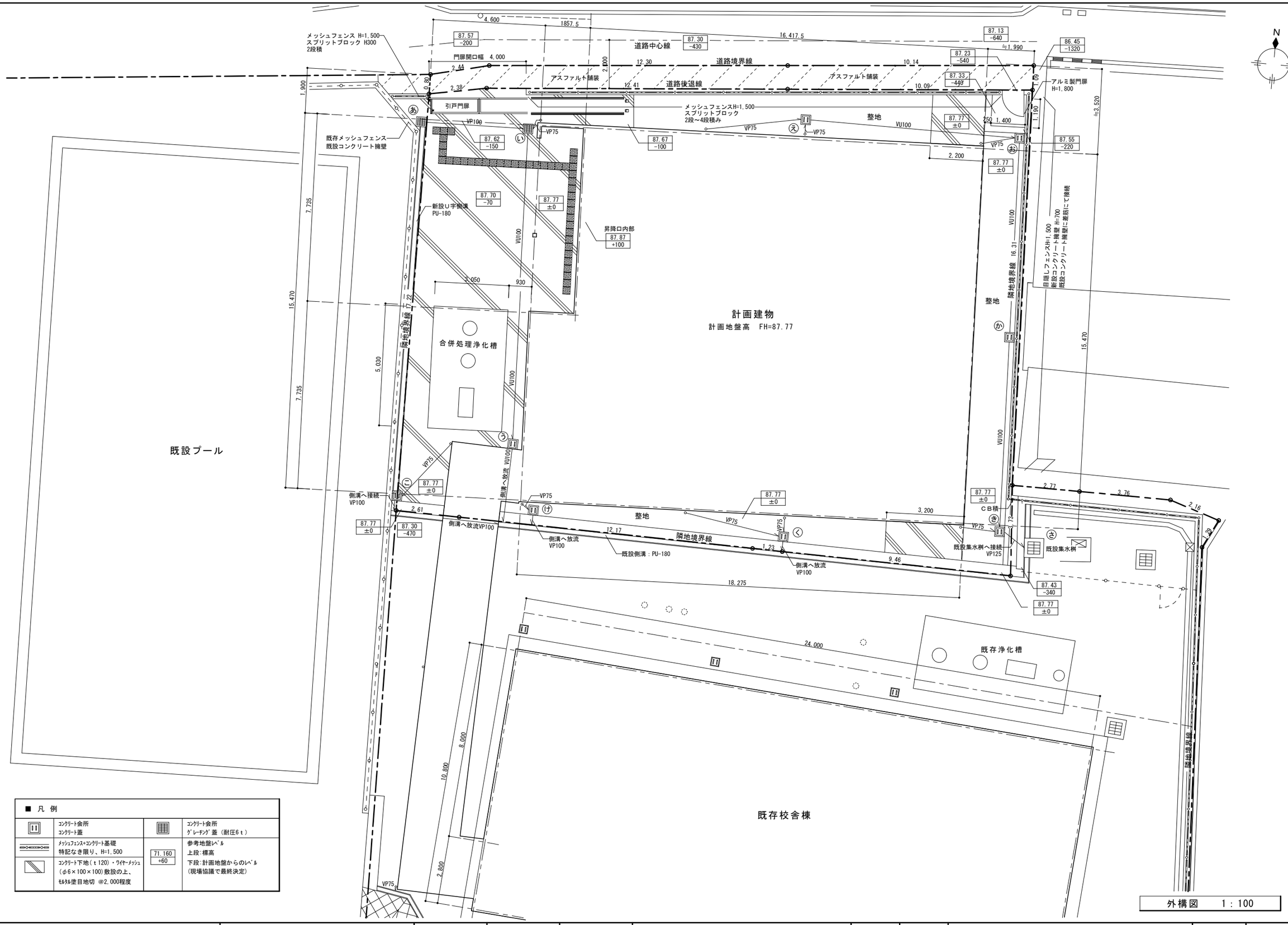
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川 佳永

PAGE A－10



現況 配置図 1：100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	現況 配置図	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川 佳永	A－11



■ 凡 例

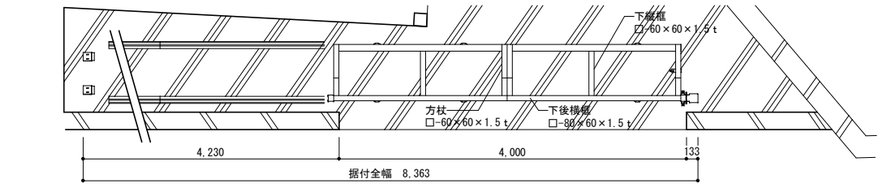
	コンクリート会所 コンクリート蓋		コンクリート会所 グレーチング蓋（耐圧6ｔ）
	メッシュフェンス+コンクリート基礎 特記なき限り、H=1,500	71.160 +60	参考地盤レベル 上段：標高 下段：計画地盤からのレベル （現場協議で最終決定）
	コンクリート下地（ｔ120）・ワイヤーメッシュ （φ6×100×100）敷設の上、 モルタル塗目地切 @2,000程度		

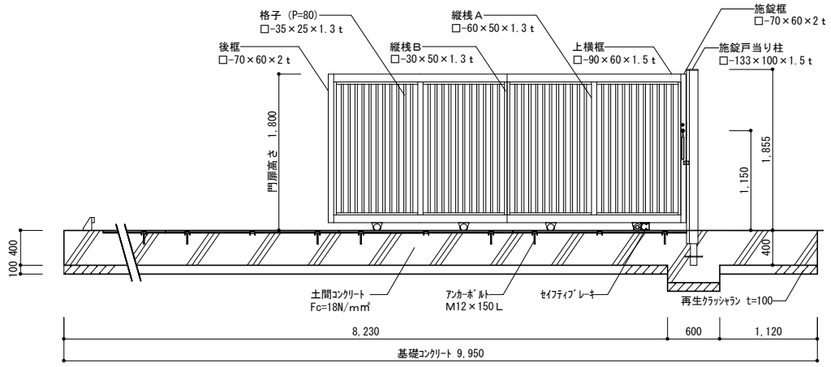
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	配置図兼外構平面図	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

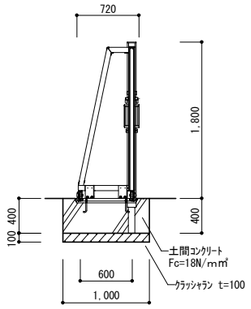
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川 佳永

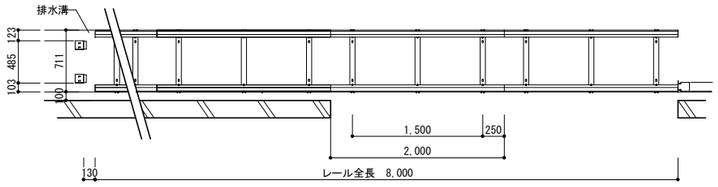
PAGE A－１２

引戸門扉詳細図　1:30









■ 会所リスト

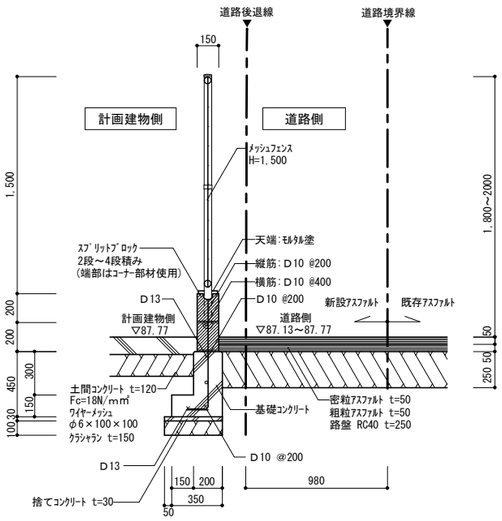
※ 管底深はFH=87.770からの深さを示す

会所番号	形状・寸法	地盤面	管底深	会所番号	形状・寸法	地盤面	管底深
あ	コンクリート会所既製品 300×300　グレーチング蓋(6t)	87.770	H=300	き	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=590
い	コンクリート会所既製品 300×300　グレーチング蓋(6t)	87.770	H=340	く	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=300
う	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=470	け	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=300
え	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=300	こ	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=300
お	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=390	さ	既設コンクリート会所 500×500　グレーチング蓋	87.300	H=700
か	コンクリート会所既製品 300×300　コンクリート蓋	87.770	H=470				

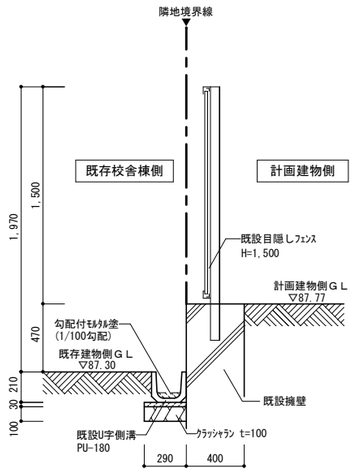
特記事項

引戸門扉ユニット：　四国化成工業（株）ユニットライン　Ａ１型　同等品
（手動式　ステンレスレール仕様）

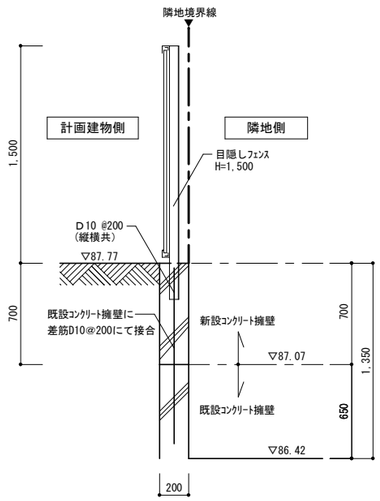
ﾌｪﾝｽｺﾝｸﾘｰﾄ基礎詳細図（１）　1:30



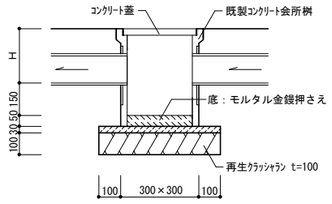
ﾌｪﾝｽｺﾝｸﾘｰﾄ基礎詳細図（２）　1:30



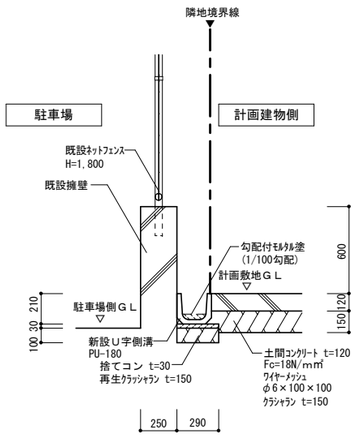
ﾌｪﾝｽｺﾝｸﾘｰﾄ基礎詳細図（３）　1:30



雨水会所詳細図　1:20

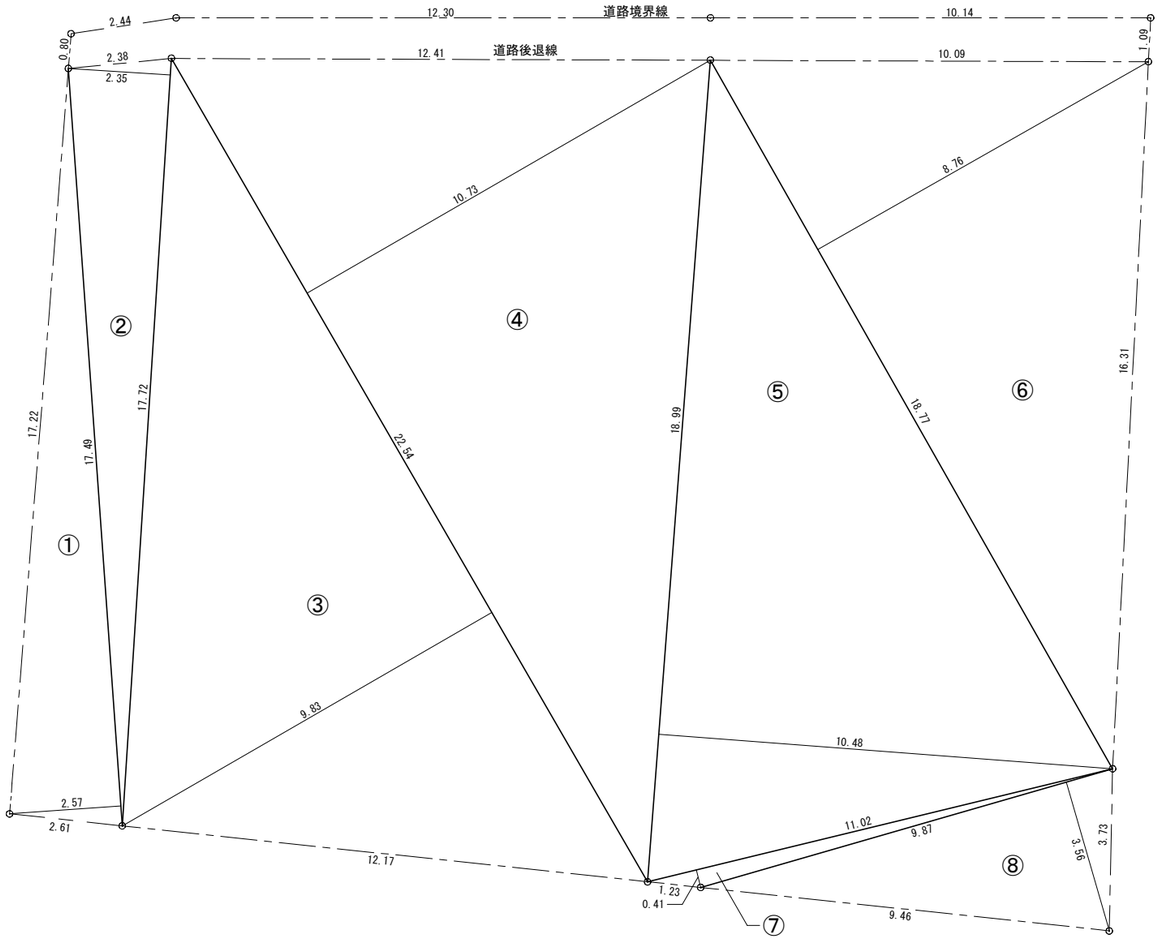


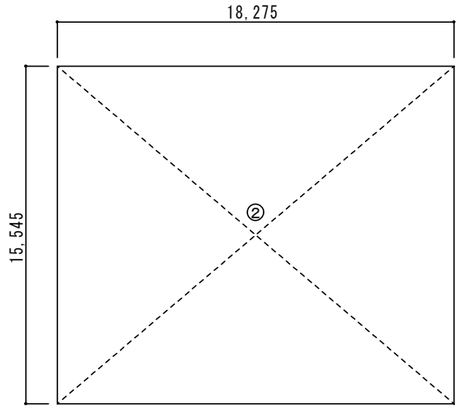
断面詳細図　1:30



PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	外構詳細図	1:20･30･50	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

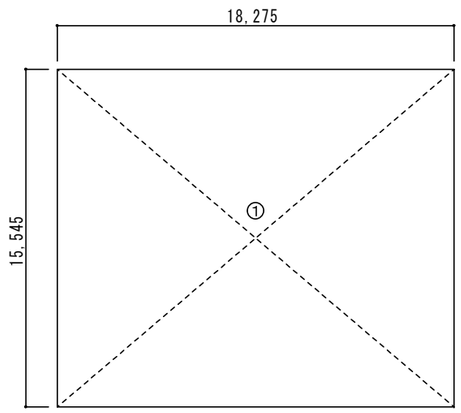
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永





建物　２階求積図　Ｓ１／２００

② １８．２７５Ｘ１５．５４５＝２８４．０８４



建物　１階求積図　Ｓ１／２００

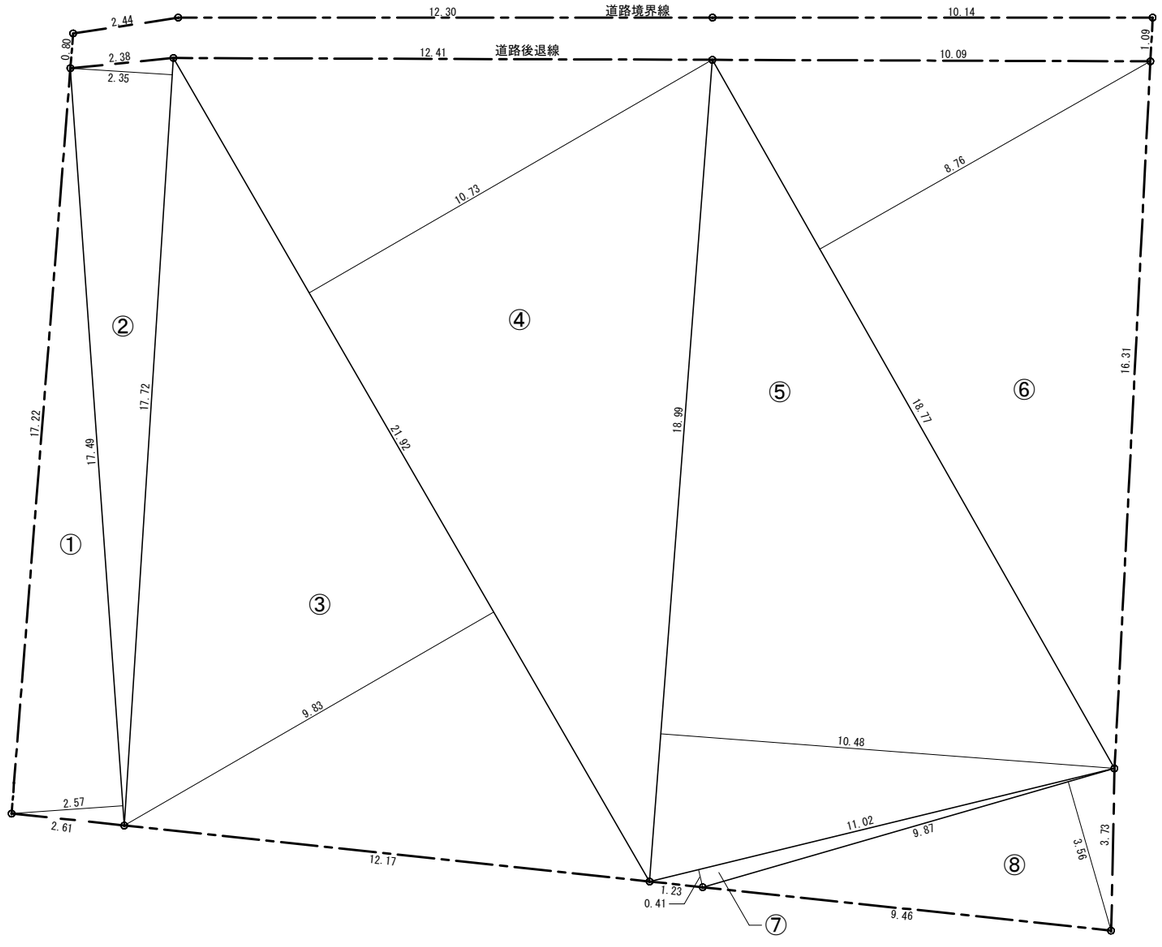
① １８．２７５Ｘ１５．５４５＝２８４．０８４

■ 建物求積表

番号	計算式	面積
①	17.49 × 2.57	44.9493
②	17.72 × 2.35	41.6420
③	22.54 × 9.83	221.5682
④	22.54 × 10.73	241.8542
⑤	18.99 × 10.48	199.0152
⑥	18.77 × 8.76	164.4252
⑦	11.02 × 0.41	4.5182
⑧	9.87 × 3.56	35.1372
倍面積		953.1095
敷地面積		476.55475 → 476.55 ㎡

建物　面積表	
１Ｆ床面積	１８．２７５Ｘ１５．５４５＝２８４．０８㎡
２Ｆ床面積	１８．２７５Ｘ１５．５４５＝２８４．０８㎡
延床面積	２Ｘ２８４．０８＝５６８．１６㎡
建築面積	１８．２７５Ｘ１５．５４５＝２８４．０８㎡

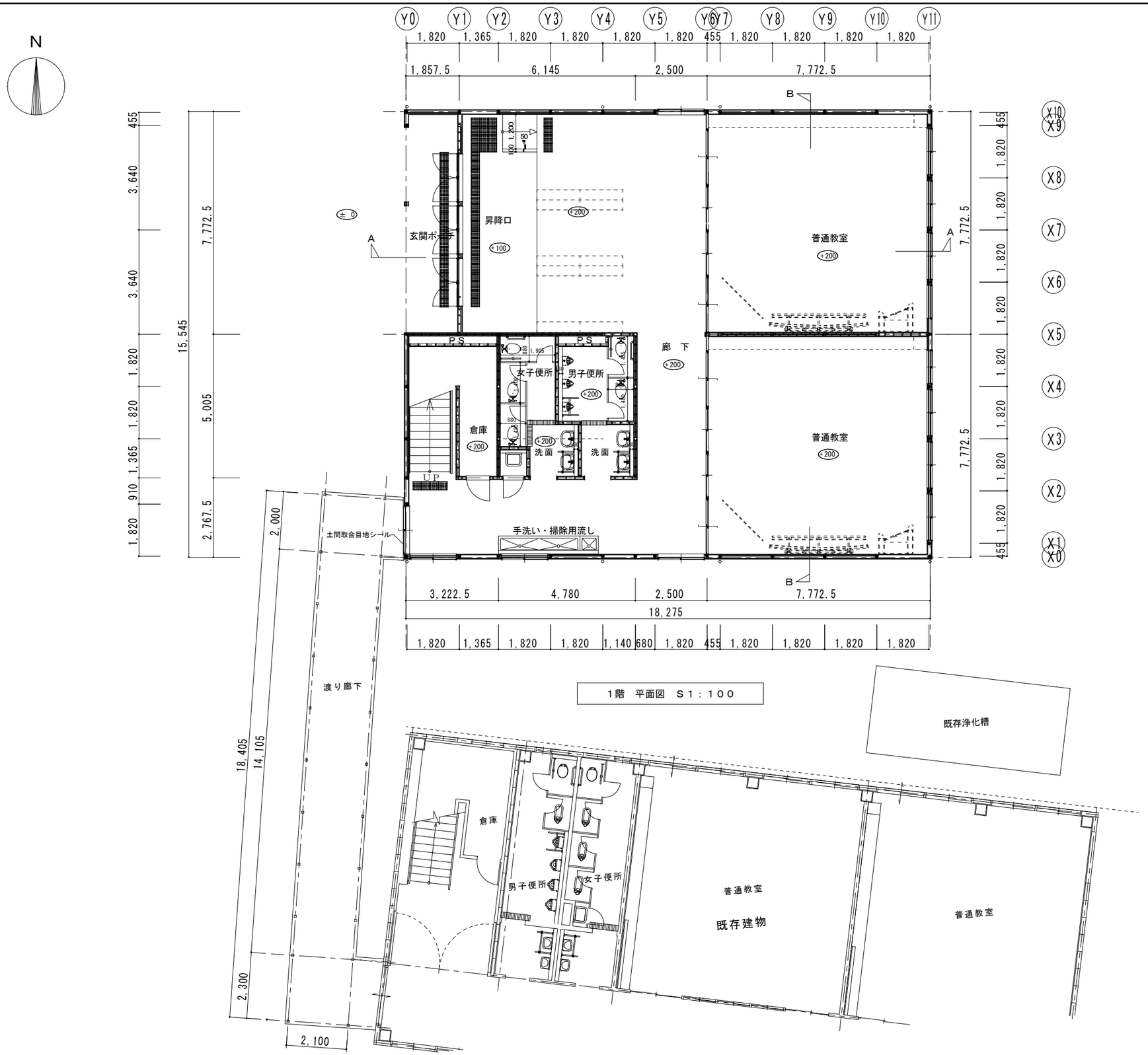
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	丈量図・建物求積図	1:100 1:200	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－１４



■ 建物求積表

番号	計算式	面積
①	17.49 × 2.57	44.9493
②	17.72 × 2.35	41.6420
③	22.54 × 9.83	221.5682
④	22.54 × 10.73	241.8542
⑤	18.99 × 10.48	199.0152
⑥	18.77 × 8.76	164.4252
⑦	11.02 × 0.41	4.5182
⑧	9.87 × 3.56	35.1372
倍面積		953.1095
敷地面積		476.55475 → 476.55 ㎡

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	丈量図・建物求積図	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川 佳永	A－１４

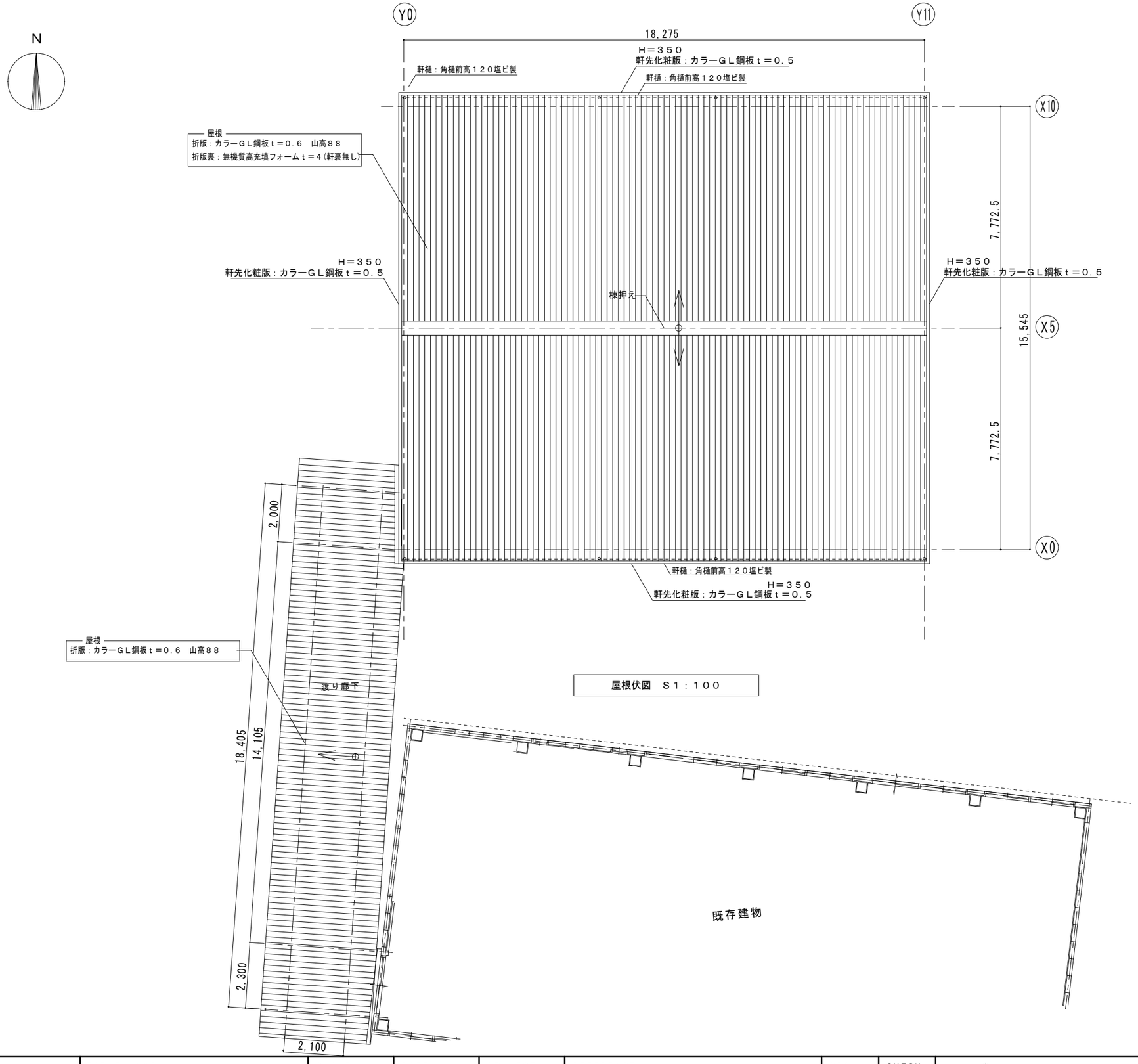


1階　平面図　S1：100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	1階平面図（校舎棟・渡り廊下）	1:100	2010.9	10018		山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－15

2階　平面図　S1：100

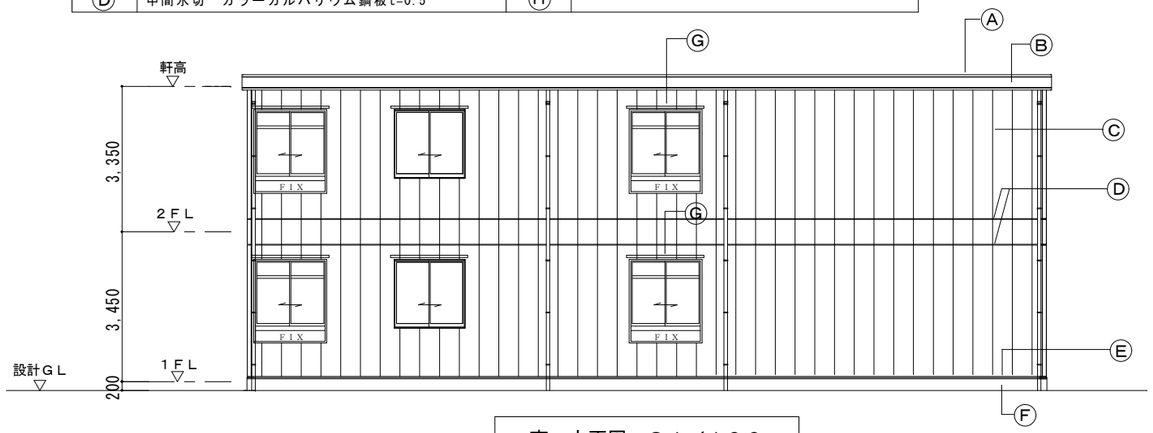
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK				PAGE
二上小学校増築工事	2階平面図（校舎棟・渡り廊下）	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－16



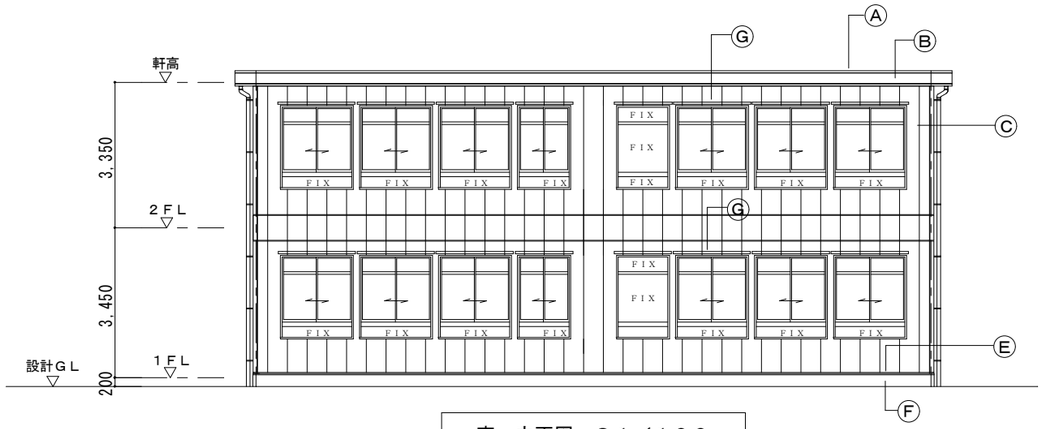
屋根伏図　Ｓ１：１００

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	屋根伏図（校舎棟・渡り廊下）	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－１７

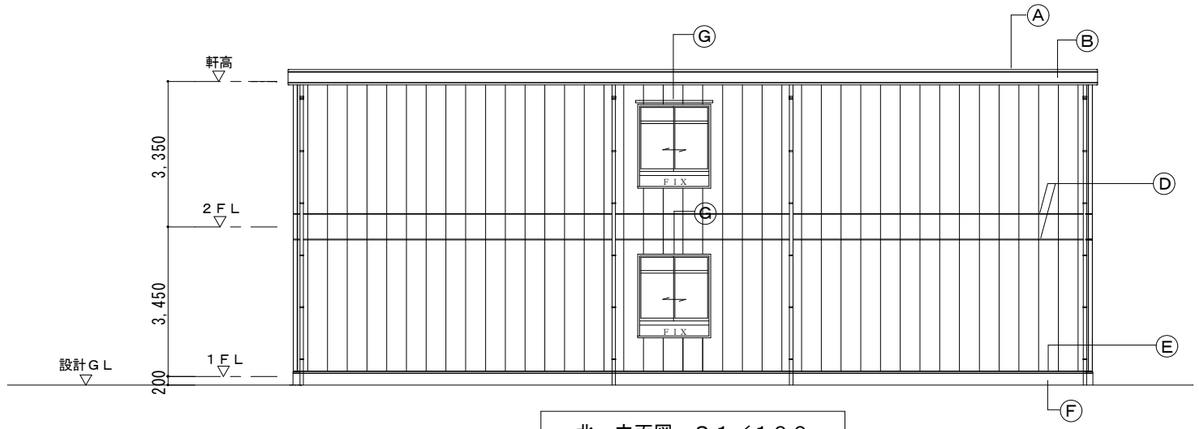
Ⓐ	屋根　折版　山高88　カラーガルバリウム鋼板t=0.6	Ⓔ	壁下水切　カラーガルバリウム鋼板t=0.5
Ⓑ	軒先化粧板　カラーガルバリウム鋼板t=0.5　H=350	Ⓕ	外部巾木　コンクリート打放し
Ⓒ	外壁　窯業系サイディングt=14（塗装品）	Ⓖ	アルミ製庇
Ⓓ	中間水切　カラーガルバリウム鋼板t=0.5	Ⓗ	



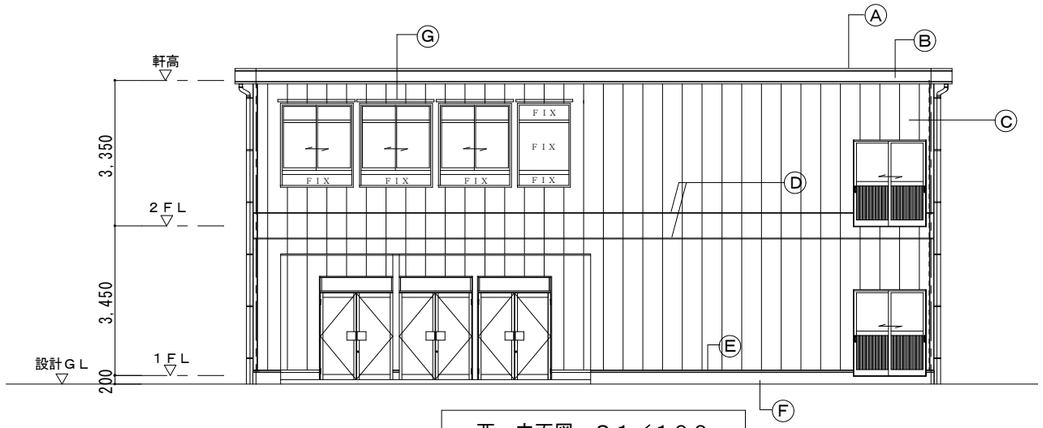
南　立面図　Ｓ１／１００



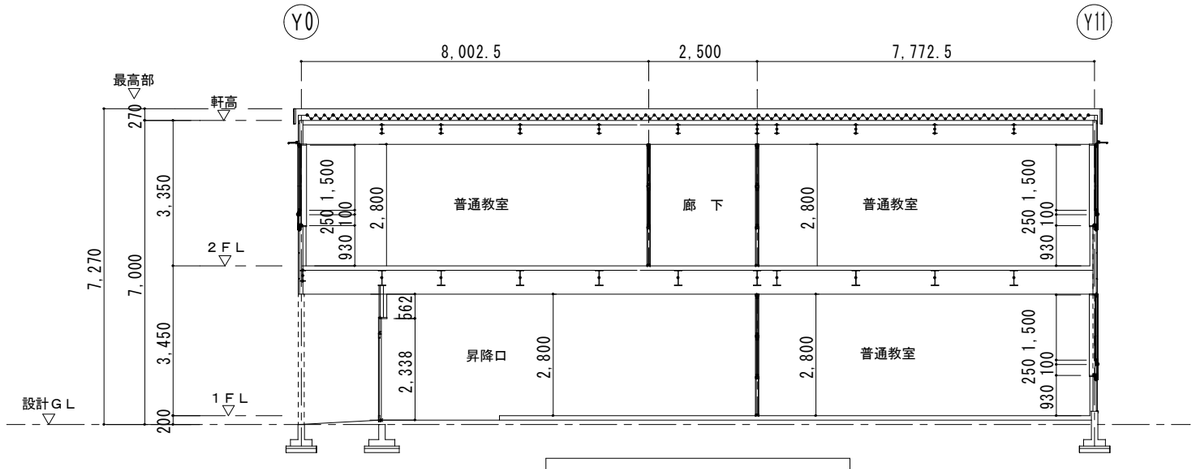
東　立面図　Ｓ１／１００



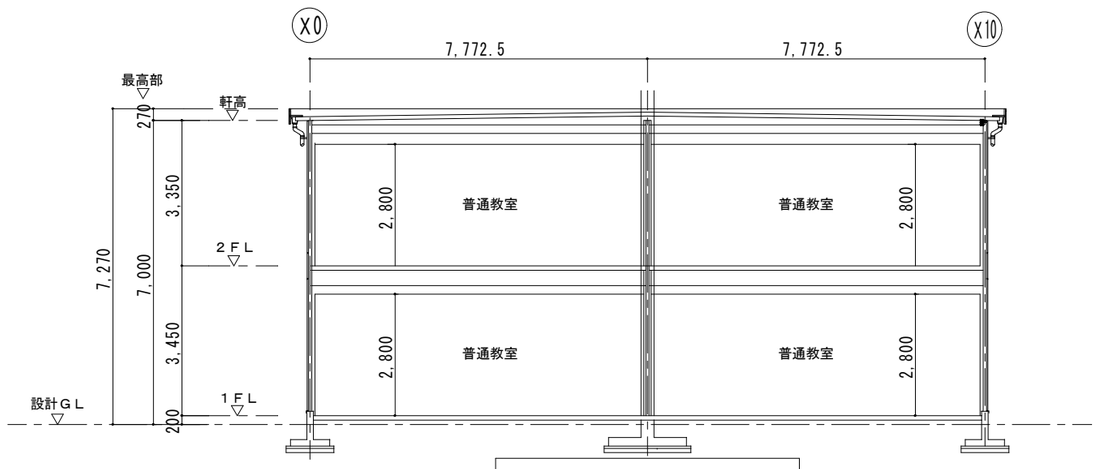
北　立面図　Ｓ１／１００



西　立面図　Ｓ１／１００

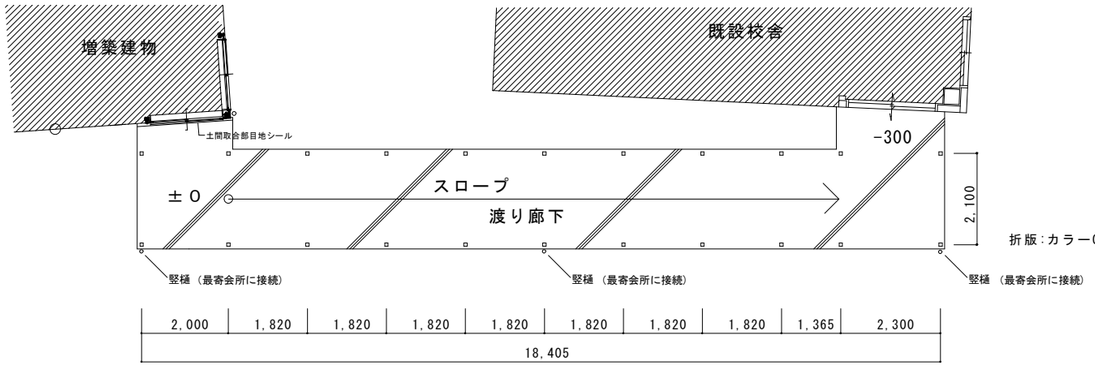


Ａ－Ａ断面図　Ｓ１／１００

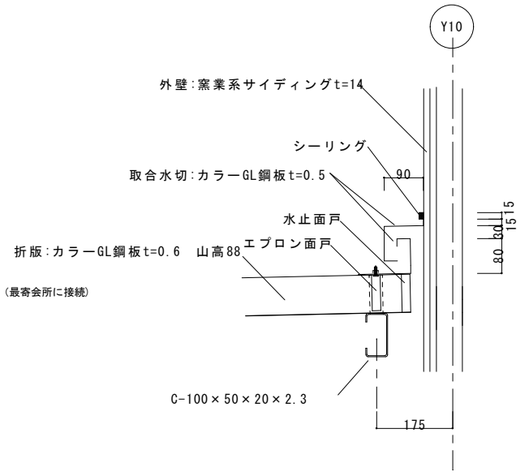


Ｂ－Ｂ断面図　Ｓ１／１００

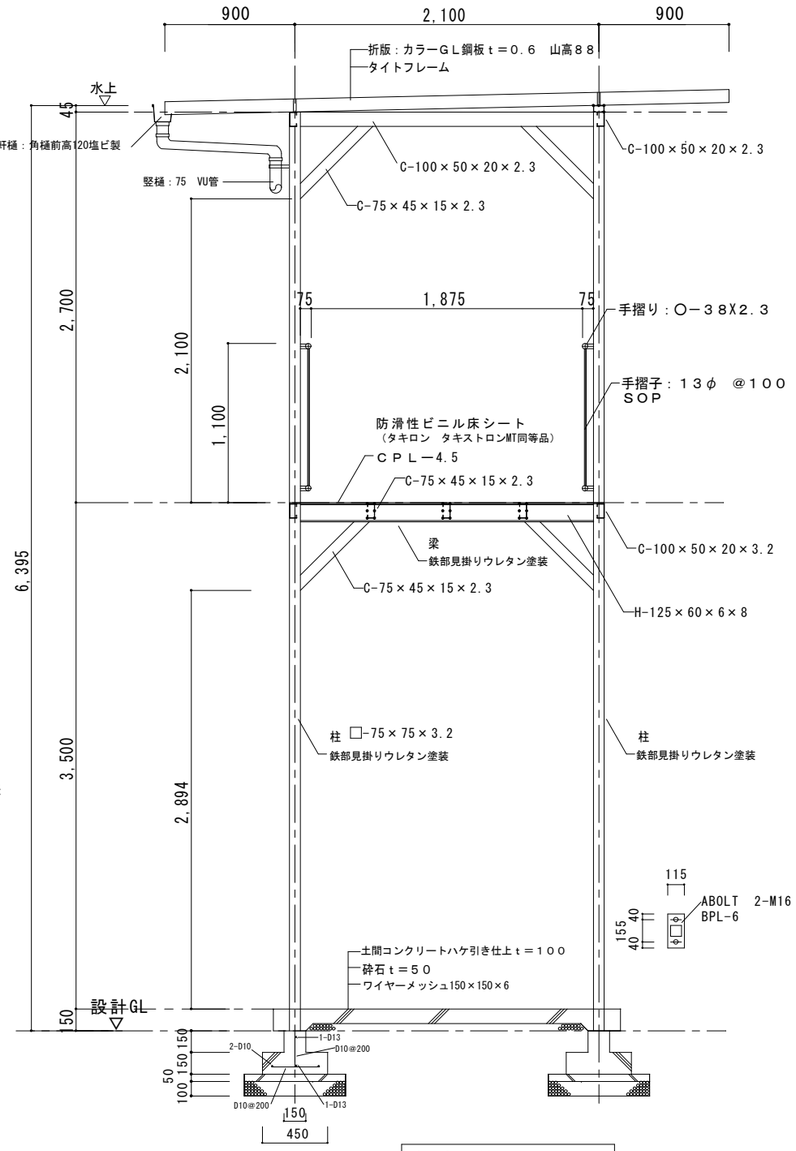
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	立面図・断面図（校舎棟）	1:100	2010.9	10018		山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－１８



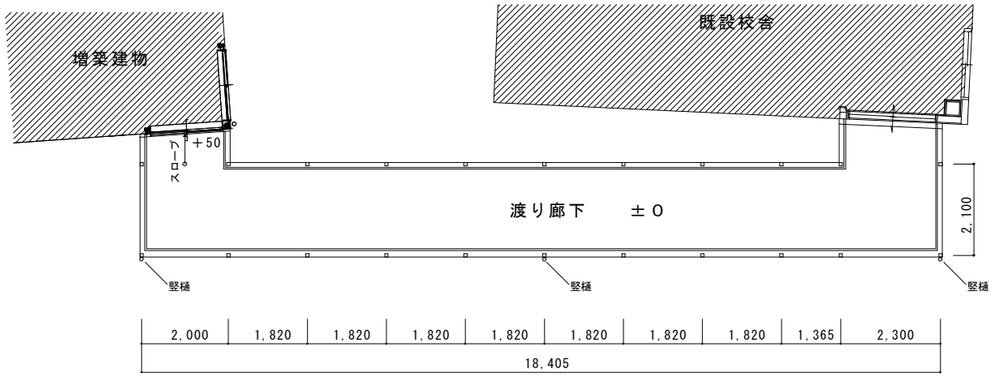
1階平面図　S=1:100



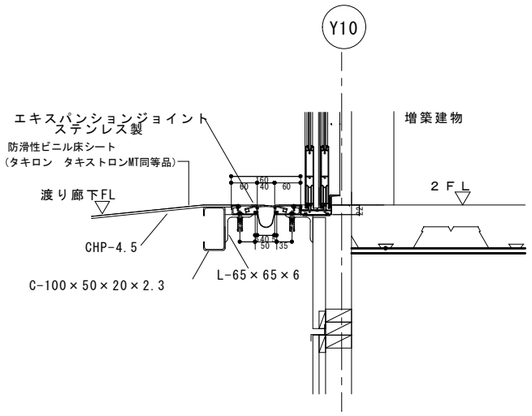
渡り廊下屋根取合詳細 断面図　S=1：10



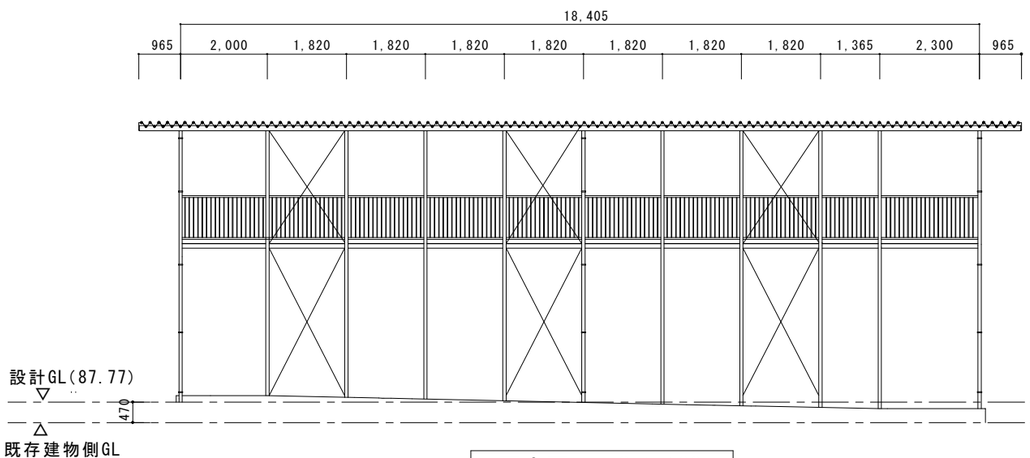
渡り廊下詳細図　Ｓ１／３０



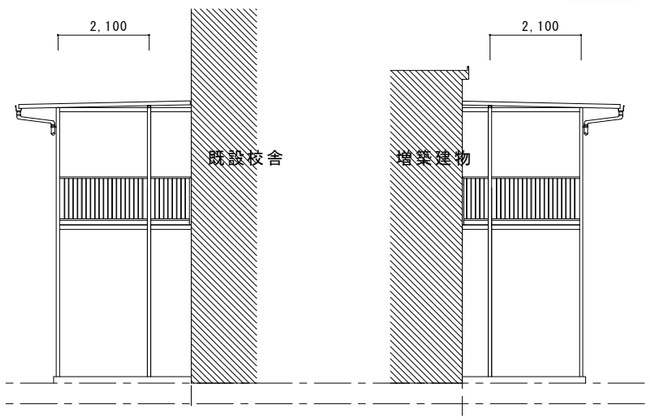
2階平面図　S=1:100



床取合（渡り廊下～増築建物）断面図　S=1：10



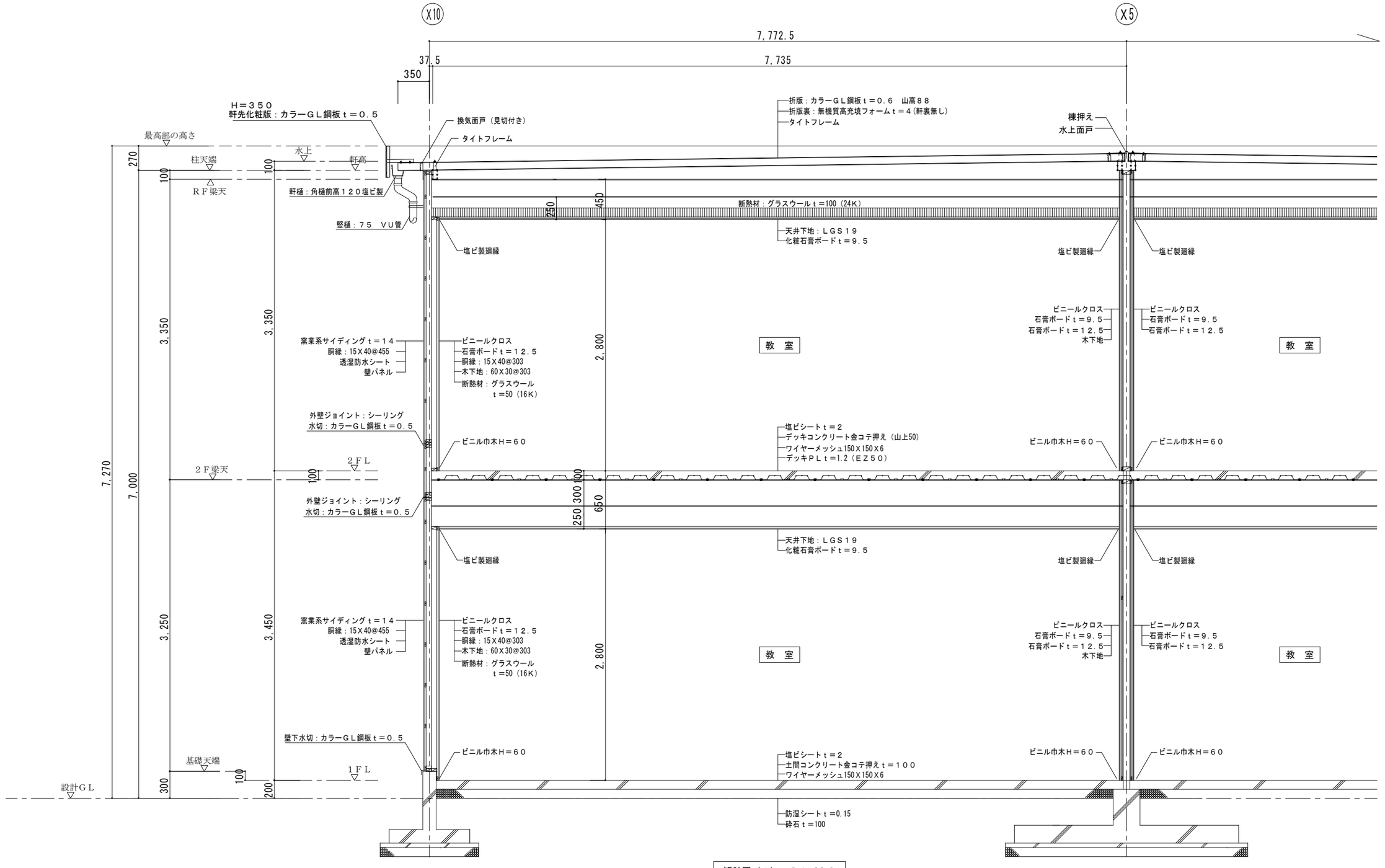
西立面図　S=1:100



南立面図　S=1:100

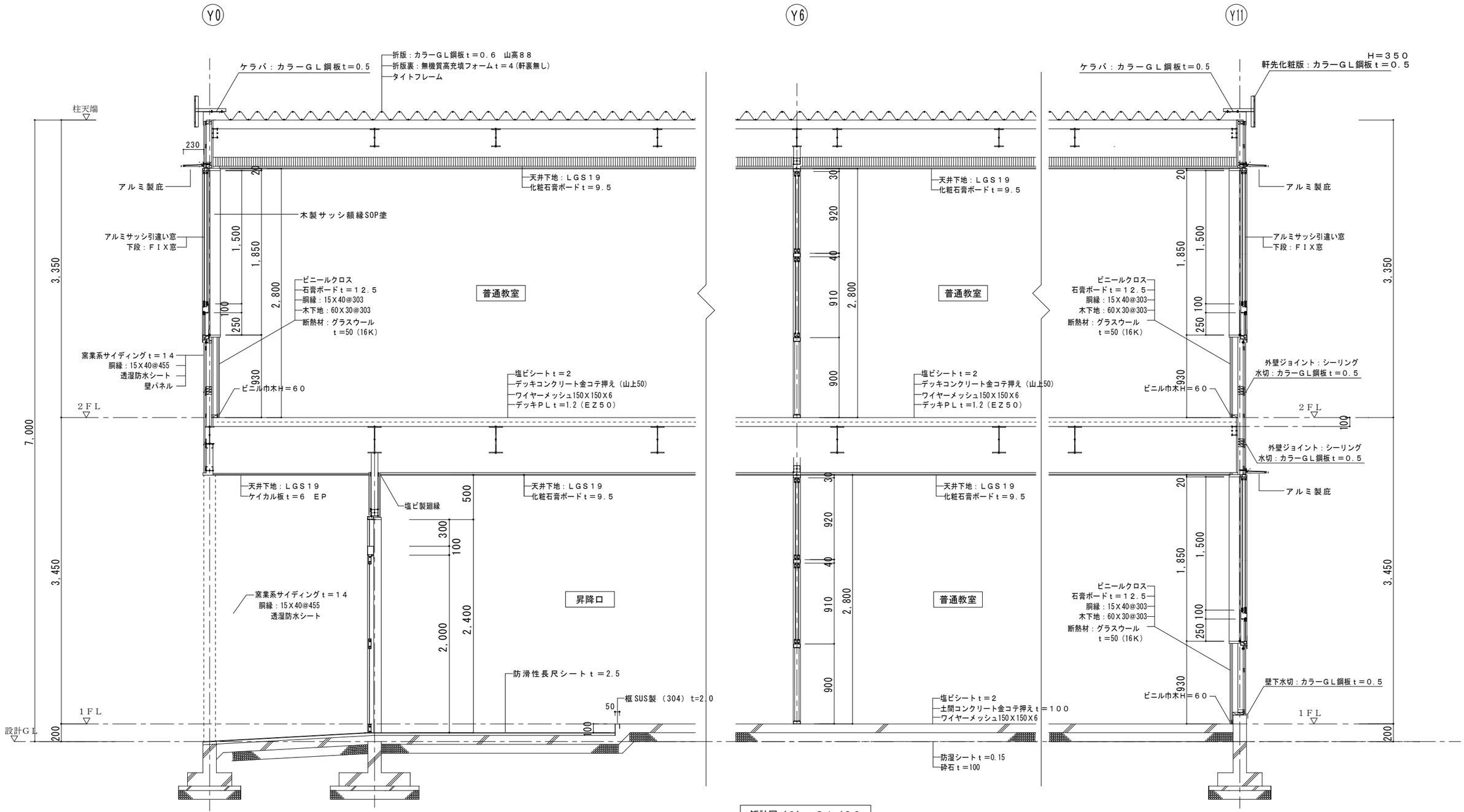
北立面図　S=1:100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK				PAGE
二上小学校増築工事	立面図・断面図（渡り廊下）	1:100 1:30 1:10	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－１９



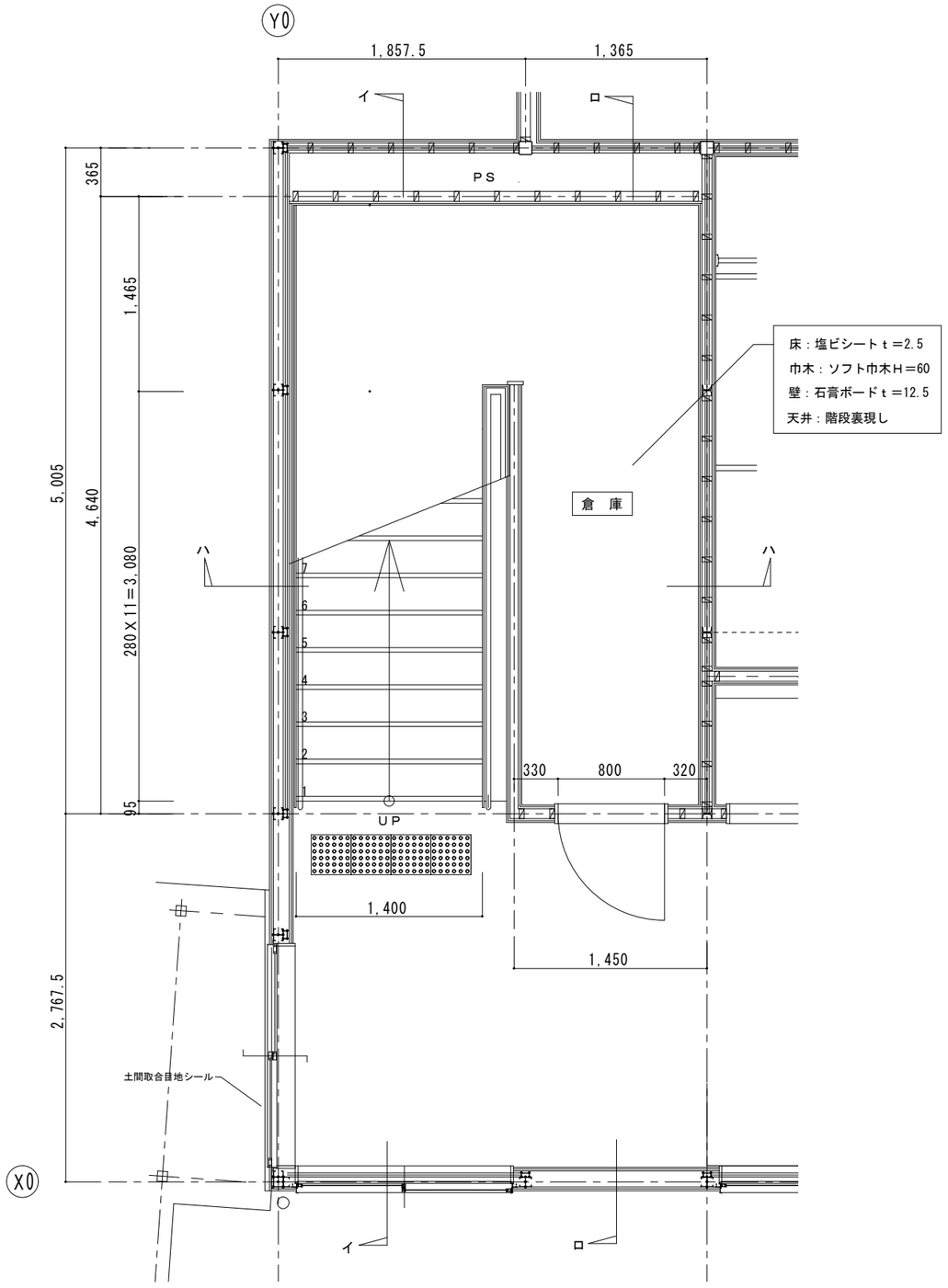
矩計図（１）　Ｓ１／３０

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	矩計図（１）	1:30	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２０

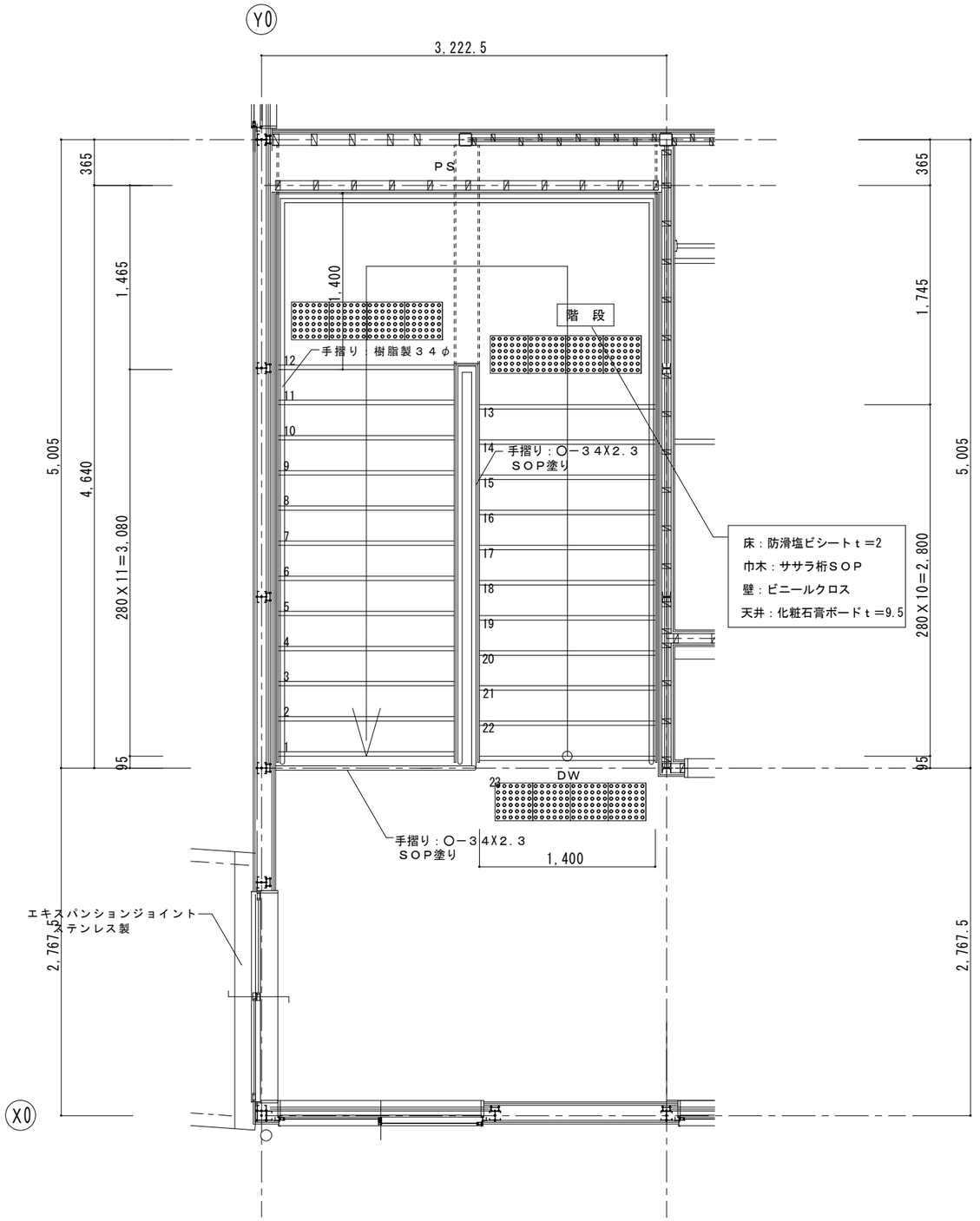


矩計図（２）　Ｓ１／３０

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK				PAGE
二上小学校増築工事	矩計図（２）	1:30	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ−２１

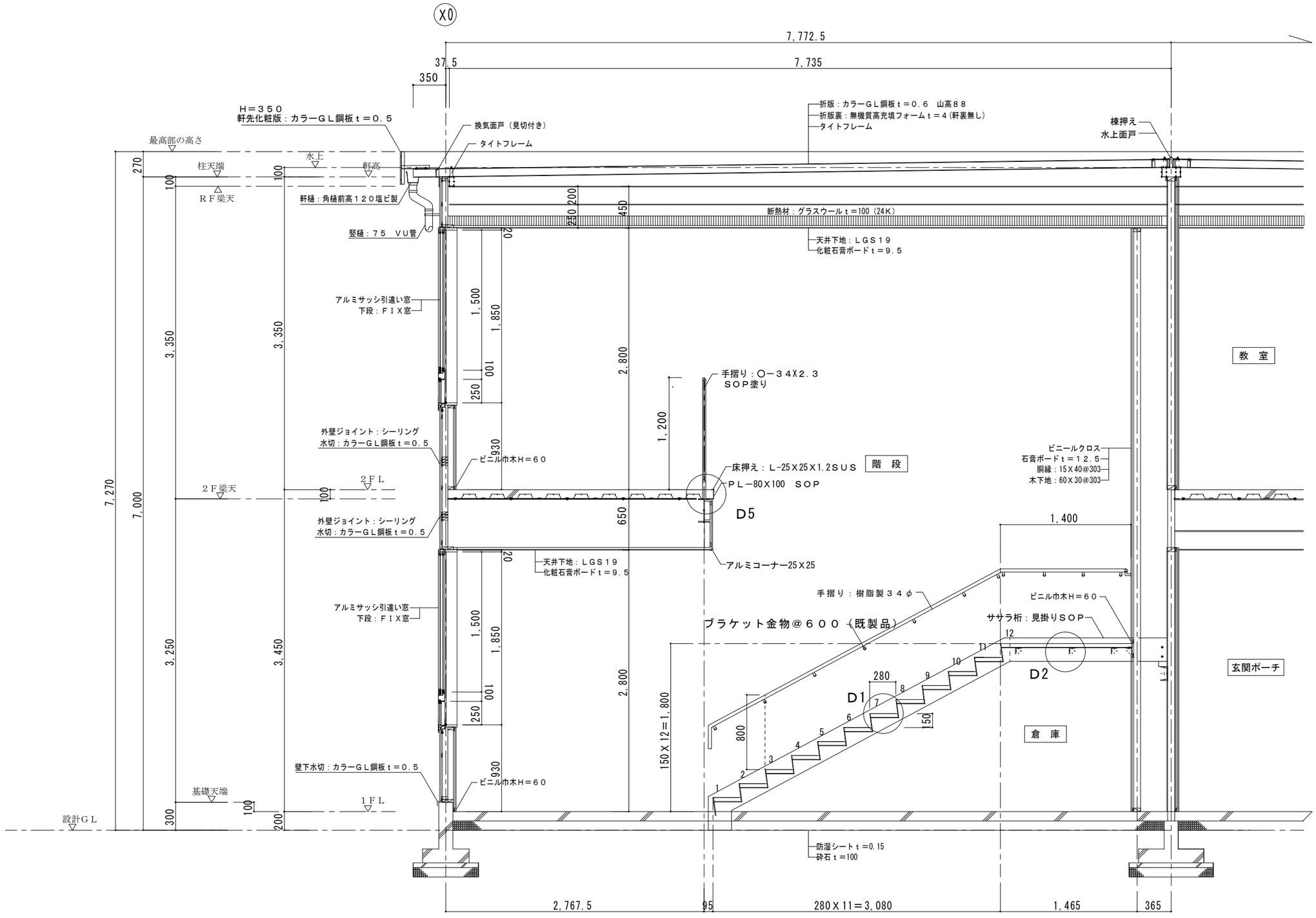


1Ｆ　階段平面詳細図　Ｓ1／30



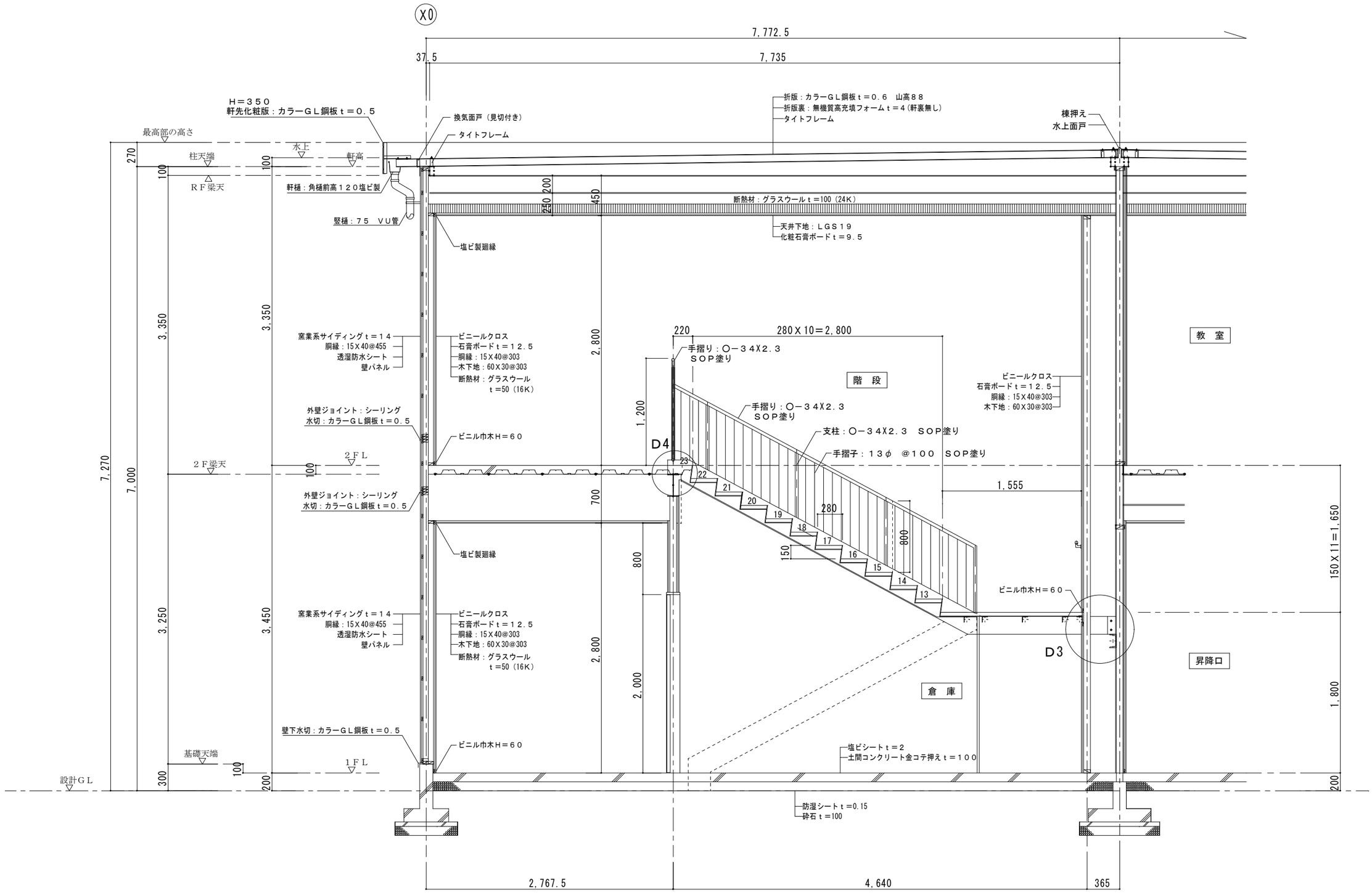
2Ｆ　階段平面詳細図　Ｓ1／30

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK				PAGE
二上小学校増築工事	階段平面詳細図	1:30	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２２



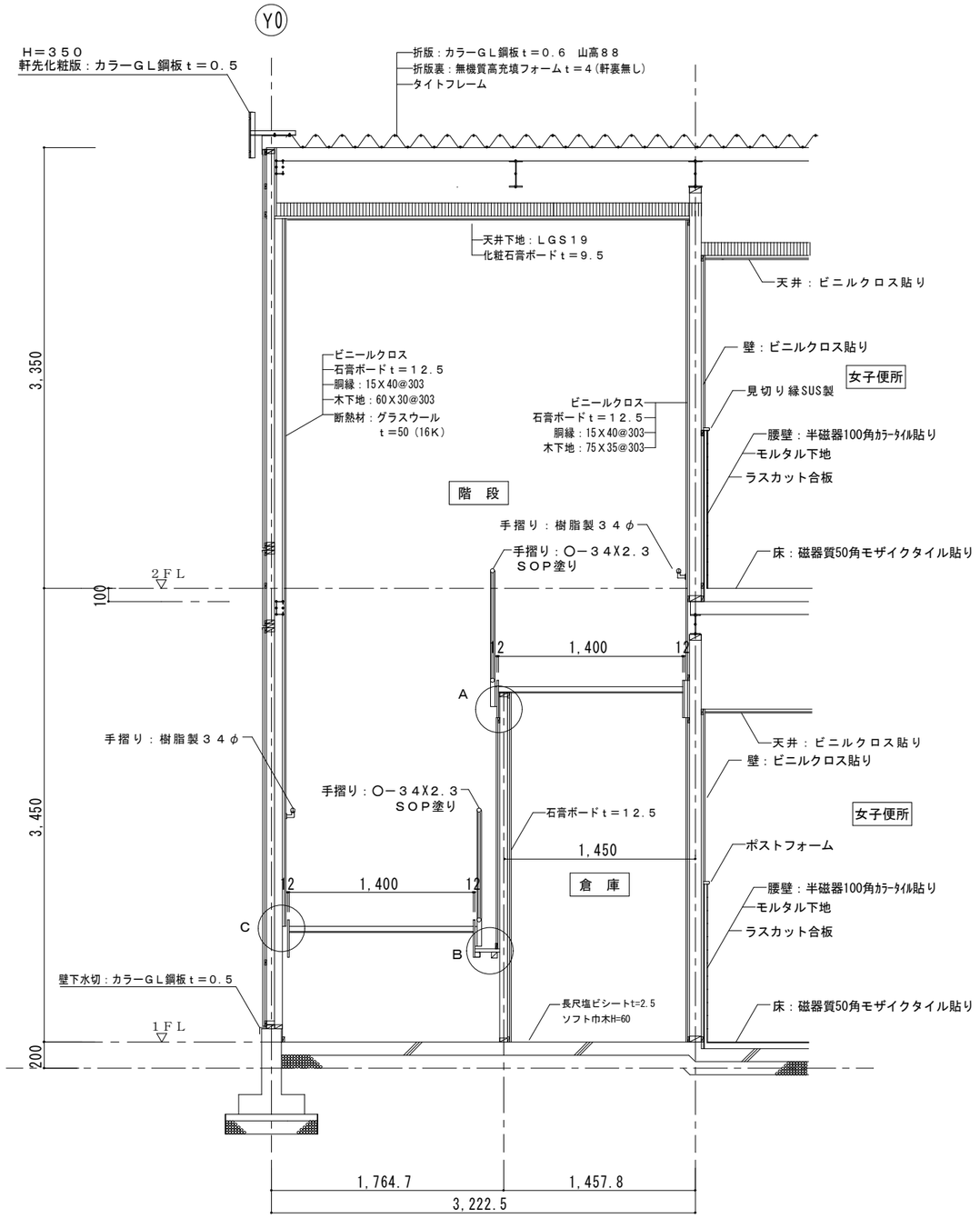
イーイ　断面詳細図　Ｓ１／３０

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	階段断面詳細図（１）	1:30	2010.9	10018		山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２３



ローロ　断面詳細図　Ｓ１／３０

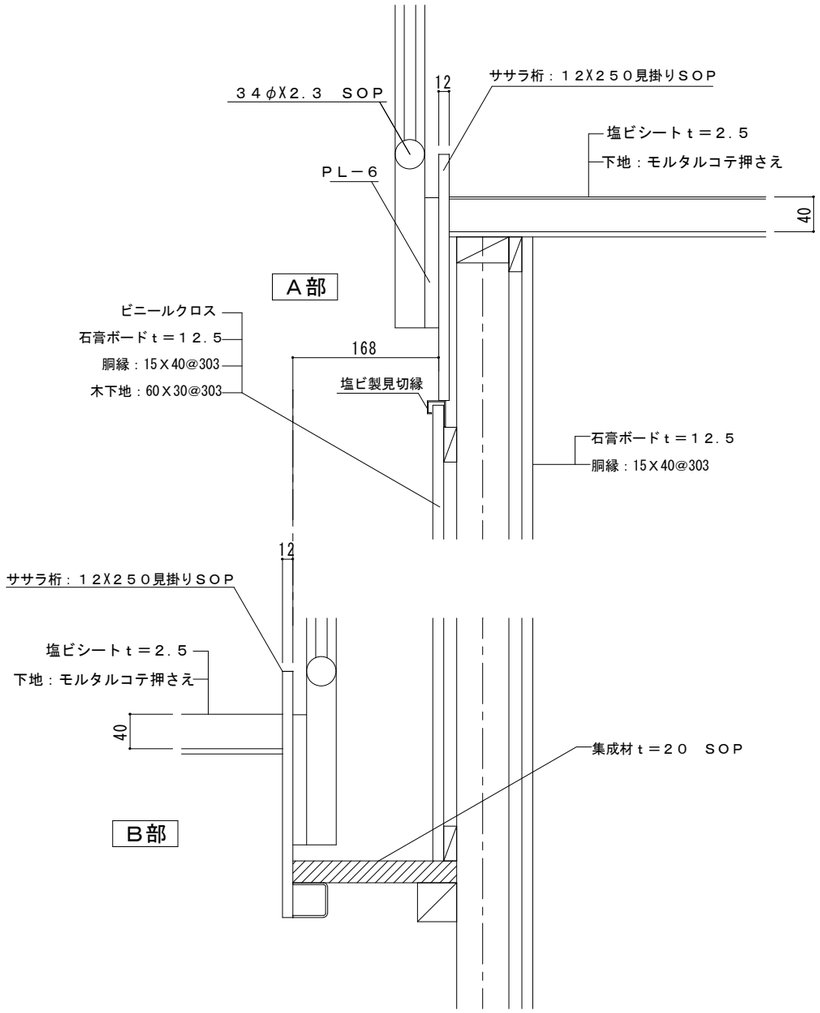
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK				PAGE
二上小学校増築工事	階段断面詳細（２）	1:30	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２４

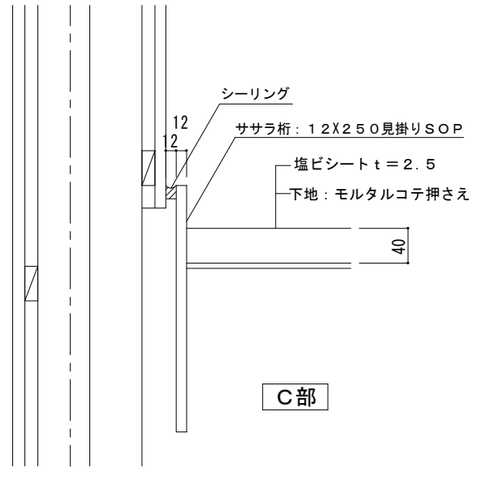


ハーハ　断面詳細図　Ｓ１／３０

部分詳細図

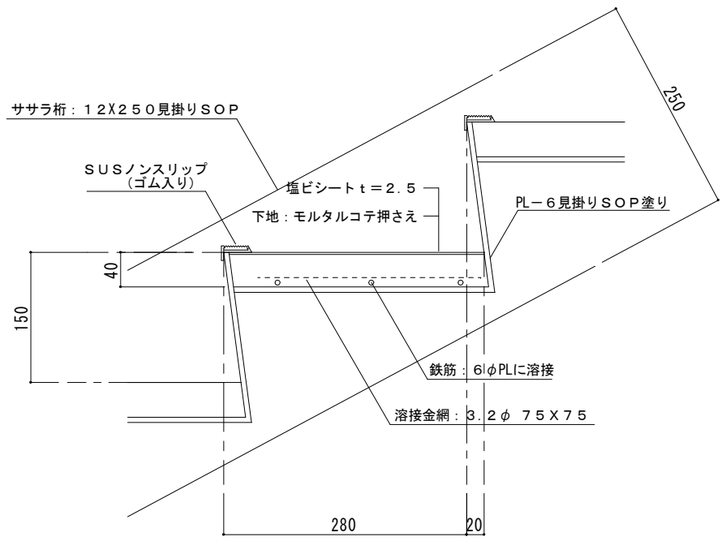
Ｓ１／５



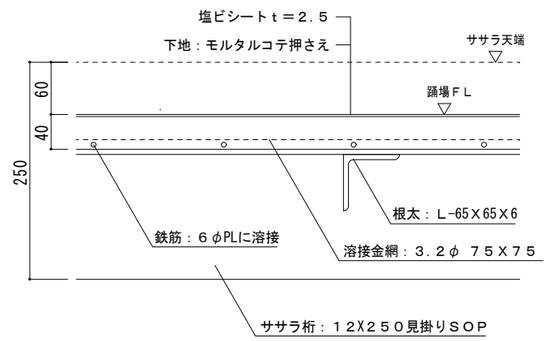


PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	階段断面詳細図（３）	1:30	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２５

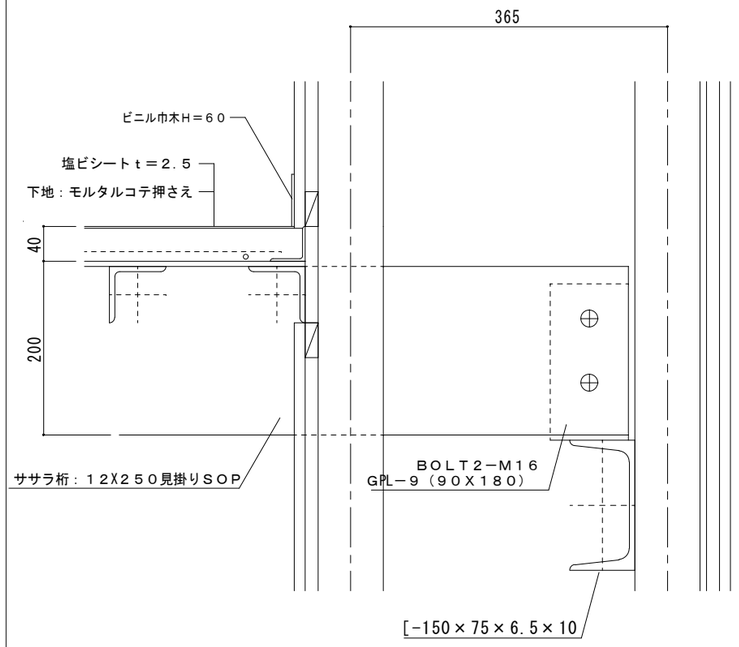
Ｄ１　　Ｓ１／５



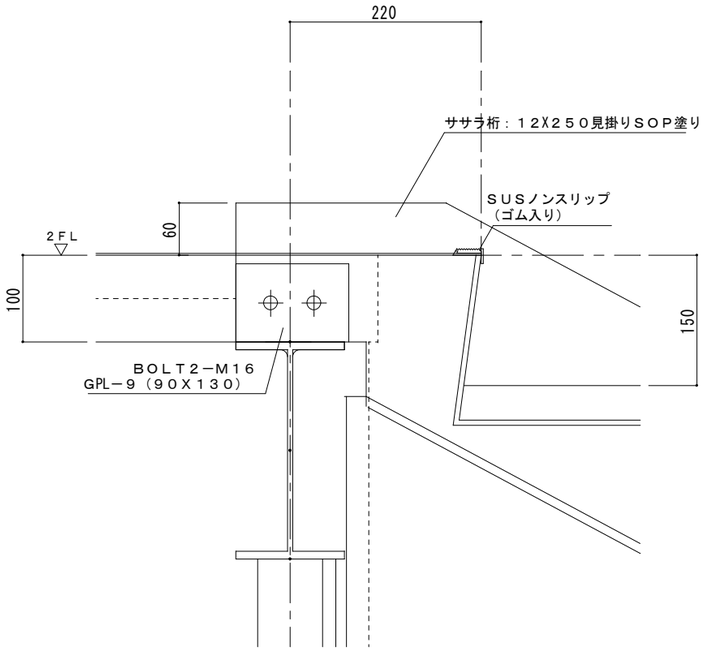
Ｄ２　　Ｓ１／５



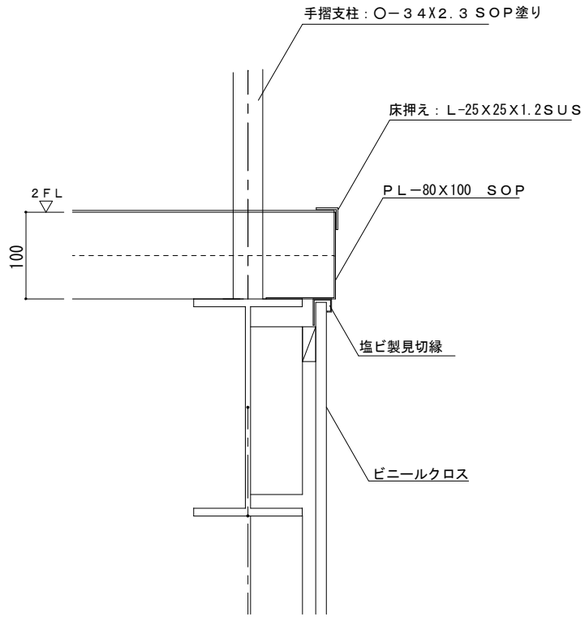
Ｄ３　　Ｓ１／５



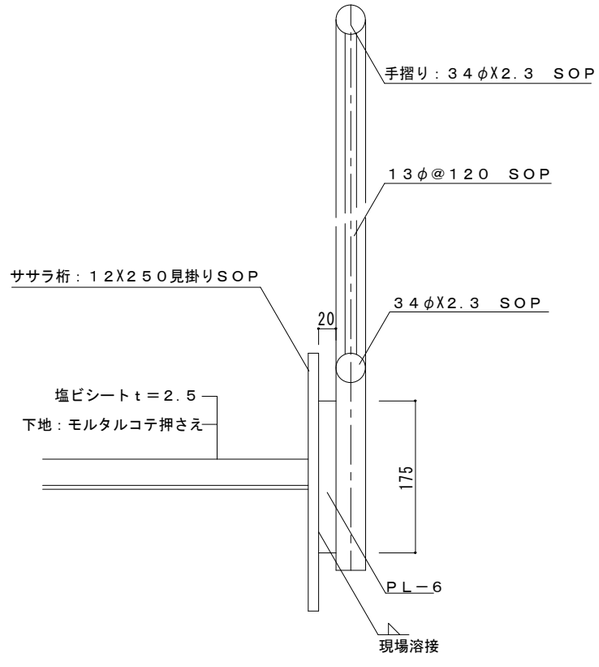
Ｄ４　　Ｓ１／５



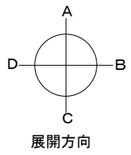
Ｄ５　　Ｓ１／５



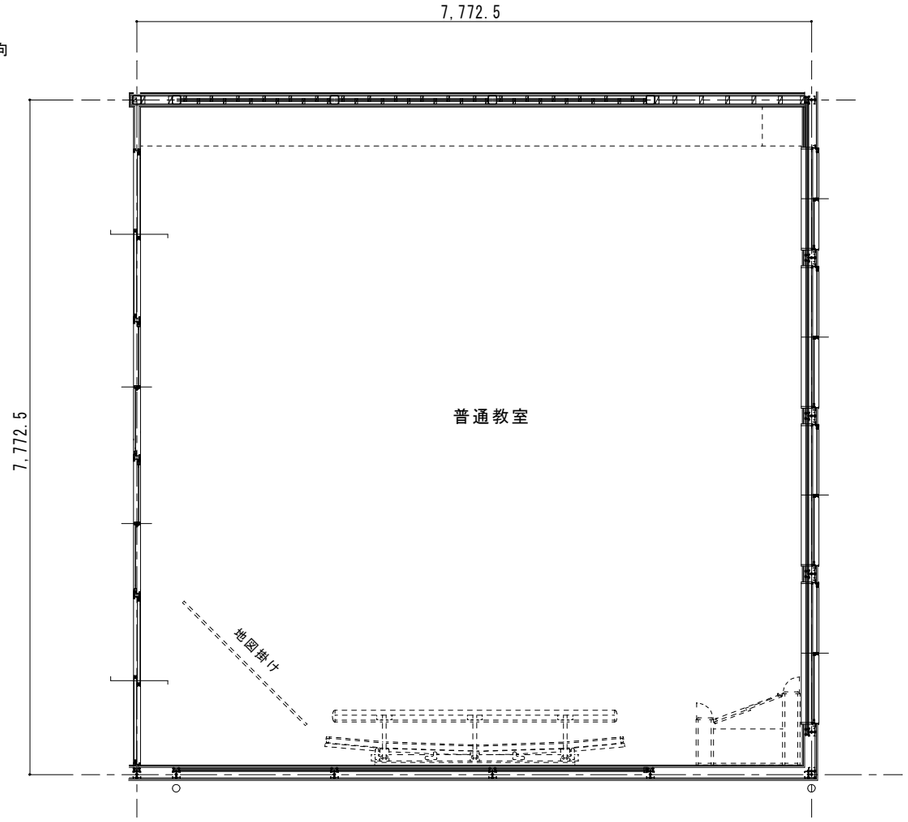
手摺　断面　　Ｓ１／５



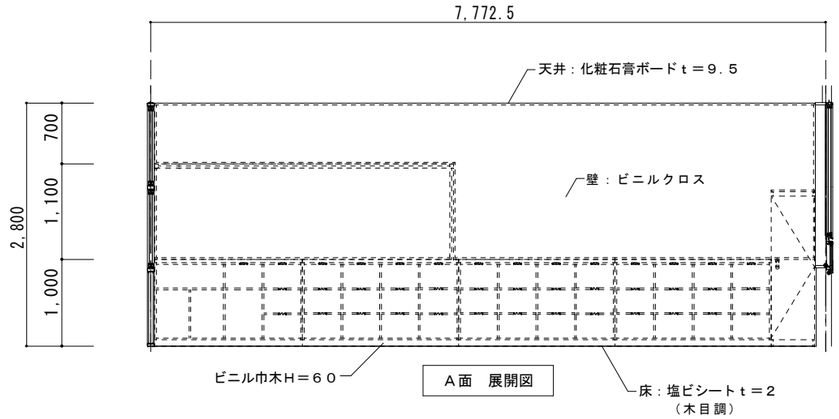
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	階段詳細図	1:5	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２６



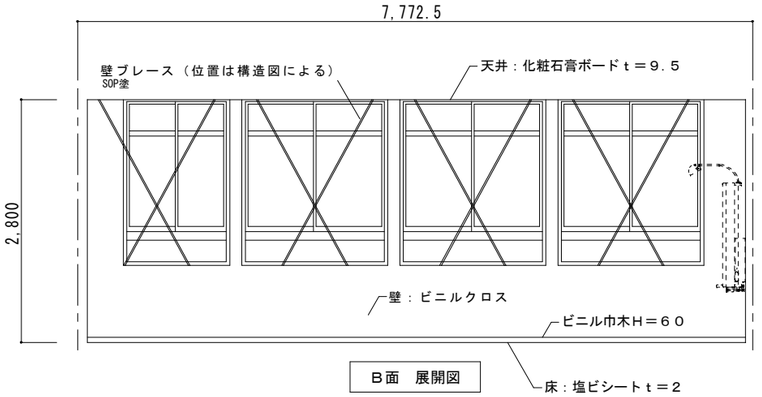
展開方向



教室　平面詳細図　S１／５０

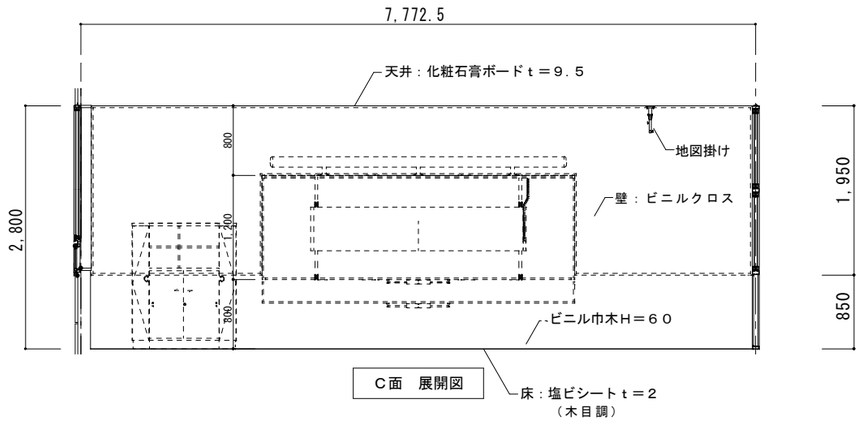


Ａ面　展開図

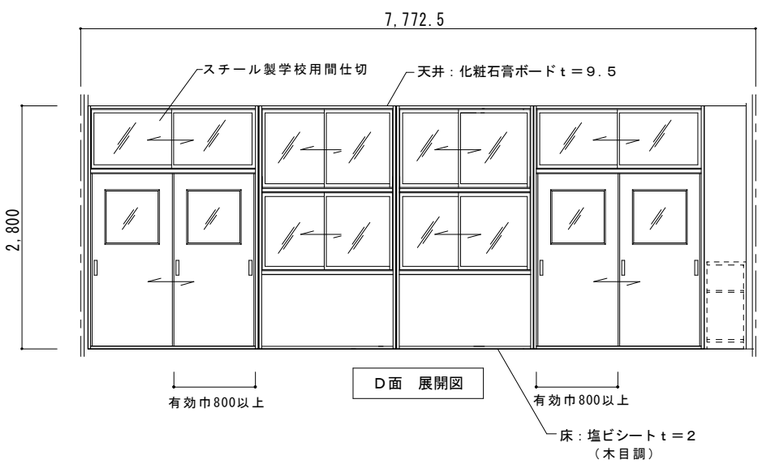


Ｂ面　展開図

室名	普通教室
床	塩ビシートt=2（木目調）
巾木	ビニル巾木H=60
壁	ビニルクロス
天井	化粧石膏ボードt=9.5

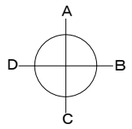


Ｃ面　展開図

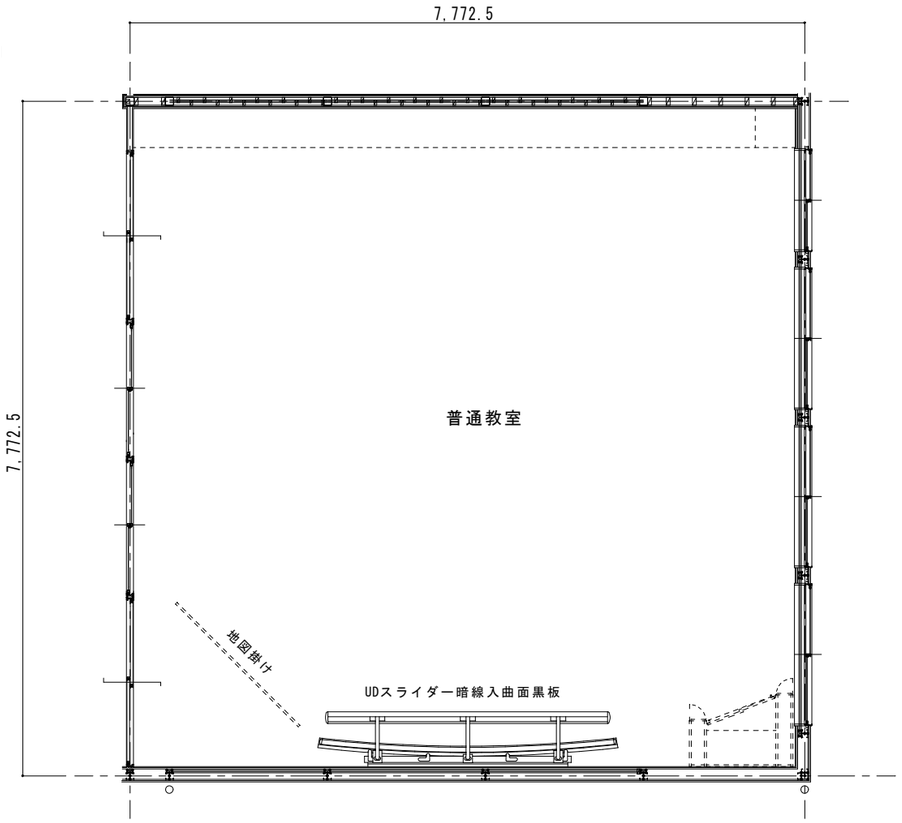


Ｄ面　展開図

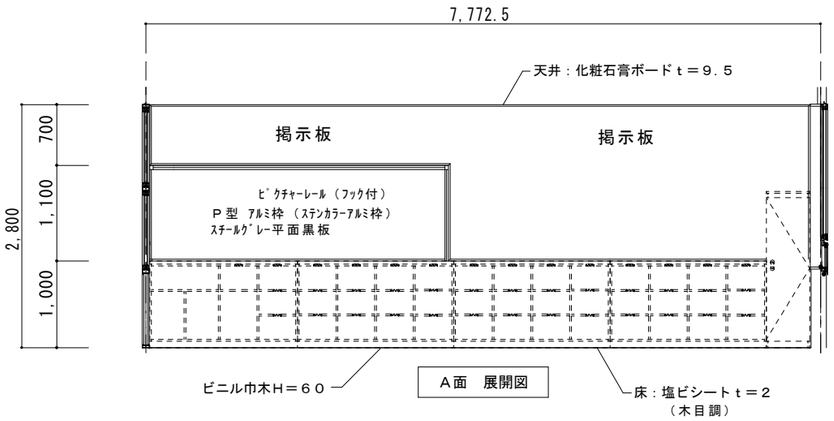
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	普通教室平面詳細図・展開図	1:50	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２７



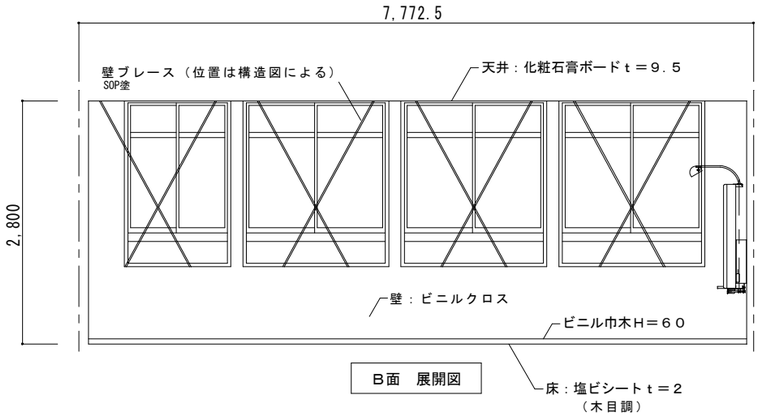
展開方向



教室　平面詳細図　Ｓ１／５０

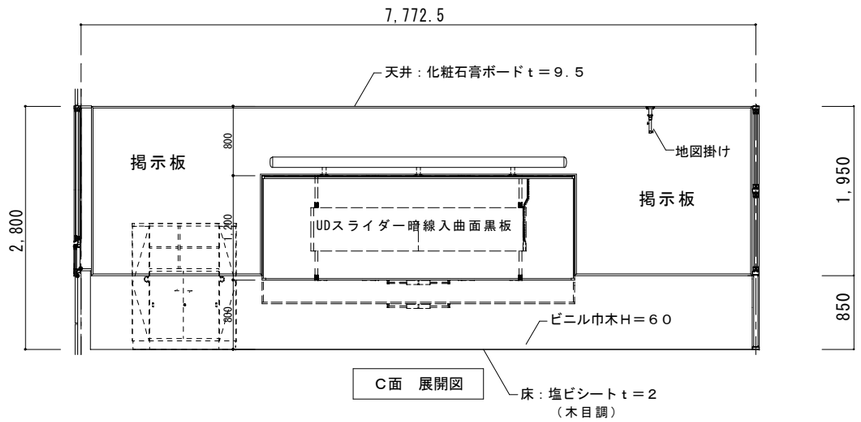


Ａ面　展開図

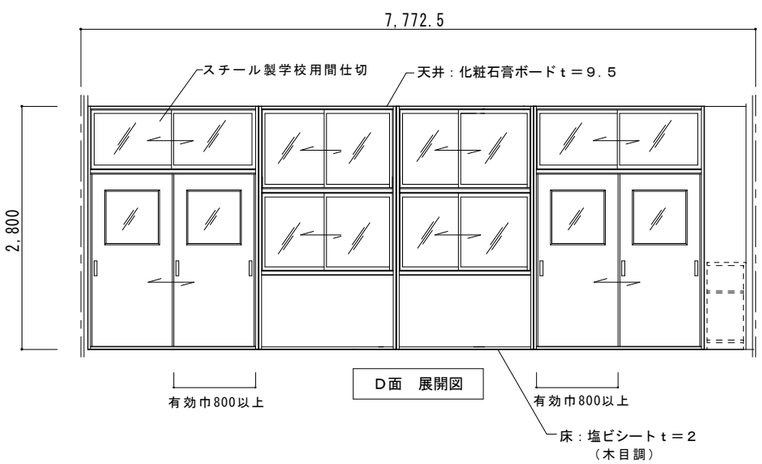


Ｂ面　展開図

室名	普通教室
床	塩ビシートt=2（木目調）
巾木	ビニル巾木H=60
壁	ビニルクロス
天井	化粧石膏ボードt=9.5



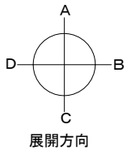
Ｃ面　展開図



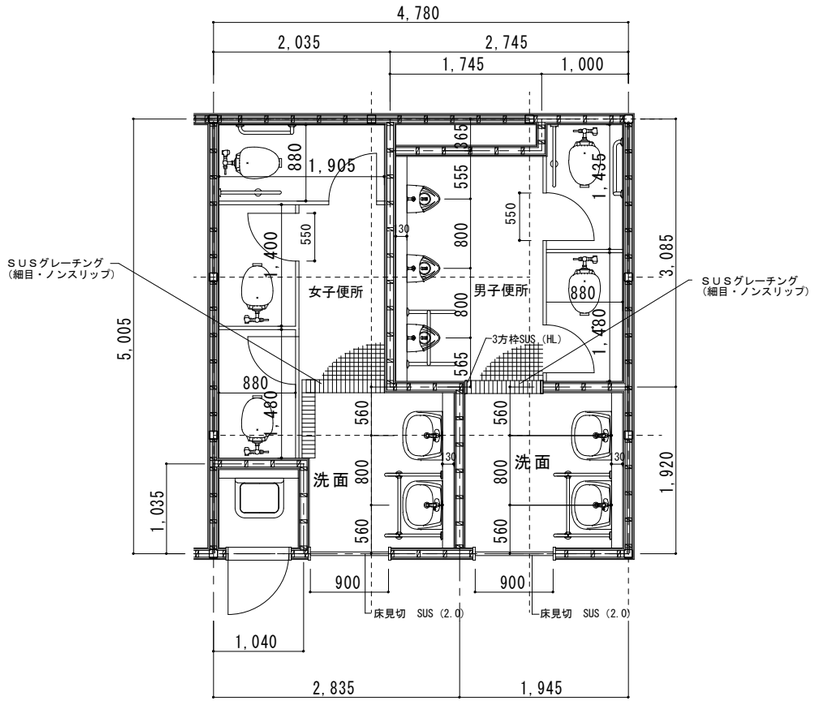
Ｄ面　展開図

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	普通教室(2F南東側)平面詳細図・展開図	1:50	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

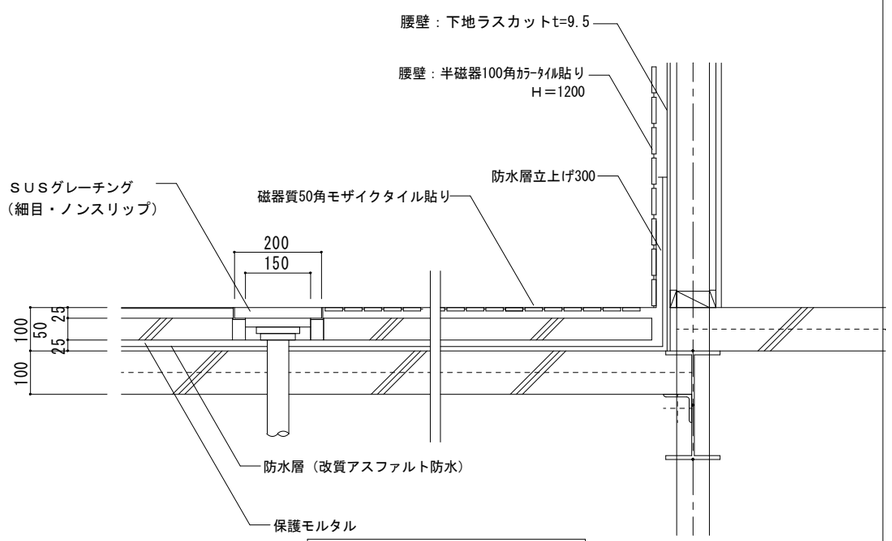
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永



展開方向

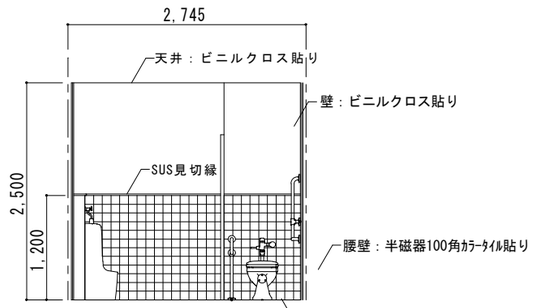


便所　平面詳細図　Ｓ１／５０

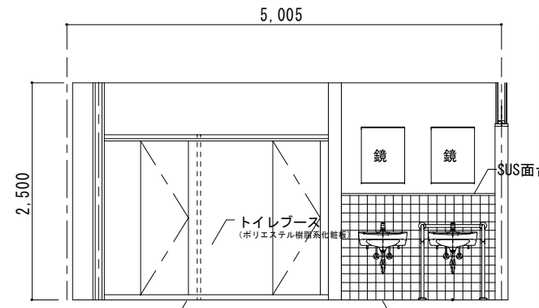


便所　断面詳細図　Ｓ１／１０

男子便所



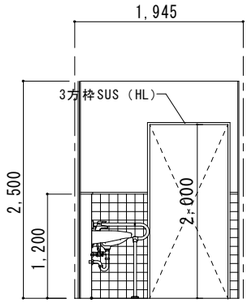
Ａ面　展開図



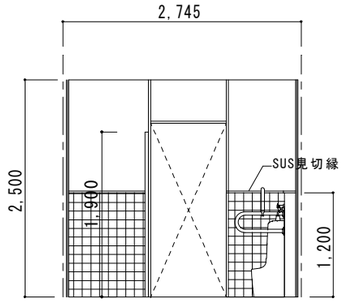
Ｂ面　展開図

室名	洗面
床	塩ビシートt=2
腰壁	半磁器100角カラータイル
壁	ビニルクロス
天井	ビニルクロス

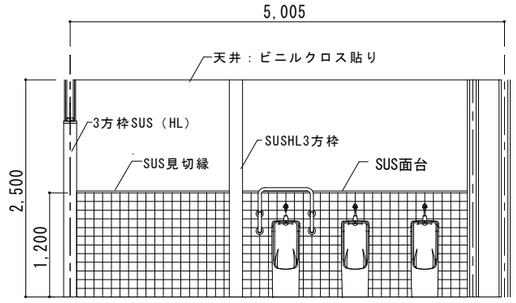
室名	男子便所
床	磁器質50角モザイクタイル
腰壁	半磁器100角カラータイル
壁	ビニルクロス
天井	ビニルクロス



Ｃ面　展開図

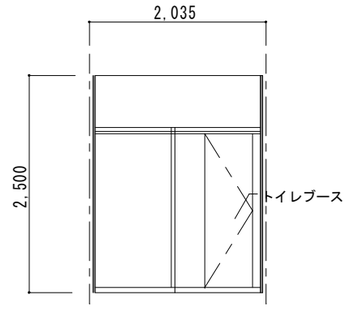


Ｃ面　展開図

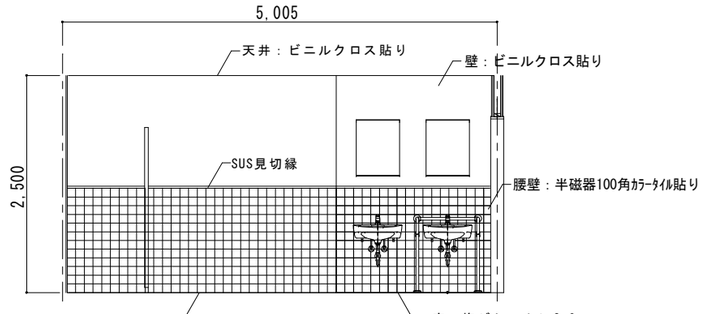


Ｄ面　展開図

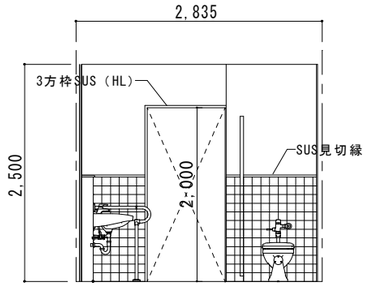
女子便所



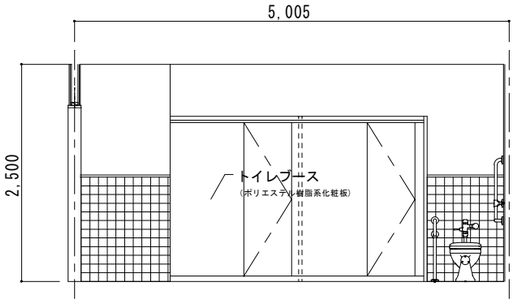
Ａ面　展開図



Ｂ面　展開図



Ｃ面　展開図

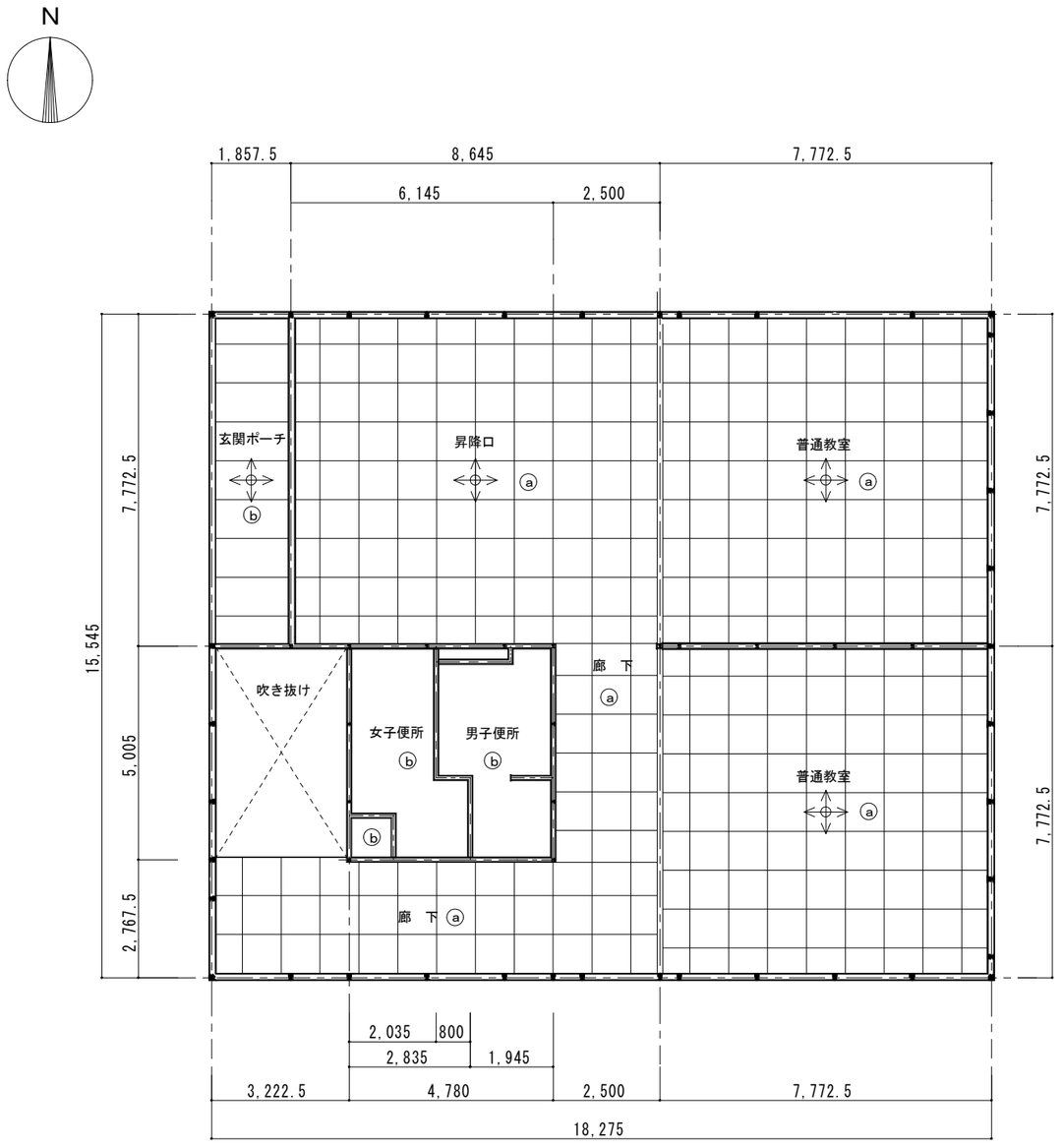


Ｄ面　展開図

室名	洗面
床	塩ビシートt=2
腰壁	半磁器100角カラータイル
壁	ビニルクロス
天井	ビニルクロス

室名	女子便所
床	磁器質50角モザイクタイル
腰壁	半磁器100角カラータイル
壁	ビニルクロス
天井	ビニルクロス

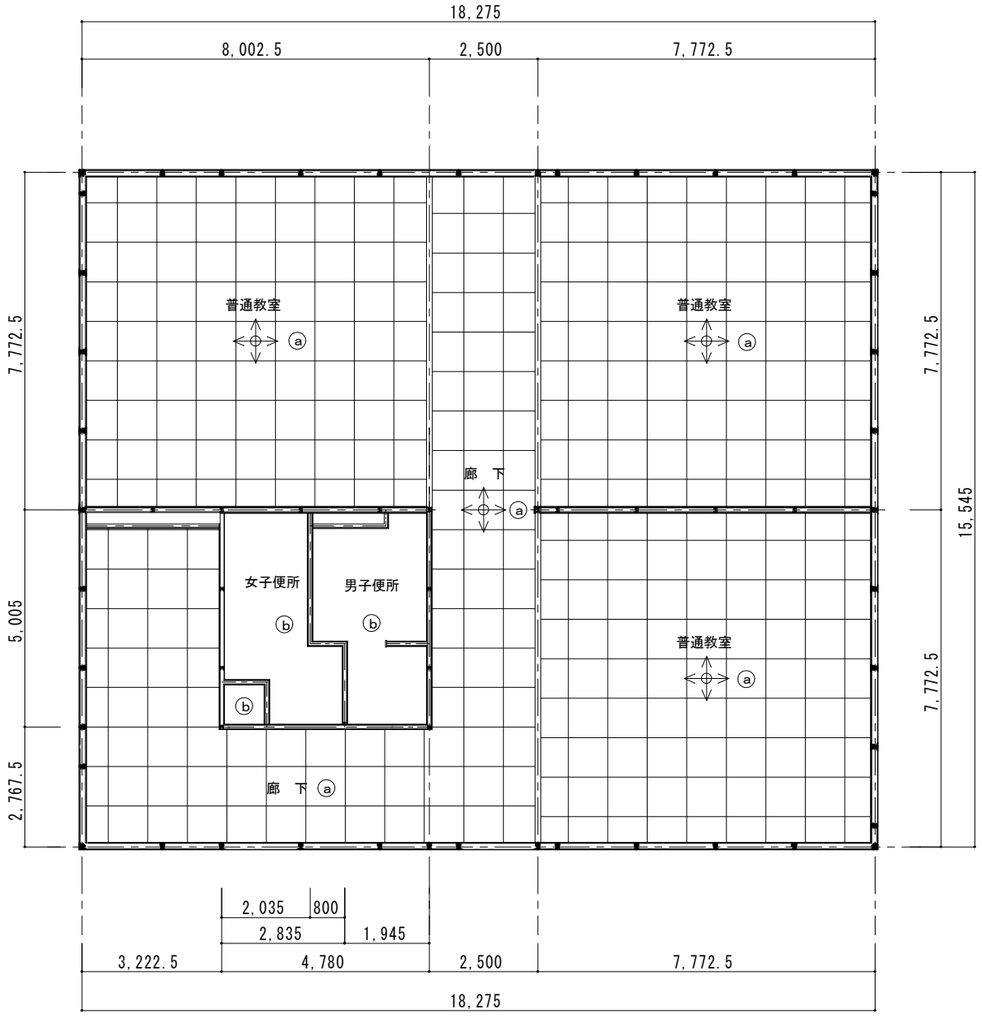
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	男女便所平面詳細図・展開図	1:50	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－２９



1階　天井伏図　S1：100

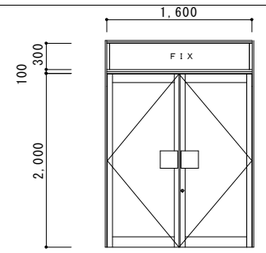
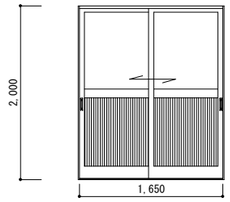
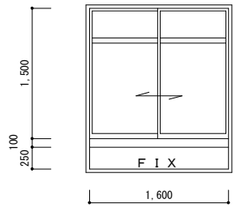
記号	仕　上	下地	廻縁
ⓐ	化粧石膏ボードt＝9.5（910×910）	LGS	塩ビ
ⓑ	クロス貼り	LGS	塩ビ

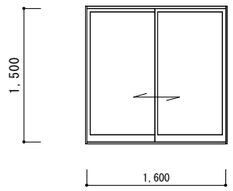
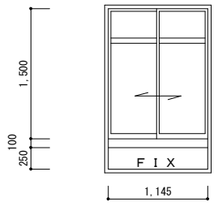
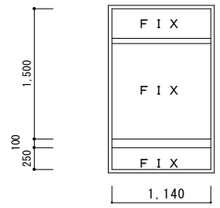
※設備開口については、設備図面により機器配置を確認する事。
なお、必要に応じて開口補強をする事。

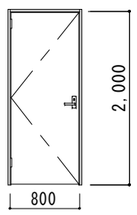
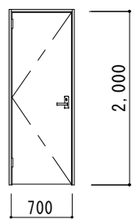


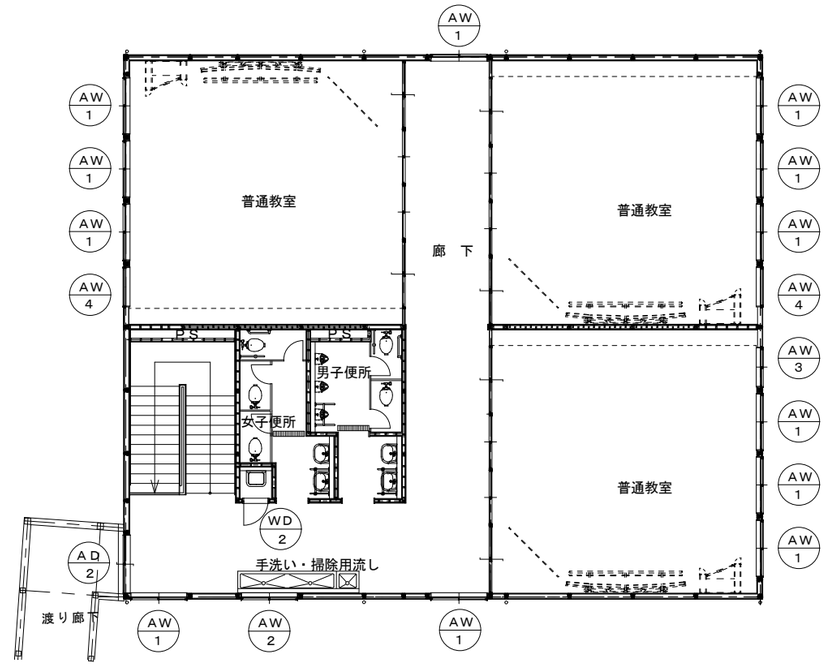
2階　天井伏図　S1：100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	天井伏図	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－30

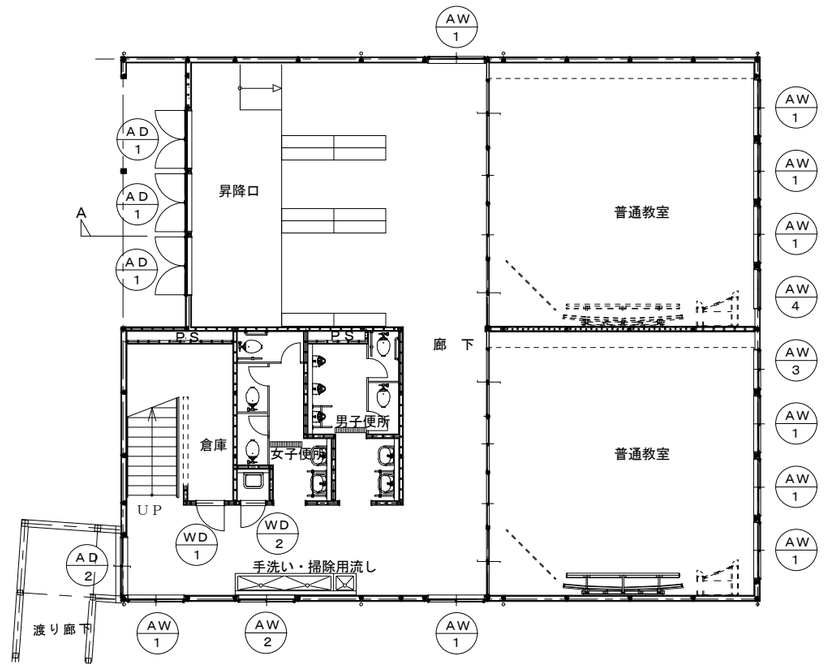
記号	AD 1 3ヶ所	AD 2 2ヶ所	AW 1 21ヶ所
姿図			
部屋名	昇降口	廊下	普通教室　廊下
型式	アルミサッシ　両開きドア	アルミサッシ　引違いドア	アルミサッシ　引違い　ｆｉｘ　段窓
見込	70	70	70
仕上	カラーアルミ　　－　／　木製額縁	カラーアルミ	カラーアルミ
ガラス	強化ガラス　透明ｔ＝４	強化ガラス　透明ｔ＝４　腰：アルミパネル	強化ガラス　透明ｔ＝４
金物	シリンダー錠・フロアーヒンジ・押板・ドアチェック	シリンダー錠　内部：サムターン・引手・戸車	クレセント・戸車・網戸（SUS）
沓摺／額縁	SUS（2.0）／木製額縁SOP	SUS（2.0）／木製額縁SOP	－　／　木製額縁SOP
備考	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式

記号	AW 2 2ヶ所	AW 3 2ヶ所	AW 4 3ヵ所
姿図			
部屋名	廊下	普通教室	普通教室
型式	アルミサッシ　引違い窓	アルミサッシ　引違い　ｆｉｘ　段窓	アルミサッシ　　ｆｉｘ　段窓
見込	70	70	70
仕上	カラーアルミ	カラーアルミ	カラーアルミ
ガラス	強化ガラス　透明ｔ＝４	強化ガラス　透明ｔ＝４	強化ガラス　透明ｔ＝４
金物	クレセント・戸車・網戸（SUS）	クレセント・戸車　・網戸（SUS）	
沓摺／額縁	－　／　木製額縁SOP	－　／　木製額縁SOP	－　／　木製額縁SOP
備考	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式

記号	WD 1 1ヶ所	WD 2 2ヶ所
姿図		
部屋名	階段下倉庫	便所（ＳＫ）
型式	木製片開き戸	木製片開き戸
見込	36	36
仕上	メラミン　小口ＳＯＰ塗	メラミン　小口ＳＯＰ塗
ガラス	－	－
金物	ハンドル、丁番 、シリンダー錠	ハンドル、丁番
沓摺／額縁	－　／　木製 SOP	－　／　木製SOP
備考	付属金物一式　床見切ＳＵＳ（2.0）	付属金物一式　床見切ＳＵＳ（2.0）



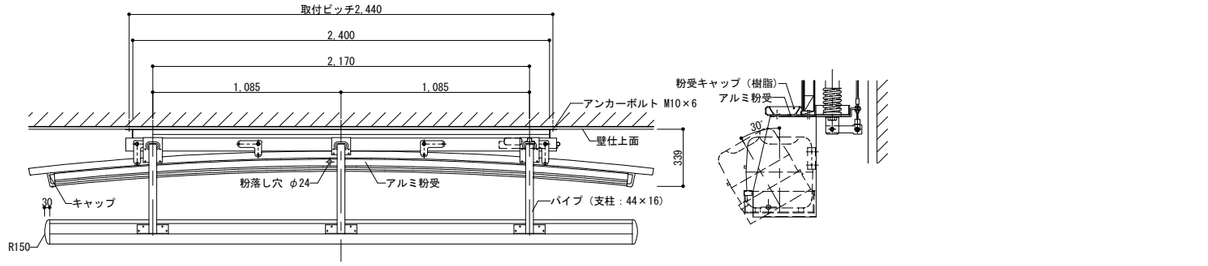
2階　キープラン



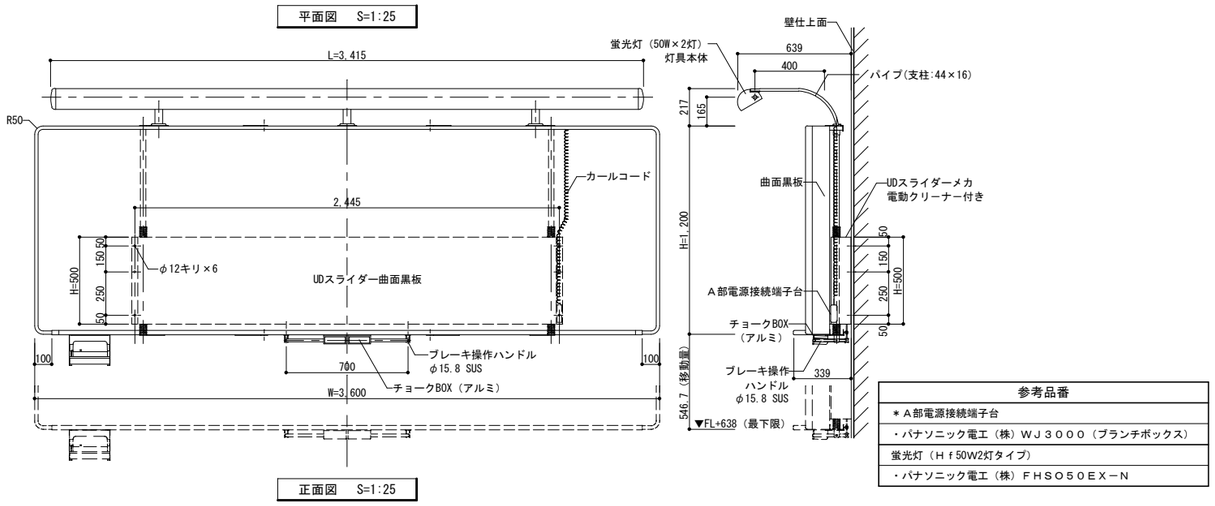
1階　キープラン

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	建具配置図・建具表	1:50	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－31

ＵＤスライダー暗線入曲面黒板 3600×1200：ｽﾃﾝｶﾗｰｱﾙﾐ枠　ﾊﾟﾝﾗｲﾄ・ﾋﾟｸﾁｬｰﾚｰﾙ・ﾗｰﾌﾙｸﾘｰﾅｰ付



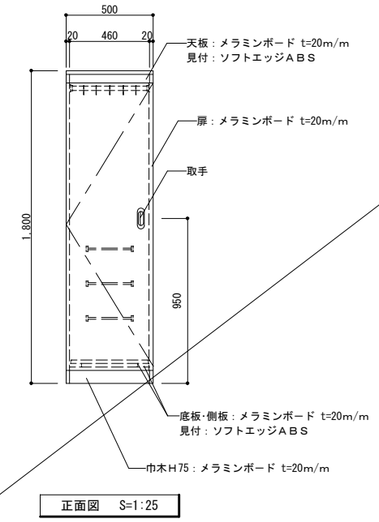
平面図　S=1:25



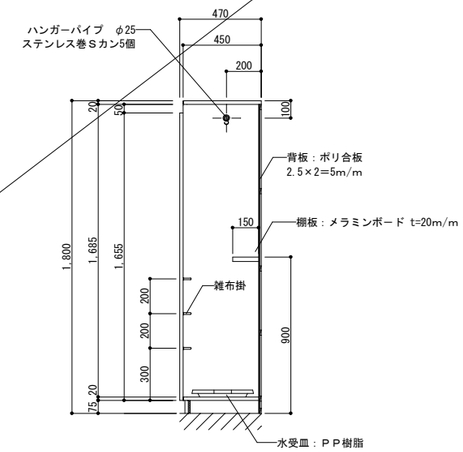
正面図　S=1:25

参考品番
＊Ａ部電源接続端子台
・パナソニック電工（株）ＷＪ３０００（ブランチボックス）
蛍光灯（Ｈｆ50W2灯タイプ）
・パナソニック電工（株）ＦＨＳＯ５０ＥＸ－Ｎ

掃除用具入 500×470×1,800

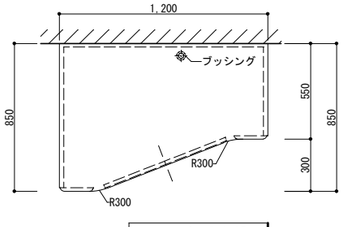


正面図　S=1:25

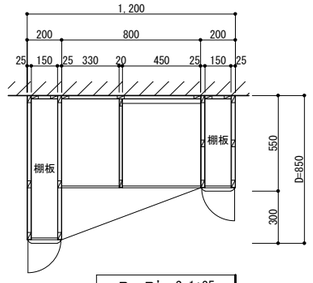


断面図　S=1:25

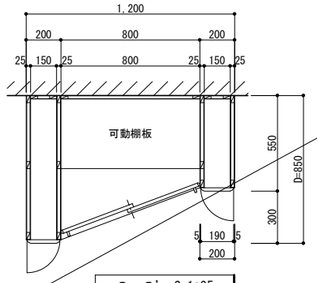
教師用戸棚 1,200×850/800×2,100 ：ＴＶ台付



Ａ－Ａ’　S=1:25

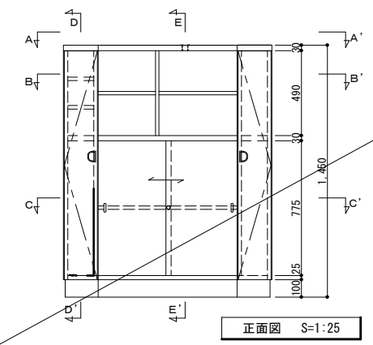


Ｂ－Ｂ’　S=1:25

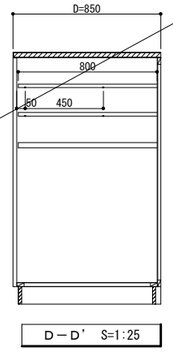


Ｃ－Ｃ’　S=1:25

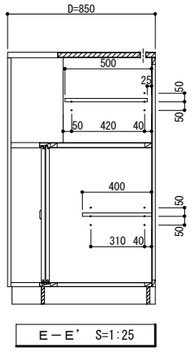
	仕　様
本 体	ポリ合板フラシュ構造
中央部天板	ポリ合板貼
扉	パーチクルボード両面ダップシート貼
引違戸	ポリ合板フラシュ構造
棚　板	ポリ合板フラシュ構造
丁　番	スライド
引戸レール	Ｖ溝レール
取手・引手	スガツネ
ダ　ボ	ステンレス８φ
見付	ＰＶＣ
台輪	ダップシート貼



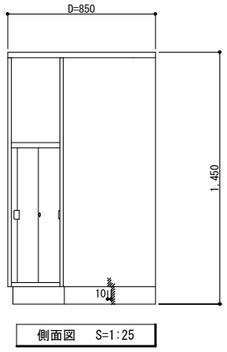
正面図　S=1:25



Ｄ－Ｄ’　S=1:25

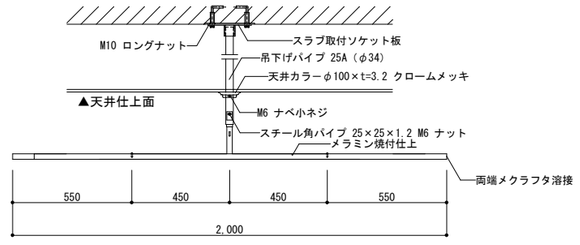


Ｅ－Ｅ’　S=1:25

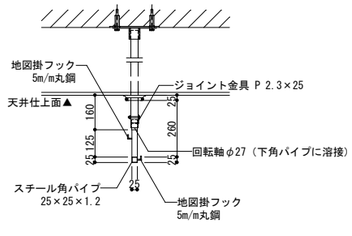


側面図　S=1:25

地図掛け Ｌ＝2,000 ステンレス製



正面図　S=1:20

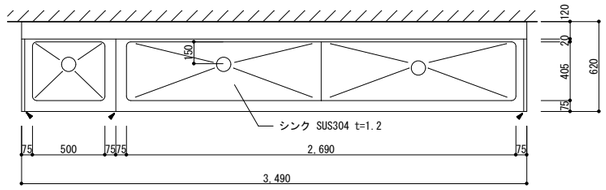


側面図　S=1:20

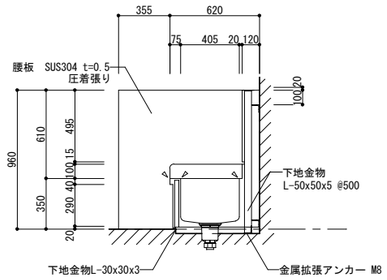
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	家具詳細図	1:20･25	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

手洗い・掃除流し 3,490×620×960

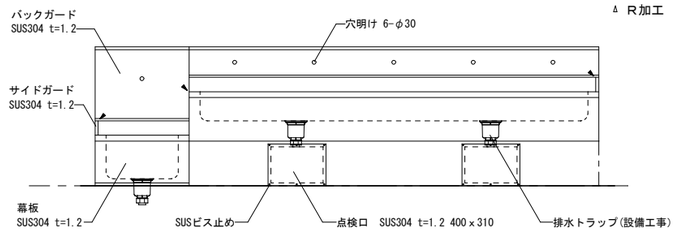


平面図　S=1:30

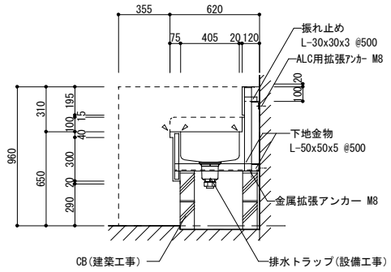


側面図　S=1:30

▲ 球面加工
△ R加工

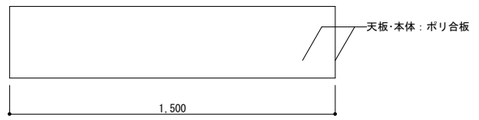


正面図　S=1:30

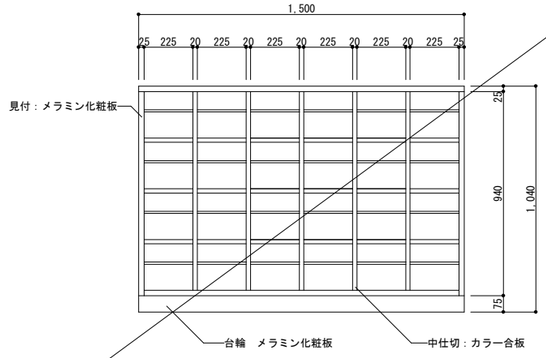


側面図　S=1:30

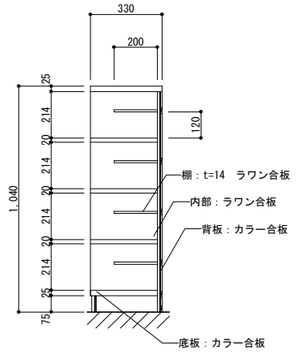
シューズボックス



平面図　S=1:20

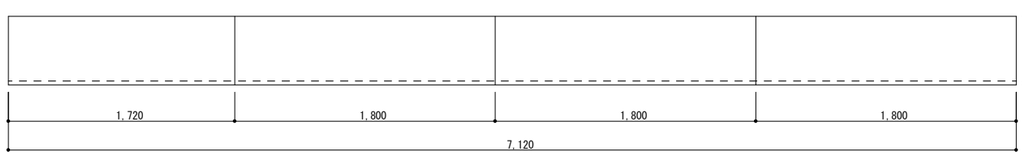


正面図　S=1:20

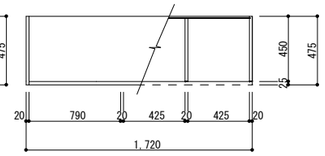


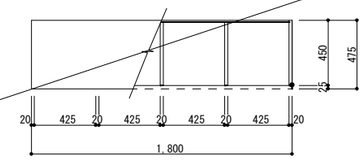
断面図　S=1:20

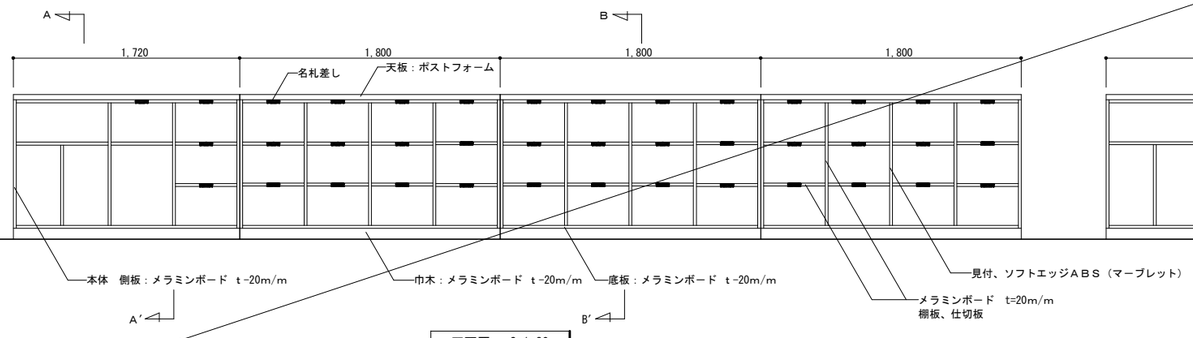
生徒用ロッカー　ＮＷＬ-12（改）・ＮＷＬ-09（改）W6300×Ｄ450×Ｈ900



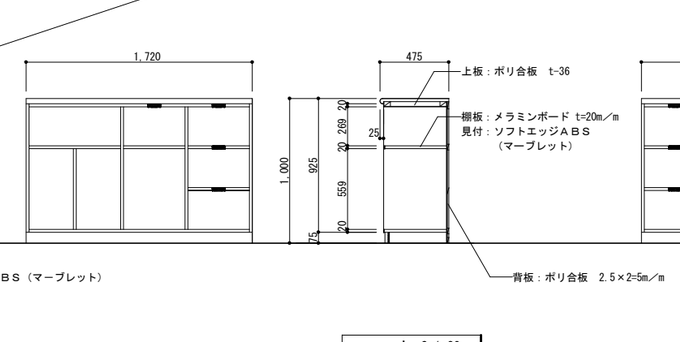
平面図　S=1:30



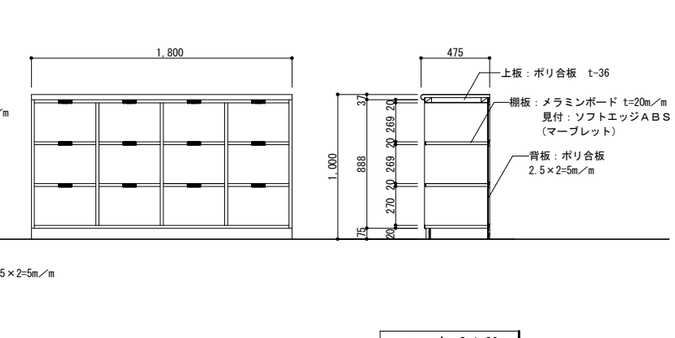




正面図　S=1:30



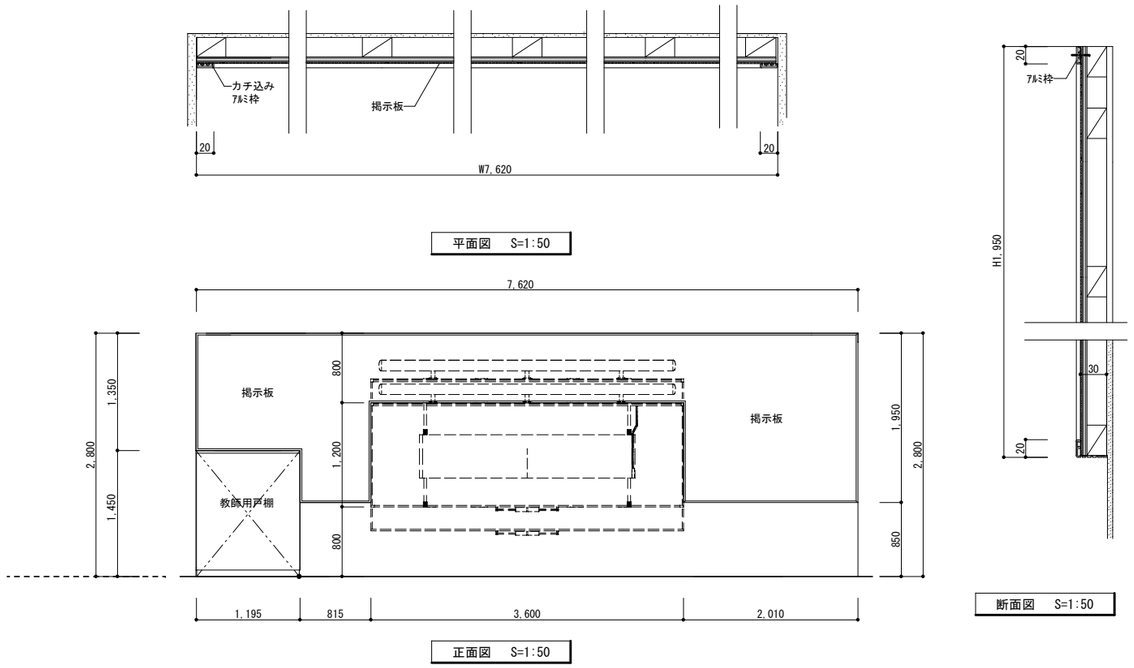
Ａ－Ａ'　S=1:30



Ｂ－Ｂ'　S=1:30

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	家具詳細図（２）	1:30	2010.9	10018	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－３３

前面掲示板：ｽﾃﾝｶﾗｰｱﾙﾐ枠 ﾏｷｼﾗﾝ貼

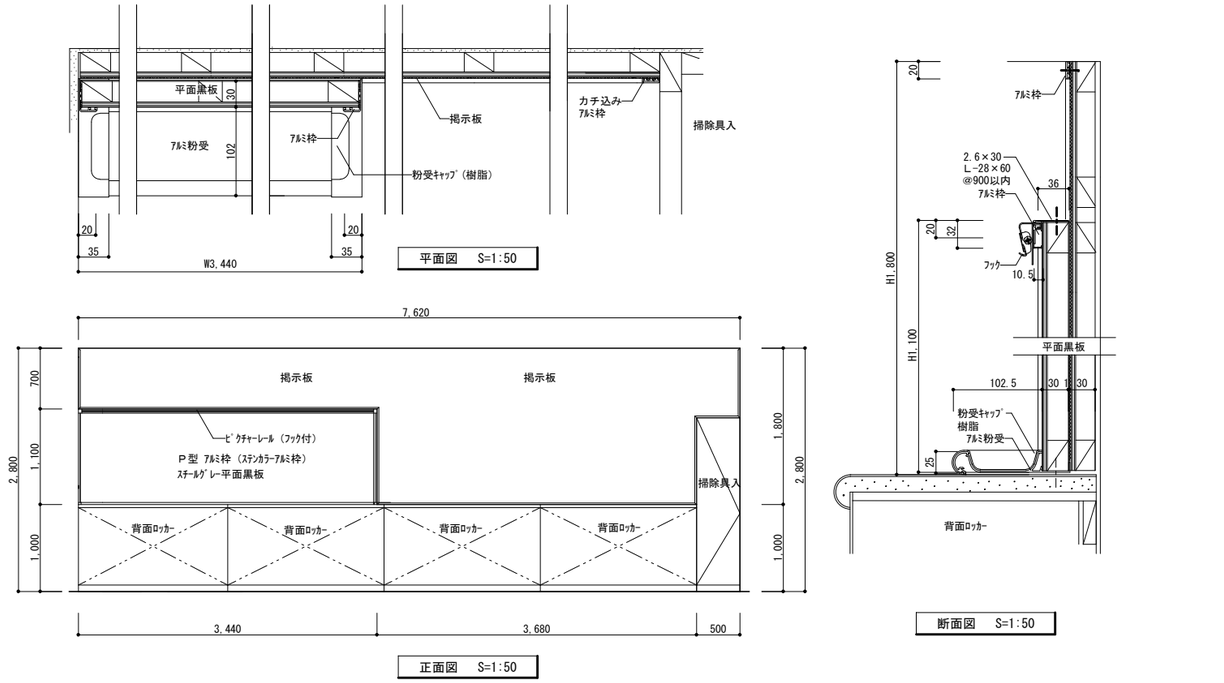


平面図　S=1:50

断面図　S=1:50

正面図　S=1:50

背面掲示板：ｽﾃﾝｶﾗｰｱﾙﾐ枠 ﾏｷｼﾗﾝ貼・平面黒板[3,400×1,100]：ｽﾃﾝｶﾗｰｱﾙﾐ枠 ﾋﾞｸﾁｬｰﾚｰﾙ付



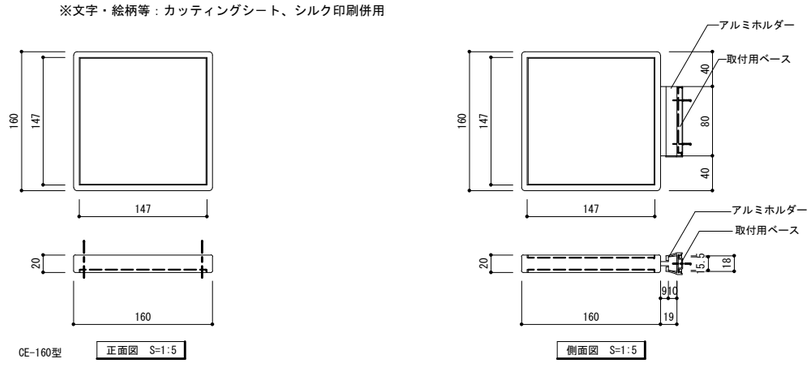
平面図　S=1:50

断面図　S=1:50

正面図　S=1:50

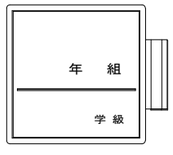
室名札<160×160>：ピクトグラフ

※文字・絵柄等：カッティングシート、シルク印刷併用

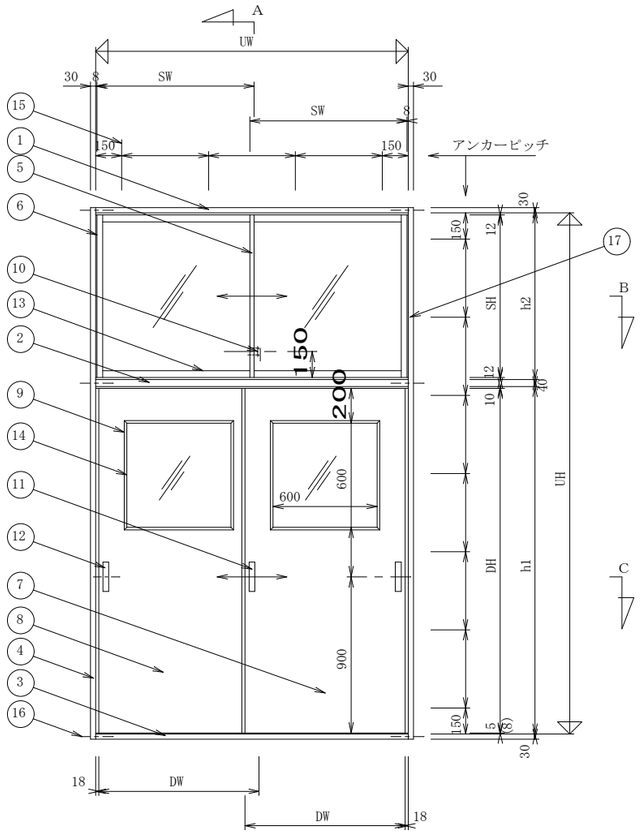


※キャッチアイ絵柄参考図

文字　丸ゴシック　・　シルクスクリーン印刷

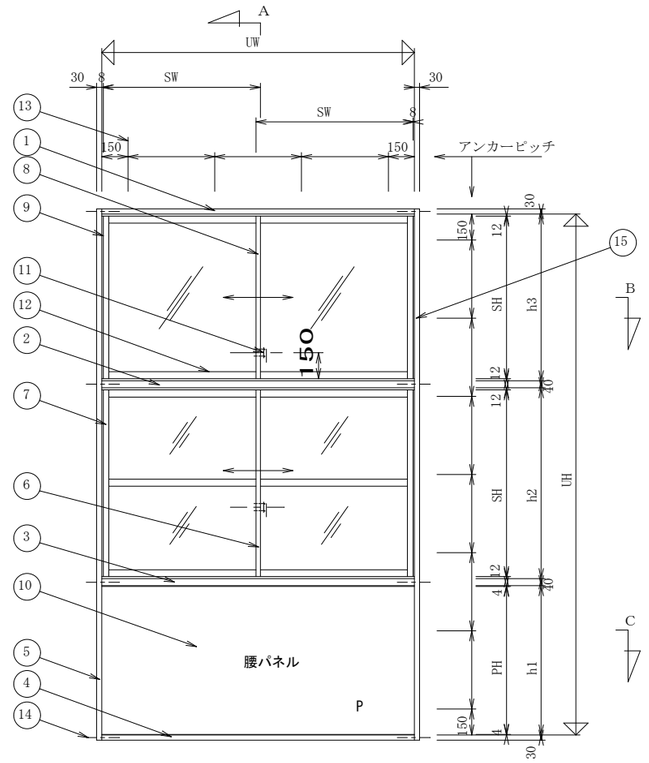


PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	家具詳細図	1:20･25	2010.9	10018	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－３４



１７	ＳＡＣ－０００２	方立枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
１６		六角ボルト，ナット	Ｓ３０Ｃ	６	Ｍ８　Ｌ＝５５
１５	ＳＡＣ－００２５	着脱式アンカー	ＳＧＣＣ	８	
１４	ＳＡＣ－０１３６～１３８	ガラスビード	塩ビ	４	１１Ｓ
１３	ＳＡＣ－００７６～７８	ガラスビード	塩ビ	２	１１Ｗ
１２	ＳＡＢ－０１１３	堀込引手	ＺＤＣ	２	
１１	ＳＡＣ－０１２７	シリンダー向錠	ＳＵＳ３０４	１	Ｓ－１７０４－５（ゴール）
１０	ＳＡＣ－００７４	クレセント	ＳＵＳ３０４	１	電解研磨仕上
９	ＳＡＢ－０１０５	小　窓	Ａ６０６３Ｓ－Ｔ５	２	
８	ＳＡＢ－０１０２	内部扉本体	ＣＧＣ	１	ｔ＝０．５エリオ鋼板
７	ＳＡＢ－０１０１	外部扉本体	ＣＧＣ	１	ｔ＝０．５エリオ鋼板
６	ＳＡＢ－００５４	内部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
５	ＳＡＢ－００５３	外部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
４	ＳＡＣ－０００１	竪　枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
３	ＳＡＣ－００４６	下　枠	ＳＵＳ３０４	１	ｔ＝１．５
２	ＳＡＣ－００４５	無　目	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
１	ＳＡＣ－００４４	上　枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２

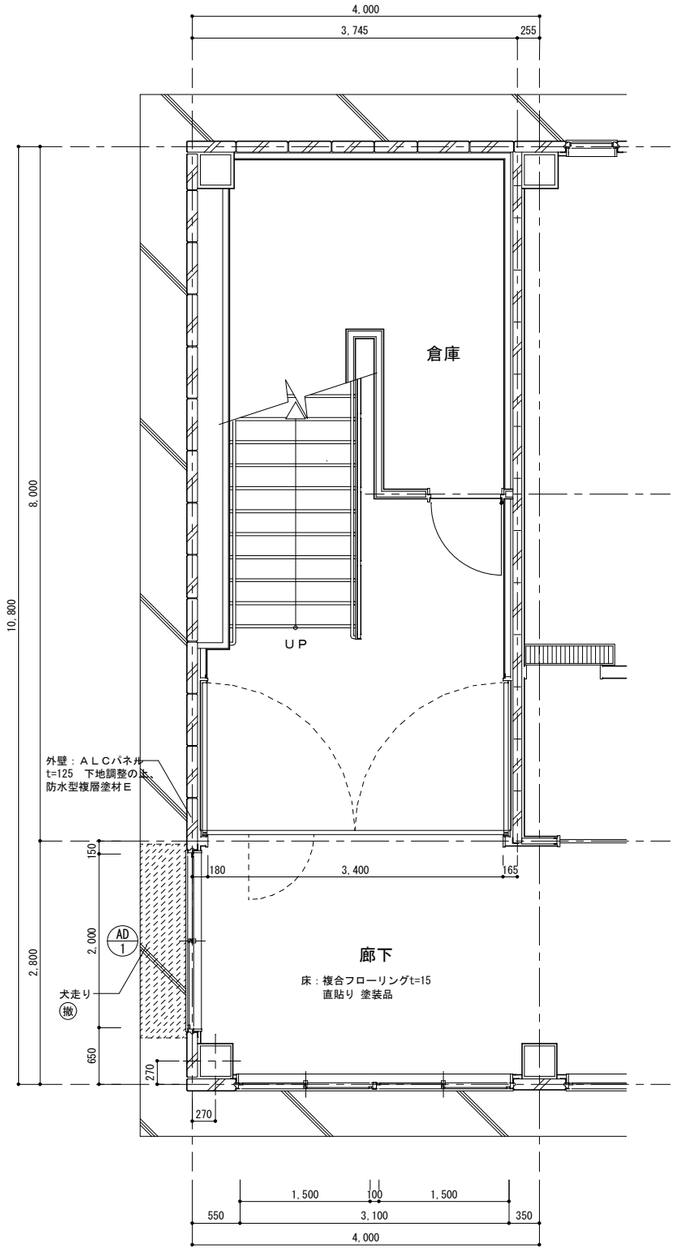
スチール製学校用間仕切　　プレウォール　　ＰＷ－ＳＡ８０　（同等品）



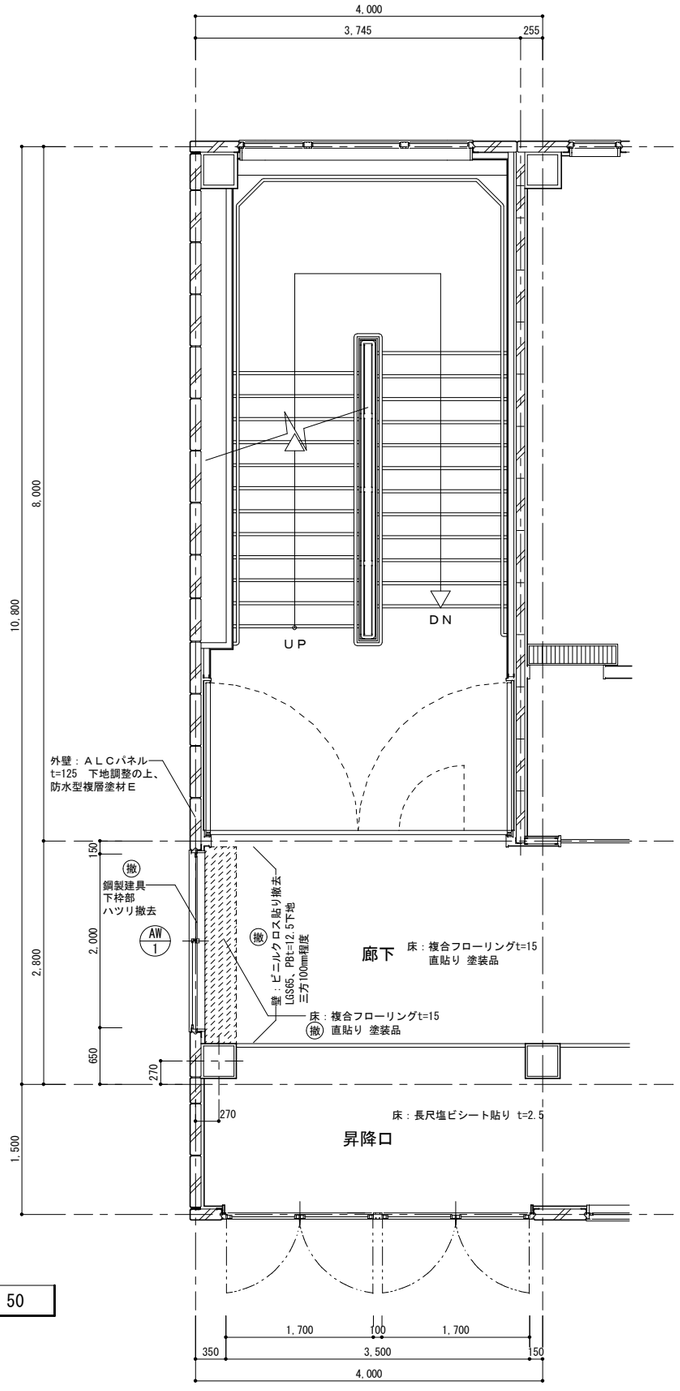
１５	ＳＡＣ－０００２	方立枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
１４		六角ボルト，ナット	Ｓ３０Ｃ	８	Ｍ８　Ｌ＝５５
１３	ＳＡＣ－００２５	着脱式アンカー	ＳＧＣＣ	２２	
１２	ＳＡＣ－００７６～７８	ガラスビード	塩ビ	６	１１Ｗ
１１	ＳＡＣ－００７４	クレセント	ＳＵＳ３０４	２	電解研磨仕上
１０	ＳＡＢ－０１５６	腰パネル本体	ＣＧＣ	１	ｔ＝０．５エリオ鋼板
９	ＳＡＢ－００５４	内部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
８	ＳＡＢ－００５３	外部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
７	ＳＡＢ－００５２	内部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
６	ＳＡＢ－００５１	外部障子本体	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝０．８
５	ＳＡＣ－０００１	竪　枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
４	ＳＡＣ－０００３	下　枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
３	ＳＡＣ－００４５	無　目	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
２	ＳＡＣ－００４５	無　目	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２
１	ＳＡＣ－００４４	上　枠	ＳＧＣＣ	１	ｔ＝１．２

スチール製学校用間仕切　　プレウォール　　ＰＷ－ＳＡ８０　（同等品）

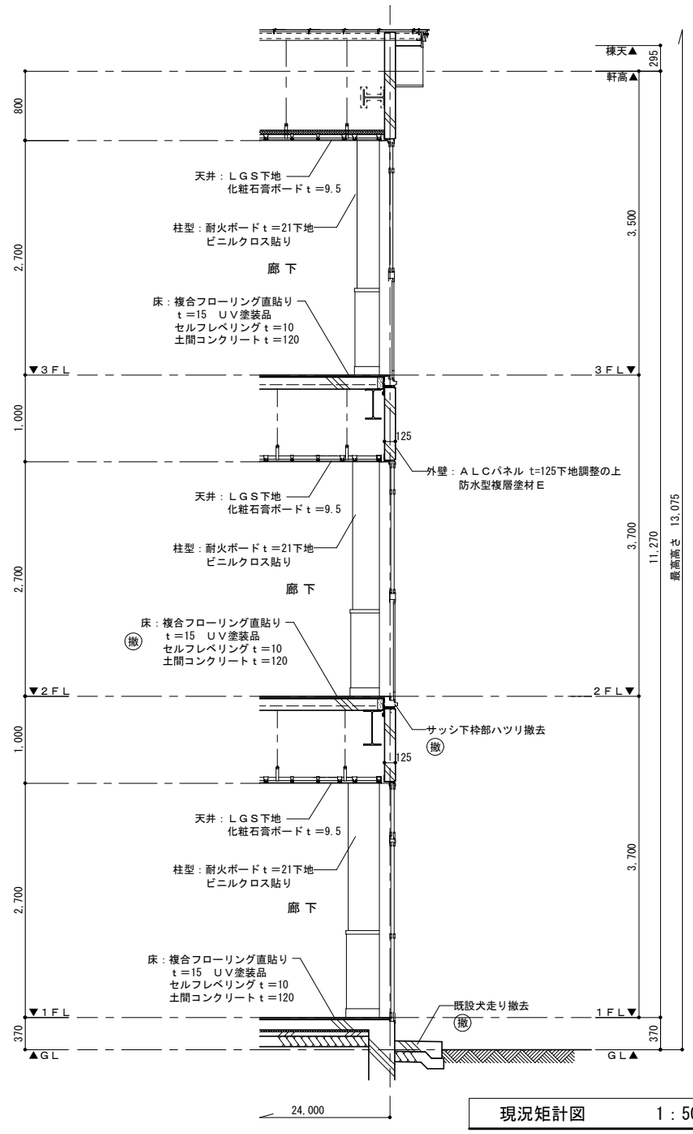
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	スクールパーテーション参考図	1:25	2010.9	10018		山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－３５



現況１階平面詳細図　　1：50

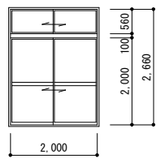
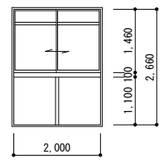


現況２階平面詳細図　　1：50

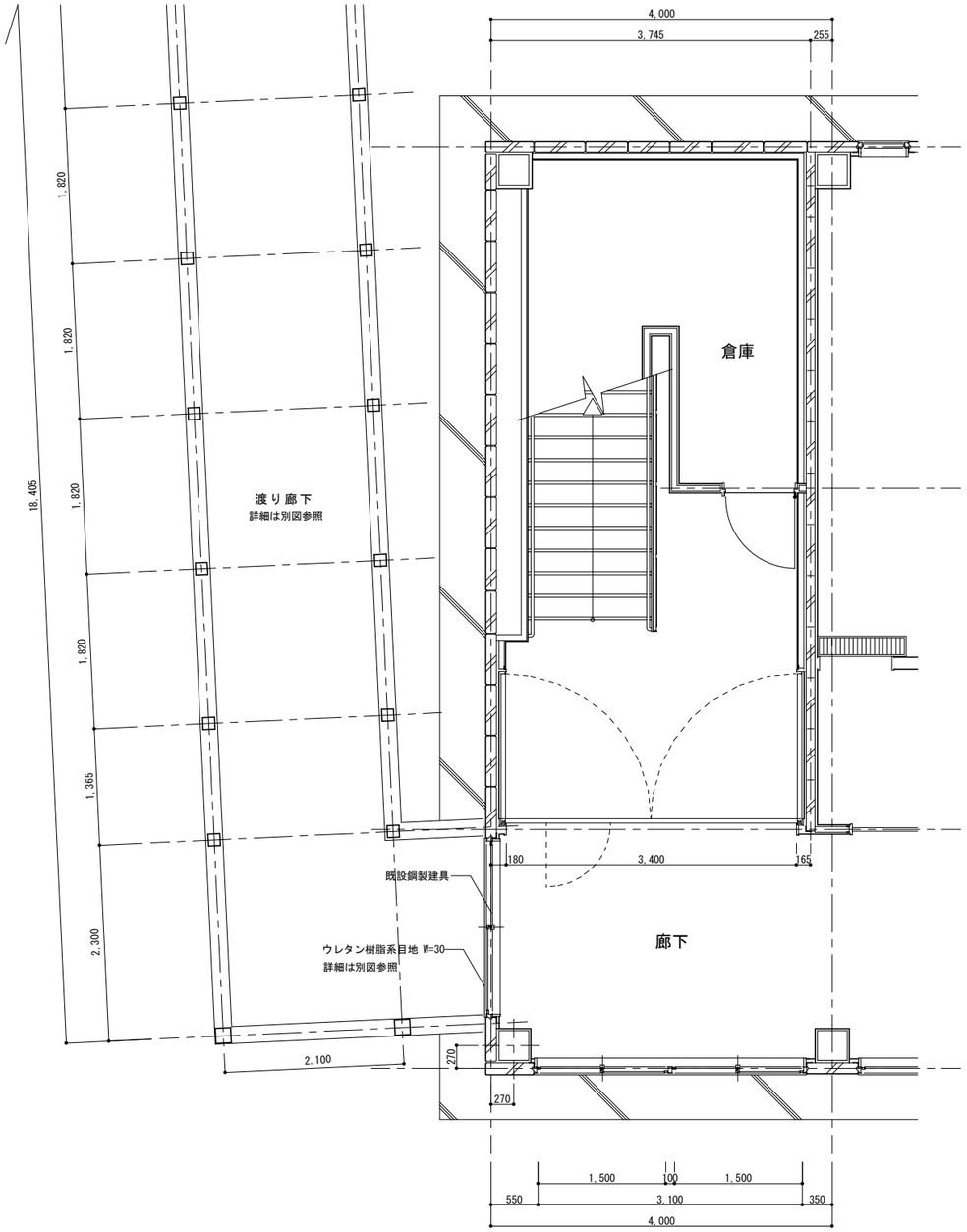


現況矩計図　　1：50

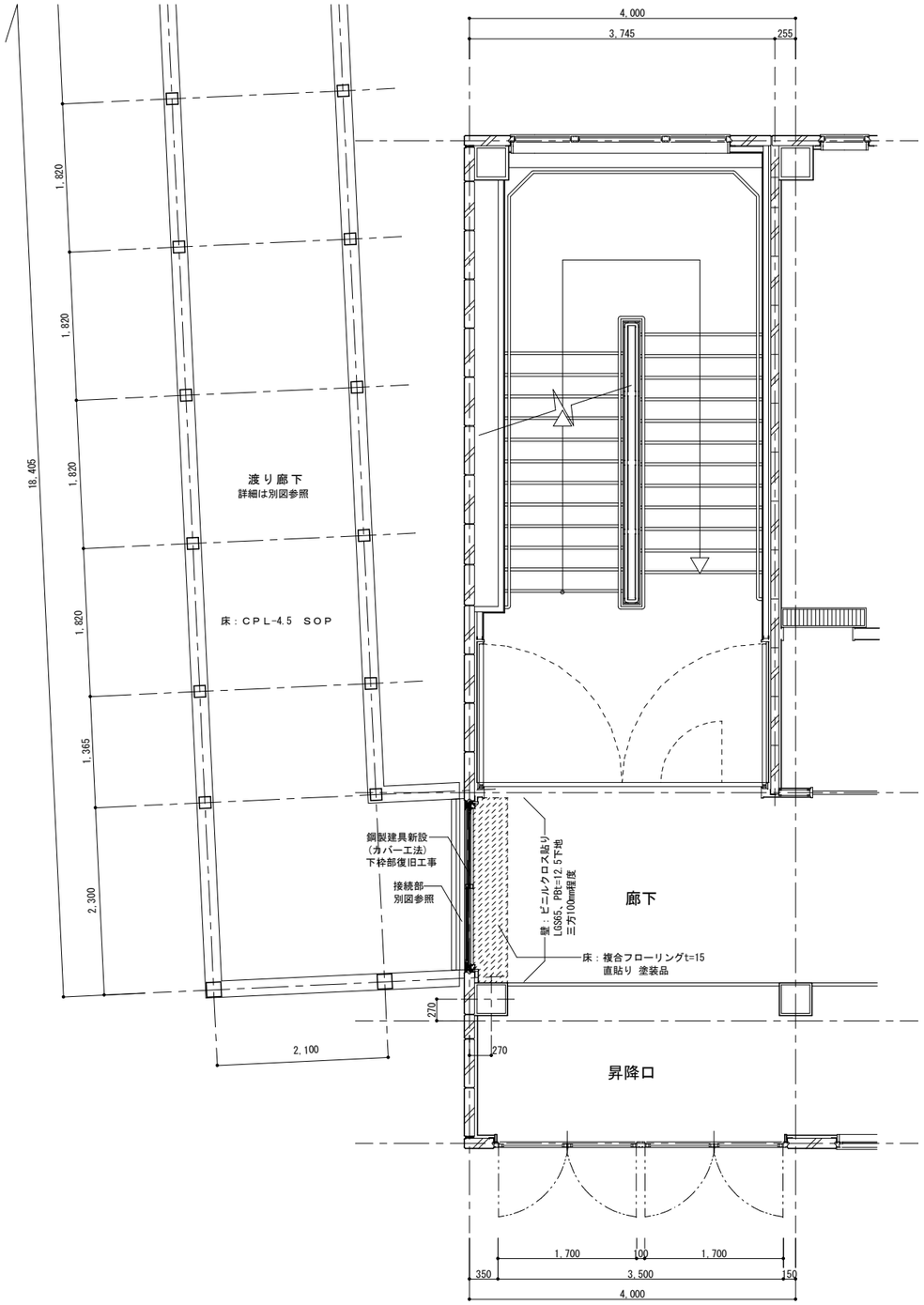
凡　例			
撤	撤去		撤去範囲
特記事項			
１．既設取合い工事において構造物等を損傷した場合、			
施工者責任において速やかに復旧を行うこと。			
２．特記なき限りは存置とするが、施工に支障のあるもの			
は撤去・復旧すること。その費用は工事費に含む。			
３．撤去が必要のない場所については監督員との協議の上			
決定とする。			

記号	AD 1　1ヶ所	AW 1　撤去　1ヶ所
姿図		
部屋名	１階　廊下	２・３階　廊下
型式	アルミ製ランマ付引き違い戸	アルミ製引き違い窓　下部FIX付
見込	70	70
仕上	高耐候性電着クラヤー塗装　ＡＬＣ用サッシ	高耐候性電着クリヤー塗装　ＡＬＣ用サッシ
ガラス	強化ガラスt=4（スクールテンパー　透明）、 腰：アルミパネルｔ＝3	強化ガラスｔ＝4（ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟｰ　透明） アルミパネルｔ＝3（腰パネル）
金物	クレセント、戸車、水切り、アングルピース、	クレセント、戸車、水切り、アングルピース
沓摺／額縁	ＳＵＳ敷居ｔ＝2.0　ＨＬ	
備考	その他付属金物一式	その他付属金物一式

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	既設校舎　現況平面詳細図･矩計図	1:50	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－３６

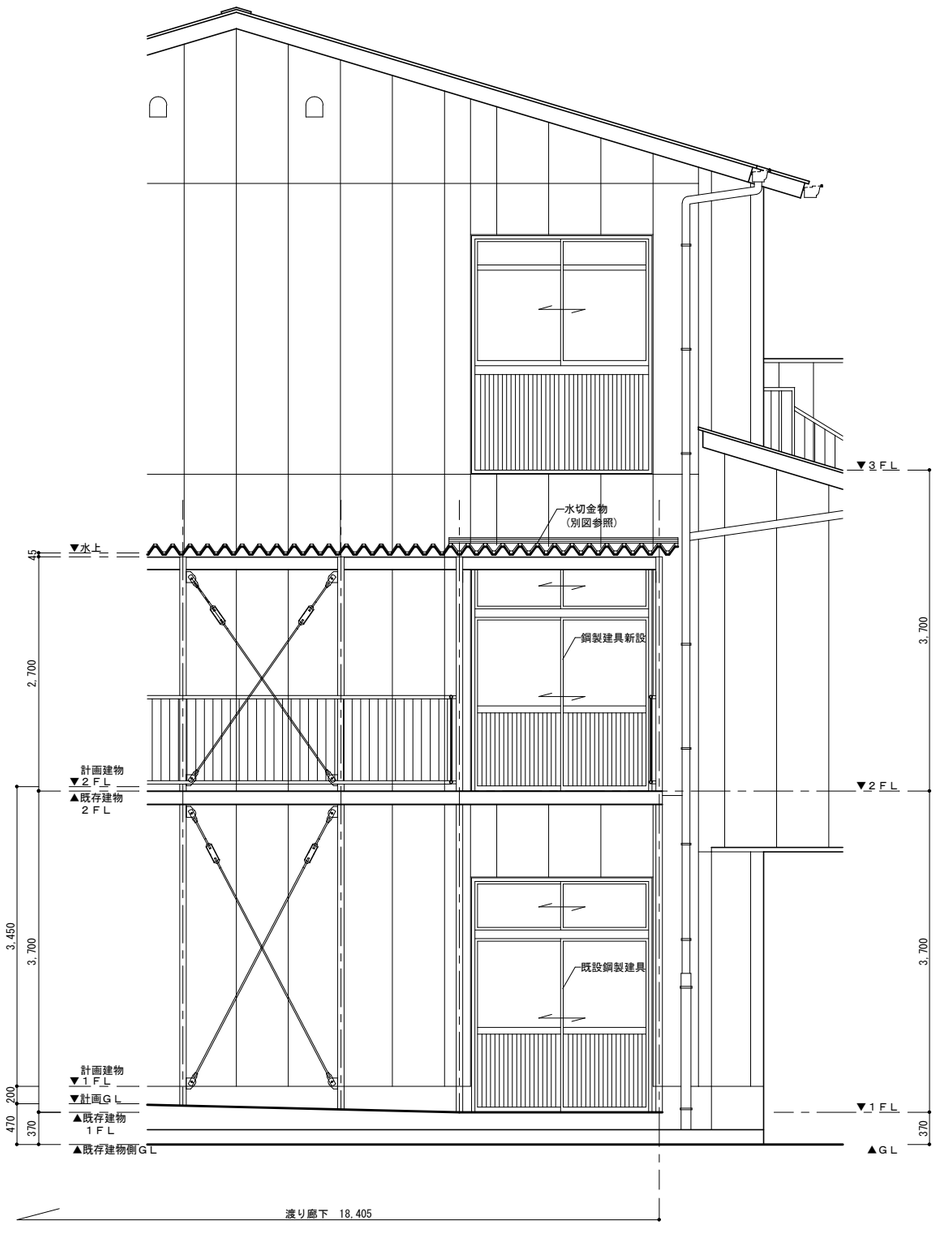


改修１階平面詳細図　　1：50

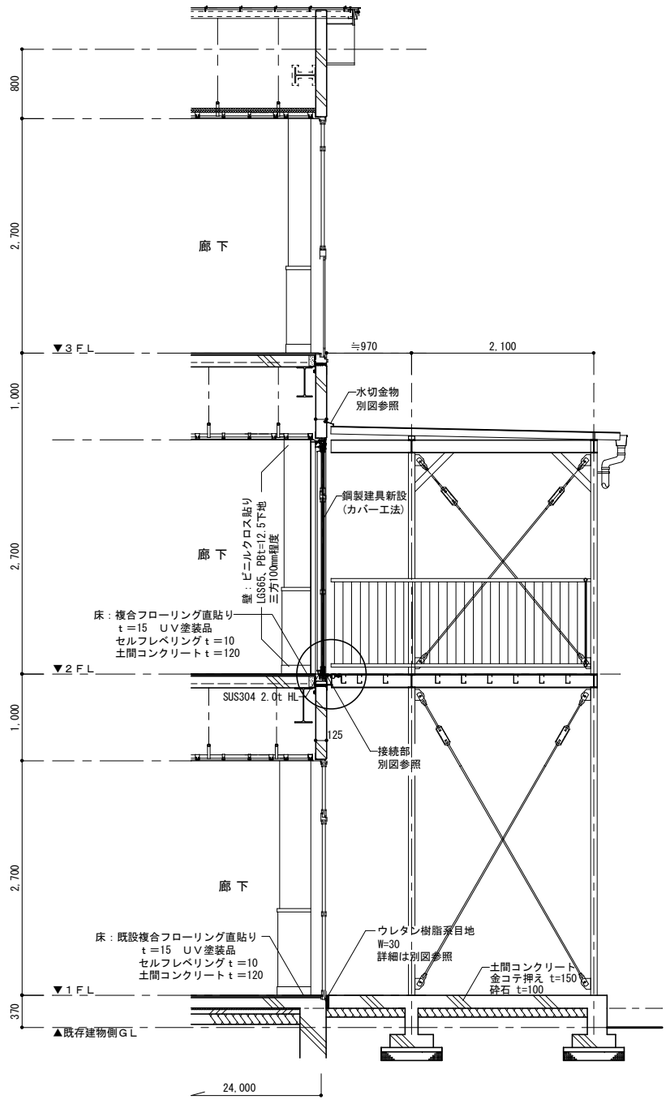


改修２階平面詳細図　　1：50

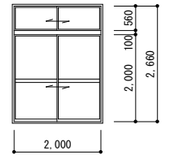
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	既設校舎　改修平面詳細図･矩計図	1:50	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ａ－３７



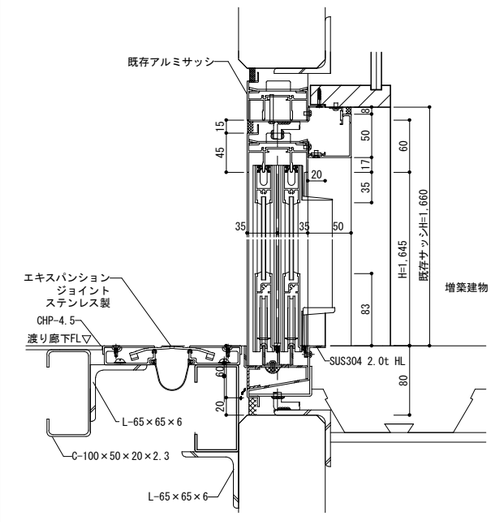
改修　接続部立面図　1：50



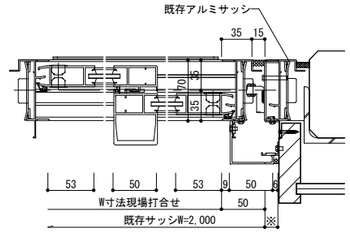
改修　接続部矩計図　1：50

建具表	1：50
記号	AD/1　1ヶ所
姿図	
部屋名	2階　廊下
型式	アルミ製ランマ付引き違い戸(カバー工法)
見込	70
仕上	高耐候性電着クラヤー塗装　ＡＬＣ用サッシ
ガラス	強化ガラスt=4（スクールテンパー　透明）、 腰：アルミパネルｔ=3
金物	クレセント、戸車、水切り、アングルピース、
沓摺／額縁	ＳＵＳ敷居ｔ=2.0　ＨＬ
備考	その他付属金物一式

AD-1　新設建具　断面詳細図　1：5



AD-1　新設建具　平面詳細図　1：5



PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	改修　接続部立面図･矩計図	1:50	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	A－３８

§１ 一 般 事 項

選択項目は ⊙ 印による。

1－1 使用材料は原則としてＪＩＳ規格品、又は大臣認定品とする。

1－2 設計図書の優先順位は下記による。

1） 本特記仕様書

2） 設計図

3） 標準図 ⊙鉄筋コンクリート構造配筋標準図 ⊙鉄骨工作標準図
~~・鉄骨鉄筋コンクリート構造標準図 ・高強度せん断補強筋施工仕様書~~
~~・鉄筋コンクリート壁式構造標準配筋図~~

~~4） 共通仕様書（・公共建築協会 ・日本建築学会 ・日本建築家協会 ）~~

5） ＪＡＳＳ５、ＪＡＳＳ６

1－3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1－4 構造関係材料及び各種試験成績・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査費用は工事費に（ ⊙含む ・含まない ）

1－5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事管理者の承諾を得る。

1－6 梁貫通位置、径、及び箇所数は（ ・意匠図 ・構造図 ・設計図 ）による。

◯ 1－7 その他 ＪＳＳの「建築用ターンバックル筋かい設計施工指針・同解説」を参考にする

§２ 仮 設 工 事

§３ 土 工 事

3－1 山留め、根切り

3－2 埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土 ⊙根切り土の中の良土 ・搬入良土

盛土 ・根切り土の中の良土 ⊙搬入良土

残土処分 ・場内地均し ⊙場外搬出処分（ ⊙自由 ・指定場所 ）

§４ 地 業 工 事

4－1 基礎及びスラブ下地業（単位 mm）

場所		均しコンクリート厚さ *(1)	A：砕石 B：割栗石	厚さ
基礎	独立、布	⊙50 ・60 ・100	⊙A ・B	・60⊙100・150・
	ベタ	・50 ・60 ・100	・A ・B	・60・100・150・
	地中梁	⊙50 ・60 ・100	⊙A ・B	・60⊙100・150・
構造スラブ		・50 ・60 ・100	・A ・B	・60・100・150・
土間スラブ	屋内	・50 ・60 ・100	⊙A ・B	・60⊙100・150・
	屋外	・50 ・60 ・100	・A ・B	・60・100・150・

注（1） アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は１００以上とする。

（2） 端部aは１００以上とする。

4－2 設計地耐力 長期 40 kN/m² 短期 80 kN/m² 終局 kN/m²

地耐力載荷試験 ・行う（ 箇所、長期設計耐力の３倍を確認する） ⊙行わない

~~4－3 地盤改良~~

・無筋コンクリート地業 ・締固め工法 ・ソイルセメント杭

・セメント系固化材撹拌 ・圧密排水工法

［・載荷試験 ・一軸圧縮試験 ］ ・行う（ 箇所） ・行わない

［・六価クロム溶出試験 ］ ・行う ・行わない

4－4 既成コンクリート 1杭

1） 杭種

⊙ＰＨＣ杭 ⊙Ａ種 ⊙Ｂ種 ・Ｃ種

・ＳＣ杭 t mm ・ ・ ・

・ＰＲＣ杭 ・Ⅰ種 ・Ⅱ種 ・Ⅲ種 ・Ⅳ種

・節杭 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種

2） 工法

・打撃工法 ・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー

⊙埋込み工法 ・プレボーリングセメントミルク注入工法

⊙プレボーリング拡大根固め工法（認定工法）

杭周固定液 ・あり ・なし

・中堀拡大根固め工法（認定工法）

・回転埋設根固め工法（認定工法）

3） 杭径、設計耐力

杭径（拡底部）mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	備考
350（ ）	230	460		
（ ）				
（ ）				
（ ）				

4） 杭の構成表

杭径（拡底部）mm	上杭 長さ	上杭 種別	中杭 長さ	中杭 種別	下杭 長さ	下杭 種別	全長 m	本数
350（ ）	7.0	Ｂ	11.0	Ａ	11.0	Ａ	29.0	20
（ ）								
（ ）								
（ ）								

5） 杭頭補強

・かご筋 ⊙スタッド溶接 ・杭外周溶接

4－5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1） 工法

・ アースドリル工法 ・ 拡底アースドリル工法（認定工法）

・ リバース工法 ・ オールケーシング工法（・ベノト工法・ ）

・ ＢＨ工法

2） 杭径、設計耐力、本数表（拡底部は施工径を示す）

杭径（拡底部）mm	管厚mm	長期 MN	短期 MN	終局 MN	本数	備考
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						

3） 杭先端深さ GL－ m

4） 孔壁測定（2方向）

・ 行う （・ 全数 ・ %） ・ 行わない

5） 使用材料

コンクリート Ｆc （・普通ポルトランドセメント・高炉セメント Ｂ種）

鉄筋 ・Ｄ 以下 ＳＤ２９５Ａ ・Ｄ 以上 ＳＤ３４５

・Ｄ 以上 ＳＤ３９０

鋼管（リブ付き）・ＳＫＫ４００ ・ＳＫＫ４９０

4－6 鋼管杭、その他特殊杭

1）杭種

材種

2）工法

・打撃工法（・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ） ・埋込み工法

3）杭径、設計耐力、本数表

杭径（拡底部）mm	管厚mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備考
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						

4－7 杭打地業共通事項

1）［・杭長決定用先行杭 ・試験掘 ］ ・行う（ 本） ・行わない

2）載荷試験 ・行う（ 箇所、長期設計耐力の３倍を確認する） ・行わない

3）ＳＬ塗布 ・行う ・行わない

§５ 鉄 筋 工 事

5－1 材種

種類	径			継手
⊙ＳＤ２９５Ａ	Ｄ16以下			⊙重ね継手 ・スパイラル ・工場溶接
・ＳＤ３４５	Ｄ19以上			・重ね継手 ・溶接継手 ・機械継手
・ＳＤ３９０	Ｄ 以上			・溶接継手 ・機械継手
・溶接金網				・重ね継手
・高強度せん断補強筋	・１２７５級	Ｐ		・重ね継手 ・スパイラル ・工場溶接
	・ ７８５級	Ｋ		
	・ ６８５級	UD	UR	

溶接継手 ・ガス圧接 ・突き合わせ溶接（Ｄ16以下は重ねアーク溶接でも可）

~~5－2 溶接部の検査（第三者機関による）~~

・抜き取り検査

・引張り試験（ＪＩＳＺ３１２０）

１検査ロットにつき ・３本

・超高音波探傷試験（ＪＩＳＺ３０６２） ・熱間押抜き試験

１検査ロットにつき ・３０箇所

不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。１探査ロットは１組の作業班が１日に施工した溶接箇所の数量で２００箇所以内

~~5－3 梁貫通補強~~

補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。

5－4 その他

鉄筋の組み立ては適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを２回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設後に工事管理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§６ コ ン ク リ ー ト 工 事

6－1 設計基準強度（N/mm²）

1）セメント ⊙普通ポルトランドセメントＪＩＳＲ５２１０ ・高炉セメントＢ種

2）粗骨材 ・砂利 ⊙砕石 ・高炉スラグ

最大径（mm） ⊙20 ・25 ・40

3）躯体（使用区分は設計図の軸組図に示す）

・普通コンクリート

・Ｆc18 ⊙Ｆc21 ・Ｆc24 ・Ｆc27 ・Ｆc30 ・Ｆc

・軽量コンクリート（・1種 ・2種 比重 ・1．85 ・1．55）

・ＬＦc18 ・ＬＦc21 ・ＬＦc24 ・ＬＦc27

4）土間コンクリート ⊙Ｆc21（ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）

5）均しコンクリート ⊙Ｆc18

6）防水押さえコンクリート ・Ｆc ・ＬＦc （比重・1．85 ・1．55）

7）かさ上げコンクリート ・Ｆc18 ・ＬＦc （比重・1．85 ・1．55）

6－2 混和材 ⊙ＡＥ減水剤 ・高性能ＡＥ減水剤 ・躯体防水材

6－3

箇所		基礎・地中梁	一般		備考
スランプ	cm	15	18		
水セメント比	%	65以下	65以下		65以下
単位水量	kg/m³	185以下	185以下		185以下
単位セメント量	kg/m³	270以上	270以上		270以上

6－4 試験（躯体コンクリートの２８日圧縮試験は公的機関において行う）

1） 骨材 ［⊙塩分含有量 ・アルカリシリカ反応性］ ・行う ⊙行わない

2） フレッシュコンクリート ［⊙スランプ ⊙空気量］ ⊙行う ・行わない

3） 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ・行う ⊙行わない

6－5 調合強度は下記の両式を満足するものとする。（補正値Ｔは工事費に含む）

Ｆ２８≧ＦＣ＋Ｔ＋ΔＦ＋1．73σ Ｆ２８≧0．85（ＦＣ＋Ｔ＋ΔＦ）＋3σ

6－6 せき板及び支柱の存置期間（普通ポルトランドセメントの場合）

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁下
コンクリートの材種による場合	15℃以上	3日	17日	28日
	5℃以上	5日	25日	
	0℃以上	8日	28日	
圧縮試験による場合		5N/mm²	0．85Fc又は12N/mm²	設計強度

6－7 プレストレストコンクリート工事は別記特記仕様書による。

§７ 鉄 骨 工 事

7－1 材種及び使用箇所 使用箇所詳細は、鉄骨部材リストによる

規格名称	鋼材名	柱	ベースプレート	内ダイヤ	大梁	ブレース	小梁 他
一般構造用圧延鋼材	⊙ＳＳ４００		○		○	○	○
溶接構造用圧延鋼材	・ＳＭ４００Ａ ・ＳＭ４９０Ａ						
建築構造用圧延鋼材	・ＳＮ４００Ａ						
	・ＳＮ４００Ｂ ・ＳＮ４９０Ｂ						
	・ＳＮ４００Ｃ ⊙ＳＮ４９０Ｃ						
一般構造用角形鋼管	⊙ＳＴＫＲ４００ ・ＳＴＫＲ４９０	○					
冷間成形角形鋼管	・ＢＣＲ２９５						
	・ＢＣＰ２３５ ・ＢＣＰ３２５						
熱間成形角形鋼管	・ＳＨＣ４００Ｂ ・ＳＨＣ４００Ｃ						
一般構造用炭素鋼管	・ＳＴＫ４００ ・ＳＴＫ４９０						
一般構造用軽量形鋼	・ＳＳＣ４００	○					○
	・						

~~7－2 高力ボルト~~ 使用箇所詳細は、鉄骨部材リストによる

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	⊙Ｓ１０Ｔ	全般
ＪＩＳ形高力ボルト	・Ｆ１０Ｔ	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	・Ｆ８Ｔ	母材が亜鉛メッキされている部分

7－3 普通ボルト、アンカーボルト

1） 材質 間柱 ⊙ＳＳ４００・ＳＳ４９０（Ｍ 以上） 主柱 ⊙ＳＮＲ４００・ＳＮＲ４９０（Ｍ 以上）

2） 大臣認定注脚（メーカー仕様による） ・使用する ⊙使用しない

~~7－4 頭付きスタット~~

径	長さ（mm）	使用箇所
16φ	・ 80 ・100 ・120 ・150 ・	
19φ	・ 80 ・100 ・120 ・150 ・	
22φ	・100 ・120 ・150 ・ ・	

7－5 溶接材料

1） アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2） ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7－6 スラカップ形状 ⊙スカラップ工法 ・ノンスカラップ工法

7－7 継手

	柱		梁	
フランジ	・高力ボルト	・現場溶接	⊙中ボルト	・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト	・現場溶接	⊙中ボルト	・現場溶接

7－8 溶接手法及び管理

使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、

専任の管理技術者により管理を行うこと。

7－9 デッキプレート（単位mm）

1） 床用

2） 合成スラブ用 高さ ・ 板厚

3） 型枠用 高さ ・ 板厚 ・ 形状 タイプ

7－10 錆止め塗装（工場塗１回、現場塗１回を原則とする）

1） 素地こしらえ ・ フラスト ⊙ ケレン

2） 錆止め塗料

塗料		塗付量（kg/m）² ・1種	・2種	適用
⊙一般用錆止めペイント	ＪＩＳＫ５６２１	0．11		室内
・鉛丹錆止めペイント	ＪＩＳＫ５６２２	0．19	0．14	・ 室内
・シアナミド鉛錆止めペイント	ＪＩＳＫ５６２５	0．11	0．10	・ 室外
・				

3） 溶融亜鉛メッキ ・ 行う ⊙ 行わない

7－11 溶接部の検査

1） 外観及び表面欠陥の検査は原則として目視により、すべての溶接部に対して行う。

2） 柱、梁のフランジ完全溶込み溶接部の内部欠陥の検査は原則として超音波探傷検査による。

3） 検査方法及び合否判定は日本建築学会編「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」による。

4） 工場溶接に対し第三者機関による検査箇所数は下表による（但し社内検査は１００%行う）。

検査段階	1	2	3
検査箇所表	30%以上	60%以上	100%
第 1 節	スタート → ○ → ○		
第 2 節	○ → ○ → ○		
第 3 節	以下、上記の方法を繰り返す。		

○ ← ○ 不合格率 5%未満の場合

○ ⇐ ○ 〃 5%以上の場合

5） 現場溶接の場合は第三者機関による検査を１００%行う。

6） 不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

7－12 鉄骨製作工場

全構造（グレード）					
S	H	M	R	J	

§８ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板・ＰＣa板工事

8－1 コンクリートブロック A図特記仕様書による

1）種類 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種

2）厚さmm ・100 ・120 ・150 ・190

8－2 ＡＬＣパネル

1）使用箇所 ・床 ・屋根 ・外壁 ・内壁

2）厚さmm ・75（80） ・100 ・120 ・150 ・175

3）外壁取り付け構法

方向	構法	使用箇所	備考
縦	・スライド構法		
	・ロッキング構法		
横	・カバープレート構法		
	・ボルト止め構法		

8－3 押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さmm ・

方向	構法	使用箇所	備考
縦	・ロッキング構法		
横	・スライド構法		

8－4 ＰＣa板

1）床及び屋根 ・床 ・屋根

・ＰＣa板単独 厚さmm ・

・合成板

ＰＣa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備考

2）外壁 厚さ（mm） ・

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	構造特記仕様書	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

株式会社 尾川建築設計事務所
一級建築士 第216100号 尾川 佳永

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§１　一般事項

１－１　基本事項

１．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。

２．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書１－２－４に
　指定した共通仕様書による。

３．本標準図は異形鉄筋を対象とし、ｄは呼び名に用いた数値とする。

４．本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

１－２　その他

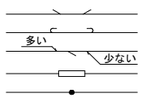
§２　共通事項

２－１　鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記　号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎	⊕	◆	⊠
呼び径　d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径　D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○　フックのない場合
○　フックのある場合
○　本数に差がある場合
○　機械式継手表示
○　溶接継手表示
　（ガス圧接、突き合せ溶接）



２－２　鉄筋の折り曲げ

鉄筋末端部

曲げ角度	図	鉄筋の種類	折り曲げ内法直径（D）	
180°	d　D　余長 4ｄ以上	SD295A SD345	D16以下	3ｄ以上
			D19～D38	4ｄ以上
135°	d　D　余長 6ｄ以上		D41	5ｄ以上
90°	d　D　余長 8ｄ以上（10ｄ）	SD390	D16～D41	5ｄ以上

（）は梁の主筋の折り曲げ定着

○　片持スラブの上端筋の先端、壁の自由端に用いる先端及び補助筋の先端は
　余長４ｄ以上でよい。

鉄筋中間部

折り曲げ角度	図	鉄筋の仕様箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	折り曲げ内法直径（D）
90°以下	d　D	帯筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	SD295A	D16以下	3ｄ以上
				D19	4ｄ以上
			SD345		
	d　D	柱、梁、壁 スラブ 基礎梁 などの主筋	SD295A	D16以下	4ｄ以上
			SD345	D19～D25	6ｄ以上
			SD390	D29～D41	8ｄ以上

２－３　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（N／mm2）	重ね継手の長さ（Ｌ１）	定着の長さ 一般（Ｌ２）	定着の長さ 下端筋（Ｌ３） 小梁 片持スラブ	定着の長さ 下端筋（Ｌ３） スラブ
SD295A SD345	１８	45ｄ　又は 35ｄフック付き	40ｄ　又は 30ｄフック付き	25ｄ　又は 15ｄフック付き	10ｄ　かつ 150以上
	２１、２４（２７）	40ｄ　又は 30ｄフック付き	35ｄ　又は 25ｄフック付き		
	２７、３０ ３３、３６	35ｄ　又は 25ｄフック付き	30ｄ　又は 20ｄフック付き		
SD390	２１、２４（２７）	45ｄ　又は 35ｄフック付き	40ｄ　又は 30ｄフック付き		
	２７、３０ ３３、３６	40ｄ　又は 30ｄフック付き	35ｄ　又は 25ｄフック付き		
コンクリートの割裂のおそれのある部分への定着はＬ１とする。					

１．柱、梁の主筋の継手は重ね継手とする。

２．末端のフックは、定着及び重ねの長さには含まない。

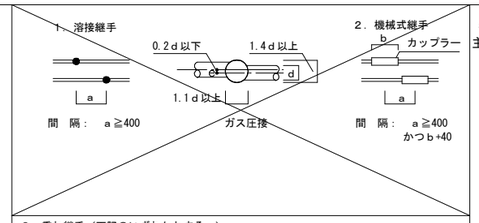
３．直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細いほうの鉄筋の継手長さによる。

４．耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着（Ｌ２）、上端筋は25ｄとする。

５．（　）内は軽量コンクリートの場合を示す。

６．軽微な個所については、工事監理者の承諾を得て定着長さを20ｄ程度とすることができる。

２－４　継手一般



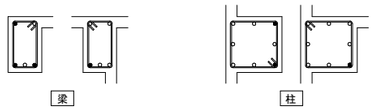
３．重ね継手（下記のいずれかとする。）

２－５　鉄筋のフック

○　下記の１．～７．に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

１．あばら筋及び帯筋　　２．煙突の鉄筋

３．柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



上図の● 印の鉄筋の末端にはフックが必要。

４．単純梁の下端筋、片持ちスラブの上端筋の先端

５．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋

６．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭２本打以上の場合）

７．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

２－６　鉄筋のあき

○　鉄筋のあきａは原則として下記による。
　呼び名の数値ｄの1.5倍以上
　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上　　かつ25以上
　※　溶接継手、機械式継手の場合のDはスリーブ又はカップラーの径とする。

○　鉄筋径が異なる場合は大きい方による。

２－７　かぶり厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部位			かぶり厚さ 仕上げあり	かぶり厚さ 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30（20）	30（20）
		屋外	30（20）	40（30）
	柱 梁 耐力壁	屋内	40（30）	40（30）
		屋外	40（30）	50（40）
	擁壁		50（40）	50（40）
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り			50（40）●●
	基礎・擁壁			70●●（60）

１．（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。

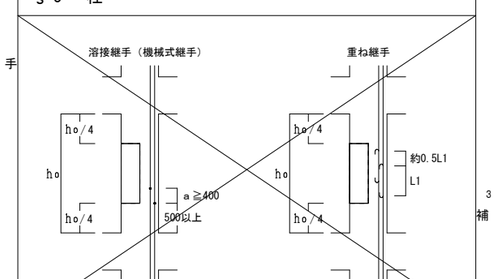
２．仕上げあり　とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。

３．※　軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。

４．柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

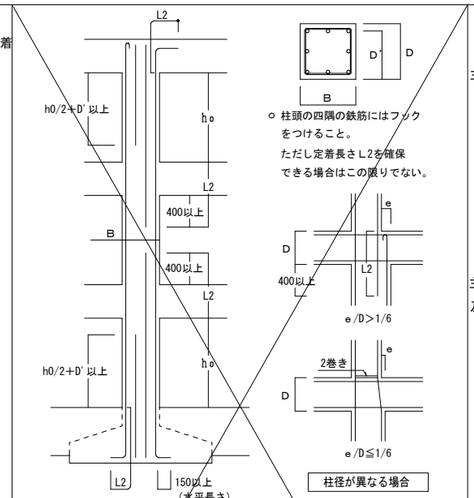
§３　柱

３－１　主筋の継手



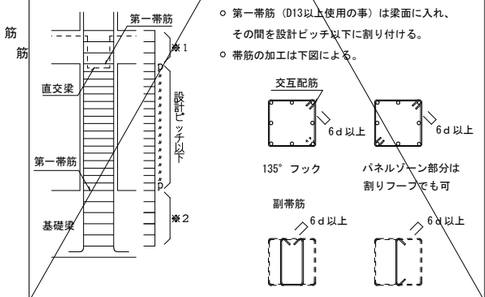
○　□ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。

３－２　主筋の定着



○　柱頭の四隅の鉄筋にはフックをつけること。
　ただし定着長さL2を確保できる場合はこの限りでない。

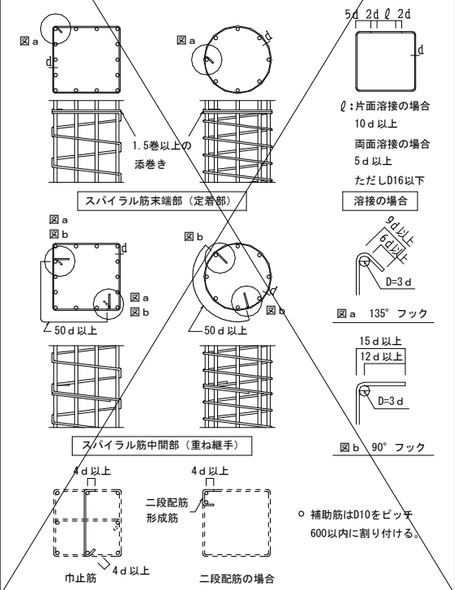
３－３　帯筋　副帯筋



○　第一帯筋（D13以上使用の事）は梁面に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
○　帯筋の加工は下図による。

○　パネルゾーンの帯筋は設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯筋量(pw)は0.2%以上とする。
※１．設計ピッチの1.5倍以下とする。　▭ 形以上の場合は同径同材質で
　▭ 形@100以下とする。
※２．基礎梁部分は、同径で　▭ 形@150以下とする。

○　スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
１．末端は1.5巻以上の添巻きをし、図ａのフックをつける。
２．重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図ａ又は図ｂのフックをつける。

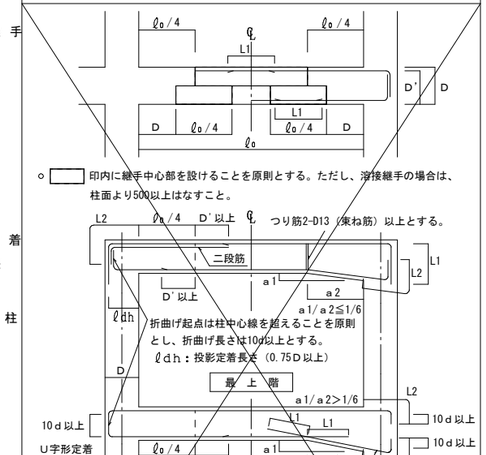


３－４　補助筋

○　補助筋はD10をピッチ600以内に割り付ける。

４－１　主筋の継手

§４　梁

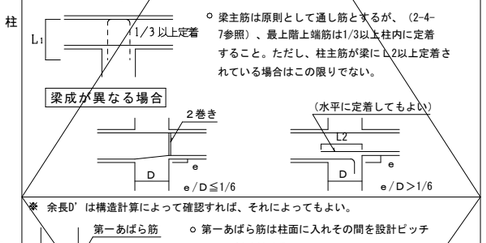


○　□ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし、溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。

４－２　主筋の定着及び余長

外柱

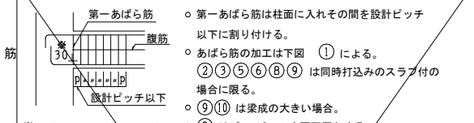
中柱



○　梁主筋は原則として通し筋とするが、（2-4-7参照）、最上階上端筋は1/3以上柱内に定着すること。ただし、柱主筋が梁にL2以上定着されている場合はこの限りでない。

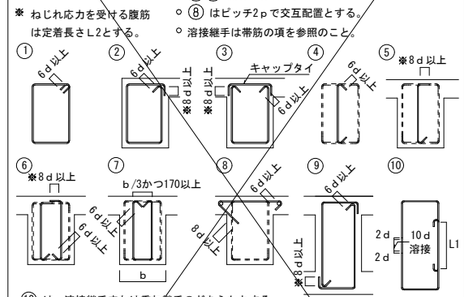
※　余長D'は構造計算によって確認すれば、それによってもよい。

４－３　あばら筋　副あばら筋



○　第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
○　あばら筋の加工は下図　①　による。
　②③⑤⑥⑧⑨　は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
○　⑨⑩　は梁成の大きい場合。
○　⑧　はピッチ2ｐで交互配置とする。
○　溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

※　ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さＬ2とする。



⑩　は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。

※　柱面より梁成1.5Dの範囲は、180°又は135°フックとする。

４－４　補助筋

	D＜６００　不要
腹筋	６００≦D＜９００　2-D13（１段）
	９００≦D＜１２００　4-D13（２段）
	１２００≦D　D13@300以内
巾止筋	D10@1000以内で割り付ける。
受筋 つり筋	D10@1000以内で割り付ける。

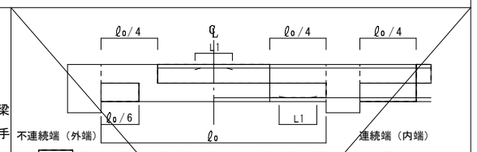
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK	PAGE
二上小学校増築工事	鉄筋コンクリート造配筋標準図（１）	1:100	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	B-2

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

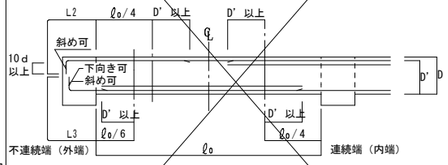
4－5 小梁及び片持梁

a）小梁継手



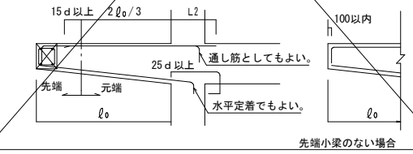
○ □ 印内に継手中心部を設けること。ただし、溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

定着



b）片持梁定着継手

○ 下端筋は水平定着でも可。上端筋には継手を設けてはならない。

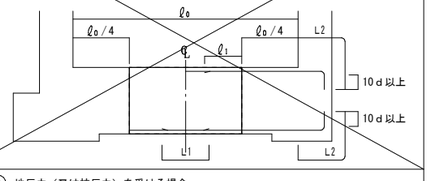


4－6 基礎梁及び基礎小梁

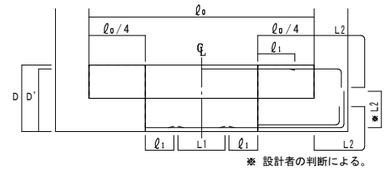
※ 地反力を受ける梁は設計図に示す。

① 地反力を受けなく、床など上載荷重を受ける場合は(4-1)(4-2)による。
ただし、余長は $\ell_1 \geq \{\ell_1 \geqq \min(D', L_2)\}$ とする。

② 地反力及び上載荷重を受けない場合。



③ 地反力（又は杭反力）を受ける場合

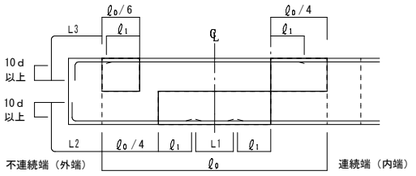


※ 設計者の判断による。

b）基礎小梁の継手及び定着

① 地反力を受けない場合は（4-5）による。

② 地反力を受ける場合

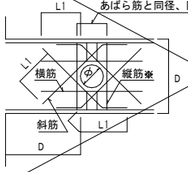


○ □ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より500以上はなすこと。

4－7 梁の貫通補強

1．補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。

2．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



○ 梁貫通孔は梁成の1/3以下とする。

○ 孔が複数の場合は中心間隔を径（Φ）の3倍以上とする。
また位置は原則として柱面から梁成D以上はなし、梁成の中央D/2の範囲内とする。

○ Φが100かつD/8未満のとき、補強を必要としないが、あばら筋を切断してはならない。

○ ※ 縦筋はあばら筋加工とする。

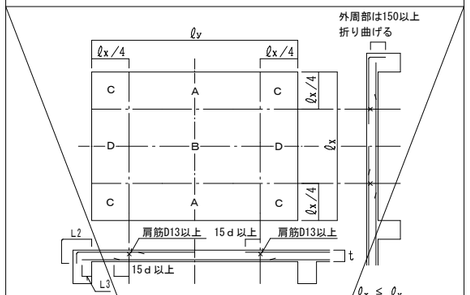
5－1 鉄筋の折り曲げ及び定着

5－2 継手

5－3 片持ちスラブ

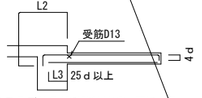
5－4 補強筋

§5 スラブ

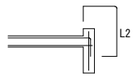


継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。

		標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B	D
	長辺方向	A	B
下端筋	短辺・長辺方向	A	C　D

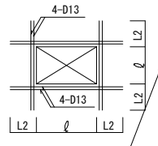


片持ちスラブ隅角部補強筋は設計図による。

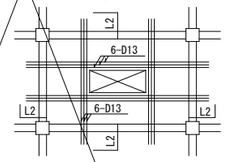


開口補強　A：開口面積

$A \leqq 0.3m^2$ かつ $\ell \leqq 0.6m$

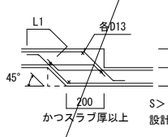


$0.3m^2 < A \leqq 1.0m^2$ かつ $\ell \leqq 1.0m$



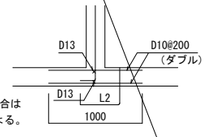
注）スラブ筋を切断しない場合は補強を要しない。

段違床

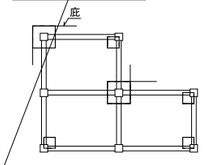


S＞tの場合は設計図による。

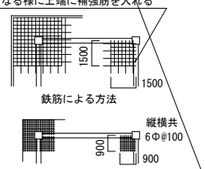
ＲＣ壁・ＣＢ壁が床にのる場合



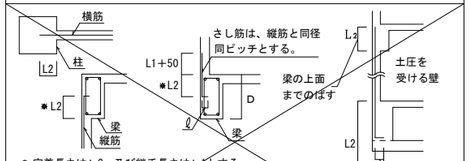
屋上スラブ隅角補強



スラブ筋と同径で1/2ピッチ以下（≒@100）程度となる様に上端に補強筋を入れる



§6 壁



○ 定着長さはL2、及び継手長さはL1とする。
※ ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の外側にくる場合は、折り曲げ、定着長さはL2かつD/2以上とする。（通し配筋の場合は不要）

○ 土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は上図による。

○ 継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は5-2項の土圧面側を上端筋側に読み替える。

6－1 定着及び継手

6－2 標準壁リスト

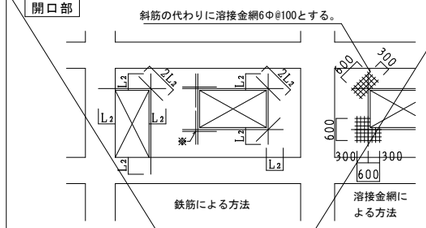
特記なき壁の配筋は下表による。

符号	壁厚	縦筋・横筋	開口部補強筋 縦・横・斜筋共
W10	100	D10 @200（ｼﾝｸﾞﾙ）	1-D13
W12	120	D10 @200（ｼﾝｸﾞﾙ）	1-D13
W15	150	D10 @150（ｼﾝｸﾞﾙ）	2-D13
W18	180	D10 @200（ﾀﾞﾌﾞﾙ）	4-D13
W20	200	D10 @200（ﾀﾞﾌﾞﾙ）	4-D13
CB		D10 @400（ｼﾝｸﾞﾙ）	

○ ダブル配筋では巾止筋を縦横共D10@1000以内を標準とする。

6－3 補強筋

開口部

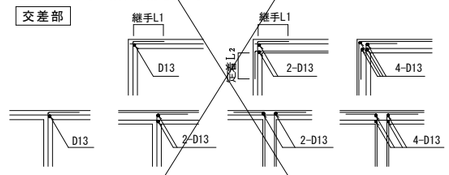


○ ※ 斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計者の指示による。

○ 斜筋は外側に配置する。

○ 壁筋を切断しない場合は補強を要しない。

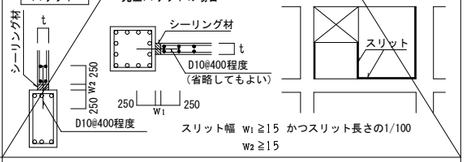
交差部



端部

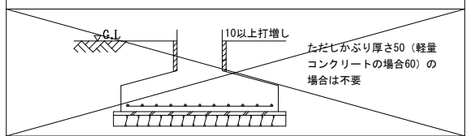
○ 開口補強筋はリストによる

スリット



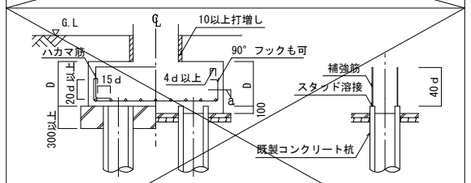
§7 基礎

7－1 独立基礎



7－2 杭基礎

図面による



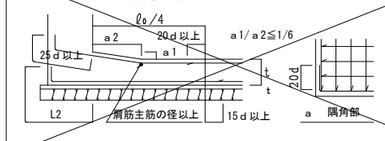
○ 1本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要

○ 杭頭補強筋は設計図による。

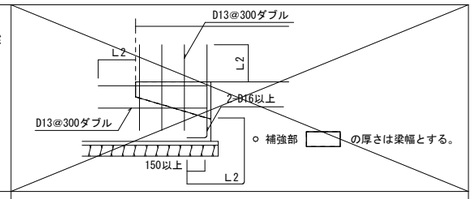
○ 杭頭を切断した場合の補強は、設計者の指示による。

7－3 ベタ基礎継手及び定着

継手位置は5-2項の上端筋を下端筋に読み替える。

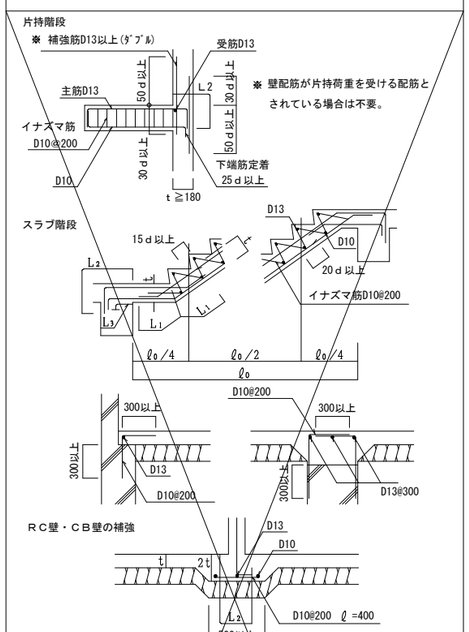


7－4 基礎と基礎梁



§8 その他

8－1 階段



8－2 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ

8－3 打増し補強

8－4 増築予定

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	鉄筋コンクリート造配筋標準図（２）	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

PAGE B－3

鉄　骨　工　作　標　準　図　（１）

§１　一般事項

1－1 基本事項

1）　使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2）　設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書による。
3）　製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
4）　本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1－2 その他

§２　共通事項

2－1 略号

- ＡＢ ―― アンカーボルト
- ＢＰℓ ―― ベースルレート
- ＤＦＰℓ ―― ダイヤフラム
- ＦＰℓ ―― フランジプレート
- ＨＴＢ ―― 高力ボルト
- ＳＰℓ ―― スプライスプレート
- ＷＰℓ ―― ウェブプレート
- ＢＨ ―― 組立てＨ形鋼
- ＣＨＥ ―― チェッカープレート
- ＦＢ ―― フラットバー
- ＧＰℓ ―― ガセットプレート
- ＲＰℓ ―― リブプレート
- ＴＢ ―― ターンバックル
- Ｗ1-9 ―― 溶接記号（§4参照）

§３　ボルト接合

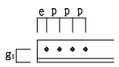
3－1 ボルト

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	ボルトの締付け長さ
M16	ボルトで締め付ける板の総厚は、径の５倍以下とする
M20	
M22	
M24	

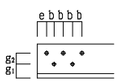
1．　すべてボルトはＦ４Ｔとする。
2．　本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならまい。
3．　ボルトは全て「戻り止め（ダブルナットまたは、スプリングワッシャ）」処理を行う

3－2 ボルトのピッチ



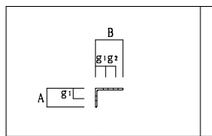
呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	p	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん段縁、手動ガス切断縁		28	34	38	44
	圧延縁、自動ガス切断縁等		22	26	28	32

（）内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

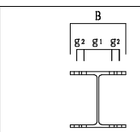


ゲージ	千鳥打ちのピッチb	
g3	M16,20,22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

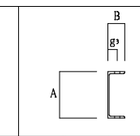
3－3 形鋼のゲージ



A or B	g1	g2	最大軸径
**50	30		16
60	35		16
65	35		20
70	40		20
75	40		22
80	45		22
90	50		24
100	55		24
125	50	35	24
130	50	40	24
150	55	55	24
175	60	70	24
200	60	90	24



B	g1	g2	最大軸径
*100	60		16
125	75		16
150	90		22
175	105		22
200	120		24
250	150		24
*300	150	40	24
350	140	70	24
400	140	90	24



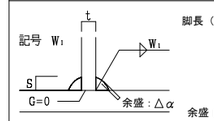
B	g3	最大軸径
**50	30	16
65	35	20
70	40	20
75	45	22
80	50	24
90	55	24
100	55	24

＊ B=300は千鳥打ちとする。
＊＊ 印の欄のｇ及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

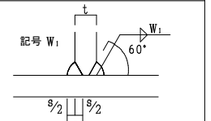
4－1 隅肉溶接

§４　溶接接合

t ≦ 16							16 ＜ t ≦ 40						
t	6 以下	9	12	14	16		t	19	25	28	32	36	40
S	t	7	9	10	12		S	13	15	17	19	21	24



脚長（S）0 ≦ΔS≦ 0.5S
かつ ΔS ≦ 5
ΔS ＝ S' － S
S＝設計サイズ
S'＝実際サイズ
余盛 0≦Δα≦0.4S かつ Δα≦4

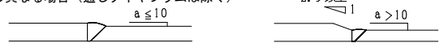


断続隅肉溶接の長さＬ

Ｌ≧10Sかつ40以上

4－2 完全溶込み溶接（突合せ溶接）

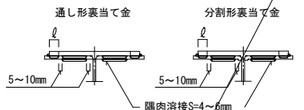
1）板厚の異なる場合（通しダイヤフラムは除く）



クレーンガーダーの場合は、全て2.5以上の勾配をとる。

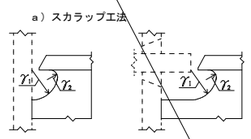
2）エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さ ℓ は35以上かつ薄い方の板厚の2倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5～10mm はなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



3）開先加工　（下図は参考とする）

a）スカラップ工法



- スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。γ1は35程度、γ2は10程度とする。なお複合円は滑らかに仕上げること。
- 完全溶込み溶接部以外のスカラップはγ=25程度とする。

~~b）ノンスカラップ工法~~

4）開先形状

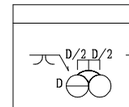
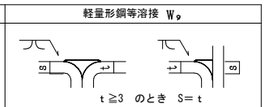
記号	形状	適用板厚		寸法 アーク手溶接	寸法 ガスシールド及びセルフシールドアーク手溶接
W2 MC-BL-B1 GC-BL-B1	裏当て α1 R T 9以上 19以上 （T≦12の場合は6以上）	6≦T≦12	G	7 +2 −2	6 +2 −2
			R	2 +1 −2	2 +1 −2
			α1	45° −5°	45° −5°
		12＜T	G	9 +2 −2	7 +2 −2
			R	2 +1 −2	2 +1 −2
			α1	35° −5°	35° −5°
W3 MC-BL-2 GC-BL-2	裏はつり α1 R T G ℓ	6≦T≦19	G	0 +4 −0	0 +3 −0
			R	2 +2 −2	2 +2 −2
			α1	45° −5°	45° −5°
W4 MC-BK-2 GC-BK-2	裏はつり α1 d1 R T G ℓ α2 d2	16＜T	G	0 +4 −0	0 +3 −0
			d1	2/3(T−R)	2/3(T−R)
			R	2 +3 −2	2 +2 −2
			d2	1/3(T−R)	1/3(T−R)
			α1	45° −5°	45° −5°
			α2	60° −5°	60° −5°
W5 MC-BI-B1 GC-BI-B1	裏当て T G FB-4.5X19	3～6	G	T－2	T－2
		6～9	G		6－2

MC･･･はアーク手溶接　GC･･･はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4－3 部分溶込み溶接

片面溶接 W6 12≦ t ≦40											両面溶接 W7 16≦ t ≦40
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40		
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16		D=(t-2)/2
t/4≦S≦10											

4－4 フレア溶接

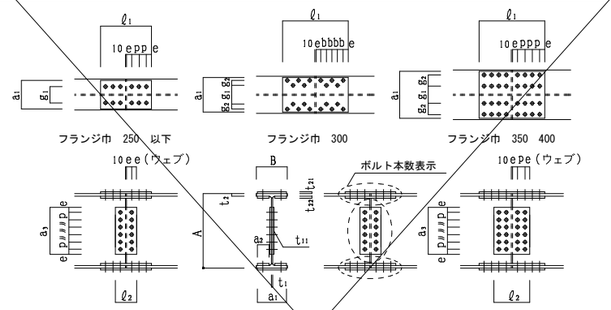
丸鋼等溶接 We	軽量形鋼等溶接 We
	

4－5 その他

加工工程中及び現場建方後においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

5－1 継手リスト

§５　継　手

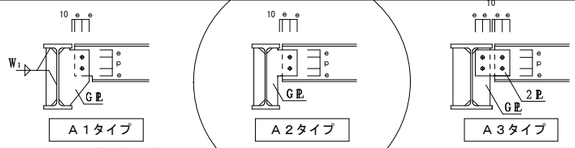


材種	主材	高力ボルト径	フランジ ボルト	フランジ 外側添板	フランジ 内側添板	ウェブ ボルト	ウェブ 添板	ピッチ
	H－A × B × t1 × t2 BH－A × B × t1 × t2		総本数	2PL－t21 X a1 X ℓ1	4PL－t22 X a2 X ℓ1	総本数	2PL－t11 X a3 X ℓ2	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	

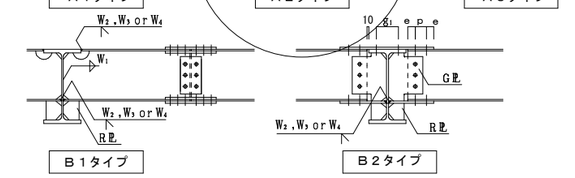
1．フランジＰＬ面もしくはウェブＰＬ面で、段差1mmを超える場合は、フィラーＰＬを入れて調整すること。
2．ａ3は原則として梁成の2/3以上確保すること。

5－2 小梁仕口

ピン接合 Aタイプ



剛接合 Bタイプ



1．ＧＰＬ、ＲＰＬは材種・版厚とも小梁のＷＰＬと同等以上とする。
2．継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	鉄骨工作標準図（１）	1:100	2010.9	10018		山縣	尾川

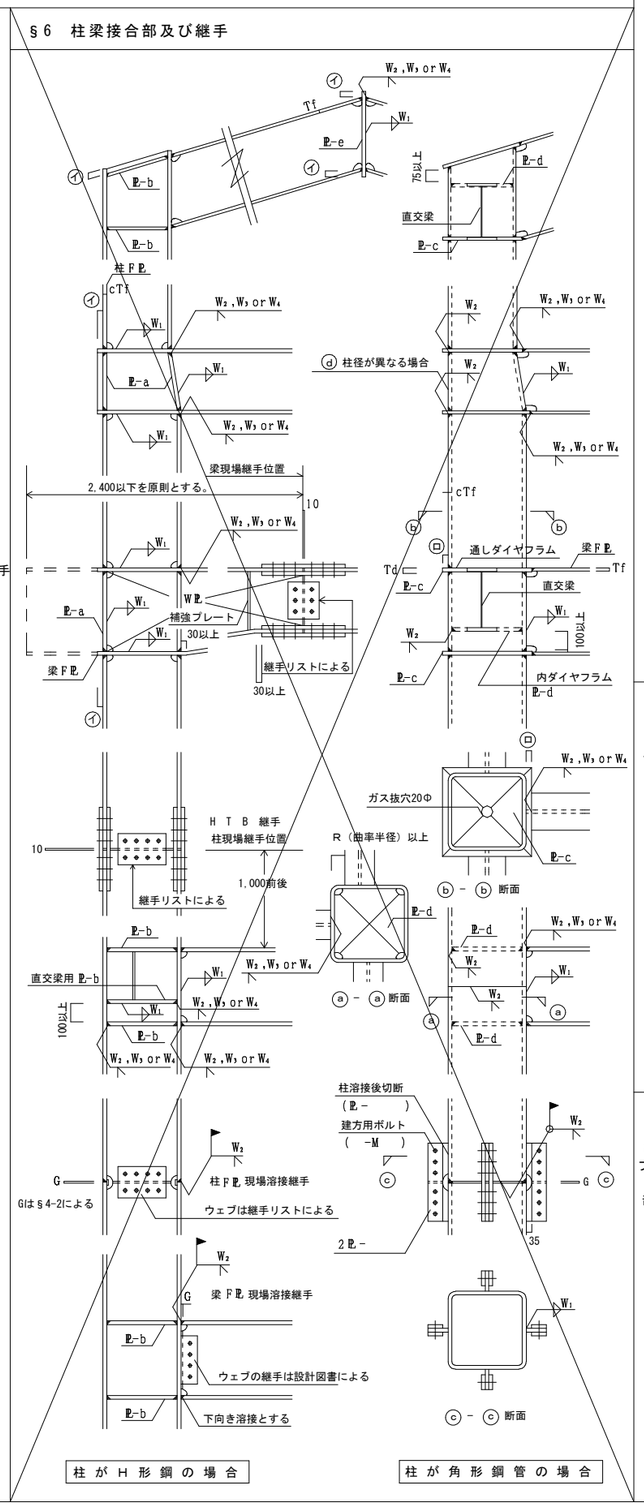
株式会社 尾川建築設計事務所
一級建築士 第216100号 尾川　佳永

PAGE B－4

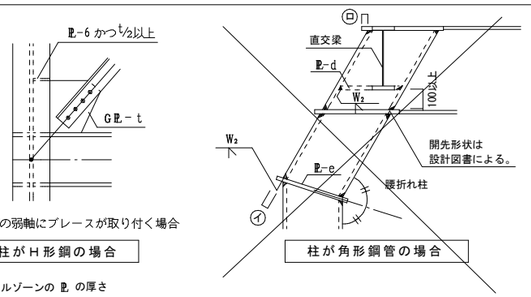
鉄 骨 工 作 標 準 図 （ 2 ）

§6 柱梁接合部及び継手

6－1 勾配屋根
6－2 梁通し
6－3 仕口と継手
6－4 柱通し
6－5 現場溶接 継手



6－6 その他



1） パネルゾーンの PL の厚さ

1,	PL－a （鉛直スチフナ）	上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
2,	PL－b （水平スチフナ）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
3,	PL－c （通しダイヤフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上かつ柱のFPL以上
4,	PL－d （内ダイヤフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
5,	PL－e （折れ曲がり部）	梁（柱）のFPLより1サイズUP以上

2） 出寸法

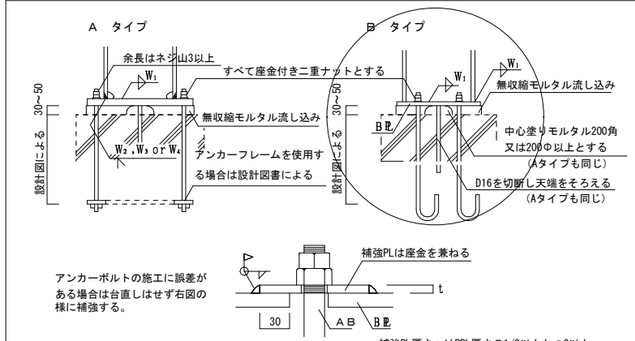
ⓘ 25mmかつcTf以上
ⓗ Td≦25 の場合 25かつcTf
Td≧28 の場合 30かつcTf

3） 注記

1. ダイヤフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の１ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の１ランク上質とする。
2. ⓓ（6-2項）上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同材質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部でFPLを折り曲げる場合はR≧10Tｆとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合（1/6程度）は不要。
4. ダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイヤフラムの厚みの内部で溶接すること。（告示1464剛）
5. 現場溶接を行う場合は工事監理者の承諾を得ること。

§7 柱 脚

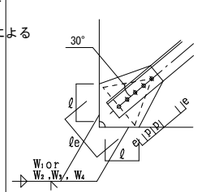
7－1 一般柱脚



§8 壁面ブレース

8－1 ブレースリスト

部分詳細図面による

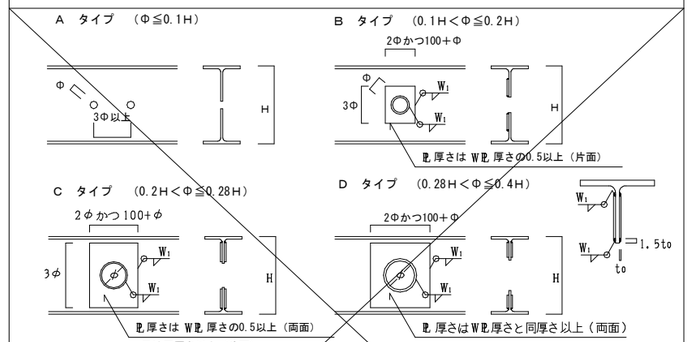


符号	部材	高力ボルト		GPL		溶接	
		径	本数	t	ℓe	脚長	Σℓ

1. GPLの最小幅 ℓe が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共ＪＩＳ規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

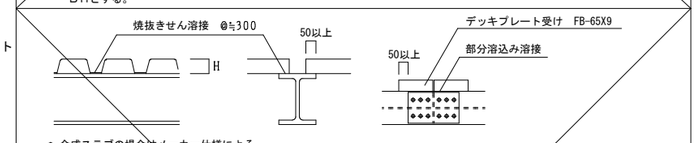
§9 その他

9－1 貫通補強



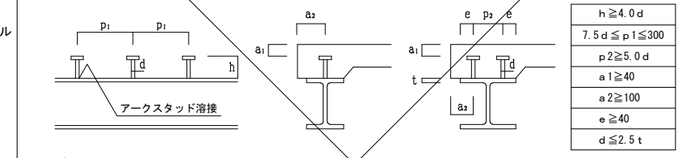
1. 特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径（Φ）は0.5H以下とし、そのピッチは3.0Φ以上とする。（これを満足できない場合は設計者の指示による。）
2. 貫通孔を設ける範囲は右図の □ 部分を原則とする。
3. 貫通孔が多くある場合は WPL を厚くした（ WPL＋補強 PL ）ＢＨとする。

9－2 デッキプレート



○ 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

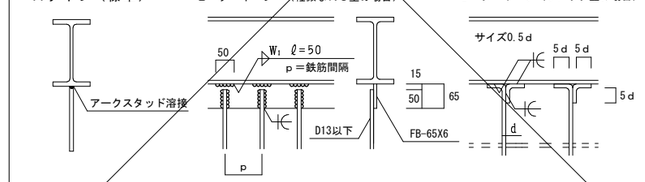
9－3 スタッドジベル



h ≧4.0 d
7.5 d ≦ p1 ≦300
p2≧5.0 d
a 1≧40
a 2≧100
e ≧40
d ≦2.5 t

h, p₁, p₂ 設計図書による。

9－4 壁筋の溶接



9－5 その他

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川 佳永	PAGE
二上小学校増築工事	鉄骨工作標準図（２）	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川			B－5

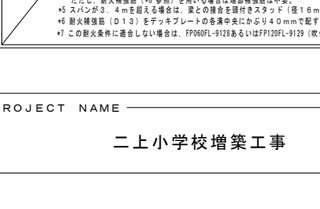
日鐵住金建材株式会社　合成スラブ設計・施工標準仕様書（日鐵スーパーＥデッキ）

合成スラブの設計・施工は（社）日本鉄鋼連盟編「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」（社）日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」、（社）日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説のうちＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事及びＪＡＳＳ６鉄骨工事＝A合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構法　合成スラブの設計・施工マニュアル」、日鐵デッキプレートカタログ及び設計・施工便覧による。

1.　設　　計

デッキプレート	種類	■ EZ50　□ EZ75
	板厚（mm）	■ 1.2　□ 1.6
	表面処理	□ Z12　□ Z27　□ 無し　□ [　　] ■ 塗装（JIS K5621　3種相当品／一次塗装：裏面のみ）
コンクリート	種類	■ 普通　□ 軽量１種　□ 軽量２種
	設計基準強度（N/mm²）	□ 18　■ 21　□ [　　]
	デッキ山上厚さ（mm）	□ 70　□ 80　□ 85　□ 90 □ 95　□ 100　■ [　50　]
溶接金網または異形鉄筋	溶接金網（JIS G3551）	■φ6-150　□φ6-100　□ [　　]
	異形鉄筋(JIS G3112,3117)	□ D10-200　□ [　　]
スーパーＥデッキ用システム部品		□ SEｽﾊﾟｰｻｰ　□ SEﾊﾝｶﾞｰ
デッキプレート端部仕様		□ ｴﾝｸﾛ　□ 小口ﾌｻｷﾞ
梁との接合形式	種類	注　　記
	□ 頭付きスタッド	径、長さ、ピッチは構造図による。梁とデッキとの接合はアークスポット溶接等による。(焼抜き栓溶接は不要)
	■ 焼抜き栓溶接	■ SPW ： 標準溶接径 18mm以上 ※溶接位置等は特記による
	□ びょう打ち	接合位置は特記による。構造認定を受けた発射打込みびょうを使用すること。
	□ その他	

デッキプレート形状・寸法



システム部品

2.　耐　火　設　計

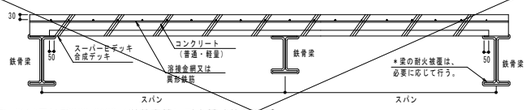
耐火区分	認定番号	認定条件 使用条件 支持条件	許容スパン(m) *1	許容荷重(kN/m²) *2	断面仕様 デッキプレート	コンクリート厚さ(mm)	ひび割れ拡大防止筋 *3	はり構造 S造 *4	はり構造 RC造SRC造 *4
□ 床２時間	FP120FL-9108	連続支持	2.7 以下	＜式１＞	EZ50	普通95以上	φ6-100×100または D10-200×200	○	－
						軽量85以上		○	－
			3.4 以下	＜式2＞	EZ75	普通90以上		○	－
						軽量85以上		○	－
			3.6 以下 *5	5.4		普通95以上	D10-200×200	○	－
						軽量90以上		○	－
	FP120FL-9114	単純支持 *6	2.7 以下	＜式１＞	EZ50	普通95以上	φ6-100×100または D10-200×200	○	○
						軽量85以上		○	－
			3.4 以下	＜式2＞	EZ75	普通90以上		○	○
						軽量85以上		○	－
□ 床１時間	FP060FL-9096	連続支持	3.0 以下	＜式１＞	EZ50	普通80以上	φ6-150×150または D10-200×200	○	－
						軽量80以上		○	－
			3.4 以下	＜式2＞	EZ75	普通80以上		○	－
						軽量80以上		○	－
			3.6 以下 *5	4.4		普通90以上	φ6-100×100または D10-200×200	○	－
	FP060FL-9102	単純支持 *6	2.7 以下	＜式１＞	EZ50	普通80以上	φ6-150×150または D10-200×200	○	○
						軽量80以上		○	－
			3.4 以下	＜式2＞	EZ75	普通80以上		○	○
						軽量80以上		○	－

＜式１＞　W = 5.4×(2.7/L)²
＜式２＞　W = 5.4×(3.4/L)²

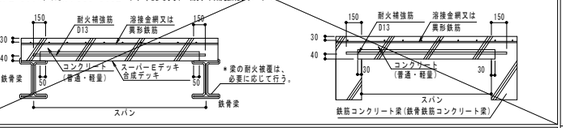
（注）　式中の「W」は許容荷重(kN/m²)、「L」は支持長さ（m）を表す。また，Wが9.8を超える場合は9.8とする。

※注意 *1 許容スパンは、鉄骨梁で支持する場合はその芯間距離とし、RC梁で支持する場合は梁の内法寸法とすること。本表の許容スパンは耐火認定の条件であるので、別途施工時の許容スパンを確認すること。
*2 許容荷重は、スラブ自重（デッキプレート+コンクリート+鉄筋）を差引いた数値である。
*3 鉄筋には、0．2%以上となければならないので、同時打ちでスラブ増打ちをする場合は注意すること。
*4 デッキプレートの梁へのかかり代を３０mm以上とすること。端部補強（D13以上、L＝1m）を梁への定着長さ１５０mmで配しすること。ただし、耐火補強筋（*6 参照）を用いる場合は端部補強筋は不要。
*5 スパンが3．4mを超える場合は、梁との接合を頭付きスタッド（径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）を使用すること。
*6 耐火補強筋（D13）をデッキプレートの各溝や谷に@ピッチ４０mmで配すること。
*7 この耐火条件に適合しない場合は、FP060FL-9128あるいはFP120FL-9129（吹付けロックウール被覆耐火構造）を適用すること。

<FP120FL-9108又はFP060-9096（連続支持）>



<FP120FL-9114又はFP060-9102（単純支持）耐火補強筋タイプ>



3.　施　　工

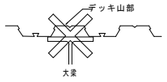
①－割付け計画
　工法・工程・割付け計画をたてる。

②－搬入・保管・揚重・仮置・墨出し
　（ａ）揚重は２点吊りとし、デッキプレートをワイヤで傷つけないようにする。
　（ｃ）梁上を清掃し、所定の位置に墨出しをする。

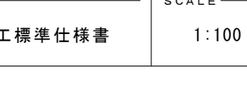
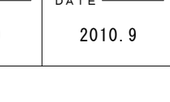
③－敷込み・仮止め
　（ａ）デッキ相互を嵌合させながら敷込む。
　　（接合部で幅調整をしてはならない。）
　（ｂ）幅方向の調整は、幅調整板（フラッシング）を用いる。
　（ｃ）デッキプレートと大梁との接合ができるように、デッキプレート山部が梁上にこないように納める。（図１）

④－デッキプレートと梁との接合
　（ａ）敷込み完了後風等で飛ばないように、デッキと梁とをアークスポット溶接等で接合する。
　（ｂ）頭付きスタッドの施工は ＪＡＳＳ６ による。
　（ｃ）焼抜き栓溶接の施工位置は特記による。特に指定がない場合には、図２の要領で行う。
　（ｄ）発射打込みびょうの施工は発射打込みびょうメーカーの施工要領による。施工位置は特記による。
　　※構造認定を受けた発射打込みびょうメーカー：日本ヒルティ（株），日本ドライブイット（株）

（図１）



（図２）

デッキプレート幅方向	デッキプレートスパン方向　溶接ピッチ（P）
	

溶接ピッチ（P）：特記無き限り600mmとする。
（特記）[　　]mm、下式による。
P ＝ MIN（ 600 , P1 ）
P1 ＝ q ／ Qm × 1000
q：１個所当りの短期せん断耐力
Qm：1m当りの設計水平せん断力

（ｅ）焼抜き栓溶接(SPW)の溶接条件及び溶接機器仕様

項目		溶接方法
溶接作業者資格		JIS Z 3801基本級以上又は JIS Z 3841基本級以上
溶接棒及び溶接材料		低水素系溶接棒φ4mm
溶　接　機		交流アーク溶接機AW250A以上 又はエンジン溶接機230A以上
標準溶接条件	デッキ板厚(mm)	1.2～1.6
	変フランジ板厚(mm)	6 以上
	溶　接　電流(A)	190～230
	溶　接　電圧(V)	――
	アークタイム(sec)	8～12
溶接径(mm)		18 以上

（ｇ）焼抜き栓溶接１個所当り短期せん断耐力　（単位：Ｎ）

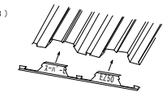
デッキ板厚	1.2mm	1.6mm
SPW	7,350	11,025

（ｈ）発射打込みびょう１個所当り短期せん断耐力　（単位：Ｎ）

デッキ板厚	1.2mm	1.6mm
打込みびょう	4,950	6,450

⑤－小口ふさぎ・コンクリート止め
　小口ふさぎはデッキプレートの溝をふさがない独立したものを使用する。
　（図３）　又は、エンドクローズ製品を用いる。

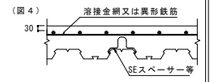
（図３）



⑥－開口部補強
　開口部まわりは必ず鉄筋等で補強する。（5.開口補強を参照。）

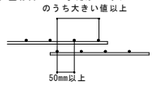
⑦－溶接金網又は異形鉄筋
　（ａ）規定のサイズを床全面に配筋する。（図４）
　（ｂ）かぶり厚さを確保するスペーサーを１m以内に設置する。
　（ｃ）溶接金網の継手は（１メッシュ＋５０mm）以上重ねる。（図５）
　（ｄ）異形鉄筋の継手はＪＡＳＳ５による。

（図４）



⑧－コンクリート打設
　（ａ）コンクリート打設前にデッキプレート面を充分清掃する。
　（ｂ）単位水量の少ない、スランプの小さいコンクリートを入念に打設する。

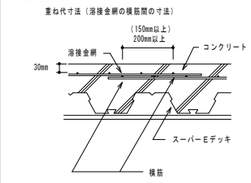
（図５）重ね代 150mmまたは1メッシュ+50mmのうち大きい値 以上



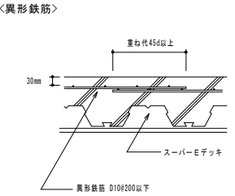
⑨－養　生
　（ａ）コンクリートの初期乾燥収縮を防ぐ為、湿潤養生する。
　（ｂ）コンクリートの強度がでるまでは、床面に重量物を置いたり振動を与えたりしない。

4-1.　溶接金網又は異形鉄筋の納り（共通）

＜溶接金網＞

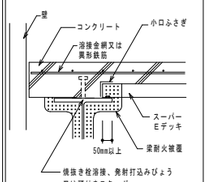


＜異形鉄筋＞

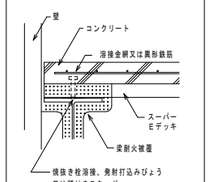


4-2.　標準納まり：S造（鉄骨造）の場合

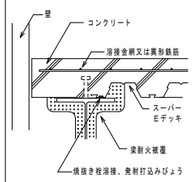
(1)建物外周部デッキスパン方向



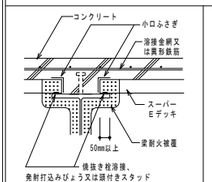
(2)建物外周部デッキスパン方向

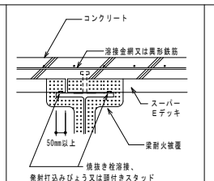


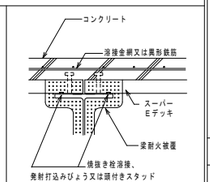
(3)建物外周部デッキ幅方向



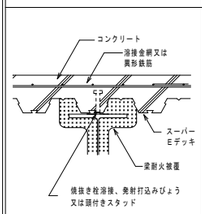
(4)デッキスパン方向（建物内部の大梁，小梁上）



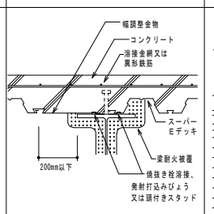




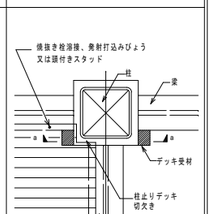
(5)デッキ幅方向デッキ連続



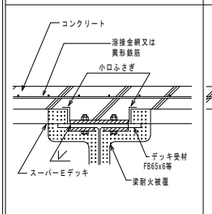
(6)デッキ幅方向デッキ振り分け



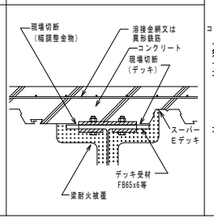
(7)柱廻り

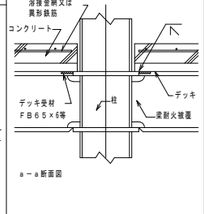


(8)デッキスパン方向梁継手部

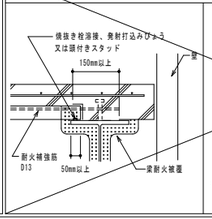


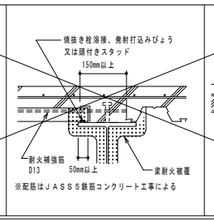
(9)デッキ幅方向梁継手部

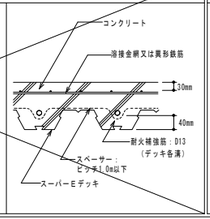




(10)耐火補強筋の納まり（FP120FL-9114,FP060FL-9102）

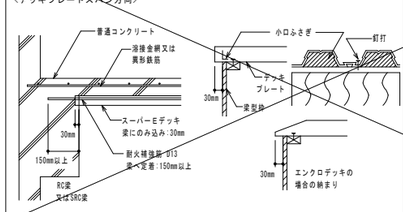




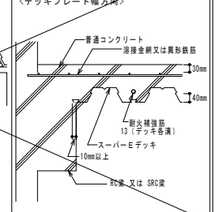


4-3.　標準納まり：ＲＣ造またはＳＲＣ造の場合

＜デッキプレートスパン方向＞



＜デッキプレート幅方向＞



5.　開　口　部　補　強　（例）

合成スラブの開口部補強 ―― ★スーパーEデッキとEデッキで合成スラブの開口補強方法が異なる。
★原則としてコンクリート硬化後にデッキプレートを切断し、孔あけ（箱抜き）とする。
★先に孔をあける場合は、支保工を用いるか小梁でコンクリート打設時に必ずデッキを補強する。
★合成スラブ開口周辺の上端には開口補強（D10以上）を施す。
★本仕様の範囲外の場合は、イ）小梁を設ける、ロ）鉄筋コンクリートスラブとして補強する等の処置を施す。

a）溝配筋方法

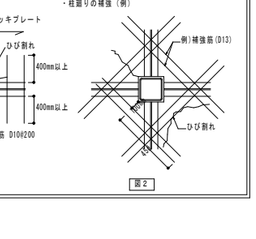
b）耐火補強筋を切断する場合

・耐火補強筋 d：

n	1	2	3
ad	D16	D19	D22 or 2-D16

n：切断された耐火補強筋の本数
ad：所要鉄筋サイズ

・所要配筋量は、at 又は ad の大きい方。



c）開口の大きさが幅(w)600mm、奥行き(L)900mm程度を超える場合は、小梁を設けて補強する。尚、この場合連続支持条件などの適割的耐火指定による条件に留意する。　（※はデッキ幅方向を、Lはデッキスパン方向を示すものとする。）
d）連続して３谷（デッキ溝）以上に渡って開口が生じ、耐力補強筋が配筋できないような場合は適用外とする。

（Ａ）箱抜きの場合

1．開口が独立している場合
a）φ150mm程度

b）□300程度

c）□600×900程度

2.b）開口部と同様の補強案とする。

2．開口が連続している場合
a）φ150mm程度
イ）開口間の内法寸法≧３×開口径

ロ）開口間の内法寸法≦３×開口径

b）開口群

（Ｂ）コンクリート打設前にデッキプレートを切断し、孔あけする場合

1．φ110mm程度で開口が独立している場合
イ）開口部がデッキプレートの上フランジ又は下フランジにあり、ウェブにかからない場合は補強の必要はない。

ロ）開口部がデッキプレートのウェブにかかる場合は、プレートあるいは山形鋼による補強を行う。

注：合成スラブの補強として、開口補強（c：D10）は行う。
（イ、ロ共通）

6.　ひび割れ拡大防止のための留意点（参考）

（Ａ）設計上の留意点
1．小梁の剛性を大きくする。
2．ひびわれ拡大防止のための補強筋を設ける。（図1,2）
3．スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。

（Ｂ）施工上の留意点
1．デッキプレートは各溝で梁に接合する。
2．溶接金網は、所定の位置に配する。
3．水セメント比の小さいコンクリートを用いる。
4．コンクリート打設後初期には湿潤養生を行い、充分な養生期間を設ける。
5．早期に載荷したり、振動を与えない。

・大梁上の補強（例）

図1

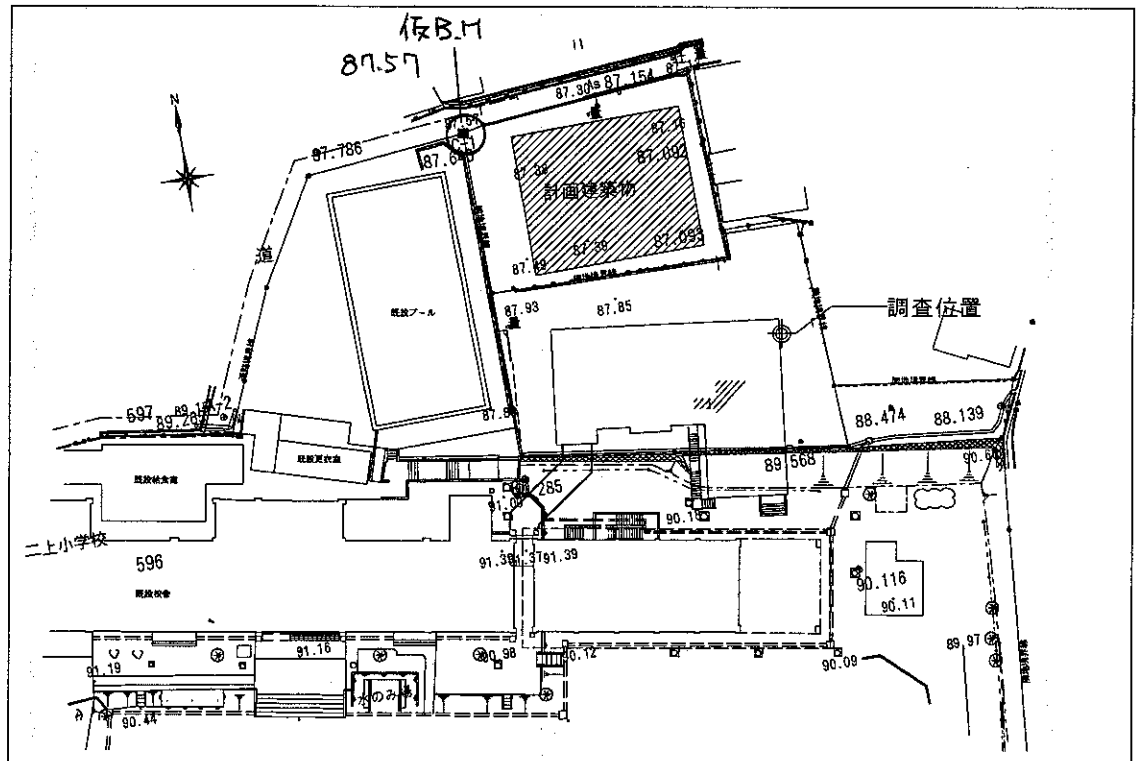
・柱廻りの補強（例）

図2

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	合成スラブ設計施工標準仕様書	1:100	2010.9	10018	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	山縣	尾川

株式会社 尾川建築設計事務所　一級建築士 第216100号 尾川 佳永

PAGE B－6



調査位置平面図

ボーリング柱状図

調　査　名　香芝市立二上小学校増築工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

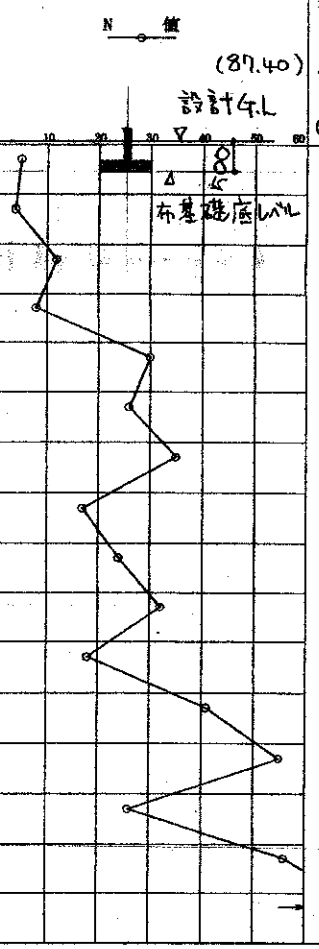
ボーリング名	No.1	調査位置	奈良県香芝市畑4丁目			北緯	34° 32′ 24.5″
発注機関	香芝市教育委員会			調査期間	平成 18年 7月 7日 ～ 18年 8月 31日	東経	135° 41′ 19.6″
調査業者名	株式会社 関西地質調査事務所 奈良営業所 電話（0745-76-8528）	主任技師	糸尾　正晴	現場代理人	久保下　隆文	コア鑑定者	久保下　隆文	ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	B=87.55m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	KANO KR-50Hcw	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	15.40m								エンジン	YANMAR NFAD7-K	ポンプ	KANO V5-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	87.20	0.35	0.35		表土（盛り土）	暗褐	緩い		細～粗砂主体、径2～10mmの亜円～亜角礫を全体に混入。含水量小。
1	86.98	1.38	1.69		粘土（粘土）	暗褐～灰		軟らかい	不均質、含水量、粘性中位。 綿砂を少量混入。ビニル片混入。若干のﾍﾄﾞﾛ臭有り。 GL-1.40m付近で砂を挟み、地下水位を観測する。
2	84.66	1.16	2.76		表層り粘土	暗褐		硬い	不均質、中含水量、粘性中位。 径2～20mmの軟質礫を全体に混入。
3	83.26	1.58	4.34		砂質粘土	灰～淡青灰		中位の堅さに同じ	不均質、中含水量、粘性中位。 細砂を全体に多く混入。 所々で径2～6mmの亜角礫点在。 GL-4.00m以深、固結した砂質ｼﾙﾄ状。
4	82.65	0.70	5.00		砂	褐灰	中～密な		細～中砂、 含水量中程度。
5	82.16	0.49	5.49		表層り砂	褐灰			中～粗砂主体、含水量中程度。 径2～6mmの亜角礫混入。
6	81.46	0.70	6.19		シルト質粘土	灰			固結砂質、中含水量、粘性中位。 シルト分を全体に多く混入。 細砂を少量混入。
7	80.66	0.80	6.99		砂	褐灰	密な		中～粗砂、径2mm程度の亜角礫点在。 含水量少ない。
	80.25	0.40	7.39		シルト質粘土	褐灰		硬い	固結砂質、中含水量、粘性中位。 シルト分を全体に多く混入。
8	79.66	0.60	7.99		砂	褐灰	中ぐらい		細～中砂、径2mm程度の亜角礫点在。 所々で固結粘土を挟在。含水量少。
9	78.30	1.36	9.35		砂質粘土	暗褐灰		硬い 非常に硬い	不均質、低含水量、粘性小位。 細～粗砂を全体に多く混入。 所々で径2～6mmの亜角礫点在。 有機物混入。 GL-8.40～8.50m間、細砂を挟む。
10	77.25	1.05	10.30		砂	褐灰	中ぐらい（密な）		中～粗砂、径2～6mmの亜角礫点在。 所々で固結粘土を挟在。 含水量少ない。
	76.85	0.40	10.70		砂質粘土	灰		硬い	不均質、低含水量、粘性小位。 細砂を全体に多く混入。 GL-10.30～10.45m間、火山灰。
11					粘土質砂	褐灰	密（非常に密な）		微細～細砂主体、 粘土分を不規則に多く混入。 所々で砂質粘土との互層状。 含水量少ない。
12	76.15	1.70	12.40						
13	74.25	0.90	13.30		砂	褐灰	中ぐらいの		細～粗砂、含水量少ない。 GL-12.40～12.50m間、固結状の砂を挟む。
14	73.15	1.10	14.40		粘土	灰		非常に硬い 固結した	ほぼ均質、低含水量、粘性中位。 固結状である。有機物点在。
15	72.15	1.00	15.40		表層り砂	淡灰	非常に密な		中～粗砂主体、含水量中程度。 径2～6mmの亜円～亜角礫を混入。 シルト分を少量混入。

孔内水位(m)／測定月日：7/10 9:00

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
0.10				
0.45 / 1.15	1	1	2	4/30
1.45 / 2.15	3	4	5	12/50
2.45 / 3.15	2	3	3	8/50
3.45 / 4.15	9	10	11	30/30
4.45 / 5.15	10	10	6	26/30
5.45 / 6.15	11	11	13	35/30
6.45 / 7.15	4	4	9	17/30
7.45 / 8.15	6	8	10	24/30
8.45 / 9.15	5	9	18	32/30
9.45 / 10.15	8	5	5	18/30
10.45 / 11.15	8	15	16	41/30
11.45 / 12.15	9	16	31	56/30
12.45 / 13.15	10	8	8	26/30
13.45 / 14.15	9	14	33	56/30
14.45 / 15.15	20	29	17/5	66/35
15.45				72



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
0.10		
0.45 / 1.15	P-0	⊖
1.45 / 2.15	P-1	⊖
2.45 / 3.15	P-2	⊖
3.45 / 4.15	P-3	⊖
4.45 / 5.15	P-4	⊖
5.45 / 6.15	P-5	⊖
6.45 / 7.15	P-6	⊖
7.45 / 8.15	P-7	⊖
8.45 / 9.15	P-8	⊖
9.45 / 10.15	P-9	⊖
10.45 / 11.15	P-10	⊖
11.45 / 12.15	P-11	⊖
12.45 / 13.15	P-12	⊖
13.45 / 14.15	P-13	⊖
14.45 / 15.15	P-14	⊖
15.40	P-15	⊖

7/10 9:00 → 7/11

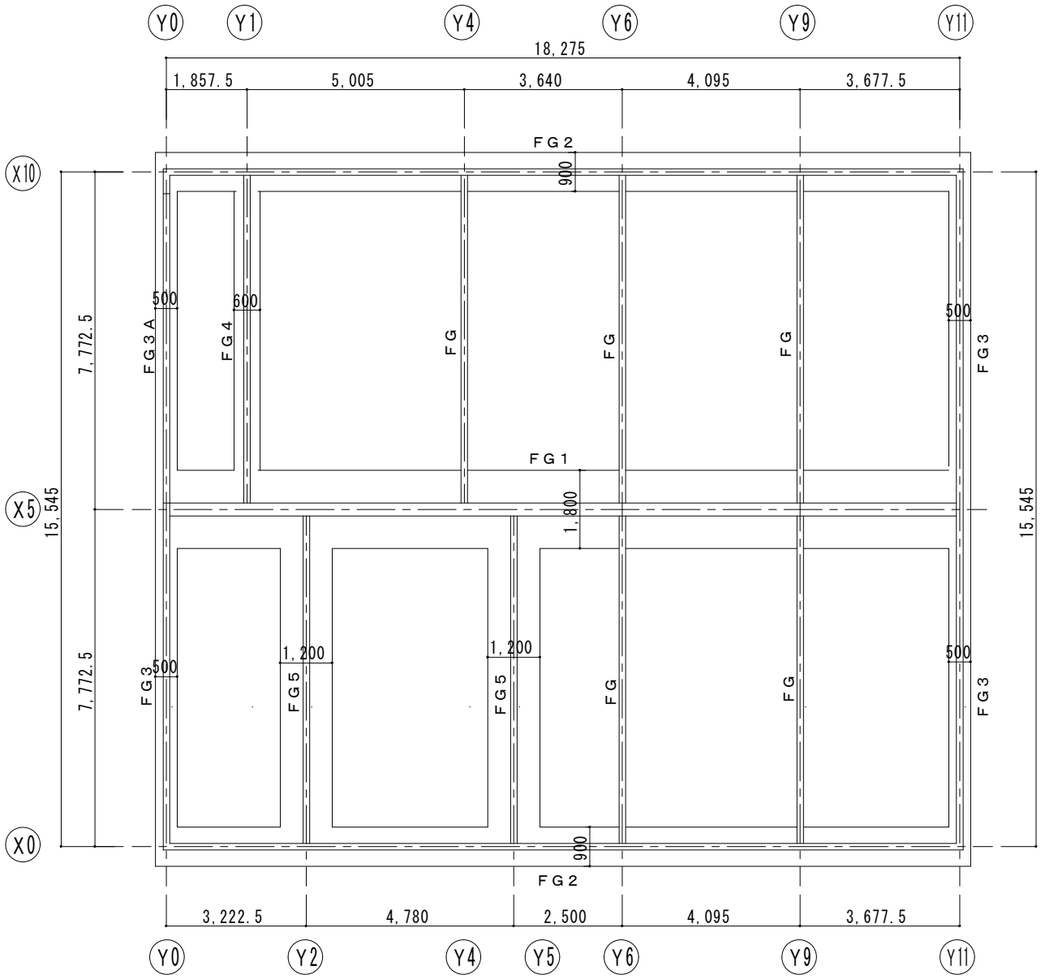
室内試験（　）

掘進月日

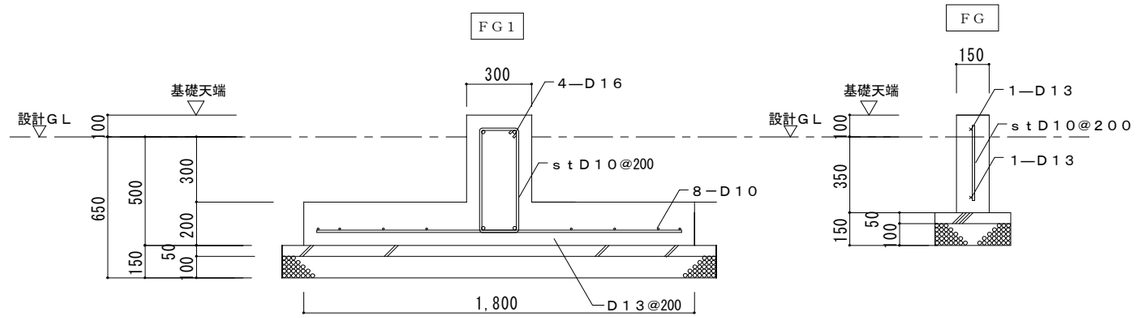
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	土質柱状図		2010.8	10018	* * * * * *	山縣	尾川

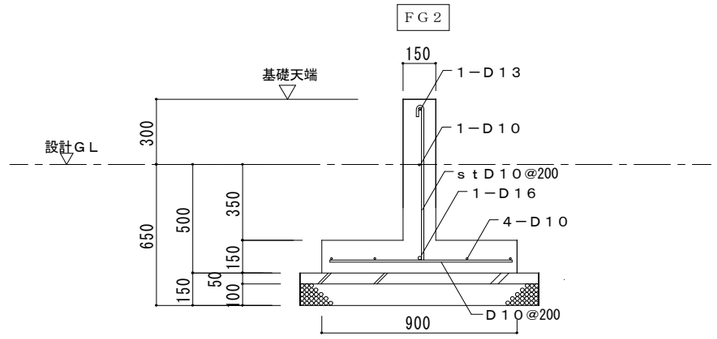
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

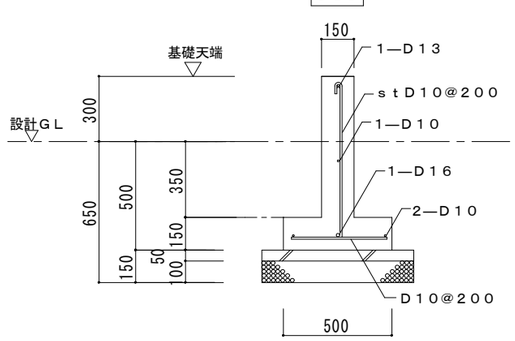
PAGE B－7

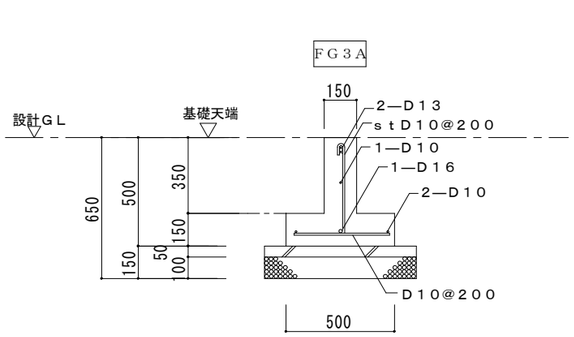


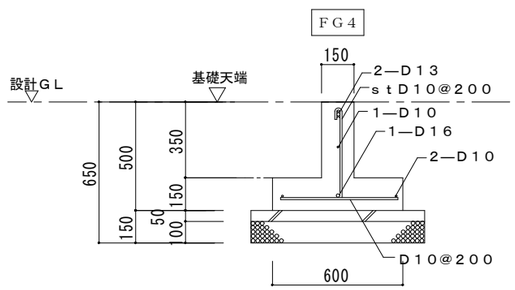
基礎伏図　S1／100

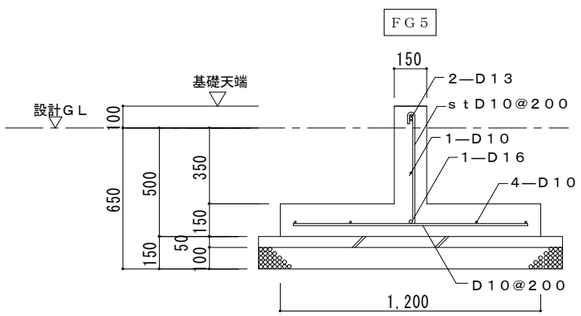








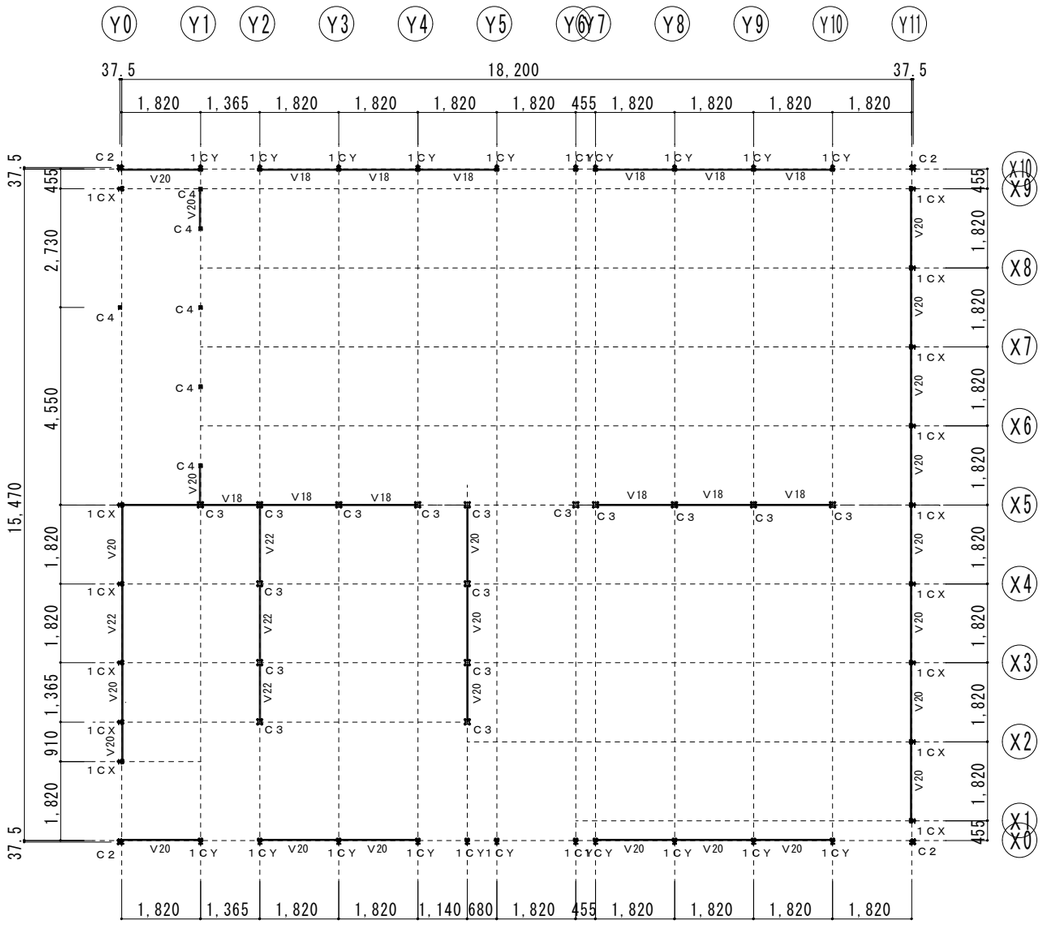




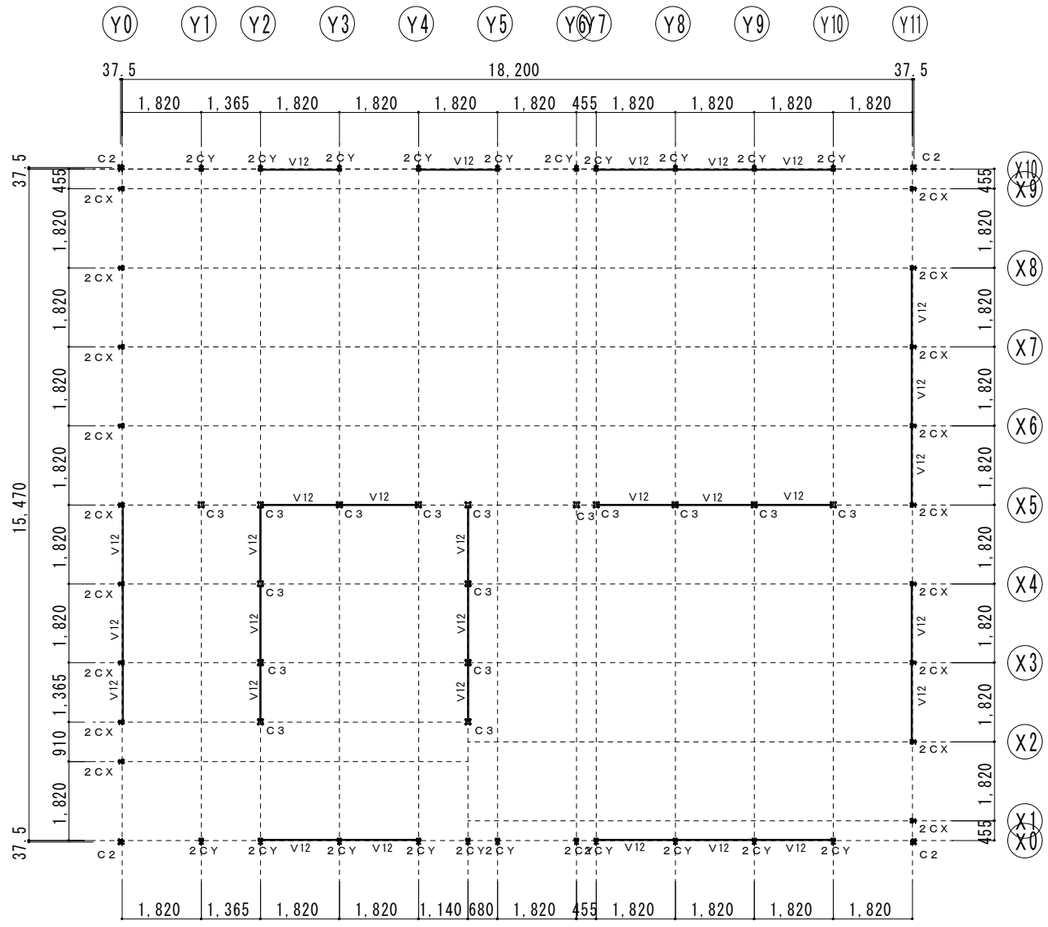
基礎詳細図　S1／20

地耐力：40KN／㎡　FC21　SD295A

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	基礎伏図　基礎詳細図	1:100	2010.9	10018	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	B-8

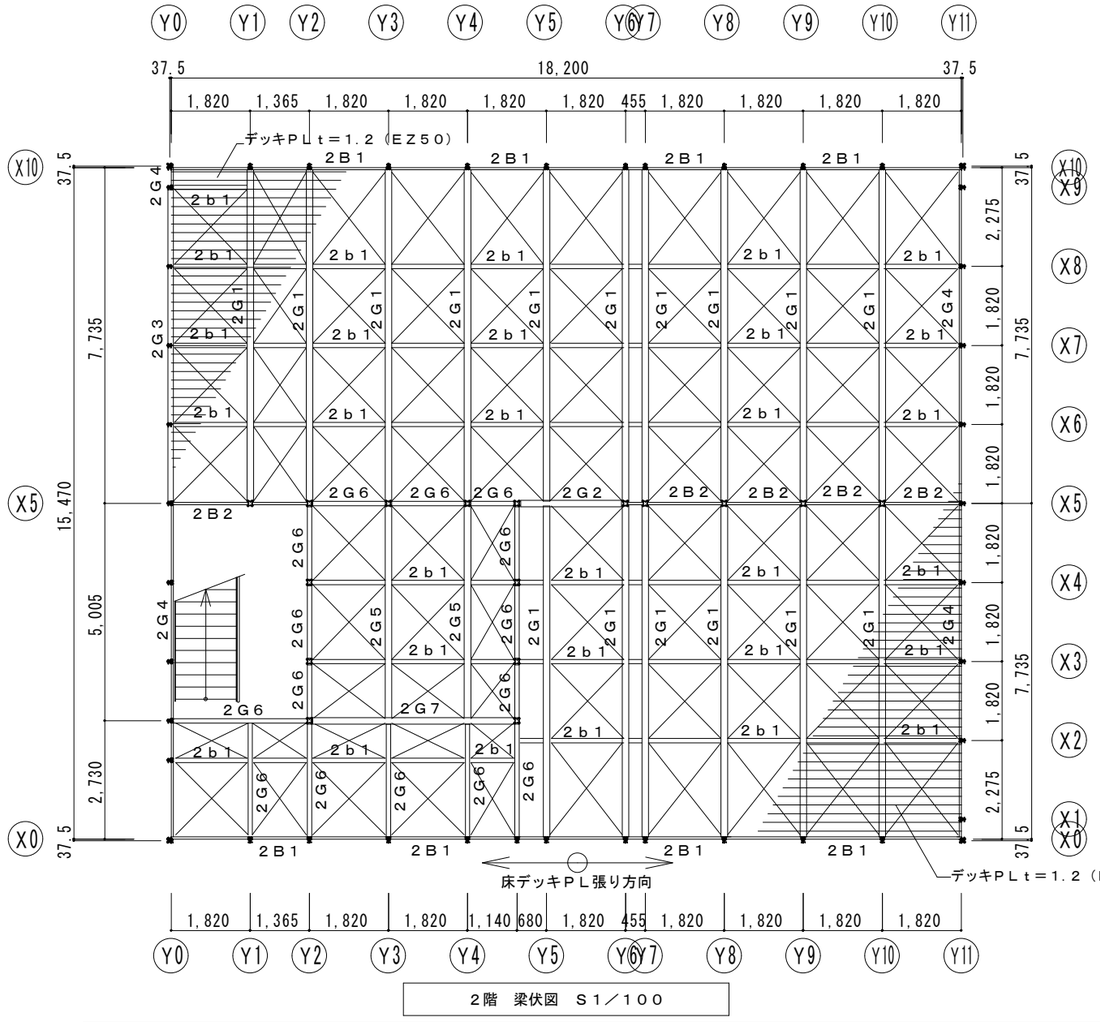


1階　柱　ブレース　割付図　S1／100

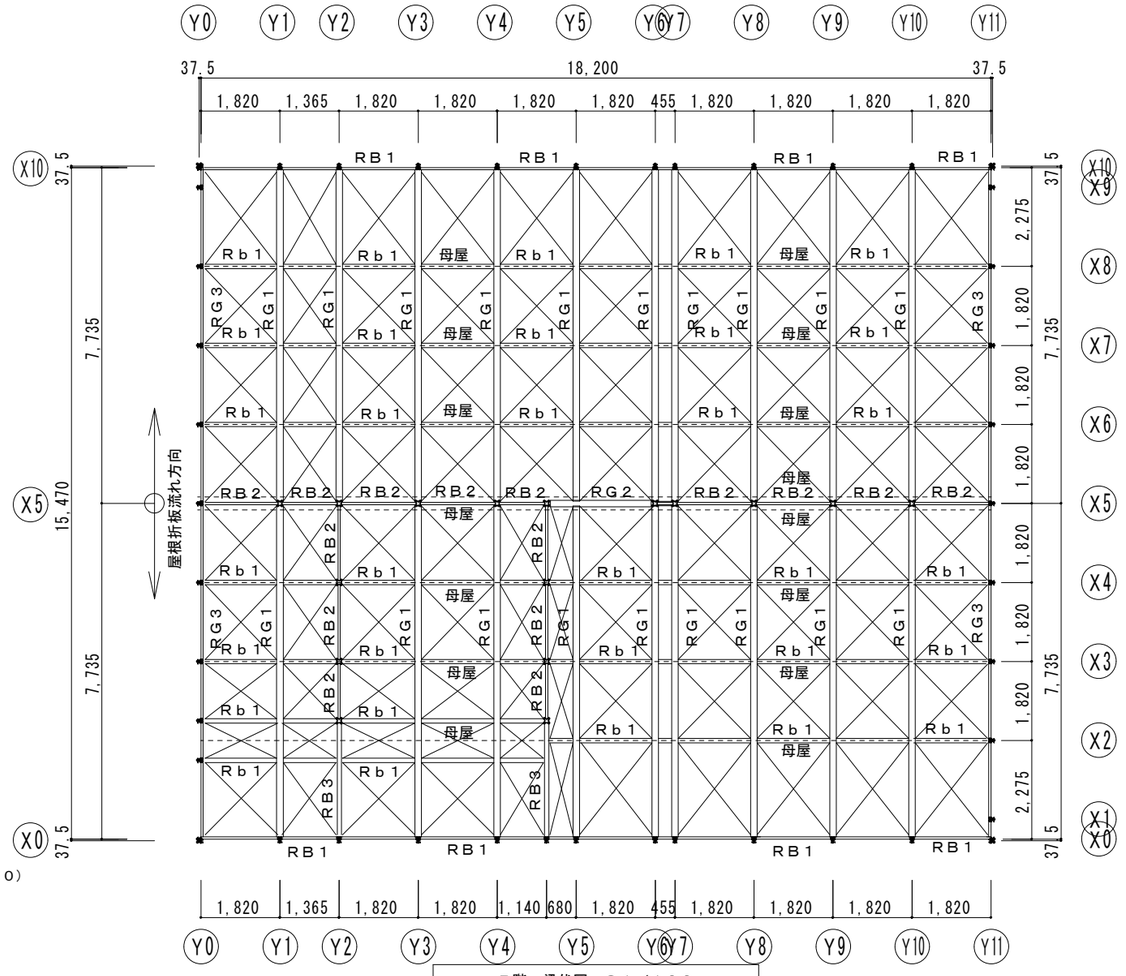


2階　柱　ブレース　割付図　S1／100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	1・2階　柱　ブレース　割付図	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	B-9



２階　梁伏図　Ｓ１／１００

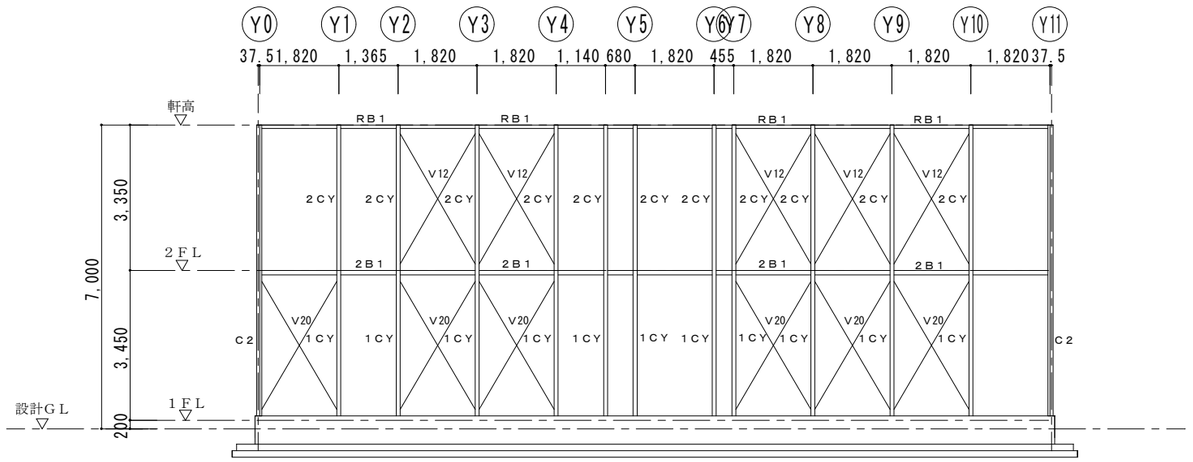


Ｒ階　梁伏図　Ｓ１／１００

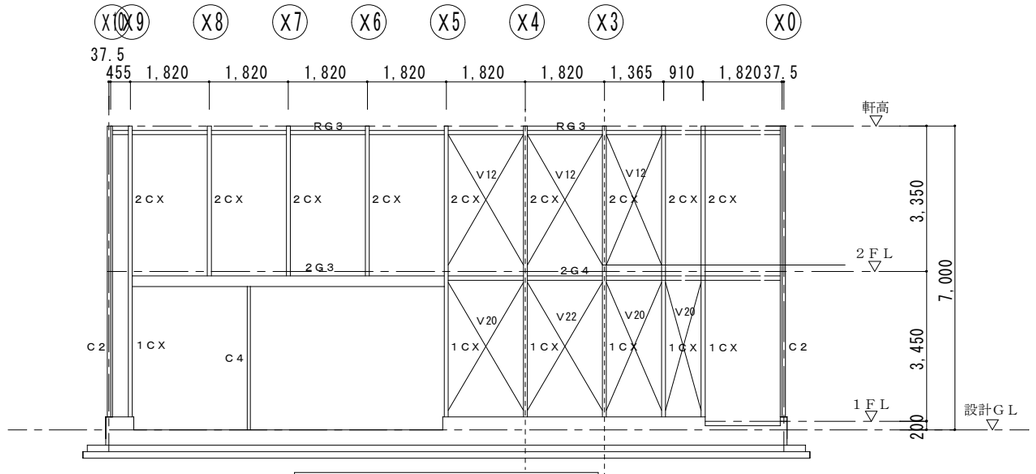
部材リスト

記号	部材	有効細長比	材質	記号	部材	材質	記号	部材	材質	記号	部材	材質
１ＣＹ	ＬＨ－７５×９０×１５×３.２ Ｃ－７５×４５×１５×２.３	325/2.78＝116.9	ＳＷＨ４００Ｌ ＳＳＣ４００	ＲＧ１	Ｈ－１９８×９９×４.５×７	ＳＳ４００	２Ｇ１	Ｈ－３００Ｘ１５０Ｘ６.５Ｘ９	ＳＳ４００	２Ｂ１	Ｃ－１００×５０×２０×２.３	ＳＳＣ４００
１ＣＸ	ＬＨ－７５×９０×１５×３.２ Ｃ－７５×４５×１５×２.３	325/2.78＝116.9	ＳＷＨ４００Ｌ ＳＳＣ４００	ＲＧ２	Ｈ－１９８×９９×４.５×７	ＳＳ４００	２Ｇ２	Ｈ－２９８Ｘ１４９Ｘ５.５Ｘ８	ＳＳ４００	２Ｂ２	Ｃ－１００×５０×２０×２.３	ＳＳＣ４００
２ＣＹ	ＬＨ－７５×９０×１５×３.２	325/2.76＝121.4	ＳＷＨ４００Ｌ	ＲＧ３	Ｃ－１００×５０×２０×２.３	ＳＳＣ４００	２Ｇ３	Ｈ－２４８×１２４×５×８	ＳＳ４００	２ｂ１	Ｃ－７５×４５×１５×２.３	ＳＳＣ４００
２ＣＸ	ＬＨ－７５×９０×１５×３.２	325/2.76＝121.4	ＳＷＨ４００Ｌ				２Ｇ４	Ｃ－１００×５０×２０×３.２	ＳＳＣ４００			
Ｃ２	２Ｃ－７５×４５×１５×２.３ □－７５×７５×２.３	325/3.65＝91.8	ＳＳＣ４００ ＳＴＫＲ４００	ＲＢ１	Ｃ－７５×４５×１５×２.３	ＳＳＣ４００	２Ｇ５	Ｈ－２９８Ｘ１４９Ｘ５.５Ｘ８	ＳＳ４００	母　屋	Ｃ－７５×４５×１５×２.３	ＳＳＣ４００
Ｃ３	□－１００Ｘ１００Ｘ４	325/3.89＝86.1	ＳＴＫＲ４００	ＲＢ２	Ｃ－１００×５０×２０×２.３	ＳＳＣ４００	２Ｇ６	Ｈ－１９８×９９×４.５×７	ＳＳ４００			
Ｃ４ （１Ｆ）	□－７５×７５×３.２	325/2.91＝111.7	ＳＴＫＲ４００	ＲＢ３	Ｃ－１００×５０×２０×２.３	ＳＳＣ４００	２Ｇ７	Ｈ－３４６Ｘ１７４５Ｘ６Ｘ９	ＳＳ４００	垂直ブレース	１階⇒Ｍ１８・Ｍ２０・Ｍ２２　　２階⇒Ｍ１２	
				Ｒｂ１	Ｃ－７５×４５×１５×２.３	ＳＳＣ４００					ブレース取り合いボルトはＨＴＢ（ＪＩＳ型）とする。	
アンカーボルトＭ１６　Ｌ＝４８０　材質：ＳＮＲ４９０（ＡＢＲ４９０）				水平ブレース	Ｍ１０（小屋）		２Ｆ床	デッキＰＬｔ＝１.２（ＥＺ５０）　コンクリート金コテ押え（山上ｔ＝５０）　ワイヤーメッシュ：６Ｘ１５０Ｘ１５０				
ＢＯＬＴ　Ｍ１２,Ｍ１６,Ｍ２０（中ボルト）　※戻り止め（ダブルナット又は、スプリングワッシャー）								２階床の水平ブレースは建て方用とし、構造上は合成スラブデッキとする。				

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	２Ｆ・ＲＦ梁伏図　部材リスト	1:100	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	B－１０



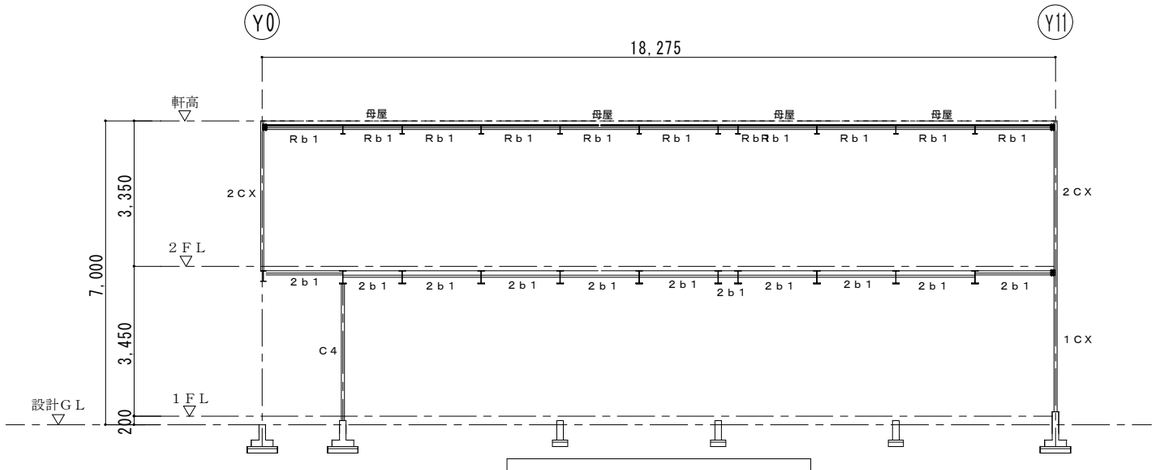
X0 軸組図 S1／100



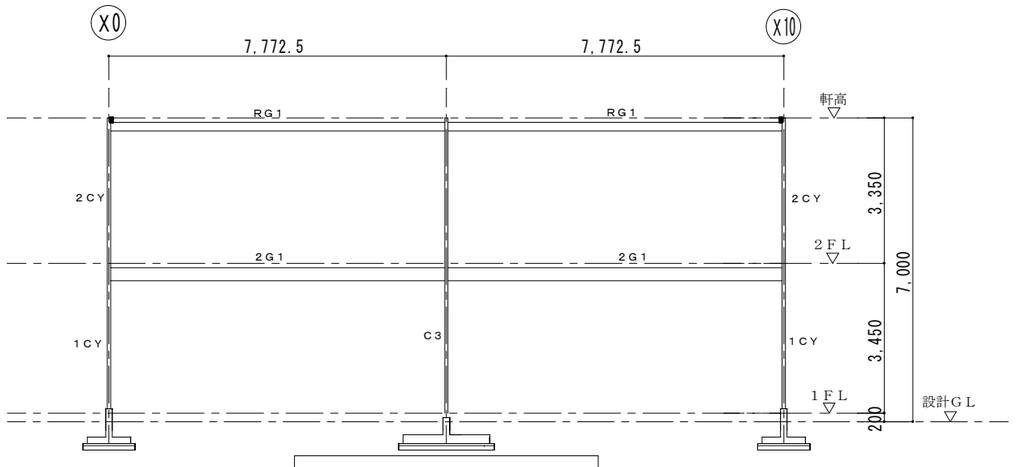
Y0 軸組図 S1／100

X10 軸組図 S1／100

Y11 軸組図 S1／100

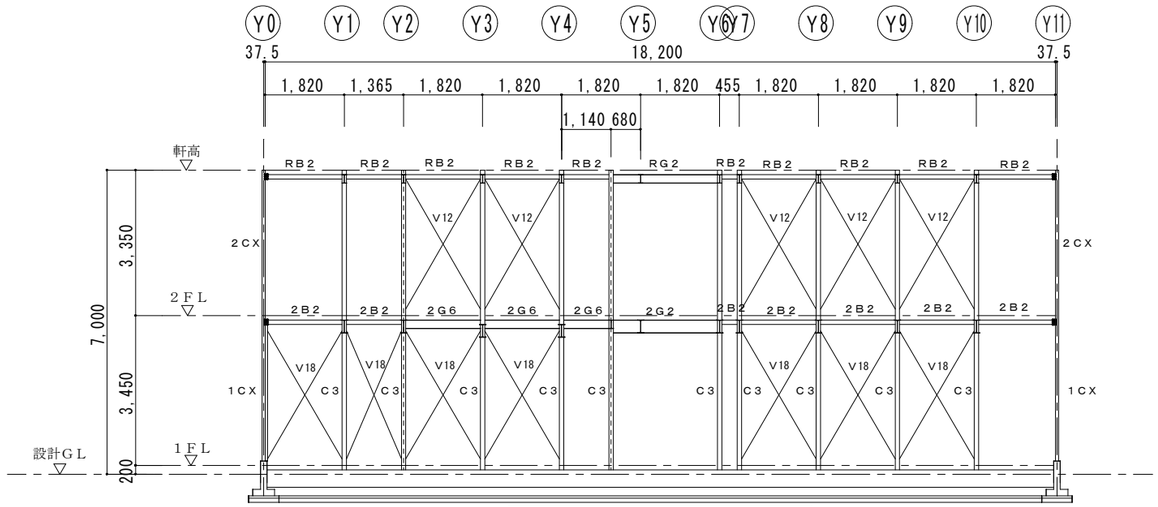


X6・7・8 軸組図 S1／100

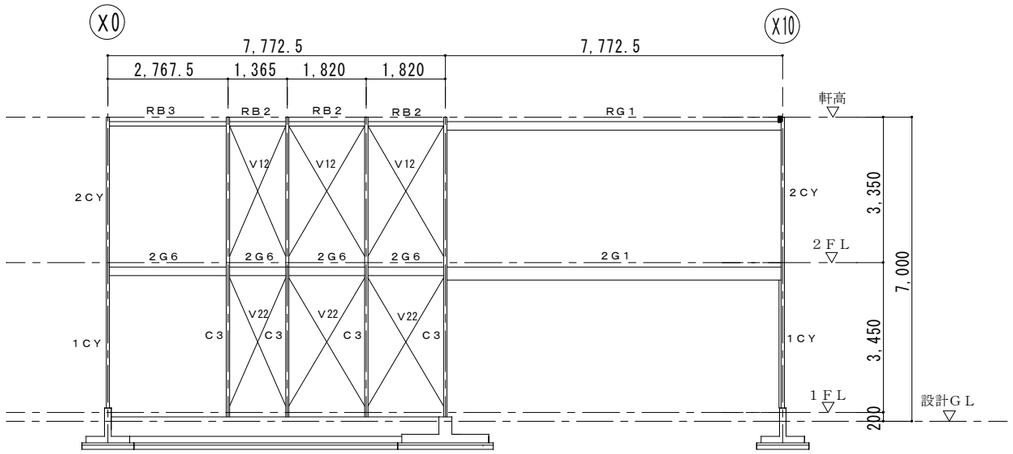


Y6～Y10 軸組図 S1／100

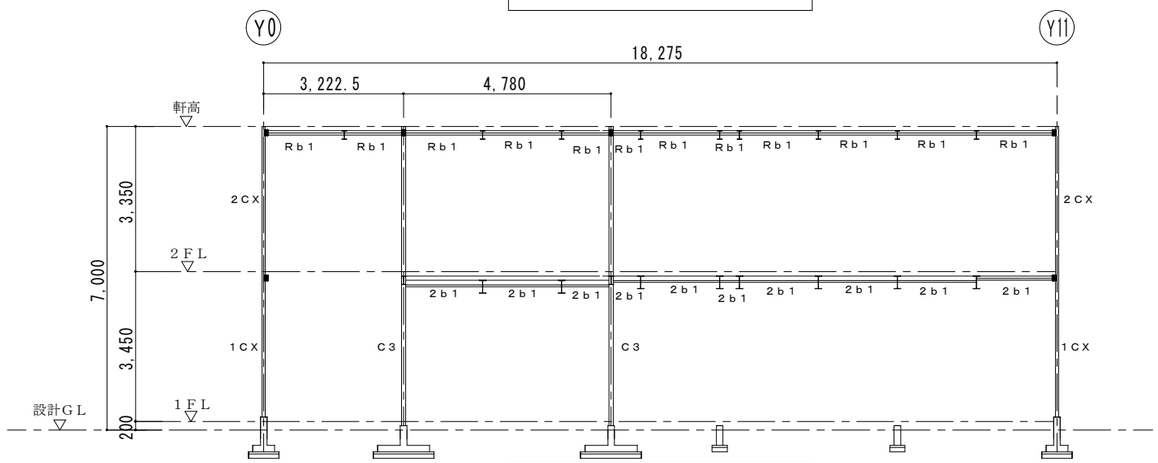
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	軸組図（1）	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川 佳永	B-11



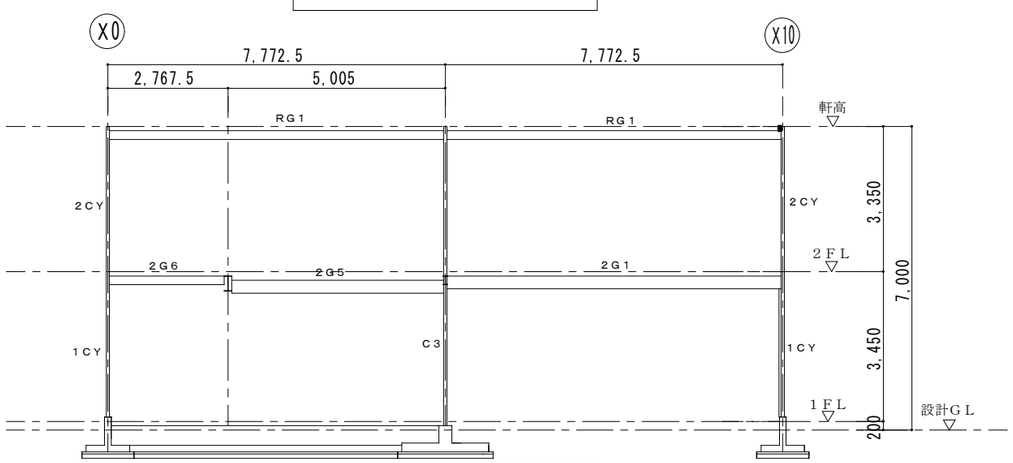
X5 軸組図 S1／100



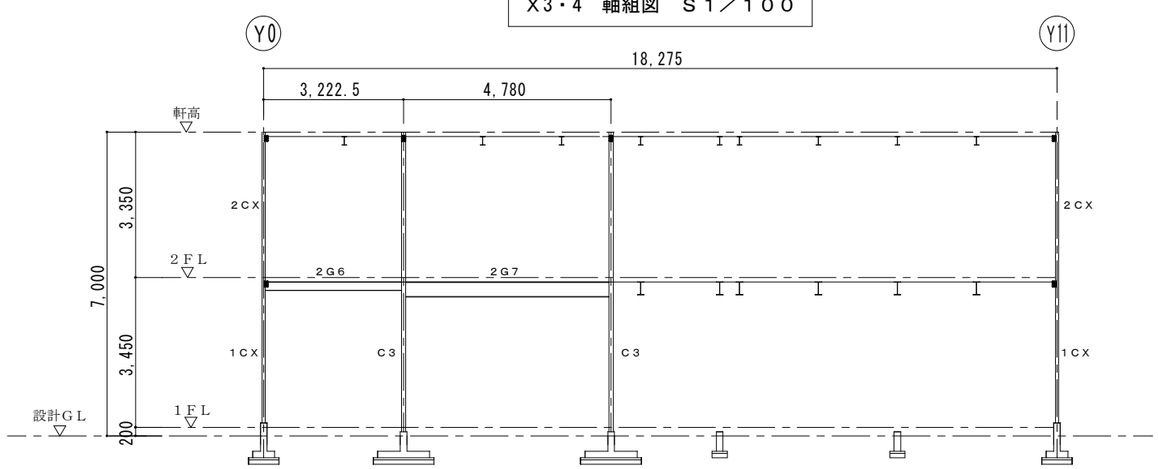
Y2 軸組図 S1／100



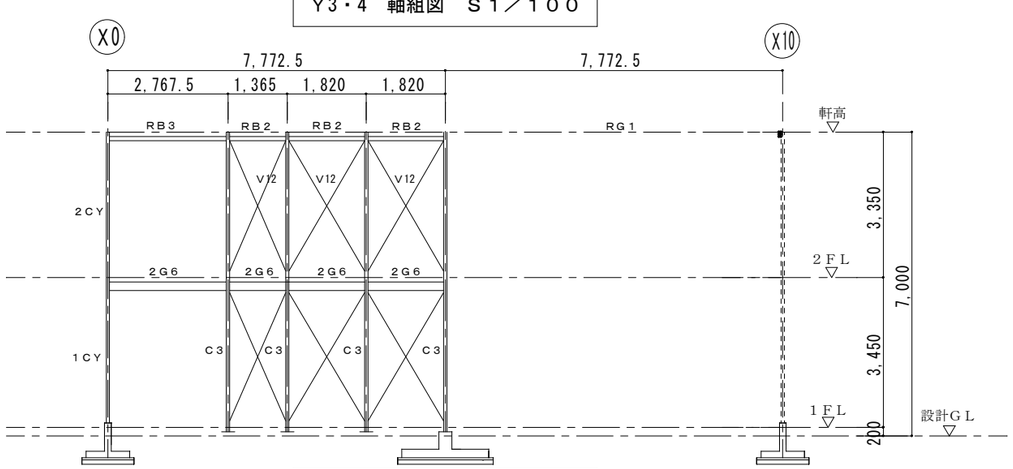
X3・4 軸組図 S1／100



Y3・4 軸組図 S1／100

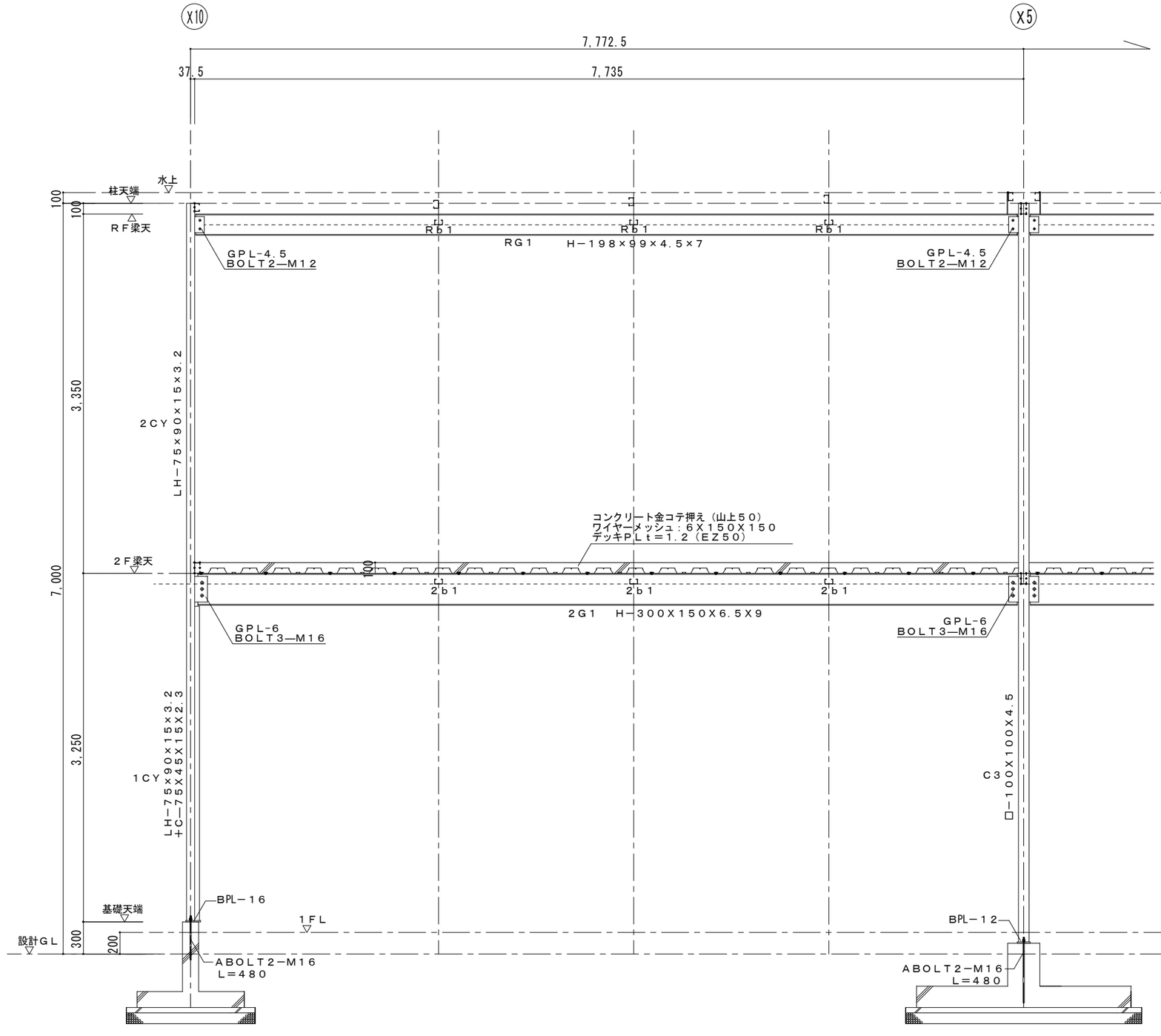


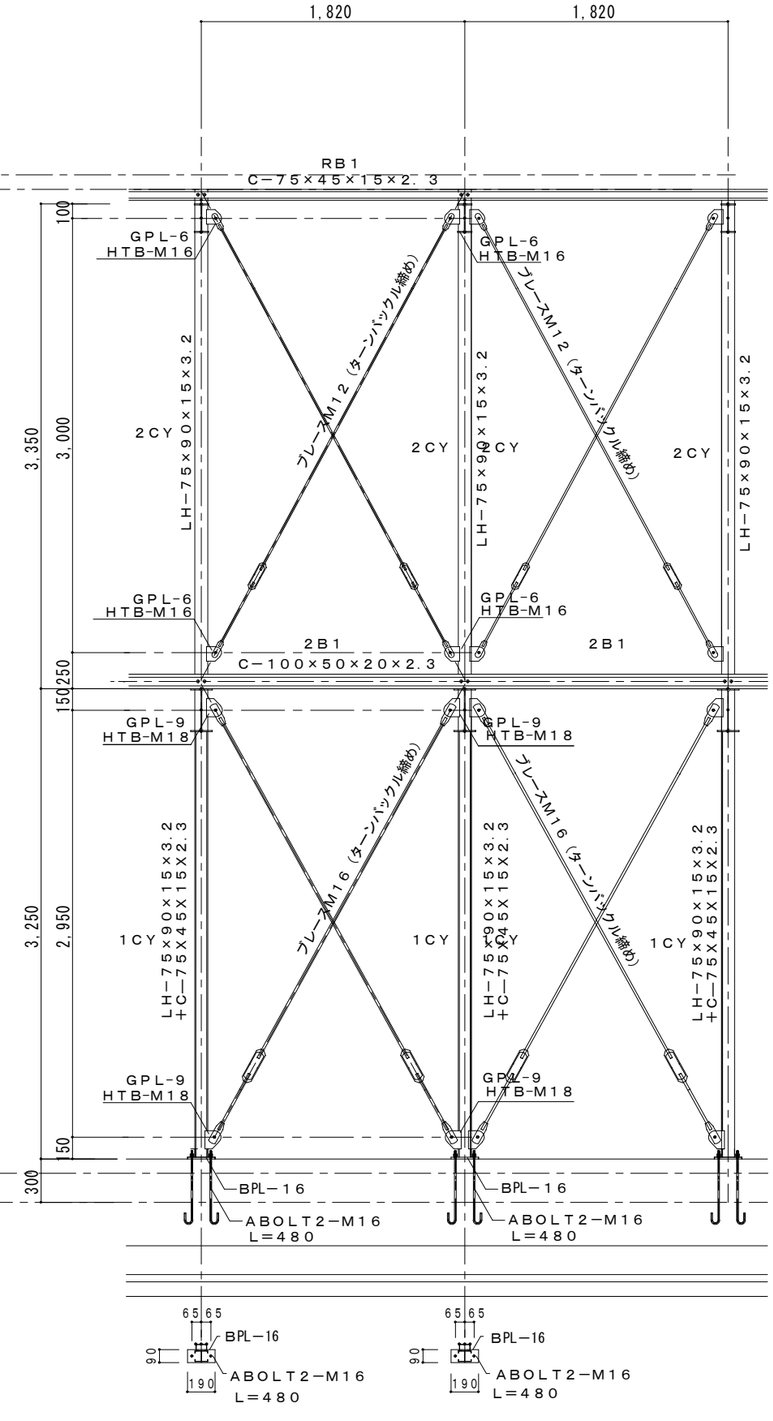
X2・3間 軸組図 S1／100



Y4.5間 軸組図 S1／100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	軸組図 (2)	1:100	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川 佳永	B-12



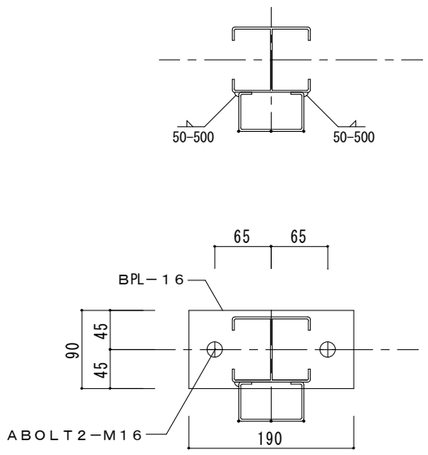


鉄骨詳細図　S1／30

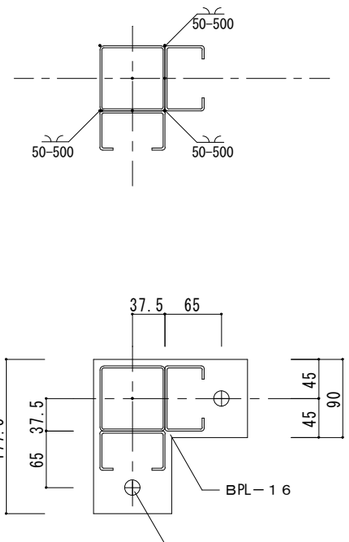
アンカーボルト材質：SNR490（ABR490）

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	鉄骨詳細図	1:30	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	B−13

１ＣＹ　１ＣＸ　　ＬＨ－７５×９０×１５×３.２　Ｃ－７５×４５×１５×２.３　　Ｓ１／５



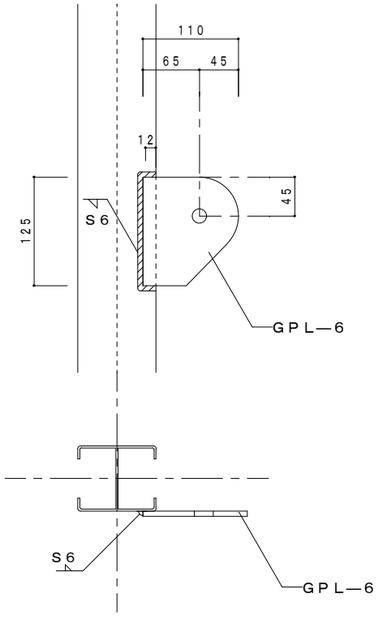
Ｃ２　　２Ｃ－７５×４５×１５×２.３　□－７５×７５×２.３　　Ｓ１／５



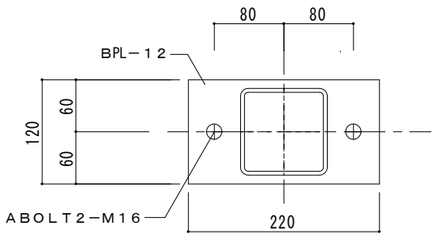
２階　垂直ブレース取合いＧＰＬ　詳細図　（共通）　　Ｓ１／５

既製品ＪＩＳブレース対応品

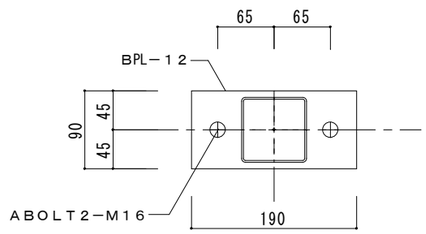
（柱）　２ＣＹ　　ブレースＭ１２用ＧＰＬ－６
　　２ＣＸ



Ｃ３　　□－１００Ｘ１００Ｘ４.５　　Ｓ１／５



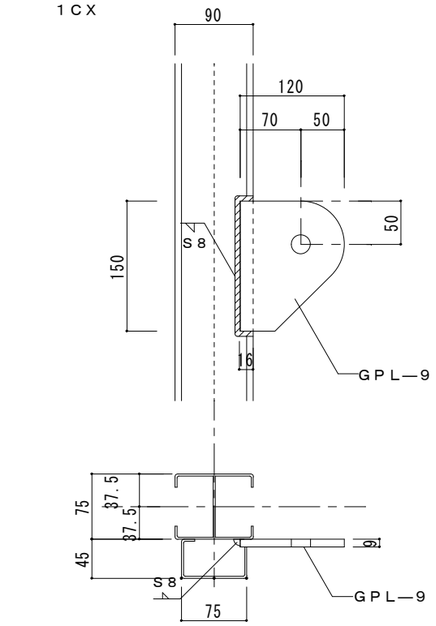
Ｃ４　　□－７５×７５×３.２　　Ｓ１／５



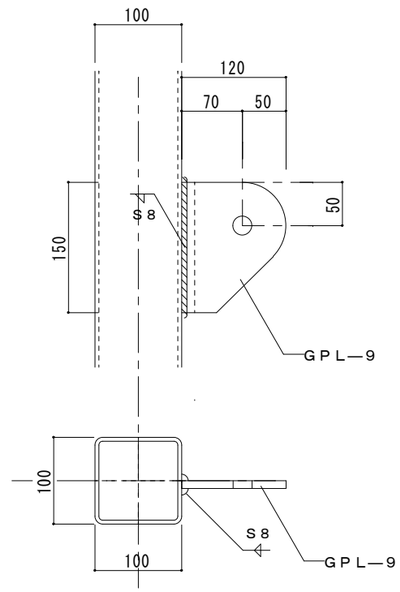
１階　垂直ブレース取合いＧＰＬ　詳細図　（共通）　　Ｓ１／５

既製品ＪＩＳブレース対応品

（柱）　１ＣＹ　　ブレースＭ１８・Ｍ２０用ＧＰＬ－９
　　１ＣＸ



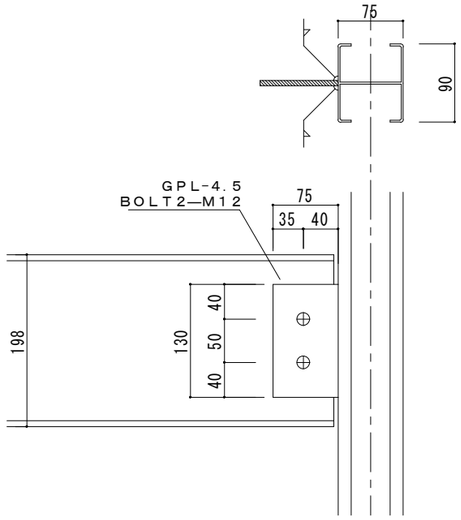
（柱）　Ｃ３　　□－１００Ｘ１００Ｘ４.５
ブレースＭ２０・Ｍ２２用ＧＰＬ－９



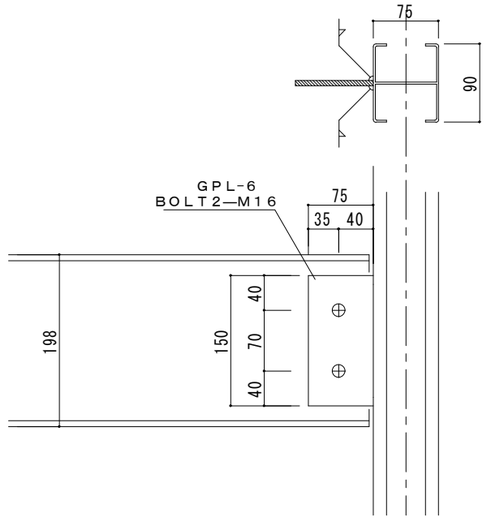
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	部分詳細図（1）	1:5	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

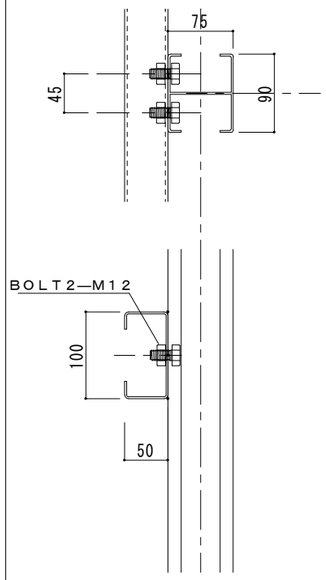
RG1　H－198×99×4.5×7　S1／5



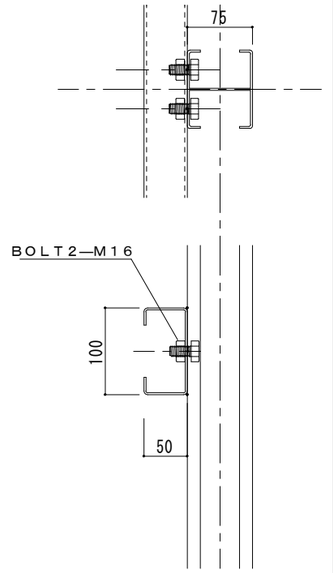
2G6　H－198×99×4.5×7　S1／5



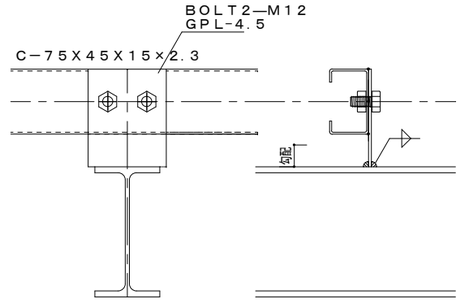
RG3　C－100×50×20×2.3



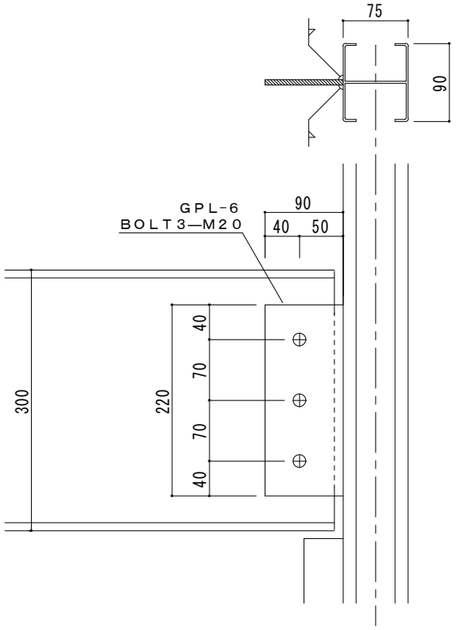
2G4　C－100×50×20×3.2



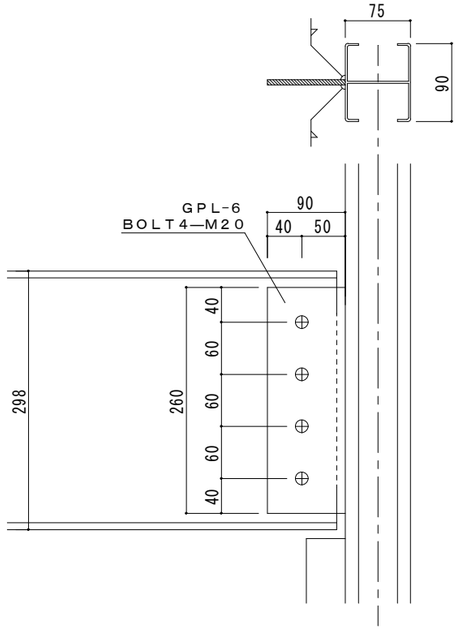
母屋部分詳細図　S1／5



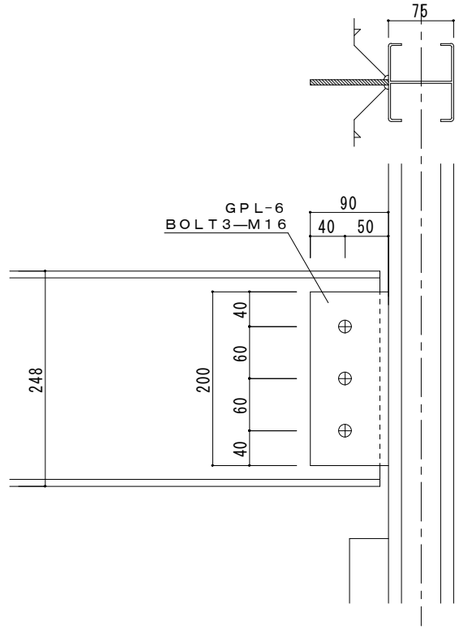
2G1　H－300X150X6.5X9　S1／5



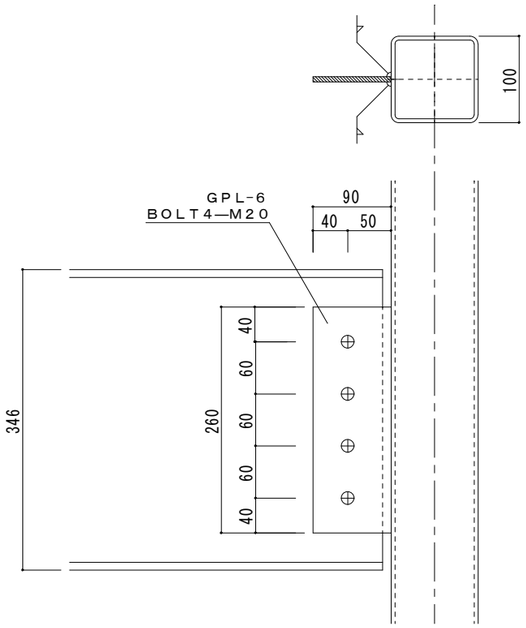
2G2　H－298X149X5.5X8　S1／5



2G3　H－248×124×5×8　S1／5



2G7　H－346X174X6X9　S1／5



PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	部分詳細図（２）	1:5	2010.9	10018		山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	B－１５

香芝市立二上小学校増築工事

No.

Ⅰ．工事概要

１．工事場所　　奈良県香芝市畑４丁目６３３－１，６３３－３，６３３－４

２．建物概要

建物名	構造	階数	延面積（㎡）	消防法令別表第一	備考
小学校	軽量鉄骨造	２	５５７．６２㎡	７項	

３．工事種目　　●印をつけたものを適用し、各一式とする。

工事項目／棟別及び屋外	増築校舎棟	既設校舎棟			屋外
電灯設備	●	○	○	○	●
動力設備	●	○	○	○	●
電熱設備	○	○	○	○	○
受変電設備	○	○	○	○	○
静止形電源設備	○	○	○	○	○
発電設備	○	○	○	○	○
雷保護設備	○	○	○	○	○
構内交換設備	●	●	○	○	●
構内情報通信網設備	●	●	○	○	●
情報表示設備	○	○	○	○	○
映像音響設備	○	○	○	○	○
拡声設備	●	●	○	○	○
誘導支援設備	○	○	○	○	○
テレビ共同受信設備	●	○	○	○	●
テレビ電波障害防除設備	○	○	○	○	○
監視カメラ設備	○	○	○	○	○
駐車場管制設備	○	○	○	○	○
防犯・入退室管理設備	○	○	○	○	○
自動火災報知設備	●	●	○	○	●
中央監視制御設備	○	○	○	○	○
医療関係設備	○	○	○	○	○
撤去工事	○	●	○	○	○
構内配電線路	（外灯設備も含む）				●
構内通信線路					●

Ⅱ．電気設備工事仕様

１．共通仕様

１）本仕様書及び図面に記載されていない事項は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成１９年版）（以下「標準仕様書」という）、公共建築改修工事標準仕様書（電気工事編）（平成１９年版）（以下「改修標準仕様書」という）及び公共建築設備工事標準図（電気設備設備工事編）（平成１９年版）（以下「標準図」という）による。

２）工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面による。

２．特記仕様

１）項目及び特記事項は、●印のついたものを本工事に適用する。ただし●印のない場合は※印を適用する。

２）特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の編・章・節・項を示す。

章	項目	特記事項
一般事項	●適用基準等	○土木部建築工事監督及び検査必携　　奈良県土木部 ○建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集　　奈良県土木部
	●設計図書の優先順位	（１）質問回答書（以下（２）から（５）に対するもの）　(1.1.1.1) （２）現場説明書 （３）特記仕様書 （４）図面 （５）標準仕様書・改修標準仕様書 以上（１）から（５）の順番のとおりとする。 ただし、明示なき材料、仕上げ等については、監督職員の指示による。
	●官公署その他への届出手続等	工事関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続き等は全て請負者が行うこと。 この場合、「建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集（奈良県土木部）」の書式に従い、日程管理を行う。　(1.1.1.3)
	●工事実績情報の登録	適用する。　(1.1.1.4)
	●疑義に対する協議等	設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取り合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じた時は、監督職員と協議する。　(1.1.1.8)
	○他工事との取合い	別記工事区分表による。
	○概成工期	現場説明時の現場説明事項による。　(1.1.2.1)
	●施工条件	現場説明時の現場説明事項による。
	●総合施工計画書	工事の着手に先立ち、総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。　(1.1.2.2)
	●電気保安技術者	適用する。工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.1.3.2)
	●電気工事士	契約電力５００ｋＷ以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	●施工中の安全確保	常に工事の安全に留意して現場管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。工事に関して、第三者から説明の要求又は苦情があった場合は、請負者の責任において直ちに誠意をもって対応する。　(1.1.3.5)
	●災害時の安全確保	災害及び事故が発生した場合は、人命の安全確保を優先するとともに、二次災害の防止に努め、その経緯を監督職員に報告する。　(1.1.3.6)
	●施工中の環境保全	関係法令に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉塵、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。建設事業及び建設業のイメージアップのために、作業環境の改善、作業現場の美化等に努める。　(1.1.3.7)
	●交通安全管理	工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に、工事関係車両の出入りについては、必ず誘導員又は交通整理員を立て、交通渋滞、住民等の安全に留意すること。又、工事着手前に警察、その他関係機関、地元自治会、監督職員などと十分うち合わせのうえ、安全管理を行う。なお、交通整理員については、現場説明事項による。
	●発生材の処理等	○引き渡しを要するもの　（　　） ○特別管理産業廃棄物等 ○ＰＣＢ使用機器　　○ＳＦ６ガス使用機器　　○（　　） ○現場において再利用を図るもの　（　　） ○再生資源化を図るもの ○蛍光ランプ　　○（　　） ○再生資源利用［促進］計画（実施）書を提出する。 （建設副産物対策近畿地方連絡協議会編） ●産業廃棄物の処理 **関係法令に従い、構外搬出適切処理とし搬出書類等提出する。なお、県内の最終処分場に**搬入することとなる場合は、奈良県産業廃棄物税条例相当額を支払うこと。 ●産業廃棄物管理票（マニフェスト）を提出する。　(1.1.3.8)
	●機材等	※別添（設備機材）に掲げる設備機材は、（社）公共建築協会発行『建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿』に記載されたもの（ただし、評価の有効期限内のものに限る）を使用する。この場合、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編１．４．２（ｂ）の品質及び性能を有することの証明となる資料（製作図、試験成績書等は除く）に替える。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ※本工事に使用する設備機材等のうち、設備機材等指定表等により特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものを使用する。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	●機材の試験	機材の品質及び性能を試験により証明する場合は、試験に先立ち試験計画書を作成のうえ、監督職員に提出し、原則として監督職員の立ち会いを受けて行う。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。　(1.1.4.5)
	○見本施工の実施	図示　（図面番号　　）　(1.1.5.3)

一般事項		
	○化学物質の濃度測定	※実施する（○着工前　※施工完了後）　(1.1.5.5) 測定対象化学物質　ホルムアルデヒド　トルエン　キシレン　エチルベンゼン　スチレン 測定対象室及び測定箇所数 室　名 | | | | | | | | 箇所数 | | | | | | | | 測定方法は監督職員の指示による
	●建築材料・設備機器	※建物内部（天井裏、床下、ＰＳ、ＥＰＳ、ＤＳ等を含む）及びダクト等の内部に使用する下記に掲げる各材料・機器等は、それぞれに定められた基準等に適合するものを選定する。 材料等 / 基準等 ①接着剤：次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆の規格に適合していること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 なお、可塑剤を使用している接着剤はフタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。 ②保温材　緩衝材　断熱材：次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆の規格に適合していること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ③塗料：次の１、２及び３を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆の規格に適合していること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ３　トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ないものであること。 ④設備機器：製品を構成する建築材料は、次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆の規格に適合していること。 ２　アセトアルデヒド及びスチレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 なお、Ｆ☆☆☆の規格に適合するものと規定された材料等で、Ｆ☆☆☆に適合する材料等がない場合は、監督員と協議を行うこと。
	○中間技術検査の実施	○土木部建築工事監督及び検査必携（奈良県土木部）に定める中間検査による。 ○（　　）　(1.1.6.2)
	●完成図等	●完成図（機器製作図含む）　(1.1.7.1) (1.1.7.2) (1.1.7.3) ○作成する。 ※請負者において完成図を作成し、糊張製本（　３　）部提出する（原図共） ※完成図は、原則として黒文字製本とし、表紙の書き方は監督職員の指示とする。 ●完成図ＣＡＤデータの提出 参考ＣＡＤデータの貸与　　●有り　　○なし ●保全に関する資料等 保全に関する資料等（建築物等の利用に関する説明書・機器取扱い説明書・官公署届出書類）を提出する。提出数は（　　）部とする。 ●その他の引き渡し書類 保証書・施工図（制御システム図・機器配管固定の施工図等）、施工計画書、各種承諾図、工事写真、その他各種検査書類等を整理し、監督職員の指示する部数提出する。 ●既存完成図の修正（多年度継続工事の場合） 既存完成図を今回工事の内容を含んだものに修正し、全体完成図として提出する。
	●工事写真・完成写真	※工事写真　「工事写真の撮影マニュアル（奈良県土木部監修）」による。 ●完成写真　下表による。 分類・規格 / 撮影枚数 / 部数 / 原板の大きさ（mm） / その他 ○カラーサービス版 / ００　０６　０９ / / ○２４×３６以上 / ○カラーキャビネ版 / 監督職員指示箇所 / / ○１００×１２５以上 / ○カラースライド / / / ○２４×３６以上 / ○カラーパネル半切 / / / ○１００×１２５以上 / ○モノクロームキャビネ版 / / / 同上 / （ただし、上記写真は、アルバム製本とする。） ○完成写真として、全紙パネルを　　部提出する。 ○完成写真撮影業者（完成写真撮影場所は監督職員の指示による。） ○監督職員の承諾する撮影業者
共通事項	●耐震施工	設備機器の固定は「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・建築研究所監修）２００５年版」による。なお設計用水平地震力は、次に示す設計用標準水平震度に、機器の重量を乗じたものとする。また設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とする。 設計用標準水平震度 設置場所 / ○特定の施設 重要 機器 / ○特定の施設 重要 水槽類 / ○特定の施設 一般 機器 / ※一般の施設 重要 機器 / ※一般の施設 重要 水槽類 / ※一般の施設 一般 機器 上層階、屋外及び塔屋 / 2.0(2.0) / ２．０ / 1.5(2.0) / 1.5(2.0) / １．５ / 1.0(1.5) 中間階 / 1.5(1.5) / １．５ / 1.0(1.5) / 1.0(1.5) / １．０ / 0.6(1.0) １階及び地下階 / 1.0(1.0) / １．５ / 0.6(1.0) / 0.6(1.0) / １．０ / 0.4(0.6) 注、（　）の内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 重要機器（水槽類）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） ○配電盤　　○直流電源装置　　○自家発電装置　　○交換機　　○ ○電算用電源　　○中央監視装置　　○ＵＰＳ装置　　○防災機器　　○ 上層階の定義は、次による。６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階建以上の場合は上層４階。 (2.2.1.14) (3.2.1.1) (4.3.1.1) (5.2.1.1) (5.2.2.1) (6.2.1.12)
	●はつり	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターとし、復旧はモルタル補修とする。梁貫通は不可。
	●電線管	図面上合成樹脂性可とう管（以下ＰＦ管という）であっても、露出部分は鋼製電線管で施工する。なお、鋼製電線管を使用する場合は、電線の収容本数を考慮する。また、屋外露出（雨線内・雨線外共）部分で明示無き場合は鋼製電線管とする。 ○ＰＦ管で配管する場合であっても、分電盤・端子盤等の２次側で第１ボックスまでは、鋼製電線管で施工する。
	●ボックス	ＰＦ管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
	●配管の塗装	配線室以外で露出配管の場合は、すべて化学処理（エッチングプライマー１種）の後、調合ペイント２回塗りとする。　(1.2.7.1)
	●電線	図面に記載なきものはＥＭ－ＩＥとする。
	●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。
	●呼び線	長さ１ｍ以上の入線しない管路には、１．２㎜以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
	●フラッシュプレート	※金属製（ステンレス、新金属も含む）　●樹脂製
	○フロアプレート・ベース	水平高低調整式（空転防止付リング付、ＯＡフロア部分を除く） ※砲金製　　○アルミ製
	●盤類塗装色	製造者の標準色とする。ただし、建築意匠見合いとなる部分については監督職員の指定色とする。　(2.1.6.3) (2.1.11.3) (3.1.1.3) (4.2.1.3) (6.1.4.2) (7.1.2.3)
	●寸法	盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。建築意匠見合いとなる部分については監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。
	●最上階の埋込配管	最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるものとする。
	●機器の取替及び改造	機器の取替及び改造を行った場合、取替日、請負者名、施工者名及び能力等を記した銘板を取付ける。
	●再使用機器	取外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定のうえ取付ける。なお照明器具等の見えがかり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃を行うこと。
	●圧着端子	丸型とする。
	●盤類仕様	●分電盤　　○実験盤　　○開閉器箱　　○制御盤 ○製造者標準品とする場合は別図による。（図面番号　　） ●盤名称・回路名称を彫刻した樹脂製の銘板で表示する。 ●盤内配線は原則としてエコ電線とする。（消防法上はＨＩＶ） ○キャビネットはステンレス製とする。 ●ＪＩＳ Ｃ 0920に対する保護等級の試験を行う。

共通事項		
	○地中埋設標	※要　　埋設標箇所数（　　）箇所　　○不要
	●標識シート	地中管路に標識シート（２倍長）を設ける。　(2.2.12.4) ○高圧管路　●低圧管路（外灯回路除く）　○外灯回路　●通信管路
	○砂利地業	※再生砕石　　○
	○屋外形手元開閉器箱	※ＳＵＳ製　○溶融亜鉛めっき　○鋼板製　○　　塗装○不要　○要 ○製造者標準品とする場合は別図による（図面番号　　）
	●屋外形ﾌﾞﾙﾎﾞｯｸｽ等	屋外形のプルボックス及び屋外に使用する配管支持金物等の雑材料は、ＳＵＳ製又は溶融亜鉛めっき（ＪＩＳ Ｈ 8641～HDZ35相当）とする。
	○ｺﾝｾﾝﾄﾌﾟﾚｰﾄ	コンセントプレートの指定箇所に回路名称（回路番号）を付す。
	○パスダクト	エキスパンションダクトは別図による。（図面番号　　）　(2.2.9.2)
	●環境に配慮した電線（ＥＭケーブル）	以下のケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 ○ＥＭ－ＵＴＰ　ＪＩＳ Ｘ 5150に準じ絶縁材にＪＣＳ規格によるＥＭケーブルの耐燃焼性架橋ポリエチレンを用いたものとする。 ○ＥＭ－ＭＥＥＳ　JCS3271（ＭＶＶＳ）に準じ、絶縁材及びシースにＪＣＳ規格によるＥＭケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたものとする。 ●ＦＰ、ＦＰ－Ｃ、ＨＰ　シースにＪＣＳ規格によるＥＭケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたものとする。 ビニル電線、ビニルシースケーブル等を使用する旨の記載があるものは、ＥＭケーブルの規格を含むものとする。ＥＭケーブルの電線色別は、原則として『標準仕様書』による。
	●色彩による表示	監督職員の指示による。
	●設備機能上の協議	図面上において機能上疑義を生じた場合は、検討した後、監督職員と協議する。
	●天井点検口等	天井点検口の裏側に用途名称を付す。また、大型プルボックスの見やすい部分に、用途名称を付す。
	○負担金等	※不要　　○要（　　） ○本工事　　○別途
	●土工事	●埋戻し及び盛土　※Ｂ種（根切り土中の良質土）　○Ａ種（山砂の類）　(標準仕様書建築工事編) ●残土処分　　※構内指示の場所に敷きならし　　○構外搬出　(1.2.2.1)
仮設工事	○監督職員事務所	※設けない　○設ける　(1.2.1.1) 規模　※10m2程度　○20m2程度　○30m2程度　○65m2程度　○100m2程度 仕上げの程度 部位 / 仕様 床 / ※合板張り又はビニル床シート張り　○ 内壁・天井 / ※合板張り又は石膏ボード張り＋塗装　○ 屋根 / ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り＋塗装　○
	○総合会議室	※設けない　○設ける（規模　　㎡程度）
	○監督職員事務所の備品	監督職員事務所を設ける場合の備品は下表による。　(1.2.1.1) 備品の種類 / 机・いす / 書棚 / 黒板 / 温度計 / ゴム長靴 数量 / 組 / 台 / 個 / 個 / 足 備品の種類 / 雨かっぱ / 保護帽 / 懐中電灯 / 加入電話機 / 衣装ロッカー 数量 / 着 / 個 / 個 / 台 / 人用 備品の種類 / 冷暖房機器 / 消火器 / 湯沸かし器 / 掃除具 / 会議用机・いす 数量 / 台 / 個 / 台 / 個 / 組 備品の種類 / 安全帯 / 流し台 / 食器棚 / 応接セット / パソコン 数量 / 個 / 台 / 台 / 組 / 台 備品の種類 / ﾊﾟｿｺﾝ周辺機器 / 掛け時計 /		| 数量 / 式 / 個 /		
	●工事用水	構内既存施設　※利用できない　○利用できる（○有償○無償）
	●工事用電力	構内既存施設　※利用できない　○利用できる（○有償○無償）
	●足場、さん橋類	※関係者が設置したものは無償で使用できる。　(1.2.1.1) ○本工事で設置する。 ○枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」（厚生労働省 平成１５年４月）により、設置については同ガイドラインに基づく働きやすい安心感のある足場とし、２段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保するものとする。
	●工事用仮設物	構内につくることが　　※できる　○できない
電灯設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●電気方式	幹線　●単相３線式　●１００／２００Ｖ６０ＨＺ　○直流２線式１００Ｖ 分岐　●単相２線式　●１００Ｖ　●２００Ｖ　○直流２線式１００Ｖ
	●施工方法	●金属管配線　●ケーブル配線　●合成樹脂管配線
	●蛍光ランプの光源色	蛍光ランプの光源色は、図面に記載のない場合は３波長域発光形昼白色とする。　(2.1.1.4)
	○照明制御装置	調光下限値、感知時間等システム設定は監督職員の指示による。　(2.1.4.5)
	○照明器具の防水試験	防水試験を行う。
	○照度測定	照度測定を行う。
	○標準外照明器具	○ＳＰ－ＦＲＳ１５ＭＰ－３２１／３２２（仕様：形状はＦＲＳ１５－３２１／３２２に準じ、材質（本体・反射板はＳＵＳ０．４）防湿構造は、ＦＲＳ２７ＭＰＡ－３２１とし、反射板は指定色塗装とする） ○別図による。図面番号（　　）
	○非常用照明の形式	○電源内蔵形　○電源別置形
	●フロアコンセント	●引出し形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形　○ＯＡフロア用
	●予備配管	分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合（Ｅ２５）を１本、５個以上の場合（Ｅ２５）を２本天井内まで立ち上げる。
	●スイッチ	大角ネーム付とする。換気扇用スイッチは確認表示灯付とする。
動力設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●電気方式	幹線　●三相３線式　２００Ｖ　６０ＨＺ　○ 分岐　●三相３線式　２００Ｖ　６０ＨＺ　○
	○施工方法	●金属管配線　●ケーブル配線　●合成樹脂管配線
	○制御盤	単位ユニットの電流計はコンデンサよりも負荷側に接続する。 自動運動回路は、試験運転にた場合運動しないものとする。
	●監視方法	●警報盤による代表監視　　○中央監視制御装置による監視
	○インターロック	火災報知設備の受信機、運動制御器及びガス漏れ火災警報受信機と連動して空調機を停止させる。
	○制御盤の散水試験	散水試験を行う。　　試験個数　○全数　○全体の（　　）％
電熱設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○仕様詳細	別図による。（図面番号　　）
受変電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○仕様詳細	別図による。図面番号（　　） ○製造者標準品、消防法認定品等とする場合は別図による（図面番号　　）
	○電気方式	○高圧　三相３線式　６ｋＶ　６０ＨＺ ○低圧　○三相３線式　２００Ｖ　○単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ ○三相３線式　　Ｖ　○三相４線式　　Ｖ／　　Ｖ
	○主遮断装置	○限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ・Ｓ） ○高圧交流遮断器（ＣＢ） 定格遮断電流　　※１２．５ｋＡ以上　　○
	○変圧器	※油入　　○モールド（絶縁種別※Ｆ種○　　）　　○ガス入 ○移動車輪付　○防振ゴム付　○ダイヤル温度計付
	○設備容量	○変圧器総容量　　ｋＶＡ　○高圧電動機総容量　　ｋＷ
	○進相コンデンサ及び直列リアクトル	○高圧側設置（コンデンサ　※油入　○　　リアクトル　※油入　○　　） ○低圧側設置　○自動力率制御　　※設ける　○設けない 高調波対策　　※有（直列リアクトル※６％　○１３％）　○無

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	電気設備特記仕様書(1)	－	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

受変電設備	○配電盤	○屋内用　○屋外用 ○キュービクル式配電盤（※普通形○薄型）　○高圧スイッチギア（※普通形○薄型） ○変圧器盤（※普通形○薄型）　○コンデンサ盤（※普通形○薄型） ○低圧スイッチギア（※普通形○薄型）　○開放形配電盤
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○基礎	※別途工事　○本工事　○既設 ○標準図による　○鉄筋太さ等詳細は別図による。（図面番号　　） ○屋外基礎は標準図より高くする。※ＧＬ＋１５０　○ＧＬ＋３００　○
	○盤内換気扇	公称羽根径は３００mmφ（鋼製）とし、電源１００Ｖは配電盤内より供給する。 サーモスタット（３０℃～４０℃可変形とし、３５℃にセット）及び切替スイッチ （自動・手動・断）を設ける。 ○屋内用配電盤の場合、外部換気扇連動（※端子　○スイッチ）を設ける。
	○盤内ヒータ	盤内ヒータ及び同用スイッチ　※不要　○要
	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する。
	○微量ＰＣＢの測定	重電機器において微量ＰＣＢの測定を行う。処分・保管は監督職員の指示に従うこと。
	○その他	○配電盤内部照明用の蛍光灯は、盤前後の扉ごとに設ける。 ○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。 ○主遮断装置、変圧器、低圧主回路導体にそれぞれヒートラベルを貼付けする。 ○接地線用の銅帯母線を設け、接地線の取り出しが一ヶ所に集中するのを避ける。 ○接地抵抗値測定用端子を測定しやすい位置に設ける。 ○キャビネットはステンレス製とする。 ○据え付け用架台は溶融亜鉛めっきとする。 ○キュービクルの内部から回路名称がわかるように表示する。 ○屋外キュービクルのネットフェンス　※本工事　○別途工事 ○内部の点検用スペースは三方をアクリル板で囲む。
静止形電源設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○直流電源装置	用途　○建築基準法用　○消防法用　○受変電設備専用 ○非常用照明器具電源、受変電設備制御電源共用 蓄電池種類　○ＨＳＥ形鉛蓄電池　○ＭＳＥ形鉛蓄電池 ○長寿命形鉛蓄電池　○長寿命ＭＳＥ型鉛蓄電池 電圧及び容量　直流　○１００Ｖ　○２４Ｖ　○４８Ｖ　○　Ａｈ ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、９０Ｖとする。
	○ＵＰＳ装置	用途（　　） 方式　○常時インバータ給電方式　○ラインインタラクティブ方式 ○常時商用給電方式 ○簡易形ＵＰＳ（○据付方法は図面番号（　　）による。）　(4.2.2.1) 出力電気方式　○単相２線式　○単相３線式　○三相３線式　６０ＨＺ 出力電圧　○１００Ｖ　○１００／２００Ｖ　○２００Ｖ 定格出力、停電補償時間（　ｋＶＡ　分間）以上　温度条件※２５℃　○（　　）
発電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○仕様詳細	別図による。（図面番号　　）
	○形式	○配電盤搭載キュービクル形（○屋内○屋外）　○配電盤別置形
	○連続運転可能時間	※１０時間　○１６８時間　○　(5.1.1.1)
	○始動時間	※４０秒（普通形）　○１０秒（即時形）
	○発電機	電気方式　三相３線式　６０ＨＺ　電圧○２１０Ｖ　○４１５Ｖ　○６．６ＫＶ 定格出力　ｋＶＡ以上　力率　０．８
	○原動機	種類　○ディーゼル機関　○ガスタービン　○ﾏｲｸﾛｶﾞｽﾀｰﾋﾞﾝ　○ 定格出力　ｋＷ（　ＰＳ）以上 始動方式　※電気式　○空気式 冷却方式（ディーゼル機関）　○ラジエータ式　○別置ラジエータ式　○水槽循環式 付属装置　○過給器付　○給気冷却器付
	○燃料	種類　※軽油　○Ａ重油　○灯油　○天然ガス系都市ガス　(5.1.1.7) (5.1.2.7) ○燃料小出槽　Ｌ　※鋼板製　○ステンレス製　(5.1.1.6) (5.1.3.7) ○主燃料槽　Ｌ（○本工事　○別途工事　○専用　○共用）　(5.1.4.12)
	○減圧水槽	※ステンレス製　○鋼板製　(5.1.1.6)
	○給油ボックス	※ステンレス製　○鋼板製　(5.1.1.6)
	○排気管又は排気ダクト	ばい煙測定口　※設ける　○設けない ○断熱材の厚さは別図による。（図面番号　）　(5.2.1.7)
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○排気ガス	常用発電機の排出規制値は別図による。（図面番号　） (5.1.1.4) (5.1.1.6) (5.1.2.6) (5.1.3.4) (5.1.3.6)
	○騒音規制値	○非常用発電設備　消音器出口（　）ｄＢ以下 敷地境界　※６０ｄＢ以下　○ ○常用発電設備　別図による。（図面番号　）
	○天井走行装置	○本工事　○別途工事
	○保安装置	項目及び外部用端子は別図による。（図面番号　）　(5.1.1.5) (5.1.2.5) (5.1.3.5)
	○その他	配電盤の外箱、配管材料、防音性能、潤滑油の冷却方式、過負荷試験の有無は別図による。 （図面番号　）　(5.1.1.2) (5.1.1.6) (5.1.1.8) (5.1.3.4) (5.1.4.1) (5.1.8.1)
	○太陽光発電装置	系統連系の有無、ﾓｼﾞｭｰﾙの種類、公称最大出力、耐風速、出力電圧等仕様詳細は別図による。 （図面番号　）　(5.1.7.1) (5.1.7.4)
	○風力発電装置	※定格出力２０ｋＷ未満　○定格出力２０ｋＷ以上　（図面番号　）　(5.1.8.1) 機関１ｍにおける運転音　※80dB　○　(5.1.8.2) 系統連系の有無、風車の仕様、移報用の遠方監視接点等仕様詳細は別図による。 （図面番号　）　(5.1.8.1) (5.1.8.2) (5.1.8.3)
	○燃料電池	※りん酸形燃料電池　○　(5.1.5.1) ※系統連系有　○系統連系無　(5.1.5.1) 設置条件、計測・故障表示項目は別図による（図面番号　）　(5.1.5.1) (5.1.5.3)
雷保護設備	○工事範囲	○受雷部　○引下げ導線　○接地極
	○受雷部	○突針　○水平導体　○メッシュ導体　○構造体利用
	○引下げ導線	○建築構造体利用　○引下げ導線
	○支持管	※鋼製（溶融亜鉛めっき）　○ステンレス製
	○接地極	○板状接地極　○垂直接地極　○放射状接地極 ○環状接地極　○網状接地極　○構造体利用接地極
構内交換設備	●工事範囲	●配管　○配線　○機器取付
	○ﾊｲﾃﾝｼｮﾝｱｳﾄﾚｯﾄ	○外部固定形　○内部固定形　○回転形または上下動形　○
	○ﾛｰﾃﾝｼｮﾝｱｳﾄﾚｯﾄ	○一般形　個　○ＯＡフロア用　個（通線カバー）
	○配線方式	幹線　○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線 分岐　○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線　○フロアダクト配線
	○通信用ＳＰＤ	○信号線側設置　○電源側設置 ○保安器用接地工事　※本工事　○別途工事
	○形式	○ボタン電話装置　○電子交換機
	○蓄電池	種類（　）容量（　）Ａｈ
	○仕様詳細	局線応答方式等仕様詳細は別図による。（図面番号　）　(6.1.6.2)
	○回線	○局線　／　回線（○ダイヤルイン　回線）以上　○専用線　／　回線以上 ○内線　／　回線以上　○データ端末内線　／　回線以上 ○ＦＡＸ　／　回線以上
	○電話機	○ボタン電話機　台　○局線受付電話機　台　○コードレス電話機　台 ○停電補償電話機　台　○多機能電話機表示付　台　表示無　台 ○ＰＨＳ　台
	○電話機への配線	電話機１台につき　※ＥＭ－ＴＩＥＦ０．６５－２Ｃ　○ＥＢＴ０．４－２Ｐ　２０ｍ ○２号ワイヤプロテクタ　１．５ｍを見込む。^ｍ
構内情報通信網設備	●工事範囲	●配管　○配線　○機器取付
	●施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　●合成樹脂管配線
	○通信用ＳＰＤ	○信号線側設置　○電源側設置
	○試験	試験項目は別図による。（図面番号　）
	○仕様詳細	端子類のポート数、インターフェース、ルータ・スイッチ・ファイアウォール・ネットワーク管理装置の機能等仕様詳細は別図による。（図面番号　） (6.1.4.4) (6.1.5.1) (6.1.5.3) (6.1.5.4) (6.1.5.5) (6.1.5.6)
情報表示設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	○電気方式	○ＡＣ　Ｖ　○ＤＣ　Ｖ
	○出退表示盤	○多線直接式発光ダイオード表示盤　○液晶式情報表示盤　○埋込形 ○パルス伝送式発光ダイオード表示盤　○窓数　窓　○呼出し機能（※有　○無）
	○マルチサイン装置	イメージスキャナ、表示面等仕様詳細は別図による。（図面番号　）　(6.1.7.2)
	○親時計及び付属装置	○ＣＲ－ＰＭ　○ＣＷ－ＰＭ　○ ○プログラムタイマ　（○カード式　○キー式　○　）
	○子時計	図面に記載なきものは　※ＳＷＡ３３－ＧｐＢ２　○ スピーカ付のものは　※ＳＷＡ３３－ＧｐＳｐｓＢ２　○
映像音響設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	○仕様	スピーカの性能、キャビネットの材質、プロジェクタの性能・投射方式、スクリーンの 材質形状等仕様詳細は別図による。（図面番号　）　(6.1.8.3) (6.1.8.4) (6.1.8.5)
	○試験	試験項目は別図による。（図面番号　）　(6.2.28.2)
拡声設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●施工方法	●金属管配線　●ケーブル配線　●合成樹脂管配線
	●工事詳細	別図による。（図面番号　）
	●増幅器	形式　○卓上形　○ラック組込形 定格出力　Ｗ以上 性能　○Ｈｉ形 出力制御器　※有　回線　○無 ○自動放送はアッテネータを経由した回路とする。 付加機能　○リモコン機能　○コールサイン機能　○モニター機能 用途　○一般放送用　○非常放送用
	○マイクロホン	○卓上形　台　○ハンド形　台
	●スピーカ	天井埋込形で図面に記載なきものは　※ＳＣ５Ｈ１－１Ｖ３－Ｋ　○ 壁掛形で図面に記載なきものは　※ＳＷ２Ｈ１－１Ｖ３　○
	○ＣＤ・ＤＶＤプレーヤ	○卓上形　○ラック組込　○ラックスペースのみ　○連装機能有り
	○レコーダ	○卓上形　○ラック組込　○ラックスペースのみ 媒体　○カセット形　○磁気ディスク 形式　○ノーマルカセット形　○ＭＤ 台数　○一般放送用　台　○自動放送用　台
誘導支援設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	○施工方法	●金属管配線　●ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	○機器	○音声誘導装置　（○磁気式　○無線式） ○トイレ等呼出し装置　窓 ○受付呼出し装置 ○外部受付用インターホン
	●インターホン	用途　○夜間受付用　●一般用　○保守用 種類　○親子式（※電話形同時通話式　○電話スピーカー形同時通話式） ●相互式（※電話形同時通話式　○複合式）　○子機プレート（ＳＵＳ製） テレビの有無　※無　○有
テレビ共同受信設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●施工方法	○金属管配線　●ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	●アンテナ	○ＶＨＦ　○ＵＨＦ　●ＵＨＦ（地上デジタル）　○ＢＳ　○ＣＳ　○ＣＡＴＶ　○
	○アンテナマスト	○壁面取付形　○自立形　（基礎　※別途　○本工事）
	●電界強度等	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付け予定位置、また その周辺で測定する。（測定チャンネルは別図による　（図面番号　）） その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。　(6.2.19.3)
テレビ障害防除設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	○事前調査	調査箇所数　箇所 調査チャンネルは別図による。（図面番号　）　(6.2.20.6)
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○伝送方式	○アナログ伝送方式　○ネットワーク伝送方式　○
	○画像	○カラー　○モノクロ
	○レンズ	○標準レンズ　○広角レンズ　○望遠レンズ ○仕様詳細は別図による。（図面番号　）　(6.1.13.2)
	○その他	○ワイパ　○デフロスタ　○ヒータ　○ファン　(6.1.13.5)
駐車場管制設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式　○光線方式
	○発券方式	○磁気式　○ＩＣカード式　○パンチカード式　(6.1.14.5)
防犯設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	○ＤＣ　Ｖ　○
	○警戒方式	○マグネットスイッチ　○バイブレーションスイッチ　○パッシブセンサー　○
	○電源装置	予備電源（蓄電池）内蔵
入退室管理設備	○工事範囲	○配管　○配線
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	○制御装置	基本機能を除く機能は別図による（図面番号　）　(6.1.15.2)
	○認識部	○磁気カード　○テンキー　○ＩＣカード　○バイオメトリックス ○認識部の区分、機能、形状等は別図による。（図面番号　）　(6.1.15.3)
自動火災報知設備	●工事種類	●自動火災報知設備　○自動閉鎖設備　○非常警報設備　○ガス漏れ火災警報設備
	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●施工方法	●金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
	●自動火災報知装置	●受信機　Ｐ型　１級　２０回線（●壁掛型　○自立形）　（○単独形　●複合形） ○副受信機　窓 ●機器収容箱（○消火栓一体形　●単独形） ○表示装置（○内照式液晶ディスプレイ　○プラズマディスプレイ） 仕様詳細は別図による（図面番号　）　(6.1.16.4)
	○消火ポンプの始動	※消火栓箱内押しボタン　○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
	○連動制御器	回線（予備電源（蓄電池）内蔵） ○単独　○火報受信機等と一体 ○ダンパ等（全数）復帰用の予備電源容量をもつこと。
	○自動閉鎖装置	○防火戸用（ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下　電磁式またはラッチ式） ○防煙ダンパ用［別途工事　瞬時通電式または電動式ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下、 遠方復帰機構（電動式）ＤＣ２４Ｖ　０．７Ａ以下］ ○防火シャッタ用　（別途工事　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下）
	○非常警報装置	※有　○無
	○ガス漏れ火災警報装置	○受信機　形　級　回線（○壁掛形　○自立形） （○単独形　○火報受信機と一体）（ガスの種類　）
	○通信用ＳＰＤ	○信号線側設置　○電源側設置
中央監視制御設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○仕様詳細	機能、機器構成、外観構造、画面サイズ、表示色数、印字方式、補助盤の変換器等仕様詳細は別図による。（図面番号　）　(7.1.3.1) (7.1.3.2) (7.1.3.4) (7.1.3.5)
	○通信用ＳＰＤ	○信号線側設置　○電源側設置
構内配電線路	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●電気方式	●三相３線式　○６ｋＶ　●２００Ｖ ●単相３線式　１００／２００Ｖ　●単相２線式　●１００Ｖ　○２００Ｖ
	●ふ設方式	●地中埋設式　●架空線式 埋設深さ　図面に記載なき場合は、ＧＬ（舗装がある場合は、舗装下面）-600mm以下とする ○電柱　遠心カプレストレスコンクリートポール ○根かせ ○支線ガード
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器７．２ｋＶ　○２００Ａ　○３００Ａ 用途　○架空引込用　○地中引込用 構造　○ステンレス製　○耐中塩じん用　○耐重塩じん用
構内配電線路		形式　○引外し装置付（ＳＯＧ形）　○引外し装置なし　○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵　○方向性あり
	○マンホール及びハンドホール	構造、寸法は　※標準図による。　○別図による。（図面番号　） 蓋の用途表示は　○奈良県高圧　○奈良県電気　○　とする。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は接地を省略してもよい。 **ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。　○強電・弱電用セパレート**
	○余長	高圧ケーブルは、マンホール、ハンドホールまたはキュービクル内等の１ヶ所で約３ｍの余長をとる。
	○がいし、高圧ｹｰﾌﾞﾙ端末処理	○一般用　○耐塩用　○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形　○耐塩形
	○装柱材	○一般用　○耐塩形
	○外灯	○一般用　○景観照明用　基礎※本工事　○別途 ○鋼製屋外灯ポールは溶融亜鉛めっきとし、指定色塗装とする。 ○接地は各ポール毎に施す。
構内通信線路	●工事範囲	●配管　●配線　○機器取付
	●ふ設方法	○地中埋設式　●架空線式 埋設深さ　図面に記載なき場合は、ＧＬ（舗装がある場合は、舗装下面）-600mm以下とする。 ○電柱　遠心カプレストレスコンクリートポール ○根かせ ○支線ガード
	○マンホール及びハンドホール	構造、寸法は　※標準図による。　○別図による。（図面番号　） 蓋の用途表示は　※奈良県通信　○　とする。
その他	○建築物等（内装仕上げ等）の解体作業における石綿対策	石綿含有建築材料（みなす場合も含む）が存在する場合の除去等にあたっては、労働安全衛生規則（昭和４７年労働省令第３２号）及び石綿障害予防規則（平成１７年厚生労働省令第２１号）の定めに基づき解体作業等を行うこと。

（設備機材）

蛍光灯用の安定器（高周波点灯専用形蛍光灯電子安定器）、蛍光灯器具、照明制御装置
可変速電動機用インバータ装置
盤類（分電盤（実験盤を含む）、制御盤、キュービクル式配電盤、高圧スイッチギヤ（ＣＷ形）、
高圧スイッチギヤ（ＰＷ形））
高圧機器（高圧交流遮断器、高圧進相コンデンサ、高圧限流ヒューズ、高圧負荷開閉器、高圧変圧器（特定機器））
蓄電池（ベント形据置鉛蓄電池、制御弁式据置鉛蓄電池、据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池）
交流無停電電源装置
太陽光発電装置（パワーコンディショナ及び系統連系保護装置）
監視カメラ装置
中央監視制御、監視制御装置

機器取付高さ

名称		測点	取付高（mm）
電灯動力共通	引込用計器	地上～窓中心	１，８００～２，０００
	引込開閉器	床上～中心	１，８００～２，２００
電灯	分電盤	床上～中心	１，５００
	スイッチ（一般）	床上～中心	１，３００
	スイッチ（身障者用）	床上～中心	１，１００
	スイッチ（自動扉用）	床上～中心	１，７００
	コンセント（一般）	床上～中心	３００
	コンセント（和室）	床上～中心	１５０
	コンセント（台上）	台上～中心	１５０～３００
	コンセント（機械室・車庫）	床上～中心	８００～１，３００
	ブラケット（一般）	床上～中心	２，１００～２，３００
	ブラケット（踊場）	床上～中心	２，０００～２，５００
	ブラケット（鏡上）	鏡上端～下端	５０
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	１，５００
	手元開閉器	床上～中心	１，５００
	操作スイッチ	床上～中心	１，３００
構内交換	端子盤（室内）	床上～下端	３００
	集合保安器箱	天井下～上端	２００
	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	１，３００
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	１５０
情報表示	表示盤	床上～中心	２，３００
	壁付発信機	床上～中心	１，３００
	ベル・ブザー・チャイム	床上～中心	２，３００
	壁掛形親時計	床上～中心	１，５００
	子時計	床上～中心	２，３００
拡声	壁掛形スピーカ	床上～中心	２，３００
	壁付アッテネータ	床上～中心	１，３００
誘導支援	壁付インターホン（身障者）	床上～中心	１，１００
	壁付押しボタン（一般）	床上～中心	１，３００
	壁付押しボタン（身障者玄関）	床上～中心	１，１００
	壁付押しボタン（身障者便所）	床上～中心	９００以下
	壁付インターホン（一般）	床上～中心	１，３００
	壁付アウトレット（一般）	床上～中心	１，３００
	壁付アウトレット（和室）	床上～中心	１５０
テレビ共同受信	機器収容箱	天井下～上端	２００
	直列ユニット（一般）	床上～中心	３００
	直列ユニット（和室）	床上～中心	１５０
火災報知	受信機・副受信機	床上～中心	８００～１，５００
	機器収容箱	床上～中心	８００～１，５００
	発信機	床上～中心	８００～１，５００
	ベル	床上～中心	２，３００
	表示灯	床上～中心	２，１００
	液化石油ガス用検知器	床上～上端	３００

※取付高さは標準であり、監督職員の承諾を受けて変更してもよい。

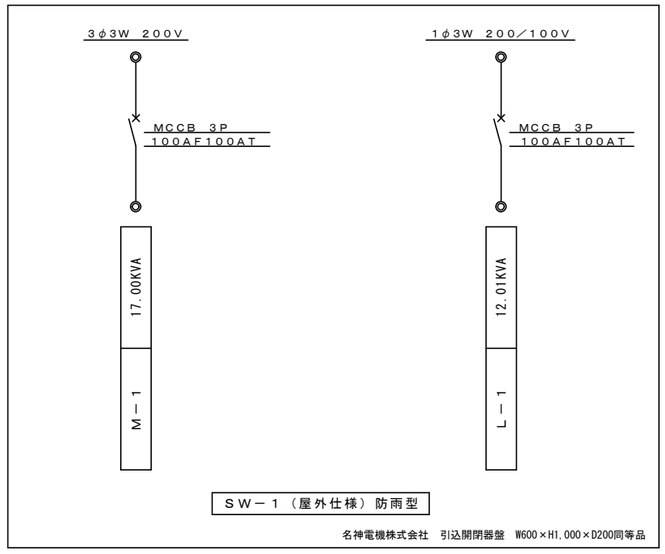
設備機材等指定表

機材	製造者名	製造者名	製造者名

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	電気設備特記仕様書(2)	－	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｅ－２

凡　例

記号	配線・機器等	記号	
⊕	壁付コンセント　２Ｐ１５Ａｘ１ ２個以上は傍記による。	●	タンブラスイッチ　１Ｐ15Ａｘ1（運用大角型・ネーム付） 15Ａ以外は傍記による。
$⊕_{ELK}$	壁付コンセント　２Ｐ１５Ａｘ１（抜け止め型、接地極付） ２個以上は傍記による。	$●_3$	タンブラスイッチ　3W15Ａｘ1（運用大角型・3路用ｶｰﾑ付） 15Ａ以外は傍記による。
$⊕_{WP}$	壁付コンセント　２Ｐ１５Ａｘ１　（防水型） 形式は傍記による。	$●_L$	タンブラスイッチ　１Ｐ15Ａｘ1（運用大角型・ネーム付） 確認表示灯付　　15Ａ以外は傍記による。
$⊕_E$	壁付コンセント　２Ｐ１５Ａｘ１　（接地極付） ２個以上は傍記による。　（プラグ付とする。）		換気扇　機械設備工事
$⊕_{ET}$	壁付コンセント　２Ｐ１５Ａｘ１　（接地端子付） コンセントの２個以上は傍記による。	R	リモコン（エアコン用）
	フロアコンセント　２Ｐ１５Ａｘ１ ２個以上は傍記による。		換気扇用スイッチ
WS	電力量計箱　　（電力量計は別途）		蛍光灯器具（2灯用）　一般回路　　位置ボックス有
□	位置ボックス		蛍光灯器具（1灯用）　一般回路　　位置ボックス有
⊠	プルボックス		蛍光灯器具（壁付1灯用）　一般回路　　位置ボックス有
	分電盤		蛍光灯器具（壁付用）　一般回路　　位置ボックス有
	制御盤		
	端子盤　　対数、形式は、傍記による。		子時計
	接地		親時計
			スピーカ付子時計
	機器収容箱	◎	１端子形直列ユニット　　Ｆ形接栓　（プラグ付とする。） 傍記Ｒ・ＣＲは、終端抵抗器付を示す。
	差動式スポット型感知器２種　１種の場合は、傍記による。	Ⓘ	インターホン（収納箱共）
S	煙感知器２種　（露出型）　１種の場合は、傍記による。		スピーカ
Ⓟ	Ｐ型発信機　　級別は傍記による。		アッテネータ
Ⓑ	警報ベル	AMP	増幅器
	受信機		
	複合盤　自動火災報知装置、ガス漏れ火災報知装置、及び 自動閉鎖装置の連動制御器を一体としたものを示す。		



SW－１（屋外仕様）防雨型

名神電機株式会社　引込開閉器盤　W600×H1,000×D200同等品

盤名称	放送	ＬＡＮ	テレビ	インターホン	備考
Ｔ－１	既存校舎棟より引込 各受口に配線	ＨＵＢスペース	アンテナより ブースター（７０dB） ６分配器を経て 各受口に配線	既存校舎棟より引込 各受口に配線	名神電機株式会社　同等品 W500×H1,400×D200 屋内壁掛型（放熱孔付）

分電盤負荷表

盤名称 幹線番号 幹線サイズ	電気方式 主幹 合計容量	回路番号	電圧 100V	電圧 200V	配線用遮断器 MCCB	配線用遮断器 ELCB	分岐 P AF／AT	負荷容量 VA	備考
Ｌ－１ EM-CET38sq	1φ3W 210/105V								
	X	102	○		○		2P1E　50 ／ 20	800	１Ｆ　廊下照明・教室換気扇
	MCCB 3P 150／150	103	○		○		2P1E　50 ／ 20	800	１Ｆ　便所照明・換気扇
	AS	111	○			○	2P1E　50 ／ 20	300	外灯
		112	○			○	2P1E　50 ／ 20	250	１Ｆ　渡り廊下照明
		202	○		○		2P1E　50 ／ 20	1050	２Ｆ　廊下照明・教室換気扇
		203	○		○		2P1E　50 ／ 20	560	２Ｆ　便所照明・換気扇
		211	○			○	2P1E　50 ／ 20	250	２Ｆ　渡り廊下照明
		104	○		○		2P1E　50 ／ 20	150	階段
		105	○		○		2P1E　50 ／ 20	150	昇降口・倉庫
		115		○	○		2P2E　50 ／ 20	－	予備
		101		○	○		2P2E　50 ／ 20	1200	１Ｆ　普通教室照明
		201		○	○		2P2E　50 ／ 20	1800	２Ｆ　普通教室照明
		212		○	○		2P2E　50 ／ 20	－	予備
		213		○	○		2P2E　50 ／ 20	－	予備
		106	○		○		2P1E　50 ／ 20	500	１Ｆ　普通教室コンセント
		107	○		○		2P1E　50 ／ 20	500	１Ｆ　普通教室コンセント
		108	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	１Ｆ　普通教室コンセント
		109	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	１Ｆ　廊下・倉庫・物置コンセント
		110	○		○		2P1E　50 ／ 20	750	
		113	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	１Ｆ　端子盤内コンセント
		114	○			○	2P1E　50 ／ 20	700	浄化槽制御盤
		117		○	○		2P2E　50 ／ 30	600	１Ｆ　室内機ファン電源
		118	○		○		2P1E　50 ／ 20	－	予備
		204	○		○		2P1E　50 ／ 20	500	２Ｆ　普通教室コンセント
		205	○		○		2P1E　50 ／ 20	500	２Ｆ　普通教室コンセント
		206	○		○		2P1E　50 ／ 20	500	２Ｆ　普通教室コンセント
		207	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	２Ｆ　普通教室コンセント
		208	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	２Ｆ　普通教室コンセント
		209	○		○		2P1E　50 ／ 20	100	２Ｆ　普通教室コンセント
		210	○		○		2P1E　50 ／ 20	400	２Ｆ　廊下コンセント
		213		○	○		2P2E　50 ／ 30	900	２Ｆ　室内機ファン電源
	T=12.91KVA	214	○		○		2P1E　50 ／ 20	－	予備

凡例

記号	機器名称:機器仕様	記号	機器名称:機器仕様
X	MCCB　（配線用遮断器）	MC	電磁接触器
ELCB	漏電遮断器:30mA0.1秒動作	RT	リモコントランス
TS	タイムスイッチ:24時間停電保障付	R	リモコンリレー
WH	電力量計:検定付		
T/U	リモコン伝送ユニット		

特記事項

回路名称、回路電圧は下記に依る。

○ － ○　100V電灯回路

○ － ○　200V電灯回路

○ － ○　100Vコンセント回路

AS：常夜灯（AS ON-OFF）

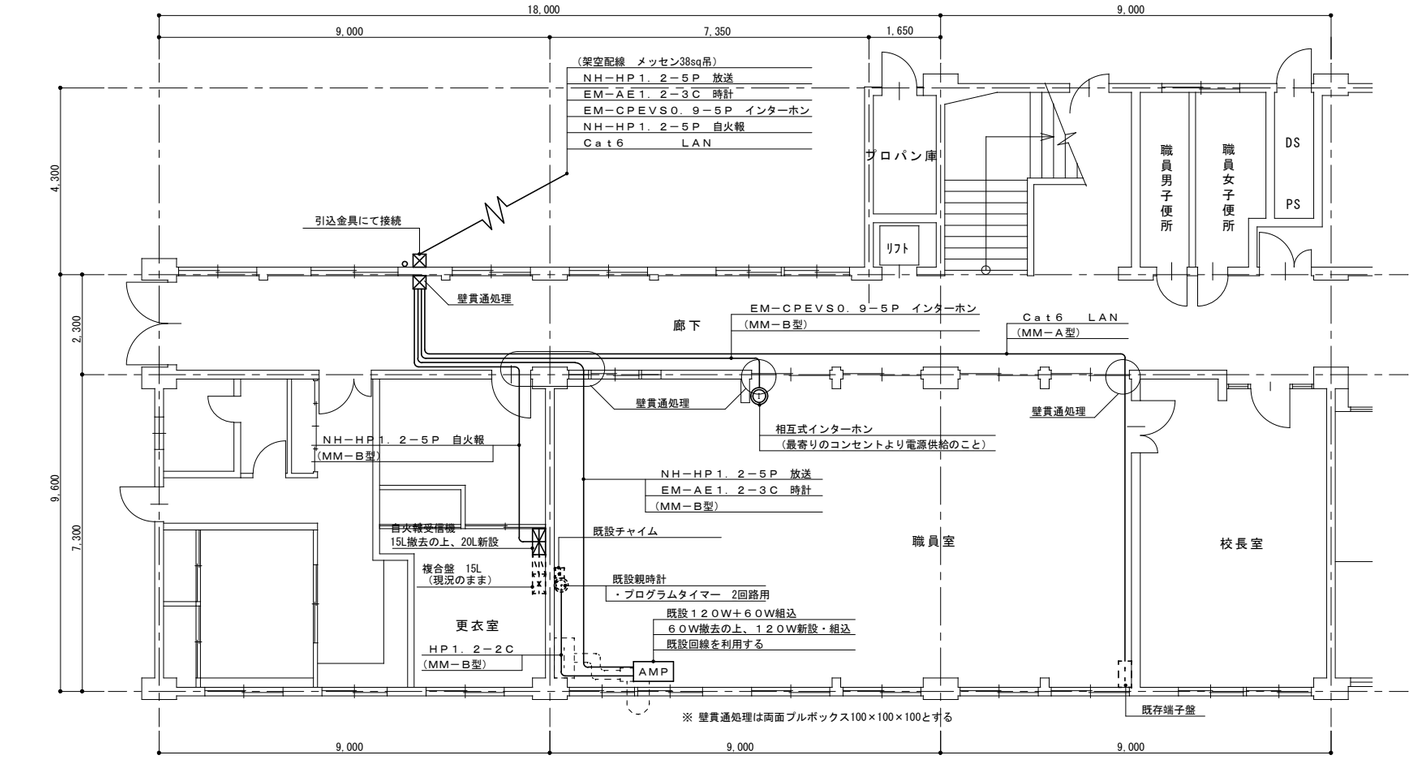
名神電機株式会社　W600×H1,200×D200同等品

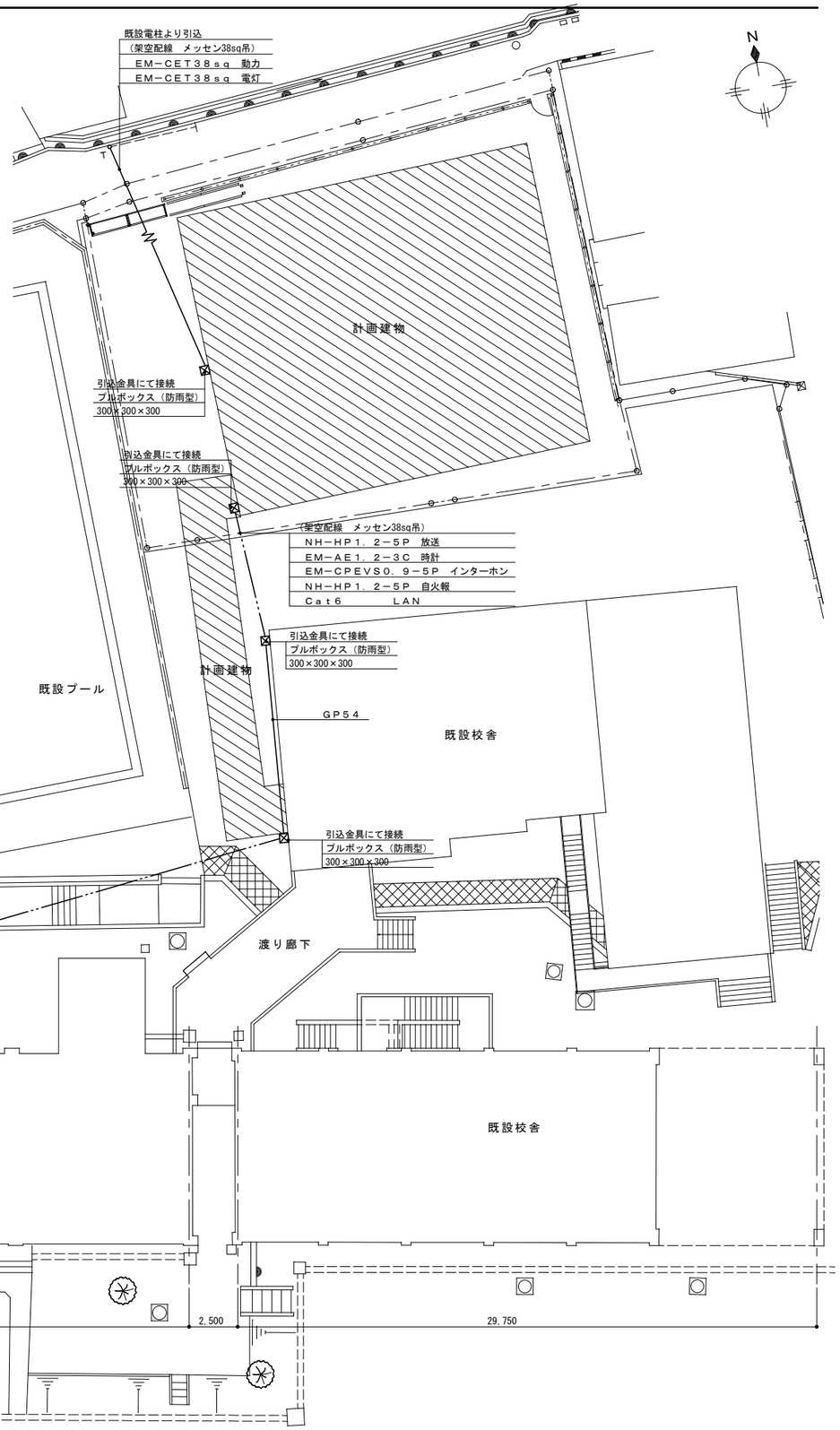
盤名称	幹線　No.	機器No	機器名称	電圧（V）	容量（KW）	設置場所	動力制御盤 結線記号	動力制御盤 操作	動力制御盤 表示GR	動力制御盤 故障	動力制御盤 警報	動力制御盤 インターロック連動	警報盤 操作	警報盤 表示GR	警報盤 故障	警報盤 警報	配線サイズ	備考
Ｍ－１	MCCB3P 100／100																	
EM-CET38sq		1	ＰＡＣ－１	200	3.40	１Ｆ	ＥＬＣＢ ５０／３０											
		2	ＰＡＣ－１	200	3.40	１Ｆ	ＥＬＣＢ ５０／３０											
		3	ＰＡＣ－１	200	3.40	２Ｆ	ＥＬＣＢ ５０／３０											
		4	ＰＡＣ－１	200	3.40	２Ｆ	ＥＬＣＢ ５０／３０											
		5	ＰＡＣ－１	200	3.40	２Ｆ	ＥＬＣＢ ５０／３０											
			予備スペース				ＥＬＣＢ ５０／３０											
	TO. 17.00KW																	

名神電機株式会社　W500×H800×D160同等品

既存校舎内平面図

1：100



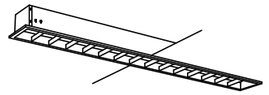
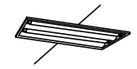
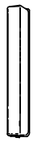


PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	全体配置図・既存校舎平面図	1：200・100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川

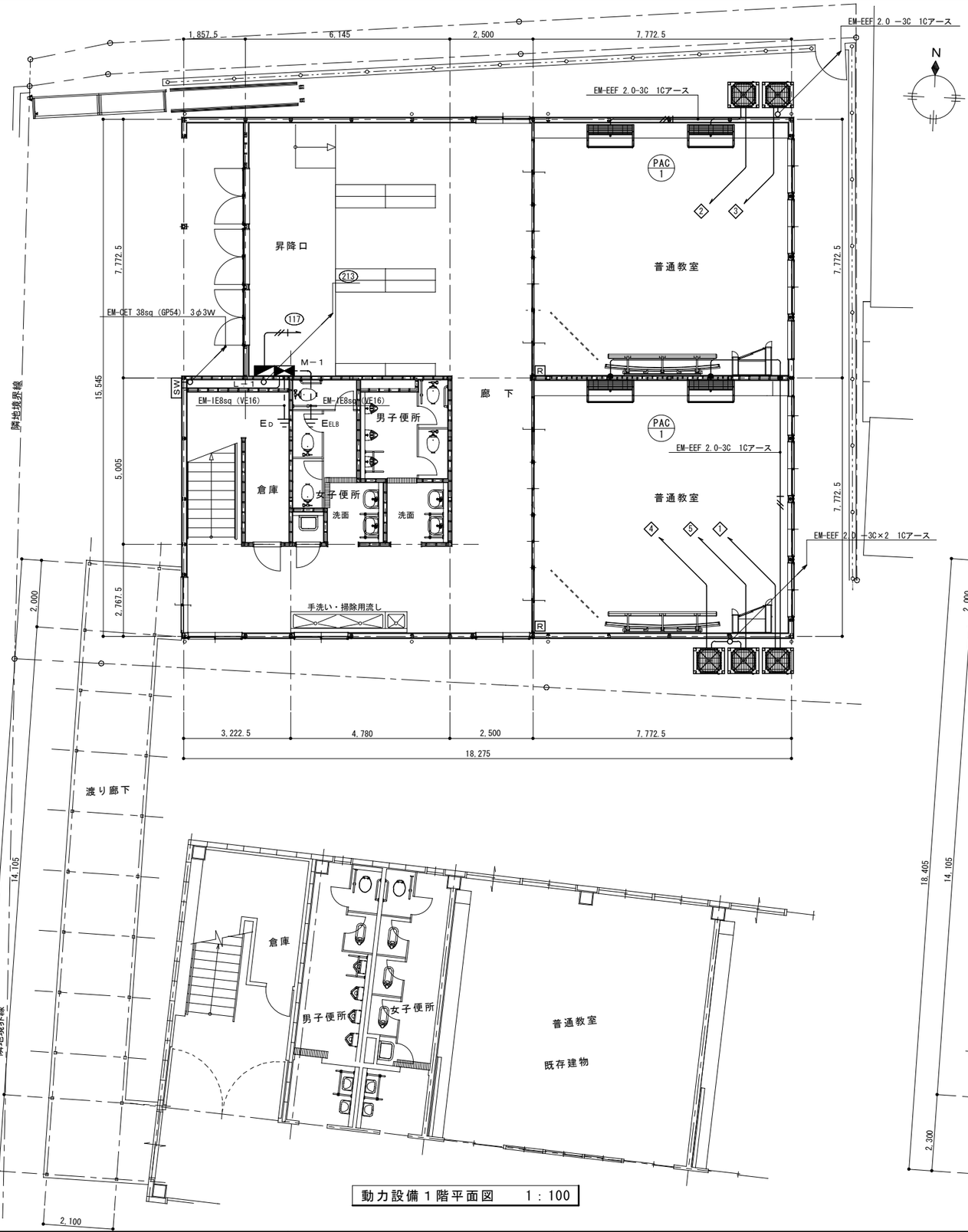
株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

PAGE　Ｅ－４

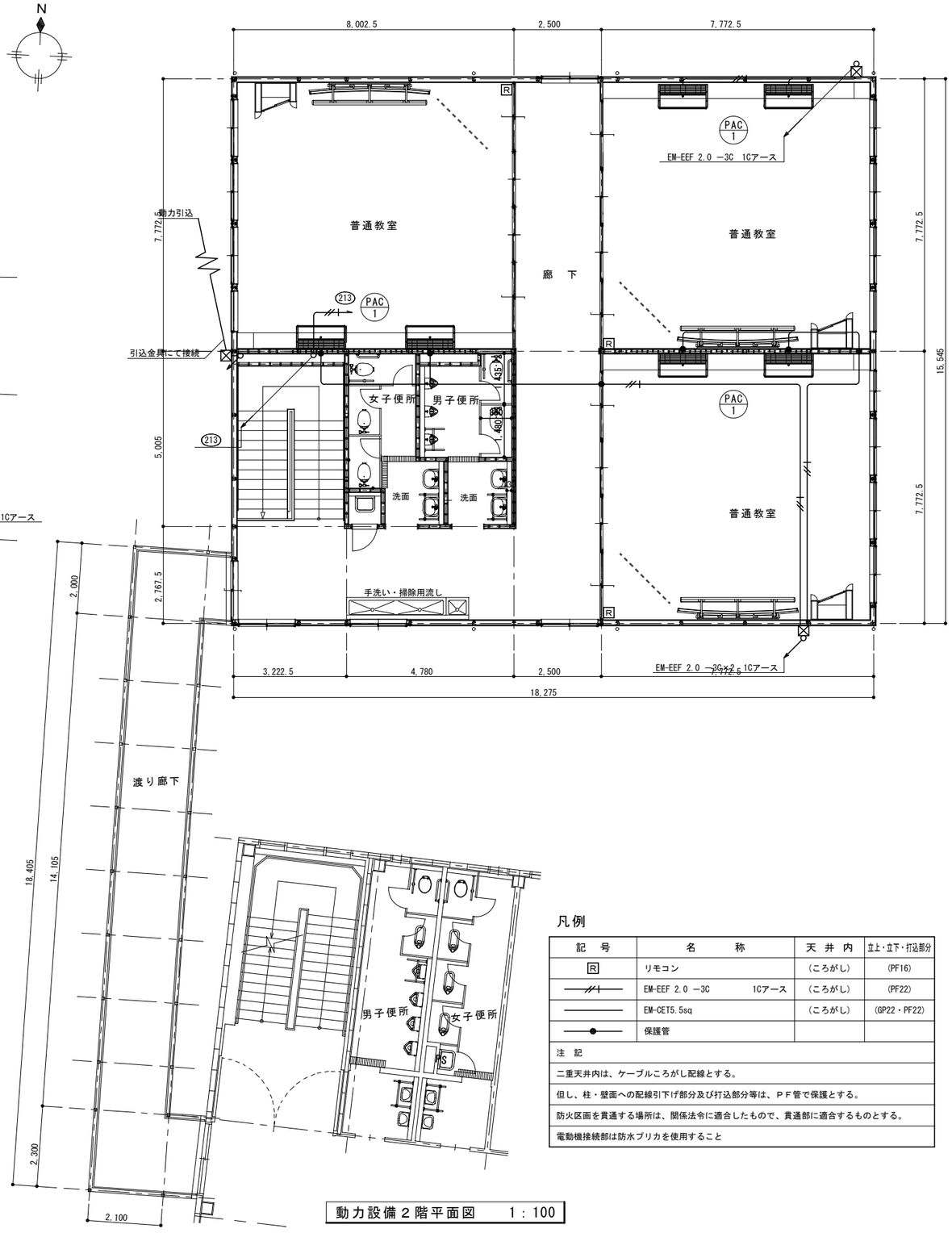
照明器具姿図

A 322	FHF 32W×2（高出力）　初期照度補正型	B 321	FHF 32W×1	C 322	FHF 32W×2（高出力）　初期照度補正型	C 321	FHF 32W×1（高出力）　初期照度補正型	D 162	FHF16W×2（高出力）
	FSS6-322		FHR-41960		FSS9-322		FSS9-321		FRS26-162
									
F 321	FHF 32W×1（高出力）	G 201	FL 20W×1（防雨・防湿型）	L 202	FL 20W×2（防湿型）	M 321	FHF 32W×1（高出力）　初期照度補正型		
	FHT-41852N		FB2342NE		FT-22386		FBS5-321		
	 ・端　板：アクリル t2.0 黒 ・反射板：SPC t0.6 白 ・カバー：アクリル t2.0 乳白								

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	照明器具姿図	－	2010.9	10018	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｅ－５



動力設備１階平面図　1：100



動力設備２階平面図　1：100

凡例

記　号	名　　称	天 井 内	立上・立下・打込部分
R	リモコン	（ころがし）	(PF16)
―//―	EM-EEF 2.0 −3C　1Cアース	（ころがし）	(PF22)
―――	EM-CET5.5sq	（ころがし）	(GP22・PF22)
―●―	保護管		

注　記

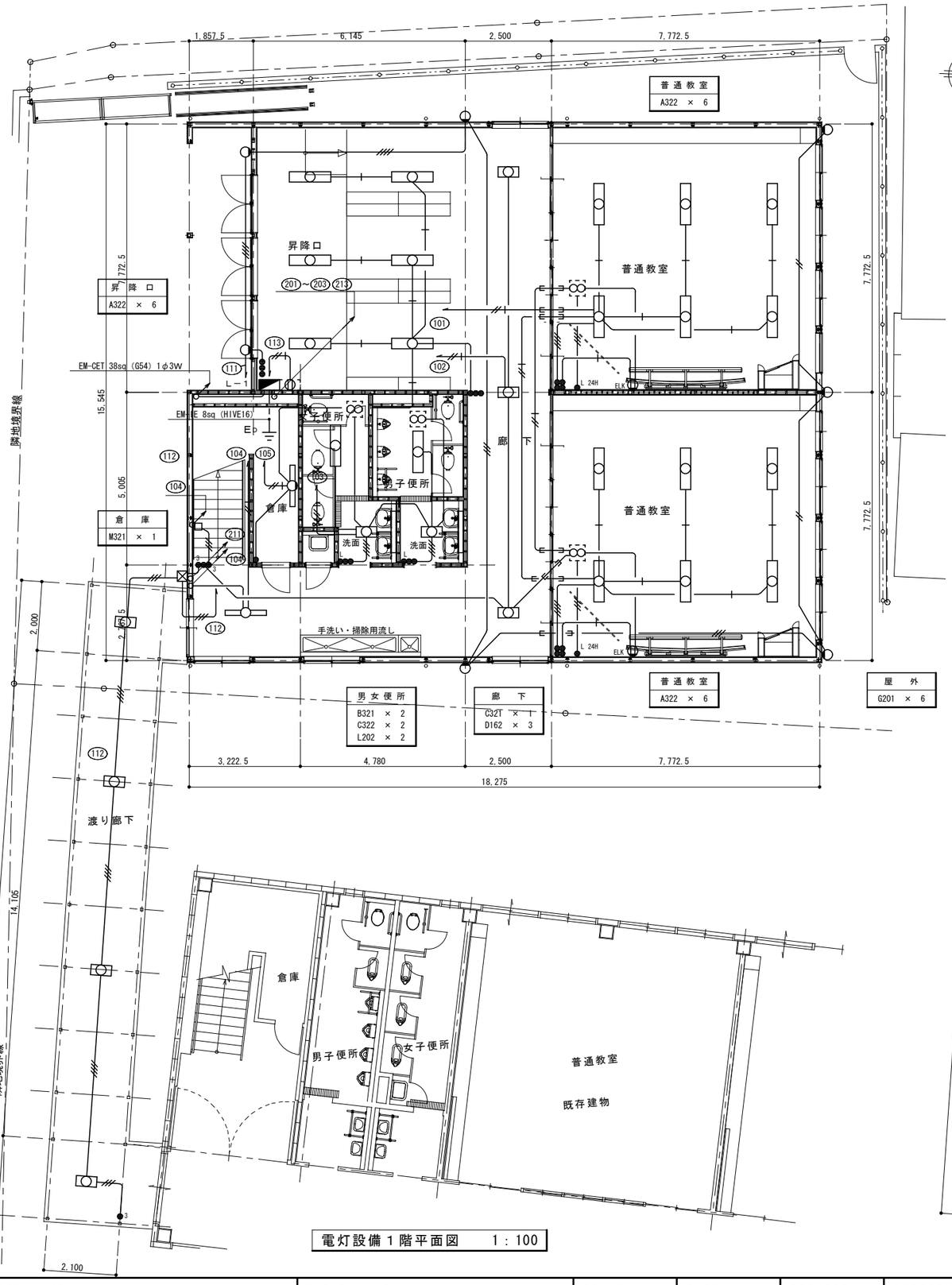
二重天井内は、ケーブルころがし配線とする。

但し、柱・壁面への配線引下げ部分及び打込部分等は、ＰＦ管で保護とする。

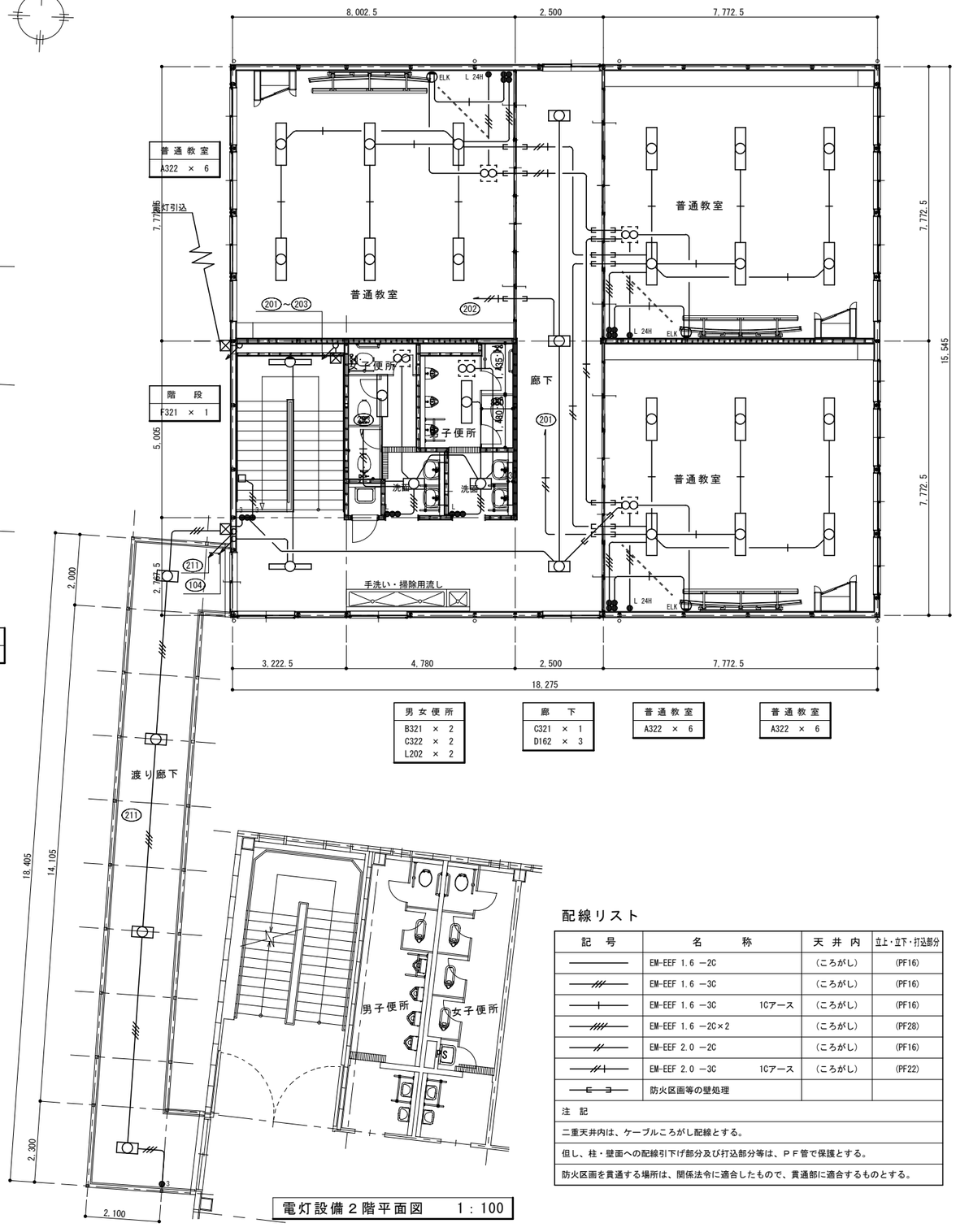
防火区画を貫通する場所は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。

電動機接続部は防水プリカを使用すること

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	動力設備平面図	1:100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｅ－６



電灯設備１階平面図　　1：100



電灯設備２階平面図　　1：100

配線リスト

記　号	名　　称	天 井 内	立上・立下・打込部分
———	EM-EEF 1.6 −2C	（ころがし）	(PF16)
———//———	EM-EEF 1.6 −3C	（ころがし）	(PF16)
———+———	EM-EEF 1.6 −3C　1Cアース	（ころがし）	(PF16)
———//———	EM-EEF 1.6 −2C×2	（ころがし）	(PF28)
———/———	EM-EEF 2.0 −2C	（ころがし）	(PF16)
———/+———	EM-EEF 2.0 −3C　1Cアース	（ころがし）	(PF22)
———E———E———	防火区画等の壁処理		

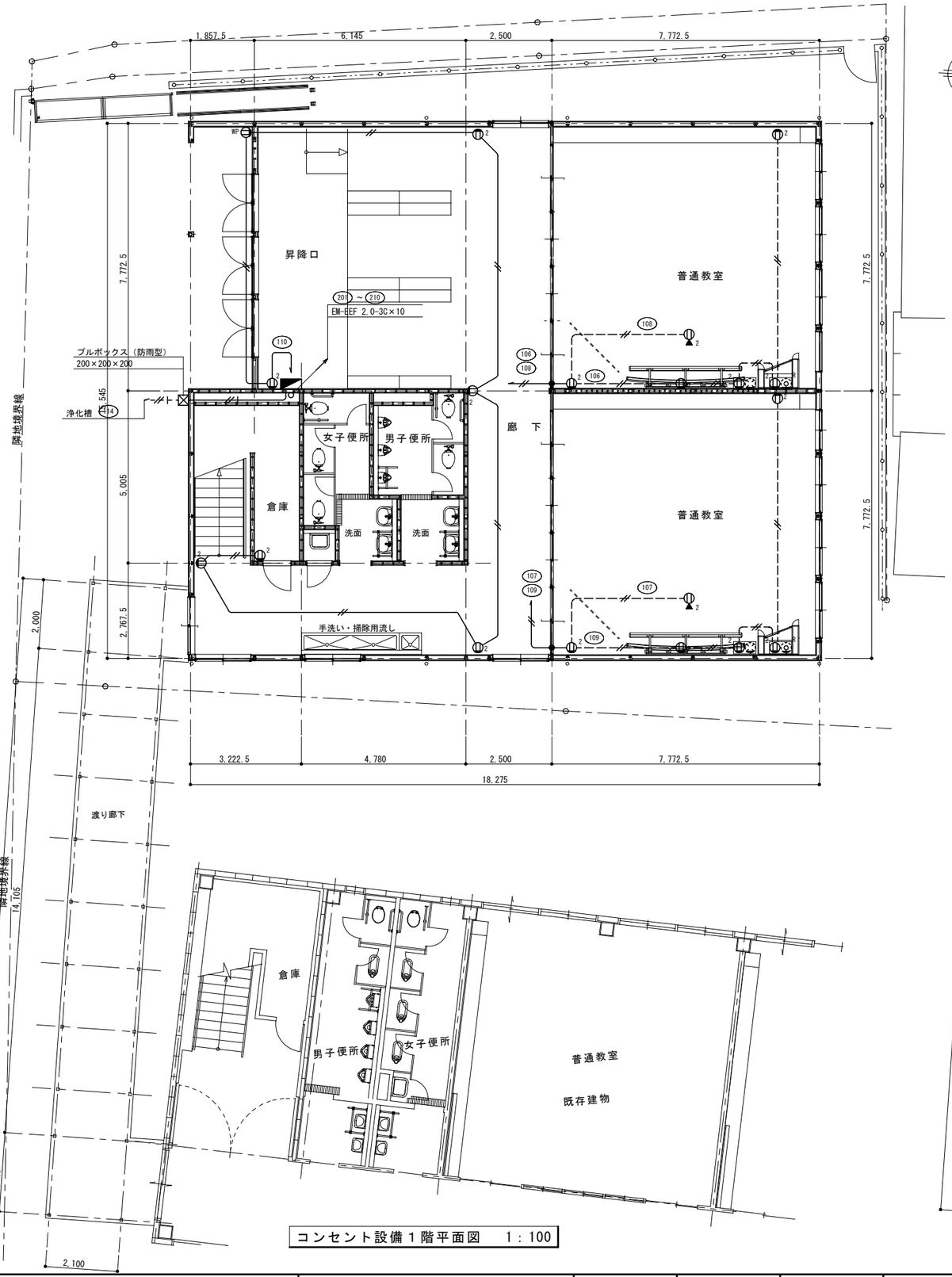
注　記

二重天井内は、ケーブルころがし配線とする。

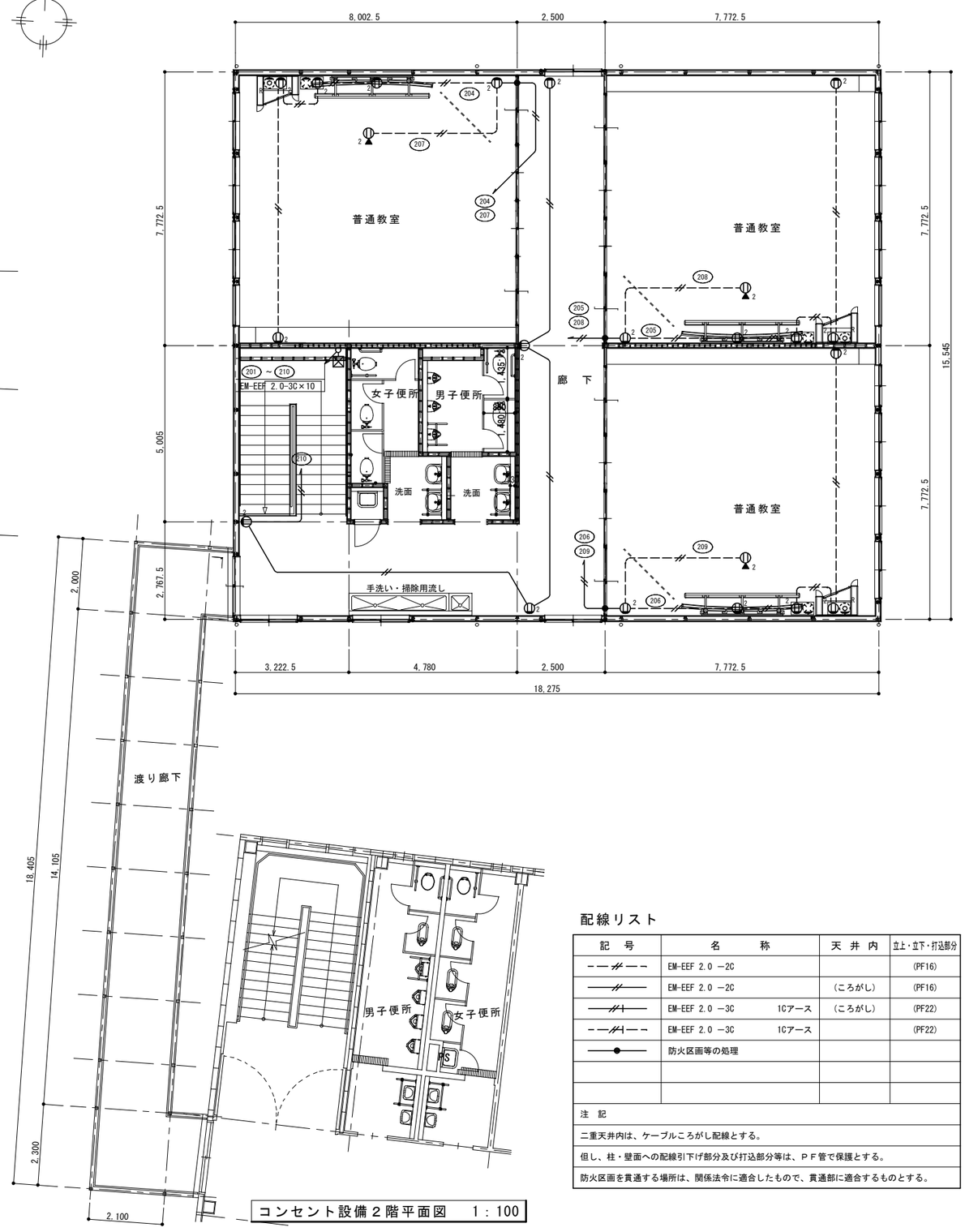
但し、柱・壁面への配線引下げ部分及び打込部分等は、ＰＦ管で保護とする。

防火区画を貫通する場所は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	電灯設備平面図	1:100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｅ－７



コンセント設備１階平面図　1：100



コンセント設備２階平面図　1：100

配線リスト

記　号	名　　称	天 井 内	立上・立下・打込部分
―――//――	EM-EEF 2.0 －2C		(PF16)
―――――	EM-EEF 2.0 －2C	（ころがし）	(PF16)
―――//――	EM-EEF 2.0 －3C　1Cアース	（ころがし）	(PF22)
―――//――	EM-EEF 2.0 －3C　1Cアース		(PF22)
―――●―――	防火区画等の処理		

注　記

二重天井内は、ケーブルころがし配線とする。

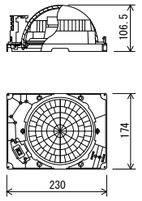
但し、柱・壁面への配線引下げ部分及び打込部分等は、ＰＦ管で保護とする。

防火区画を貫通する場所は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	コンセント設備平面図	1:100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｅ－８

天井埋込型スピーカー（アッテネータ付）

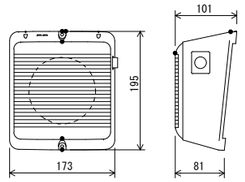
Ｌ級



定格入力	３Ｗ（３．３ｋΩ），２Ｗ（５ｋΩ）， １Ｗ（１０ｋΩ）
出力音圧レベル	９２ｄＢ（１Ｗ，１ｍ）
周波数特性	１００Ｈｚ～１２ｋＨｚ
スピーカー	１６ｃｍコーン型
仕上	フレーム：樹脂　黒
その他	スピーカーカバー一体型、音量調節４段切換

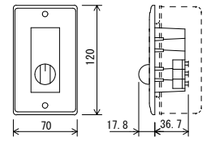
壁掛型スピーカー（アッテネータ付）

Ｌ級



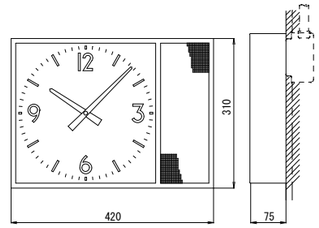
定格入力	３Ｗ（３．３ｋΩ），２Ｗ（５ｋΩ）， １Ｗ（１０ｋΩ）
出力音圧レベル	９１ｄＢ（１Ｗ，１ｍ）
周波数特性	２００Ｈｚ～１８ｋＨｚ
スピーカー	１２ｃｍコーン型
仕上	本体：樹脂　オフホワイト
音量調節器	４段切換

アッテネータ



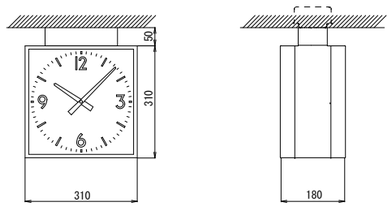
入力容量	０．５～６Ｗ
音量切換	５段階切換
仕上	プレート：アルミ

スピーカー付壁掛型子時計



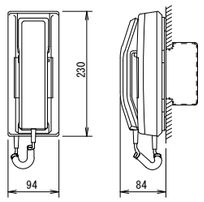
定格	ＤＣ２４Ｖ有極３０秒運　針　消費電流１２ｍＡ
文字板	鋼板　白色塗装　文字黒色印刷
指針	アルミ　黒色塗装
表ガラス	ガラス　透明ｔ＝２
スピーカ	入力３．０ｗ　出力９２ｄＢ　１個　非常放送設備認定品Ｌ級
ネット	クリーム色
ケース	鋼板　クリームホワイト色塗装

両面吊下型子時計



定格	ＤＣ２４Ｖ有極３０秒運　針　消費電流２４ｍＡ
文字板	鋼板　白色塗装　文字黒色印刷
指針	アルミ　黒色塗装
表ガラス	ガラス　透明ｔ＝２
ケース	鋼板　クリームホワイト色塗装
取付金具	鋼板　クリームホワイト色塗装

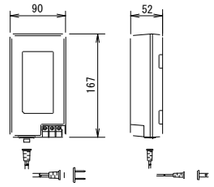
① 共通線式同時通話インターホン（収納ボックス付）



（参考：アイホンＹＡＺ－９０－３Ｗ相当品）

電源電圧	ＤＣ２４Ｖ（電源アダプターから供給）
形　状	壁取付形（ＪＩＳ１個用スイッチボックス）
材　質	ABS樹脂
備　考	通話路数3
	90台まで設置可

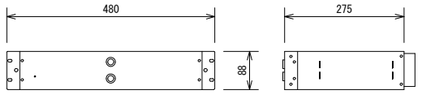
電源アダプター



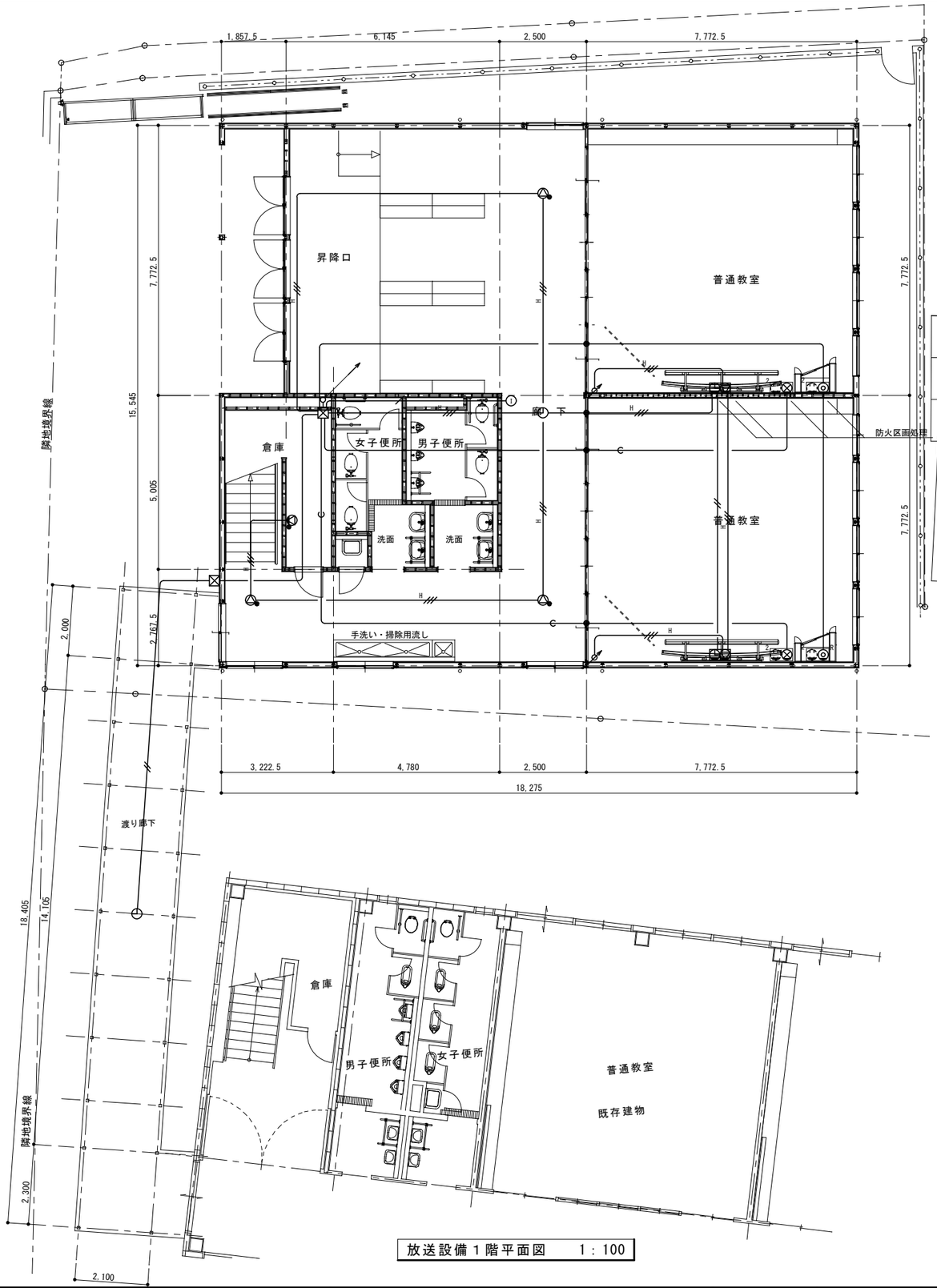
（参考：アイホンＰＳ－２４２０Ａ相当品）

電源電圧	ＡＣ１００Ｖ
出力電圧	ＤＣ２４Ｖ
出力電流	２Ａ
形　状	据置・壁取付（専用金具）両用
材　質	樹脂

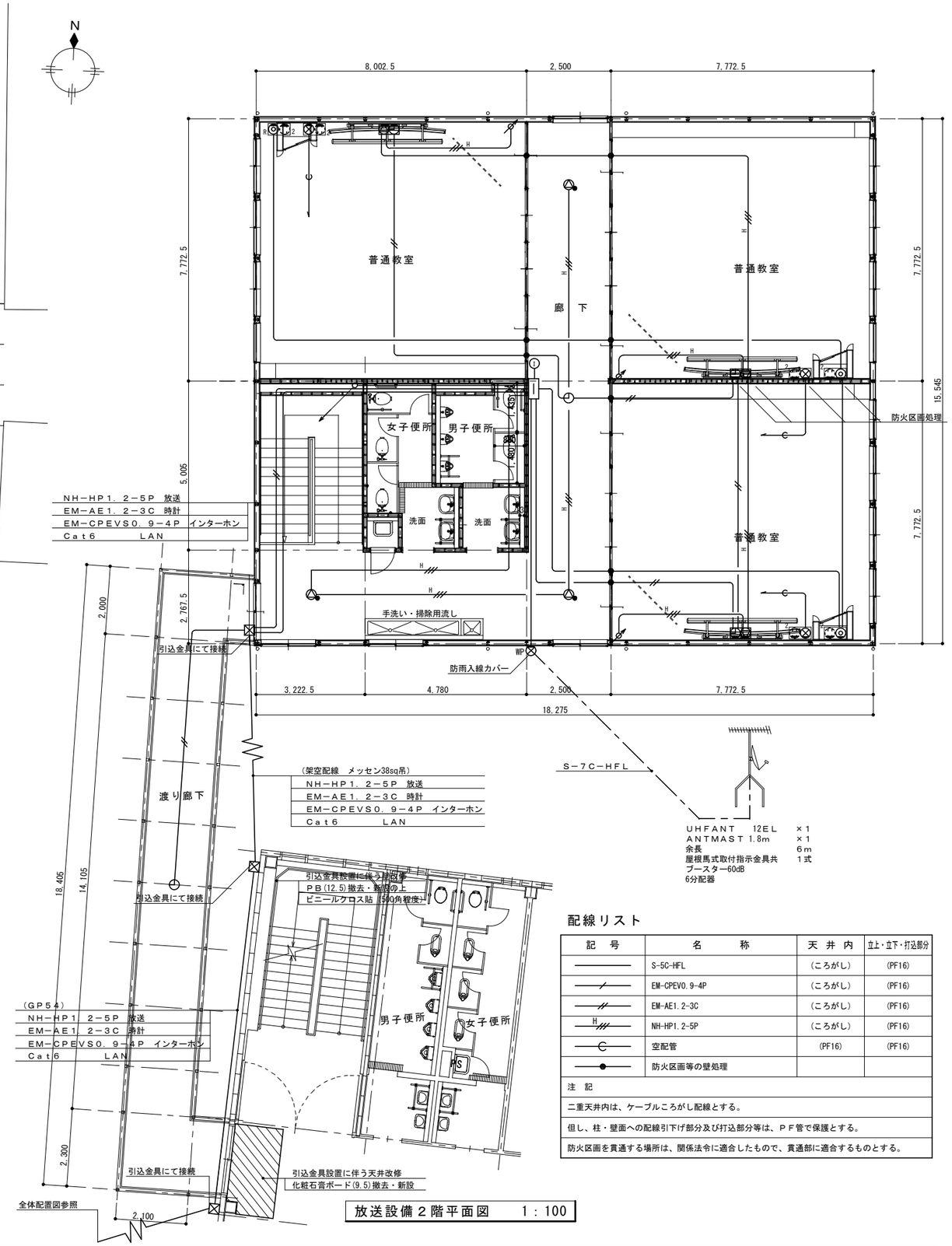
AMP アンプ



電　源	ＡＣ１００Ｖ　または　ＤＣ２４Ｖ
消費電力	１１５Ｗ　定格出力時３００Ｗ
定格出力	１２０Ｗ
周波数特性	５０Ｈｚ～１５ｋＨｚ
入　力	０ｄＢ　５０ＫΩ　（平衡）
負荷インピーダンス	４２Ω／７０Ｖライン、８５Ω／１００Ｖライン



放送設備１階平面図　1：100



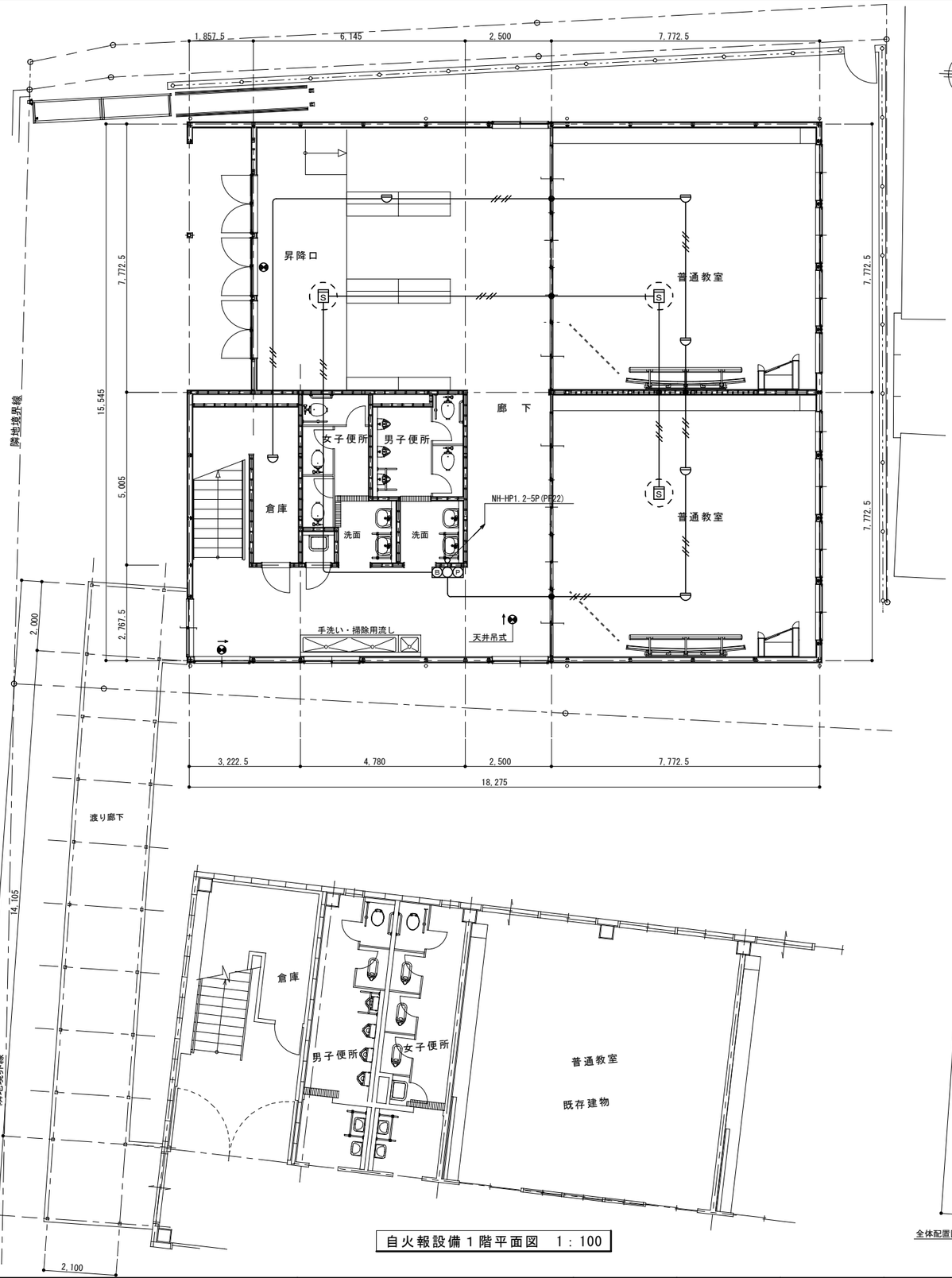
放送設備２階平面図　1：100

配線リスト

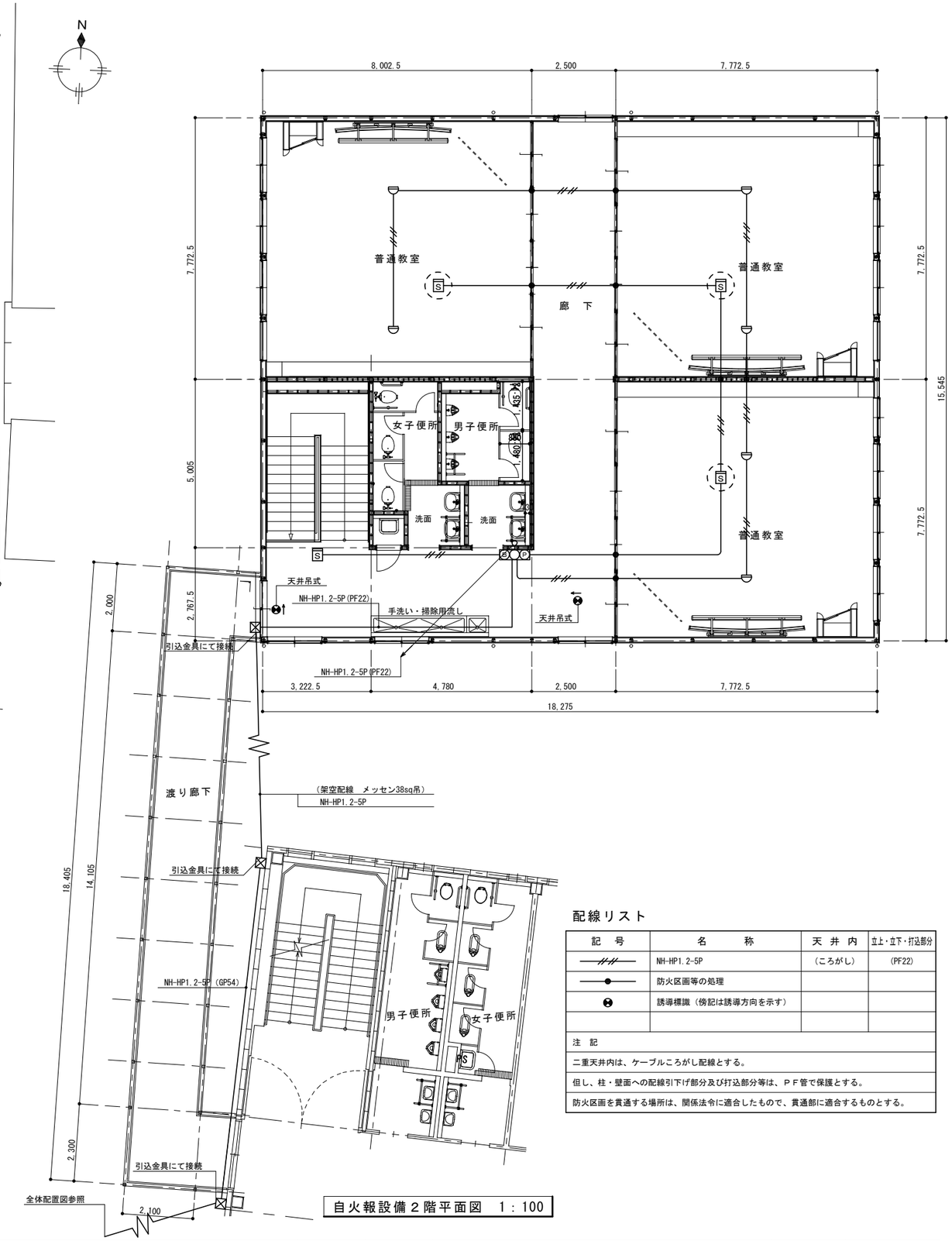
記　号	名　称	天 井 内	立上・立下・打込部分
———	S-5C-HFL	（ころがし）	(PF16)
———	EM-CPEV0.9-4P	（ころがし）	(PF16)
———	EM-AE1.2-3C	（ころがし）	(PF16)
———	NH-HP1.2-5P	（ころがし）	(PF16)
———	空配管	(PF16)	(PF16)
———●	防火区画等の壁処理		
注　記			
二重天井内は、ケーブルころがし配線とする。			
但し、柱・壁面への配線引下げ部分及び打込部分等は、ＰＦ管で保護とする。			
防火区画を貫通する場所は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。			

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	放送設備平面図	1:100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永



自火報設備１階平面図　1：100



自火報設備２階平面図　1：100

配線リスト

記　号	名　　称	天 井 内	立上・立下・打込部分
——//——	NH-HP1.2-5P	（ころがし）	(PF22)
——●——	防火区画等の処理		
⊖	誘導標識（傍記は誘導方向を示す）		

注　記

二重天井内は、ケーブルころがし配線とする。

但し、柱・壁面への配線引下げ部分及び打込部分等は、ＰＦ管で保護とする。

防火区画を貫通する場所は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	自火報設備平面図	1:100	2010.9	10018	＊ 配線類は屋内用・屋外用と分けて使用すること。	山縣	尾川		株式会社 尾川建築設計事務所	E－１１

一級建築士
第216100号
尾川　佳永

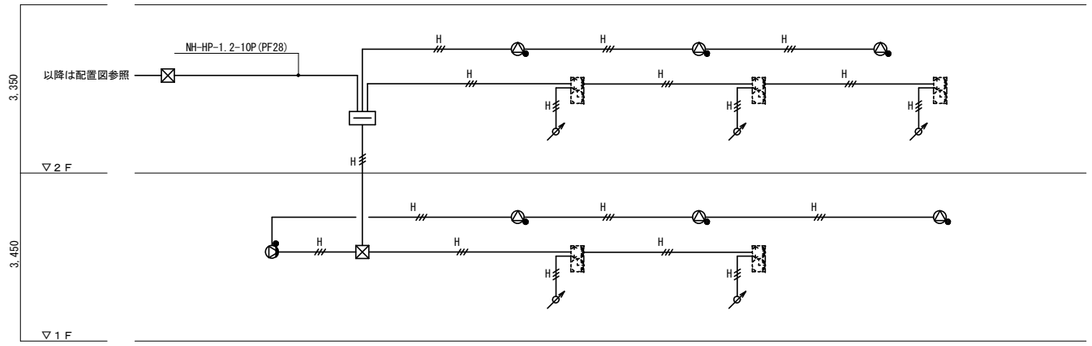
注　記：
1．特記なき配管配線は下記とする。

H　EM-HP-1.2-3C(PF16)

2．二重天井内はケーブルころがし配線とする。

凡　例

記号	名　　称
▭	弱電設備端子盤
◔	天井埋込型スピーカー（アッテネータ付）
◑	壁掛型スピーカー（アッテネータ付）
⊘	アッテネータ
▭	スピーカー付壁掛型子時計（時計設備）
⊠	プルボックス



放送設備系統図

注　記：
1．特記なき配管配線は下記とする。

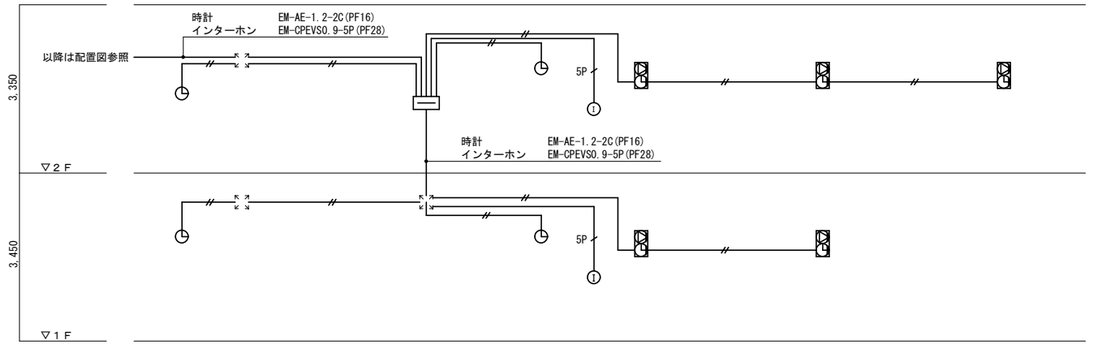
EM-AE-1.2-2C(PF16)

5P　EM-CPEVS0.9-5P(PF28)

2．二重天井内はケーブルころがし配線とする。

凡　例

記号	名　　称
▭	スピーカー付壁掛型子時計
◷	両面吊下型子時計
ⓘ	共通線式同時通話インターホン（収納ボックス付）



時計・インターホン設備系統図

注　記：
1．特記なき配管配線は下記とする。

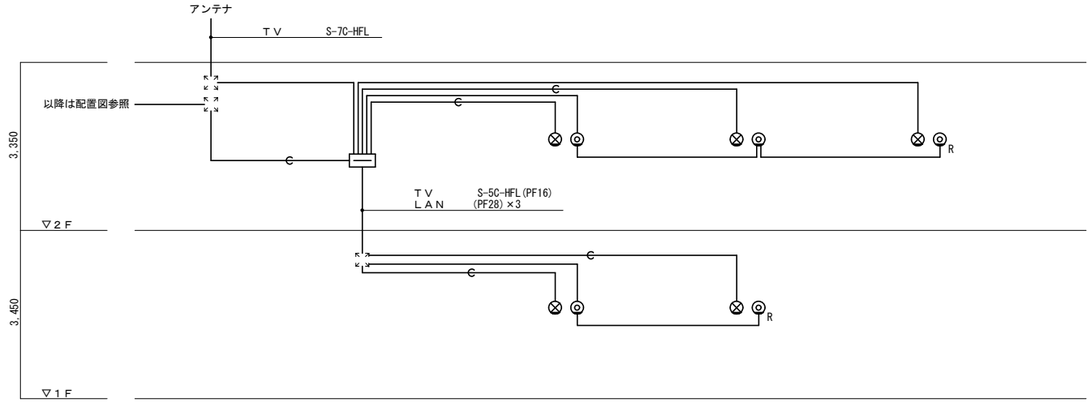
S-5C-HFL(PF16)

C　PF28

2．二重天井内はケーブルころがし配線とする。

凡　例

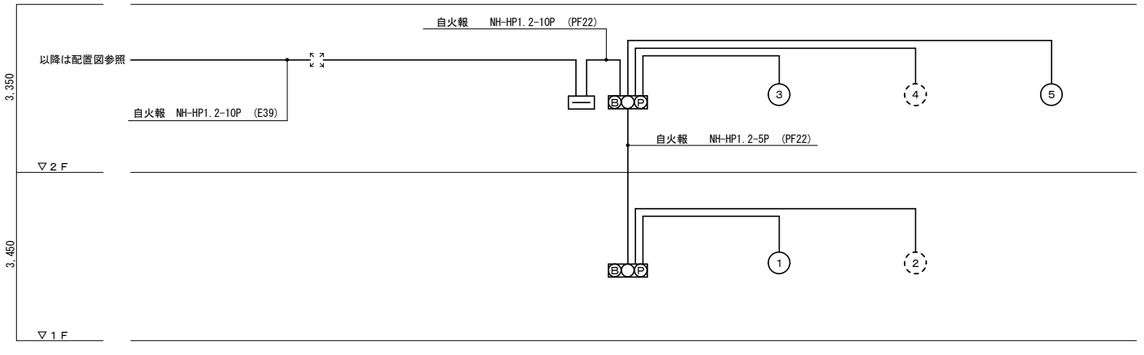
記号	名　　称
◎	直列ユニット（中間用）
◎R	直列ユニット（端末用）
⊗	LAN設備用アウトレット



テレビ共聴・LAN配管設備系統図

凡　例

記号	名　　称	記　　事	特　　記
▭	機器収容箱	露出型　Ⓟ◯Ⓑ収容	1）　回線内訳は下記の通り。 ａ）　自火報　　Ｌ
Ⓟ	発信機	Ｐ型１級	2）　地区警報は一斉鳴動方式とする。
◯	表示灯	ＬＥＤ	3）　特記なき配管配線は下記の通りとする。 但し、二重天井内はケーブル配線とし、立上り、立下り部分はＰＦ管保護とする。
Ⓑ	地区音響装置	ＤＣ２４Ｖ　８ｍＡ　１５０φ	
▽	差動式スポット型感知器	２種	
S	光電式スポット型感知器	２種	
▭	弱電設備端子盤		
◯	警戒区域番号	自火報	
◯	警戒区域番号	天井裏	



自火報設備系統図

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	弱電設備系統図	ー	2010.9	10018	＊　＊　＊ ＊　＊　＊ ＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社
尾川建築設計事務所
一級建築士
第216100号
尾川　佳永

香芝市立二上小学校増築工事　　機械設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

１．工事場所　　奈良県香芝市畑４丁目６３３－１，６３３－３，６３３－４

２．建物概要

建　物　名	構造	階数	延床面積（㎡）	消防法令別表第一	備　考
小学校	軽量鉄骨造	2	５５７．６２㎡	7項	

３．工事種目　　●印をつけたものを適用し、各一式とする。

工事項目／棟別及び屋外	増築棟	既設校舎棟				屋外
空気調和設備	●	○	○	○	○	●
換気設備	●	○	○	○	○	○
排煙設備	○	○	○	○	○	○
自動制御設備	○	○	○	○	○	○
衛生器具設備	●	○	○	○	○	●
給水設備	●	●	○	○	○	●
排水設備	●	●	○	○	○	●
給湯設備	○	○	○	○	○	○
消火設備	○	○	○	○	○	○
ガス設備	○	○	○	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○	○	○	●
厨房機器設備	○	○	○	○	○	○
さく井設備	○	○	○	○	○	○
昇降機設備	○	○	○	○	○	○
機械式駐車設備	○	○	○	○	○	○
井水揚水設備	○	○	○	○	○	○
医療ガス設備	○	○	○	○	○	○
撤去工事	○	●	○	○	○	●

Ⅱ．機械設備工事仕様

１．共通仕様

１）本仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成19年版）（以下「標準仕様書」という）、公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成19年版）（以下「改修仕様書」という）及び、公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成19年版）（以下「標準図」という）による。

２）工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面による。

２．特記仕様

１）項目及び特記事項は、●印がついたものを本工事に適用する。
　ただし、●印のない場合は※印を適用する。

２）特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の（編・章・節・項）を示す。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	●適用基準等	●公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）(平成19年版)国土交通省大臣官房庁営繕部監修 ●土木部建築工事監督及び検査必携　奈良県土木部 ●建築及び設備工事監督検査事務処理様式集　奈良県土木部
	●設計書の優先順位	（１）質問回答書（（２）から（５）に対するもの）　(1.1.1.1) （２）現場説明書 （３）特記仕様書 （４）図面 （５）標準仕様書 以上（１）～（５）の順番のとおりとする。 ただし、明示なき材料、仕上げ等については監督職員の指示による。
	●官公署その他への届出手続等	工事関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等は全て請負者が行うこと。 この場合、「建築及び設備工事監督・検査事務処理様式集（奈良県土木部）」の書式に従い、日程管理を行う。　(1.1.1.3)
	●工事実績情報の登録	適用する。　(1.1.1.4)
	○現場組織表	現場説明書による。　(1.1.1.5)
	○他工事との取り合い	別記工事区分表による。　(1.1.1.7)
	●疑義に対する協議等	設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、監督職員と協議する。　(1.1.1.8)
	○概成工期	現場説明時の現場説明事項による。　(1.1.2.1)
	●総合施工計画書	工事の着手に先立ち、総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する。　(1.1.2.2)
	○電気保安技術者	適用する。工事現場において電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。　(1.1.3.2)
	●施工条件	現場説明時の現場説明事項による。　(1.1.3.3)
	●施工中の安全確保	工事現場周辺の状況を調査判断し、本工事施工によって生じる騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。 工事に関して、第三者からの説明の要求又は苦情があった場合は、請負者の責任において直ちに誠意をもって対応する。　(1.1.3.5)
	●交通安全管理	工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に、工事関係者車両の出入りについては、必ず誘導員又は交通整理員を立て、交通渋滞、住民等の安全に留意すること。また、工事着手前に警察、その他関係機関、地元自治会、監督職員などと十分打ち合わせのうえ、安全管理を行う。　(1.1.3.6)
	●交通整理員	現場説明書による。
	●災害時の安全確保	災害及び事故が発生した場合は、人命の安全確保を優先するとともに、二次災害の防止に努め、その経緯を監督職員に報告する。　(1.1.3.7)
	●施工中の環境保全等	関係法令に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉塵、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努める。　(1.1.3.8)
	●発生材の処理等	○引き渡しを要するもの　（　　）　(1.1.3.9) ○特別管理産業廃棄物 ○（　　）　○（　　）　○（　　） ○現場において再利用を図るもの　（　　） ○再生資源化を図るもの ○ｺﾝｸﾘｰﾄ塊　○ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ塊　○建設発生木材　○（　　） ○再資源利用「促進」計画（実施）書を提出する。 （建設副産物対策近畿地方連絡協議会編） ●産業廃棄物の処理 関係法令に従い、構外搬出適切処理とし搬出書類等を提出する。なお、県内の最終処分場に搬入することとなる場合は、奈良県産業廃棄物税条例相当額を支払うこと。 ●産業廃棄物管理票（マニフェスト）を提出する。 ○ﾌﾛﾝ類（冷媒及び消火ｶﾞｽ等）は、抜取回収後破壊処分等を行い、証明書を提出する。 ○特定家庭用機器再商品化法に該当するものは適法処理とする。 ○ﾕﾆｯﾄ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰ　（ｳｲﾝﾄﾞ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰ又は室内ﾕﾆｯﾄが壁掛け形若しくは床置き形であるｾﾊﾟﾚｰﾄ形ｴｱｺﾝﾃﾞｨｼｮﾅｰに限る。）
	●機材等	※　別記（設備機材）に掲げる設備機材は、(社)公共建築協会発行「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」に記載されたもの （ただし、評価の有効期限内のものに限る）を使用する。この場合、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編１．４．２（ｃ）の品質及び性能を有することの証明となる資料に替える（製作図、試験成績書等は除く）。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ※　本工事に使用する設備機材等のうち、設備機材等指定表等により特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものを使用する。 ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ※　建物内部（天井裏、床下、ＰＳ、ＥＰＳ、ＤＳ等を含む）及びダクト等の内部に使用すて記に掲げる各材料・機材等は、それぞれに定められた基準等に適合するものを選定する。

材料等	基準等
①接着剤	次の１、２及び３を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド及びステレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ２　アセトアルデヒド及びステレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ３　ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝの含有量が少ないものであること。 なお、可塑剤を使用している接着剤はﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-n-ﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものとする。
②保温材 緩衝材 断熱材	次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しいものであること。 ２　アセトアルデヒド及びステレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。
③塗料	次の１、２及び３を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しいものであること。
	２　アセトアルデヒド及びステレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。 ３　ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝの含有量が少ないものであること。
④設備機器	製品を構成する建築材料は、次の１及び２を満足するものとする。 １　ホルムアルデヒド放散等級がＦ☆☆☆☆の規格に適合しいものであること。 ２　アセトアルデヒド及びステレンが発散しないか、発散が極めて少ないものであること。

なお、Ｆ☆☆☆☆の規格に適合するものと規定された材料等で、適合する材料等がない場合は、監督職員と協議を行うこと。　(1.1.4.2)

●機材の試験　機材の品質及び性能を試験により証明する場合は、試験に先立ち試験計画書を作成のうえ、監督職員に提出し、原則として監督職員の立ち会いを受けて行う。
ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。　(1.1.4.6)

●色彩による表示及び指示　監督職員の指示による。　(1.1.4.2)（1.1.7.4)

●技能士　適用する　●１級配管技能士（配管工事）　(1.1.5.2)
●１級熱絶縁施工技能士（保温工事）
●１級建築板金技能士（ダクト製作及び取付）
○１級冷凍空気調和機器施工技能士（ﾁﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ､ﾊﾟｯｹｰｼﾞ形空気調和機の据付及び整備）

○見本施工の実施　図示による。(図面番号　　)　(1.1.5.4)

●化学物質の濃度測定　※実施する　（○着工前　※施工完了後）　(1.1.5.8)
測定対象化学物質　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ､ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ
測定対象室及び測定箇所数

室　名				
箇所数				

測定方法は監督職員の指示による。

○中間技術検査の実施　○「土木部建築工事監督及び検査必携（奈良県土木部）」に定める中間検査による。
○（　　）　(1.1.6.2)

●完成図等　●完成図（機器製作図含む）　(1.1.7.2)(1.1.7.3)
※作成する
※ 請負者において完成図を作成し、期張製本「　３　」部提出する。(原図共)
※　完成図は、原則として黒文字製本とし、表紙の書き方は監督職員の指示とする。
●完成図ＣＡＤデータの提出
参考ＣＡＤデータの貸与　　○なし　○あり
●保全に関する資料等
保全に関する資料等（建築物の利用に関する説明書・機器取扱説明書・機器性能試検成績書・官公署届出書類・総合調整測定表・主要機器一覧表）を提出する。
●その他引き渡し書類
保証書、施工図（制御ｼｽﾃﾑ図・機器配管固定の施工図等）施工計画書、各種承諾図、工事写真、その他各種検査書類を整理し、監督職員の指示する部数提出する。
●既存完成図の修正（多年度継続工事の場合）
既存完成図を今回工事の内容を盛り込んだものに修正し、全体完成図として提出する。

○工事写真・完成写真　※工事写真　「工事写真の撮影マニュアル（奈良県土木部監修）」による
完成写真　下表による

分類・規格	撮影枚数	部数	原版の大きさ（ｍｍ）
○ｶﾗｰｻｰﾋﾞｽ判	○１　○６　○９		○２４×３６以上
○ｶﾗｰﾈｶﾞﾋﾞ判	監督職員指示ﾀｲﾌﾟ所		○１００×１２５以上
○ｶﾗｰｽﾗｲﾄﾞ	○１　○１０　○２０		○２４×３６以上
○ｶﾗｰﾊﾟﾈﾙ半切	○１　○２　○３		○１００×１２５以上
○ﾓﾉｸﾛｰﾑﾈｶﾞﾋﾞ判	○１		同上

（ただし、上記写真は、アルバム製本とする。）
○完成写真として、全紙パネルを　　部提出する。
○　完成写真撮影業者（完成写真撮影場所は監督職員の指示による））
○　監督職員の承諾する撮影業者

●制御及び操作盤　機器に付属する制御及び操作盤の仕様の優先順位は、次の（１）から（３）の順番のとおりとする。
（1）図示による。（図面番号　　）
（2）標準仕様書第２編表２．１．６～２．１．８による。
ただし、標準仕様書各編で製造者の標準仕様と明示されたものは除く。
また、同表の各機材ごとの△印の項目の適用は、○適用する　○適用しないﾊﾝﾄﾞﾒｰﾀｰ用制御及び操作盤の仕様において、標準仕様書第2編1.2.2.2(4)～(9)の規定は、○適用する　○適用しない
（3）製造者の標準仕様　(2.1.2.2)

●総合調整　※本工事　○別途工事　総合調整を行う項目は下記による。　(2.1.3.2)
●風量調整　●水量調整　●室内外空気の温湿度測定
○室内気流及び塵埃の測定　○騒音測定　○初期運転状態の測定
○　飲料水の水質測定(水道法施行規則第10条による水質検査)

●継手　管端コア付鋼管を除く、塩ビライニング鋼管、耐熱性ライニング鋼管及びポリ粉体鋼管で、ねじ接合する場合の継手は管端防食継手とし、パイプニップルは管端防食継手用パイプニップルとする。　(2.2.1.2)

●一般用弁の耐圧　図面に明記なき一般用弁の耐圧は、下記による。　(2.2.2.1)
水道直結配管に使用する弁は、JIS 0.98MPa(10K)弁とする。
その他配管に使用する弁は　※ JIS 0.49MPa(5K)弁　● JIS 0.98MPa(10K)弁

○鋼管用伸縮管継手　※ベローズ形　○スリーブ形　(2.2.2.6)

●異種管の接合及び絶縁継手　○異種管の接合要領　（　　）　(2.2.5.17)
※標準図(施工３)　○図示(図面番号　　)
○　機器接続部の金属材料と配管材料のｲｵﾝ化傾向が大きく異なる場合（鋼とｽﾃﾝﾚｽ、銅と鋼）は、絶縁継手を使用し、設置箇所及び絶縁継手の仕様は図示による。
（図面番号　　）　(2.2.2.10)(2.2.4.1)

○量水器（別途工事）　呼称13のもの　※単箱形接線流羽根車式(乾式直読)　(2.2.2.14)
呼称20～40のもの　※　複箱形接線流羽根車式(乾式直読)で脈動水量指針逆転式
呼称50以上のもの　※　湿式たて型軸流羽根車式(液封直読)または乾式(乾式直読)

○水栓柱　※合成樹脂製　○アルミニウム合金製　○ステンレス製　○人造石とぎ出し製
水栓の取付高さ　※約６００ｍｍ　○
寸法　※約７０ｍｍ×約７０ｍｍ×約１，３００ｍｍＨ　○　(2.2.2.19)

○不凍水栓柱の寸法　※全長約１，５００ｍｍ　(2.2.2.20)

●スリーブ　１）外壁の地中部分等水密を要する部分のスリーブ　※つば付鋼管　○
２）地中部分で水密を要しない部分のスリーブ　※ビニル管　○
３）柱及び梁以外の箇所で、開口補強が不要であり、かつ、ｽﾘｰﾌﾞ径が200mm以下の部分　※紙製仮枠
４）上記以外の鋼管スリーブ　※白管　○　(2.2.2.23)

○瞬間流量計　○固定形　個　○着脱可能形(測定用ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞ　個、本体　個)　(2.2.3.7)

●建物導入部配管　不同沈下の恐れがある場合は、標準図(施工４)のﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄを使用した方法で施工する。ただし、排水、通気管を除く。　(2.2.4.1)

○空調機用ﾄﾗｯﾌﾟの形式　図示による(図面番号　　)　(2.2.4.2)

●管の接合　●ビニル管　（※接着接合　○ｺﾞﾑ輪接合）　(2.2.5.10)
○架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管　（○電気融着接合　○ﾒｶﾆｶﾙ接合）　(2.2.5.12)
○ポリブテン管　（○熱融着接合　○電気融着接合　○ﾒｶﾆｶﾙ接合）　(2.2.5.13)
○耐火二層管　（※接着接合　○ｺﾞﾑ輪接合）　(2.2.5.15)
（伸縮継手の設置箇所は図示による(図面番号　　)）

○溶接部の非破壊検査　※適用しない　(2.2.5.16)
○適用する（○放射線透過検査　○浸透探傷検査又は磁粉探傷検査）
判定基準（　　）
抜取率は下記による。

種　別	蒸　気　配　管		冷却水、冷温水消火(水用)及び油配管
溶接部の種類 ＼ 使用圧力 / 検査の種類	1.0MPa未満	1.0MPa以上	
突合せ溶接部 放射線透過検査(RT)	※　５％	※　１０％	※　５％
突合せ溶接部 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査(RT又はMT)	○（　％）	○（　％）	○（　％）
すみ肉溶接部 浸透探傷検査又は磁粉探傷検査(RT又はMT)	○（　％）	○（　％）	○（　％）

工場溶接部については適用された抜取率の１／５としてもよい。

●配管・ダクトの吊り及び支持　１）土間埋設配管の吊りはピット内（材質はステンレス鋼製）に準じる。
２）鋼管、鋳鉄管及びステンレス鋼管の配管呼び径50以下、ﾋﾞﾆﾙ管、ポリエチレン管及び銅管の配管呼び径20以下の管の形鋼振れ止め支持は、
※不要　○要（支持間隔は図示による。(図面番号　　)）　(2.2.6.3)

●地中埋設管の埋戻土　コンクリート管以外の管を地中埋設とする場合は、管及び被覆樹脂を傷めぬよう山砂の類で管の周囲を埋戻した後、掘削土の良質土で埋戻す。　(2.2.7.1)

●管の埋設深さ　１）一般敷地　※３００ｍｍ　○
２）構内車両通路　※６００ｍｍ　○　(2.2.7.2)

●地中埋設標及び埋設表示用テープ　１）給水管　地中埋設標（※要　○不要）　埋設表示用テープ（※要　○不要）
２）消火管　地中埋設標（※要　○不要）　埋設表示用テープ（※要　○不要）
３）ガス管　地中埋設標（※要　○不要）　埋設表示用テープ（※要　○不要）
４）油　管　地中埋設標（※要　○不要）　埋設表示用テープ（※要　○不要）
５）地中埋設標の設置箇所は図示による。(図面番号　　)
６）埋設給水本管の分岐、曲り部等の衝撃防護措置は図示による。(図面番号　　)　(2.2.7.1)(6.2.2.3)

●区画貫通部の処理　標準図（施工１）による。　(2.2.8.1)

●保温　１）保温種別は、標準仕様書第２編表２．３．２及び表２．３．５による。
ﾛｯｸｳｰﾙ保温材､ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温材及びﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材が併記されている箇所は、どれを使用してもよい。
但し、給水管、排水管で、床下、暗渠内、(ﾋﾟｯﾄ内を含む)、屋外露出及び浴室、厨房等の多湿箇所(厨房の天井内は含まない)はﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材とする。
２）共同溝の保温種別は図示による。(図面番号　　)
３）冷媒管の保温外装は下記による。
【屋内】隠蔽部　※不要　○要
露出部　○　保温化粧ケース(塩化ビニル樹脂製)　●綿布巻き　○
【屋外】※　ステンレス鋼板　○溶融アルミニウム－亜鉛鉄板
○　保温化粧ケース　(○塩化ビニル樹脂製　○アルミ合金製
○　溶融アルミニウム－亜鉛鉄板製　○ステンレス鋼板製)
保温化粧ケースの下部カバー　○要　○不要
断熱材被覆銅管を使用した場合の保温種別は図示による。(図面番号　　)
４）氷蓄熱等の冷水管の保温は図示による。(図面番号　　)
５）鋼板製タンクの保温は　※行わない　○行う(ふたの部分は行わない)
６）次のダクト等に保温を行う場合は図示による。(図面番号　　)
○換気用ﾀﾞｸﾄ　○外気取入れ用ﾀﾞｸﾄ　○排気用ﾀﾞｸﾄ
○空調している建物内の還りﾀﾞｸﾄ　○屋内外露出排煙ﾀﾞｸﾄ
○内貼りしたﾀﾞｸﾄ及びﾁｬﾝﾊﾞｰ　○断熱材付ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾀﾞｸﾄ及びたわみ継手
○屋外露出の煙道及び煙突
７）次の管、弁、フランジ等に保温を行う場合は図示による。(図面番号　　)
○放熱器廻り蒸気配管及び温水管　○蒸気還り管
○蒸気管及び温水管で屋内及び暗渠内の各種装置廻りの配管
○蒸気管及び温水管で屋内及び暗渠内の伸縮管継手　､防振継手､ﾌﾚｷｼﾝﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ等
○冷凍機の冷却水用配管　○ﾎﾟﾝﾌﾟ廻りの防振継手､ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ
○　各種ﾀﾝｸ類のｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管及びﾄﾞﾚﾝ管(冷水､冷温水ﾀﾝｸの第1ﾊﾞﾙﾌﾞまでを除く)
○　エア抜弁以降の配管及び排泥弁以降の配管等　○油管
○　衛生器具の付属品と見なされる器具及び配管(流し下部の床上排水管を含む)
○　給水用配管で､ﾎﾟﾝﾌﾟ廻りの防振継手､ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ
○　給水及び排水の地中又はコンクリート埋設配管　○消火配管
○　給湯用配管で、屋内及び暗渠内配管の伸縮管継手、防振継手、ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｼﾞｮｲﾝﾄ等
○保温付被覆銅管　○　厨房機器及びﾎﾞｲﾗ湯沸器廻りの給水、排水及び給湯管
○　排水管で、暗渠内配管(ﾋﾟｯﾄ内を含む)、最下階の床下配管、屋外露出配管及び耐火二層管
○通気管(排水管の分岐点より100mm以下の部分を除く)
８）寒冷地等での保温厚は図示による。(図面番号　　)
９）高圧(0.1MPa)以上の蒸気管及び蒸気ﾍｯﾀﾞｰの保温厚は図示による(図面番号　　)
10）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。
11）エアー抜き管の保温厚は２０mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。
12）保温を施す空調用タンクの蓋の保温　※要　○不要
13）全熱交換形換気扇の給気ﾀﾞｸﾄの保温　※要　○不要
14）消火用充水ﾀﾝｸの保温　※要　○不要　(2.3.1.4)(2.3.1.5)(2.3.1.6)

●塗装　１）塗料を屋内で使用する場合のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※Ｆ☆☆☆☆　○
２）調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗りの塗料　※ JIS K 5516(合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ)の1種　○
ﾌｪﾉｰﾐﾝﾗﾒﾗﾐﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗りの塗料　※ JIS K 5492(ﾌｪﾉｰﾐﾝﾗﾒﾗﾐﾝﾍﾟｲﾝﾄ)の1種　○　(2.3.2.1)
３）下記の金属電線管は塗装を行う。
※屋外配管　○(　　)の屋内露出
下記の保温を施さない亜鉛メッキを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。
○倉庫　○機械室　○(　　)

○ｴﾎﾟｷｼ樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ及びﾗｲﾆﾝｸﾞ(防錆)　※加熱乾燥　○常温乾燥　(2.3.2.2)

●土工事　●　地中埋設管を除き、埋め戻し土及び盛土は、　(2.4.2.1)
※　根切り土の中の良質土を使用し、十分な締め固めを行う。
○　山砂の類を使用して、十分な締め固めを行い、水締めを行う。
●残土処分
※構内指示の場所に敷ならし　○構外処分

●コンクリート工事　図面に明記なきコンクリート設計基準強度及びスランプは、下記による。　(2.4.4.1)
設計基準強度　※１８N/mm2以上　○
スランプ　※１８cm以下　(2.4.4.2)

●鋼材工事　鋼製架台、はしご等の機器付属金物及び配管､ﾀﾞｸﾄの支持金物の屋外部分は、ｽﾃﾝﾚｽ鋼製(SUS304)若しくは溶融亜鉛めっき（※2種35　○2種50）とする。
但し､ﾋﾟｯﾄ内等多湿箇所の吊り及び支持金物はｽﾃﾝﾚｽ鋼製(SUS304)とする。　(2.4.6.2)

●はつり　既存のｺﾝｸﾘｰﾄ床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰを使用する。
なお、復旧はﾓﾙﾀﾙ補修とする。

●容量等の表示　機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は表示された数値以下とする。

○防火区画　○平面間　○図示(図面番号　　)　○

○掲示板　機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図等を描いた掲示板を設ける。

○天井仕上区分　（　　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。

●マンホール、蓋類　県名、用途名入りとする。

●取替機器　機器を取り替えた場合、取替日、請負者名、施工者名及び能力を記した銘板を取付ける。

●天井点検口　天井点検口の裏側に用途名称を付す。

○耐震施工　設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針(国土交通省国土技術政策総合研究所監修)２００５年版」による。
なお設計用水平地震力は、次に示す設計用標準水平震度に、機器の重量を乗じたものとする。
また、設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とする。

設置場所	○特定の施設			※一般の施設		
	重要機器	要	一般	重要機器	要	一般
		水槽類	機器		水槽類	機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	2.0	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.5	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.5	1.0(1.5)	1.0(1.5)	1.0	0.6(1.0)
１階及び地下階	1.0(1.0)	1.5	0.6(1.0)	0.6(1.0)	1.0	0.4(0.6)

注　（　）内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。
重要機器(水槽類)は、下記による。(水槽にはオイルタンク等を含む。)
（○消火設備　○水槽類　○　○　○　○　）
上層階の定義は、次による。
６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階　(3.2.1.1)
10階～12階建の場合は上層３階、13階建の場合は上層４階　(5.2.1.1)

○監督職員事務所　※別途工事　(2.4.1.1)
○本工事（規模　※10㎡程度　○20㎡程度　○30㎡程度　○65㎡程度　○100㎡程度）
仕上げの程度

部位	仕　様	
床	※ 合板張り又はﾋﾞﾆｼｰﾄ張り	○
内壁・天井	※ 合板又は石膏ﾎﾞｰﾄﾞ張り+塗装	○
屋根	※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り+塗装	○

○総合会議室　※別途工事（　　）　○本工事（規模　　㎡程度）　(2.4.1.1)
○監督員事務所の備品　監督員事務所を設ける場合の備品は(図面番号　　)による。　(2.4.1.1)

●工事用水　構内既存の施設　※利用できない　○利用できる　(○有償　○無償)
●工事用電力　構内既存の施設　※利用できない　○利用できる　(○有償　○無償)
●工事用仮設物　構内につくることが　※できる　○できない
●足場・さん橋類　※　関係者が設置したものは、無償で使用できる。　○　本工事で設置する。　(2.4.1.1)
○　枠組足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省平成１５年４月）」により、設置については同ガイドラインに基づく働き易い安心感のある足場とし、２段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、又は改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保するものとする。

株式会社 尾川建築設計事務所
一級建築士 第216100号 尾川　佳永

空調設備

- ●方式：○空気調和　○ダクト方式（○中央　○各階ユニット）○ファンコイル・ダクト併用方式　●個別方式　○温風暖房　○温風暖房機　○空気調和機（冷房考慮）　○直接暖房　○低圧蒸気　○温水　○冷房　●パッケージ形空気調和機
- ●主要熱源機器：○ボイラー　○温風暖房機　○温水発生機　○遠心冷凍機　○スクリュー冷凍機　○吸収冷凍機　○冷却塔　○チリングユニット　○空気熱源ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄ　○直だき吸収冷温水機　○小形吸収冷温水機ユニット　○ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ装置　○氷蓄熱ユニット　○ユニット形空気調和機　○コンパクト形空気調和機　●ﾊｯｹｰｼﾞ形空気調和機　○ｶﾞｽｴﾝｼﾞﾝ式ﾊｯｹｰｼﾞ形空気調和機　○ファンコイルユニット　○空気清浄装置　○全熱交換器　○放熱器
- ○設計時の温湿度条件

場所	屋外		屋内（調整目標値）			
			一般事務室			
時期	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
冬期	0.4 ℃	43 %	22 ℃	43 %	℃	%
夏期	35.5 ℃	53 %	26 ℃	53 %	℃	%

- ○ダクトの種別：※低圧ダクト　○高圧１ダクト　○高圧２ダクト　(3.2.2.1)
- ○ダクトの工法：○アングルフランジ工法　○スパイラルダクト　○フレキシブルダクト　○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法）（長辺の長さが1500mm以下の部分）　(3.2.2.1～3.2.2.4)
- ○チャンバー等：製作及び取付は、標準仕様書第３編2.2.2「ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法ﾀﾞｸﾄ」の当該事項による。消音内貼　※　要（標準仕様書第２編表２．３．２及び表２．３．４による）　○不要　(2.3.1.4)(3.1.14.5)(3.2.2.2)(3.2.2.7)
- ○吹出口及び吸込口ボックス：材質※亜鉛鉄板製　○グラスウール製　(3.1.14.6)
- ○風量測定口の取付位置：図示による（図面番号　　）　(3.2.2.7)
- ●配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)
  1）冷温水管・膨張管・ｴｱｰ抜き管・膨張ﾀﾝｸよりﾎﾞｲﾗｰ等への補給水管　※配管用炭素鋼鋼管(白管)　○耐熱性ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-HVA、SGP-H-FVA、SGP-H-FCA)　○ステンレス鋼管(SUS304)（継手　　）　○
  2）冷却水管　※配管用炭素鋼鋼管（白管）　○高質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA)　○ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PA、SGP-FPA)　○ステンレス鋼管(SUS304)（継手　　）　○
  3）蒸気給気管　※配管用炭素鋼鋼管（黒管）　○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370黒管Sch40)　○
  4）蒸気還管　※圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370黒管Sch40)　○一般配管用ステンレス鋼管(SUS304)(継手　　)　○
  5）高温水管　※圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370黒管　Sch○40　○Sch80）　○
  6）油管　※配管用炭素鋼鋼管（黒管）（ﾄﾗﾌ内共）（※一般　○　　）　※消火用ﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝ外面被覆鋼管(SGP-PS)（※地中（屋内・屋外）○　　）　○
  7）空調用給水管　○硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA)　○ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PA、SGP-FPA)　○水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP)　○
  8）空調用排水管　○硬質塩化ビニル管(VP)　○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管(D-VA)　○
  9）冷媒管　※断熱材被覆銅管　○銅管　○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370黒管Sch40)
- ○定風量ユニット　変風量ユニット：○メカニカルタイプ　○風速センサータイプ　(3.1.15.13)(3.1.15.14)
- ○地下オイルタンク：1）本体　※地下オイルタンク　記号　ＴＯ－　○鋼製強化プラスチック製二重殻タンク　記号　ＴＯＳＦ－　(3.1.13.7)　2）蓋　※WPM-AW800　○WPM-AW700　○WPM-A450　○　3）タンク室　○設けない(コロッケ形)　○　4）コンクリート工事　※本工事　○別途建築工事　5）コンクリート躯体工事　※本工事　○別途建築工事　6）内部充填砂　※本工事　○別途建築工事　7）タンク外面防護処置　※施工しない　○施工する（○ｱｽﾌｧﾙﾄ被覆　○ｴﾎﾟｷｼ樹脂被覆　○　）　8）基礎杭　※不要　○要　9）遠隔油量指示計　※設ける　○設けない
- ○バーナーの制御方式：○オン・オフ制御　○ハイ・ロー制御　○比例制御　(3.1.1.8)
- ○鋼板製煙道：図面に明記なき鋼板製煙道の厚さ　※３．２ｍｍ　○４．５ｍｍ　ばい煙濃度計取付座及びばいじん量測定口(80φ以上)の箇所は図示による。図面番号(　　)　(3.1.1.9)　(3.2.1.5)
- ○ばい煙濃度計：○設けない　○　設ける（電源制御盤より取り出し配管配線は本工事に含む。））※送風機付き　○送風機無し　(3.1.1.10)
- ○給水軟化装置：（1）操作装置　※自動式　○手動式　(3.1.1.12)　（2）イオン交換樹脂　※１筒式　○　（3）処理水用硬度測定器　○設ける　○設けない
- ○無圧式温水発生器の本体内面防錆処理：ステンレスを除く鋼製の場合の内面防錆処理は　○溶融亜鉛めっき２種55　○溶融アルミニウムめっき２種　○熱媒水に腐食抑制剤を添加する方法　(3.1.2.2)(5.1.3.2)
- ○冷媒：図示による。(図面番号　　)　(3.1.3.1～3.1.3.4)
- ○成績係数：図示による。(図面番号　　)　○グリーン購入法で定める数値以上とする。　(3.1.3.3～3.1.3.7)
- ○遠心冷凍機：電動機盤内の進相コンデンサー　○設ける　○設けない　(3.1.3.3)
- ○スクリュー冷凍機：電動機盤内の進相コンデンサー　○設ける　○設けない　(3.1.3.4)
- ○直だき吸収冷温水機：排熱熱交換器　○設ける　○設けない　排熱投入型再生器　○設ける　○設けない　高温再生器の構造は図示による。（図面番号　　）　排熱を回収または投入している運転状態における燃料削減率等図示による。（図面番号　　）　(3.1.3.6)
- ○小型吸収冷温水機ユニット：冷却塔、ﾎﾟﾝﾌﾟの補機類の組み込みの有無等図示による。(図面番号　　)　(3.1.3.7)
- ○ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝ装置：仕様、ｼｽﾃﾑ等は図示による。(図面番号　　)　(3.1.4.1～3.1.4.16)
- ○氷蓄熱ユニット：冷媒は図示による。（図面番号　　）　(3.1.5.1～3.1.5.11)　氷生成装置　○スタティック形　（　○内融式　○外融式　○カプセル式　）　○ダイナミック形　タンク本体の材質は図示による。（図面番号　　）　基礎等は図示による。（図面番号　　）　(3.2.1.11)
- ●空気調和機：○ユニット形空気調和機　加湿器、許容騒音ﾚﾍﾞﾙ、吐出口風速等図示による。（図面番号　　）　○コンパクト形空気調和機　加湿器、ｴｱﾌｨﾙﾀｰ、制御盤等図示による。(図面番号　　)　○ファンコイルユニット　流量調整弁、定流量弁等図示による。（図面番号　　）　○カセット形ファンコイルユニット　図示による。（図面番号　　）　●ﾊﾟｯｹｰｼﾞ形空気調和機　加熱器、加湿器、ｴｱﾌｨﾙﾀｰ、冷媒等図示による。（図面番号　　）　○ｶﾞｽｴﾝｼﾞﾝﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ式空気調和機　冷媒、成績係数等図示による。（図面番号　　）　基礎　※標準基礎　○防振基礎　(3.1.7.1～3.1.7.7)
- ○空気清浄装置：ﾌｨﾙﾀｰの形式等図示による。(図面番号　　)　(3.1.8.1～3.1.8.6)
- ○回転形全熱交換器：回転数制御装置は図示による。(図面番号　　)　(3.1.9.1～3.1.9.4)
- ○全熱交換ユニット：運転表示灯及び操作ｽｲｯﾁ等図示による。(図面番号　　)　(3.1.9.1～3.1.9.4)
- ○放熱器及び放熱器付属品：ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰの吹出口、吸込口、ｴｱﾌｨﾙﾀｰ等図示による。　(図面番号　　)　ｺﾝﾍﾞｸﾀｰ、ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾄﾞﾋｰﾀｰ、ﾊﾟﾈﾙﾗｼﾞｴｰﾀｰの寸法、放熱能力等図示による。（図面番号　　）　(3.1.10.1～3.1.10.11)
- ○送風機：電動機直動式の場合の極数等図示による。(図面番号　　)　(3.1.11.1～3.1.11.4)　基礎　※標準基礎　○　防振基礎(振動絶縁効率　　%)　(3.2.1.16)
- ○ポンプ類：本体及びﾍﾞｰｽの材質、ﾌｰﾄ弁の口径等図示による。(図面番号　　)　(3.2.1.17)　基礎　※標準基礎　○　防振基礎(振動絶縁効率　　%)　(3.1.12.1～3.1.12.6)

換気設備

- ○還水タンク：※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製溶接加工　（○SUS304　○SUS316　○SUS444）　(3.1.13.2)
- ○膨張タンク：○開放形膨張タンク　（○鋼板製　○ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製(SUS304)）　(3.1.13.5)　○密閉形隔膜式膨張タンク（溶解栓　○あり　○なし）　(3.1.13.6)
- ●ダクトの種別：※低圧ダクト　○高圧１ダクト　○高圧２ダクト　(3.2.2.1)
- ●ダクトの工法：○ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法　●ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ　○ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾀﾞｸﾄ　(3.2.2.1～3.2.2.4)　○コーナーボルト工法（○共板ﾌﾗﾝｼﾞ工法　○ｽﾗｲﾄﾞｵﾝﾌﾗﾝｼﾞ工法）（長辺の長さが1500mm以下の部分）　○硬質塩化ビニル管
- ○厨房用排気ダクトの板厚：厨房用排気ダクトの板厚は下記による　(3.2.2.2)

ダクトの長辺	適用表示厚さ(mm)
450以下	(　　)
450を超え、750以下	(　　)
750を超え、1500以下	(　　)
1500を超え、2200以下	(　　)

- ○送風機：電動機直動式の場合の極数等図示による。(図面番号　　)　(3.1.11.1～3.1.11.4)　基礎　※標準基礎　○防振基礎(振動絶縁効率　　)　(3.2.1.16)
- ○吹出口及び吸込口ボックスの材料：材質※亜鉛鉄板製　○グラスウール製　(3.1.14.6)
- ○排気フード：1）　排気ﾌｰﾄﾞの補強、支持金物、接合材等は、亜鉛鉄板製ﾀﾞｸﾄの当該事項によるものとし、材質は下記による。　※ステンレス鋼板（補強共）　○亜鉛鉄板　2）　フード開いにダンパー類の点検口を　○設ける　○設けない　3）　ﾌｰﾄﾞの内側周囲にはといを設け、といには呼び径10～20の黄銅製ｺｯｸ、ﾌﾞﾗｸﾞ又はｽﾃﾝﾚｽ製ｺｯｸを　○設ける　○設けない　(3.1.14.7)
- ○グリス除去装置：○グリスエクストラクター　○グリスフィルター　(3.1.14.8)
- ○防煙ダンパー　防火防煙ダンパー　ピストンダンパー：防煙ﾀﾞﾝﾊﾟｰ、防火防煙ﾀﾞﾝﾊﾟｰの復帰方式　(3.1.15.8～3.1.15.10)　※　遠隔復帰式（電気式（定格入力　DC24V　0.6A以下））　○手動復帰式　ﾋﾟｽﾄﾝﾚﾝﾀﾞﾝﾊﾟｰの復帰方式　※遠隔復帰式　○手動復帰式
- ○ドレン抜き：外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー類に必要に応じ設ける。厨房、浴室等の多湿部の排気ﾀﾞｸﾄに設ける。(図面番号　　)　(3.2.2.1)

排煙設備

- ○排煙対象部分：○廊下　○事務所　○図示による。(図面番号　　)　○最大面積　㎡
- ○ダクトの種別：○高圧１ダクト　○高圧２ダクト　(3.2.2.1)
- ○ダクトの工法：※アングルフランジ工法　○　(3.2.2.1)
- ○ダクトの材料：※亜鉛鉄板製　○普通鋼板製　(3.2.2.1)
- ○排煙口及びダンパー：1）形状　○スリットフェース形　○パネル形　○ダンパー形　(3.1.11.12)　2）排煙口の作動　○手動（○機械式　○電気式）　○煙感知器連動　3）ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事（電気設備工事）とする。
- ○排煙機：※遠心送風機　○斜流送風機　○軸流送風機　基礎　※標準基礎　○防振基礎(振動絶縁効率　　)　(3.1.11.4)　(3.2.1.16)

自動制御設備

- ○自動制御設備一般：システムの構成及び機能は図示による。（図面番号　　）　(4.1.1.1)
- ○自動制御機器：デジタル式調節器の中央監視制御装置との通信機能は図示による。（図面番号　　）　操作部電動弁の開閉状態を遠方表示するための電気接点は図示による。（図面番号　　）　(4.2.1.2)　(4.2.1.3)
- ○中央監視制御装置 一般：システムの構成及び機能は図示による。（図面番号　　）　(4.2.3.1)
- ○中央監視盤：システムの構成及び外観形状は図示による。（図面番号　　）　(4.2.3.2)
- ○周辺装置：印字装置の方式は図示による。（図面番号　　）　集合表示装置は図示による。（図面番号　　）　(4.2.3.3)
- ○端末装置：種類及び機能は図示による。（図面番号　　）　(4.2.3.4)
- ○電気計装用機材：電線及びケーブルの規格、通信信号線の規格及び使用区分、線径及び太本数は図示による。（図面番号　　）　(4.2.4.1)　(4.2.4.1)

衛生器具設備

- ○小便器用節水装置：○小便器一体型　○小便器分離型　(5.1.1.2)
- ○温水洗浄式便座：加熱方式（○貯湯式　○瞬間式）　給水方式（○給水管直結給水式　○ﾎﾟﾝﾌﾟ加圧給水式）　温風乾燥機能　（○有り　○無し）　脱臭機能（○有り　○無し）　(5.1.1.2)
- ○大便器ユニット：大便器の種類及び給水装置の組合せ、ｹｰｼﾝｸﾞの化粧前板・甲板の仕様は図示による。（図面番号　　）　(5.1.1.3)
- ○小便器ユニット：小便器の種類及び節水装置の組合せ、配管、ｹｰｼﾝｸﾞの化粧前板・甲板の仕様は図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.4)
- ○洗面器ユニット：洗面器の種類及び給湯管の要否、配管、ｹｰｼﾝｸﾞの化粧前板・甲板の仕様は図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.5)
- ○その他のユニット：構成・仕様は図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.6)
- ○浴室ユニット：JISA5532(浴槽)、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ浴槽ふた、照明の種類、給水・給湯管の要否、管材、壁・床・天井、付属品の仕様は図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.7)
- ○複合浴室ユニット：JISA5532(浴槽)、JISA5207(衛生陶器)、照明の種類、給水・給湯管の要否、管材、壁・床・天井、付属品の仕様は図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.8)
- ○洗浄弁：操作方式　○手動式　（※レバー式　○　　）　○電気制御式（○センサー式　○タッチスイッチ式）　(5.1.1.10)
- ●鏡：大きさは図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.12)
- ○化粧棚：陶器製又は金属製の縁付きとし、大きさは図示による。(図面番号　　)　(5.1.1.13)
- ○水石鹸入れ：○衛生陶器取付形　○壁取付形　○カウンター取付形　○　(5.1.1.14)
- ○自動水栓：電源供給方式　（○ＡＣ電源式　○乾電池式　○発電式）　(5.1.1.15)
- ○大便器耐火カバー：※設ける（ﾋﾟｯﾄ内は除く）　○設けない

給水設備

- ●給水方式：○水道直結方式　○高置タンク方式　●圧力タンク方式　○ポンプ直送方式
- ●配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)　1）一般配管　●硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA)(SGP-FVA)　屋外　○ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PA)(SGP-FPA)　○ステンレス鋼管(SUS304)　継手（　　）　●水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP)　○　2）地中配管　○塩化ビニルライニング鋼管(内外面ﾗｲﾆﾝｸﾞ)(SGP-VD)　(○屋内　○屋外)　○ポリエチレン粉体ライニング鋼管(外面被覆)(SGP-PD)(SGP-FPD)　(○屋内　○屋外)　○水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP)　(●屋内　●屋外)　○
- ○ポンプ類：○揚水用ポンプ　ﾍﾞｰｽの材質、ﾌｰﾄ弁の呼び径等図示による。(図面番号　　)　(5.1.2.1)(5.1.2.2)　○小型給水ポンプユニット　(5.1.2.3)　運転方式、24時間強制ﾛｰﾃｰｼｮﾝ機能、ﾌｰﾄ弁の呼び径等図示による。(図面番号　　)　○深井戸用水中モーターポンプ　(5.1.2.4)　揚水管の材質、水中ｹｰﾌﾞﾙの長さ等図示による。(図面番号　　)
- ○加入金等：※不要　○要（○本工事　○別途工事）　名称：
- ○タンク：タンク本体給水栓用配管接続口　○設ける　○設けない　(5.1.4.2)　ＦＲＰ製パネルタンク　※複合板形　○単板形　ステンレス鋼鈑製パネルタンク外部保温　○あり　○なし　パネルタンクに使用するﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ、金属材料の材質は図示による。（図面番号　　）

排水設備

- ●排水方式：汚水と雑排水　屋内　●分流式　○合流式　汚水・雑排水と雨水　屋外　※分流式　ポンプ排水　○有り（○汚物　○汚水　○雑排水　○浄化槽2次側）　●無し
- ●放流先：1）汚水　○直放流下水管　●浄化槽　2）雑排水　○直放流下水管　●浄化槽　○別途桝（　　工事）
- ●配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)　1）汚水・雑排水管　●硬質塩化ビニル管(VP)　(●屋内　●屋外)　○　建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP)　(○屋内　○屋外)　○　排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管(D-VA)　(○屋内　○屋外)　○　耐火二層管(国土交通大臣認定品)　(○屋内　○屋外)　○　2）通気管　●硬質塩化ビニル管(VP)　○　建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP)　○　排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管(D-VA)　○　配管用炭素鋼鋼管(白管)　○　耐火二層管(国土交通大臣認定品)　○　3）流し等の床上露出部分の配管は、硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管(VP)でもよい。(保温不要)
- ○汚水、雑排水、汚物用水中モーターポンプ：水中ｹｰﾌﾞﾙの長さ、汚物用の場合の電動機の極数等図示による。(図面番号　　)　(5.1.2.6)
- ○グリース阻集器：※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製(SUS304)板厚3mm以上　○強化ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製(FRP)板厚3mm以上　(5.1.7.8)
- ○煙試験：※不要　○要　(2.2.9.4)
- ○満水試験継手：※要　（取付箇所は図示による。(図面番号　　)）　○不要
- ○負担金：※不要　○要（○本工事　○別途工事）　名称：

給湯設備

- ○給湯方式：○中央式　○局所式
- ○配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)　※銅管　○　耐熱性ライニング鋼管(SGP-HVA,SGP-H-FVA,SGP-H-FCA)　○　ステンレス鋼管(SUS304)(継手　　)　○　保温付被覆銅管　メーカー参考品名：住友軽金属工業・ブリゾールチューブRX
- ○貯湯式電気温水器：週間タイマーの有無等図示による。(図面番号　　)　(5.1.3.6)
- ○ヒートポンプ給湯器：タンク容量等図示による。（図面番号　　）　(5.1.3.7)
- ○ガス湯沸器用排気筒：排気筒を外気に開放する場合の頂部形状は図示による。(図面番号　　)　(5.1.3.8)
- ○貯湯タンク：材質、電気防食の方式等図示による。(図面番号　　)　(5.1.4.3)

消火設備

- ○消火設備の種類：○屋内消火栓　○連結送水管　○屋外消火栓　○ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ　○泡消火　○粉末消火　○不活性ｶﾞｽ消火　○連結散水　○ﾌｰﾄﾞ等用簡易自動消火　(5.1.5.2～5.1.5.10)
- ○配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)　1）一般配管　○配管用炭素鋼鋼管(白管)　○　圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370白管　Sch○40　○80)　○　ステンレス鋼管(○一般配管用　○配管用)(継手　　)　2）地中配管　※　消火用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ外面被覆鋼管(SGP-VS)　(○屋内　○屋外)　消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(STPG370 VS 白管Sch40)　(○屋内　○屋外)
- ○消火ポンプ：フート弁の呼び径等図示による。(図面番号　　)　(5.1.2.7)
- ○屋外消火栓：屋外消火栓ホース格納箱　※鋼板製(1.6mm以上)○ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製(1.5mm以上)　屋外消火栓箱　※鋼板製(1.6mm以上)○ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製(1.5mm以上)
- ○スプリンクラー：閉鎖型スプリンクラーヘッドは　○湿式　○乾式　○予作動式　(5.1.5.5)
- ○泡消火：消火薬剤　※水成膜泡消火薬剤　○合成界面活性剤泡消火薬剤　(5.1.5.7)　感知用ヘッドの形状は図示による。(図面番号　　)
- ○連結散水：散水用ヘッドの形状は図示による。(図面番号　　)　(5.1.5.9)

厨房機器設備

- ○機器の固定：燃焼機器、加熱調理機器、高さが1mを超える機器及び図示による機器には、床又は壁にｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄで固定できるよう補強及び固定金具を備える。(図面番号　　)　(5.1.6.1)
- ○流し：化粧板の有無、流しﾕﾆｯﾄ の材質等図示による。(図面番号　　)　(5.1.6.5)
- ○作業台（調理台、脇台、盛付台）：引出し、戸棚の有無等図示による。(図面番号　　)　(5.1.6.6)
- ○ガステーブルコンロ：甲板の材質、厚さ、すのこの有無等図示による。(図面番号　　)　(5.1.6.11)
- ○電気テーブルコンロ：すのこの有無等図示による。(図面番号　　)　(5.1.6.12)
- ○ガス及び電気ﾌﾗｲﾔｰ：空だき防止装置の有無等図示による。(図面番号　　)　(5.1.6.13)

ガス設備

- ○ガスの種類：○都市ガス　発熱量　MJ/Nm3　ガス供給者名　○液化石油ガス　（※５０kg　○２０kg）
- ○配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(6.2.1.1～6.3.1.1)　1）一般配管　※配管用炭素鋼鋼管(白管)　○圧力配管用炭素鋼鋼管　2）地中配管　※合成樹脂被覆鋼管　(●屋内　●屋外)　○ガス用ポリエチレン管　(○屋内　○屋外)
- ○ガス漏れ警報器：※別途工事（　　）　●本工事（外部出力端子　※無　○有）　(6.2.1.3)
- ○防食措置：地中埋設管に電気防食を施す場合は図示による。(図面番号　　)　(6.2.2.5)
- ○液化石油ガス用銅管の溶接接合：溶接部の非破壊検査　※適用しない　○適用する（○放射線透過検査　○浸透探傷検査又は粉体探傷検査）　抜取率　%　(6.3.2.2)
- ○地中埋設管の接合方法：○ネジ工法　○ＳＧＭ工法　○ＰＥ管工法
- ○ピット内施工法：※溶接工法　○
- ○負担金：※不要　○要

浄化槽設備

- ●形式：※ユニット形　○現場施工形
- ●処理種別：○小規模合併処理　●合併処理
- ○汚泥引抜き清掃消毒：※別途工事　○本工事
- ○現場施工形：送風機室　（○本工事　○別途工事）　(8.1.1.2～8.2.2.1)　防護さく　（○本工事　○別途工事）　ｺﾝｸﾘｰﾄ躯体工事（土工事を含む）　（○本工事　○別途工事）　換気用送風機　○遠心送風機　○軸流及び斜流送風機　制御盤　○漏電、過負荷及び満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける。　消毒装置　○ノズル式　○消泡剤　消毒装置　○固形塩素剤消毒装置　○次亜塩素酸ソーダ消毒装置　○　マンホール　※　標準図(機材1)によるﾏﾝﾎｰﾙ蓋（水封形）(鍵又は回転ﾛｯｸ付)　○　管材及び弁類は図示による。(図面番号　　)　土留の等は図示による。(図面番号　　)
- ●ユニット形：基礎等の寸法等図示による。(図面番号　　)　(8.3.2.1)

駐車場設備

- ○運転操作盤：○一台の機器に付き一面設ける　○　号機選択スイッチ　○設ける　○設けない　(10.2.2.4)
- ○耐震措置：設計用水平震度は、設計用標準水平震度に地域係数を乗じて求める。　○地域係数（　　）　(10.2.2.7)

撤去工事

- ●撤去工事：1）　引き渡しを要する配管、ﾀﾞｸﾄ等の保温材は分離する。　2）　ﾀﾞｸﾄ及び配管等の支持金物、吊りﾎﾞﾙﾄ等は本工事にて撤去する。　3）　撤去後の補修は、原則として現状復旧とする。

その他

- ○さく井設備工事の事前調査：○既設井分布調査　○地表探査（イ）探査方法は、電気探査の比抵抗法による。（ロ）測定方法は、直流型方式とする。（ハ）解析は、標準曲線法によるものとする。　(7.1.2.1)
- ○井水等配管材料：図面に明記なき配管材料は、下記による。　(2.2.1.2)　○　水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP)　○　水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管　(○SGP-VA　○SGP-VD)　○　フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管　(○SGP-FVA　○SGP-FVD)　○水道用亜鉛めっき鋼管　○
- ○井水等配管の保温：図面に明記なき保温仕様は、下記による。　(2.3.1.5)　○不要　○　要（保温種別は、標準仕様書第2編表2.3.5の給水管の当該事項による。）
- ●機器及び配管の文字書き：屋外の文字書きはｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄや調合ﾍﾟｲﾝﾄ等耐久性のあるもので記入する。
- ○建築物等（内装仕上げ等）の解体作業における石綿対策：※石綿含有建築材料（みなす場合も含む。）が存在する場合の除去等にあたっては、労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）及び石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第21号）の定めに基づき解体作業等を行うこと。

（設備機材）

- 弁及び継手　（減圧弁・温度調整弁、伸縮管継手（ﾍﾞﾛｰｽﾞ形、ｽﾘｰﾌﾞ形））
- ボイラー　（鋼製簡易ﾎﾞｲﾗｰ、鋳鉄製ﾎﾞｲﾗｰ、鋼製小型ﾎﾞｲﾗｰ、鋼製ﾎﾞｲﾗｰ）
- 温水発生機　（真空式温水発生機（鋼製・鋳鉄製）、無圧式温水発生機（鋼製・鋳鉄製））
- 冷凍機　（ﾁﾘﾝｸﾞﾕﾆｯﾄ(空気熱源ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄ含む)、直だき吸収冷温水機、小型吸収冷温水機ﾕﾆｯﾄ、遠心冷凍機）
- 冷却塔　（冷却塔）
- 空気調和機　（ユニット形空気調和機、ファンコイルユニット及びカセット形ファンコイルユニット、ﾊﾟｯｹｰｼﾞ形空気調和機、コンパクト形空気調和機、ｶﾞｽｴﾝｼﾞﾝﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ式空気調和機）
- 空気清浄装置　（ｴｱﾌｨﾙﾀｰ(ﾊﾟﾈﾙ形、折込形、袋形）、自動巻取形ｴｱﾌｨﾙﾀｰ、電気集塵器）
- 全熱交換器　（全熱交換器（回転形、静止形）、全熱交換ﾕﾆｯﾄ）
- 送風機類　（遠心送風機（多翼形送風機）、斜流送風機、軸流送風機、消音ﾎﾞｯｸｽ付送風機）
- ポンプ類　（横形遠心ﾎﾟﾝﾌﾟ、水中ﾓｰﾀｰﾎﾟﾝﾌﾟ（汚水用、雑排水用、汚物用）、立形遠心ﾎﾟﾝﾌﾟ）
- ダクト付属品（吹出口・吸込口、風量ﾕﾆｯﾄ(定風量・変風量)）
- 自動制御　（自動制御ｼｽﾃﾑ）
- 衛生器具ユニット　（衛生器具ﾕﾆｯﾄ）
- タンク　（FRP製ﾊﾟﾈﾙﾀﾝｸ、密閉形隔膜式膨張ﾀﾝｸ(空調用・給湯用)、ステンレス鋼板製ﾊﾟﾈﾙﾀﾝｸ(溶接組立形)、ステンレス鋼板製ﾊﾟﾈﾙﾀﾝｸ(ﾎﾞﾙﾄ組立形)）
- 消火設備　（ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ消火ｼｽﾃﾑ、不活性ｶﾞｽ消火ｼｽﾃﾑ(窒素、IG/55、IG/541)、泡消火ｼｽﾃﾑ）
- 厨房機器　（厨房ｼｽﾃﾑ）
- 鋳鉄製ふた　（ﾏﾝﾎｰﾙふた、弁桝ふた）

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK
二上小学校増築工事	機械設備特記仕様書(2)	－	2010.9	10018	＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊	山縣	尾川

株式会社　尾川建築設計事務所　一級建築士　第216100号　尾川　佳永

機器明細表

記号	名称	仕様及び付属品	電気		合計	備考
			電圧	消費電力		
J-1	浄化槽	合併処理浄化槽・５０人槽・流量調整型嫌気ろ床生物ろ過循環方式　（詳細は別図参照　図番　M-１３～１５）	１φ１００Ｖ	０．４KW（ブロワ）	１	
		ブロワー，ブロワーカバー，その他付属品一式共				

給排水衛生設備工事 器具明細表

名称	記号	仕様及び附属品	数量				備考
			１階	２階	屋外	合計	
腰掛便器	C-4R	ＣＦ－５０Ｒ７Ｊ（フラッシュバルブ），ＣＦ－３９ＡＫ（普通便座），ＣＦ－３Ｂ（スパッド），ＣＦ－４Ｗ（フランジ）	５	５		１０	
紙巻器	ＣＦ－２２Ｈ		５	５		１０	
小便器	U-３３１RM	ＵＦ－３Ｊ（フラッシュバルブ），ＵＦ－１０５（スパッド），ＵＦ－２０６SMW（フランジ）	３	３		６	
洗面器	L-１７６EC	ＬＦ－Ｅ０２（立水栓），ＬＦ－１０５ＰＡ（排水金具），ＬＦ－３（止水栓），ＳＦ－１０Ｅ（バックハンガ）	４	４		８	
化粧鏡	ＫＦ－４５６０Ａ	防錆	４	４		８	
掃除用流し	ＳＫ２２Ａ	ＴＫ２２（リムカバー），Ｔ３７ＳＥＰ（排水金具），Ｔ２３ＡＥ２０（給水栓），Ｔ９Ｒ（バックハンガ）	１	１		２	
手掛	ＫＦ－９２０ＥＲ５０	固定金具共	２	２		４	
〃	ＫＦ－７０１Ｅ	〃	１	１		２	
〃	ＫＦ－５２５Ｅ７０	〃	２	２		４	
〃	ＫＦ－３１２Ｅ７０	〃	２	２		４	
自在水栓	ＬＦ－１６ＳＰＦ－１３		６	６		１２	
散水栓	ＬＦ－１３－１３－ＣＶ	ＢＯＸ共			２	２	

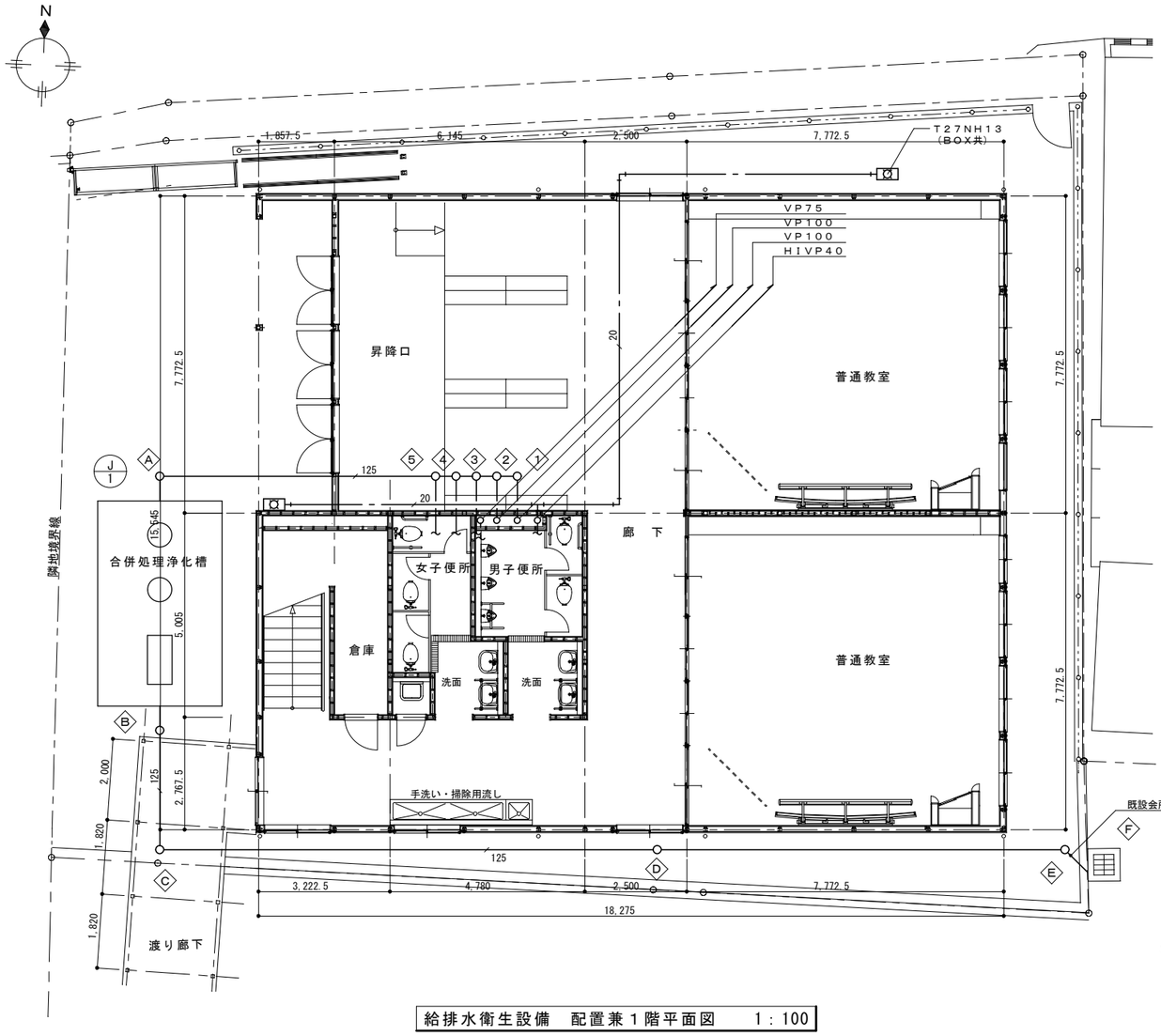
空気設備工事 機器明細表

記号	名称	仕様				電気				数量	備考
		冷房能力	暖房能力	冷媒配管		電圧	消費電力	Comp	Fan		
PAC-1	空冷ヒートポンプパッケージエアコン	20.0KW（7.5～22.4KW）	28.0KW（9.1～35.0KW）	主）9.5φ，25.4φ 枝）(9.5φ，15.9φ)×2	室外機：防振架台，床置架台共	3φ200V	7.06KW	3.40KW	75W	5	・機器参考品番 パナソニック電工　ＰＡ－Ｐ２２４Ｔ１ＸＤ 室内機　ＣＳ－Ｐ１１２Ｔ１×２ 室外機　ＣＵ－Ｐ２２４Ｘ１ 同等品
					室内機：天井吊型，ワイヤレスリモコン共				130W×2		

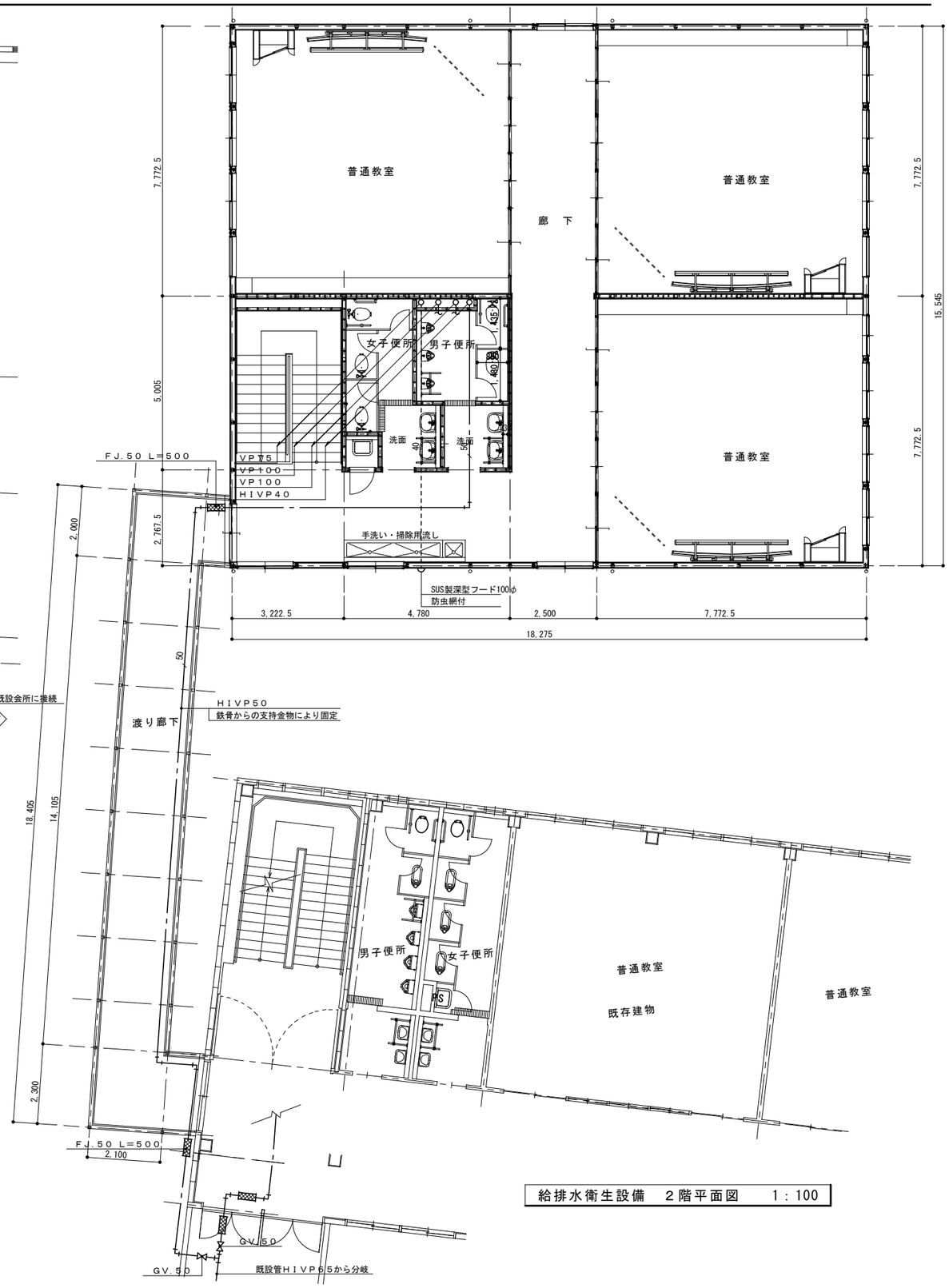
換気設備工事 機器明細表

記号	名称	仕様			電気		数量	備考
					電圧	消費電力		
FE-1	排気ファン	天井扇・低騒音・風量　２５０m^3／ｈ　ｘ　５０Ｐａ	ＳＵＳ製深型フード　防虫網付	【２４時間換気機能付】 専用スイッチ共	１φ１００Ｖ	３６W	５	参考 三菱：VD-18ZLX$_8$-CS
FE-2	〃	〃　・　〃　・　〃　４５０m^3／ｈ　ｘ　５０Ｐａ	〃		〃	８２W	４	参考 三菱：VD-23ZB$_8$
OA-1	自然給気口		〃		－	－	７	参考 三菱：Ｐ－１３ＴＱＵ$_2$

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	機器明細表	－	2010.9	10018	＊ ベンドキャップはＳＵＳ製丸型フード（ガラリ付・指定色）とする。	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｍ－３



給排水衛生設備　配置兼１階平面図　　1：100

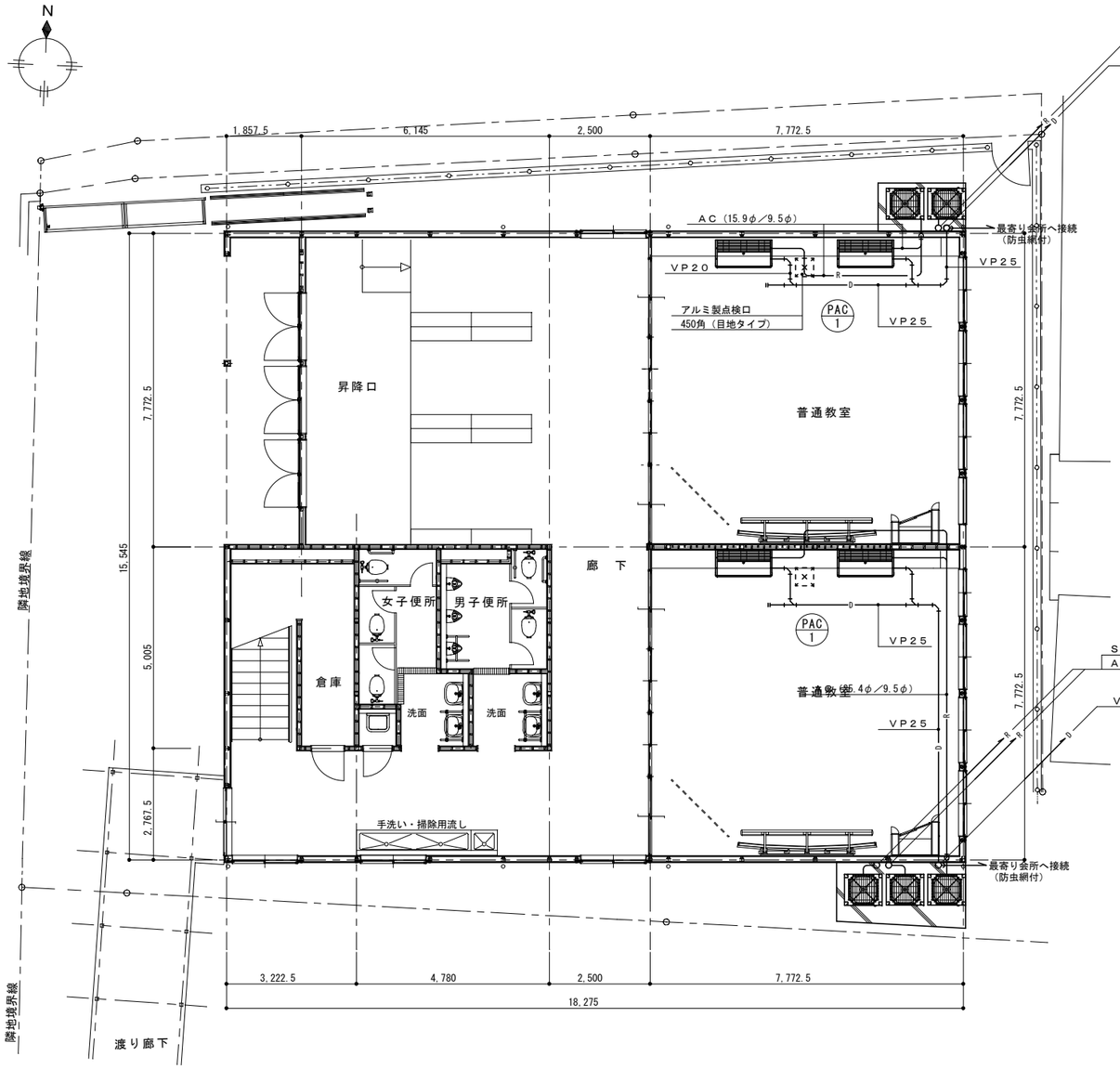


給排水衛生設備　２階平面図　　1：100

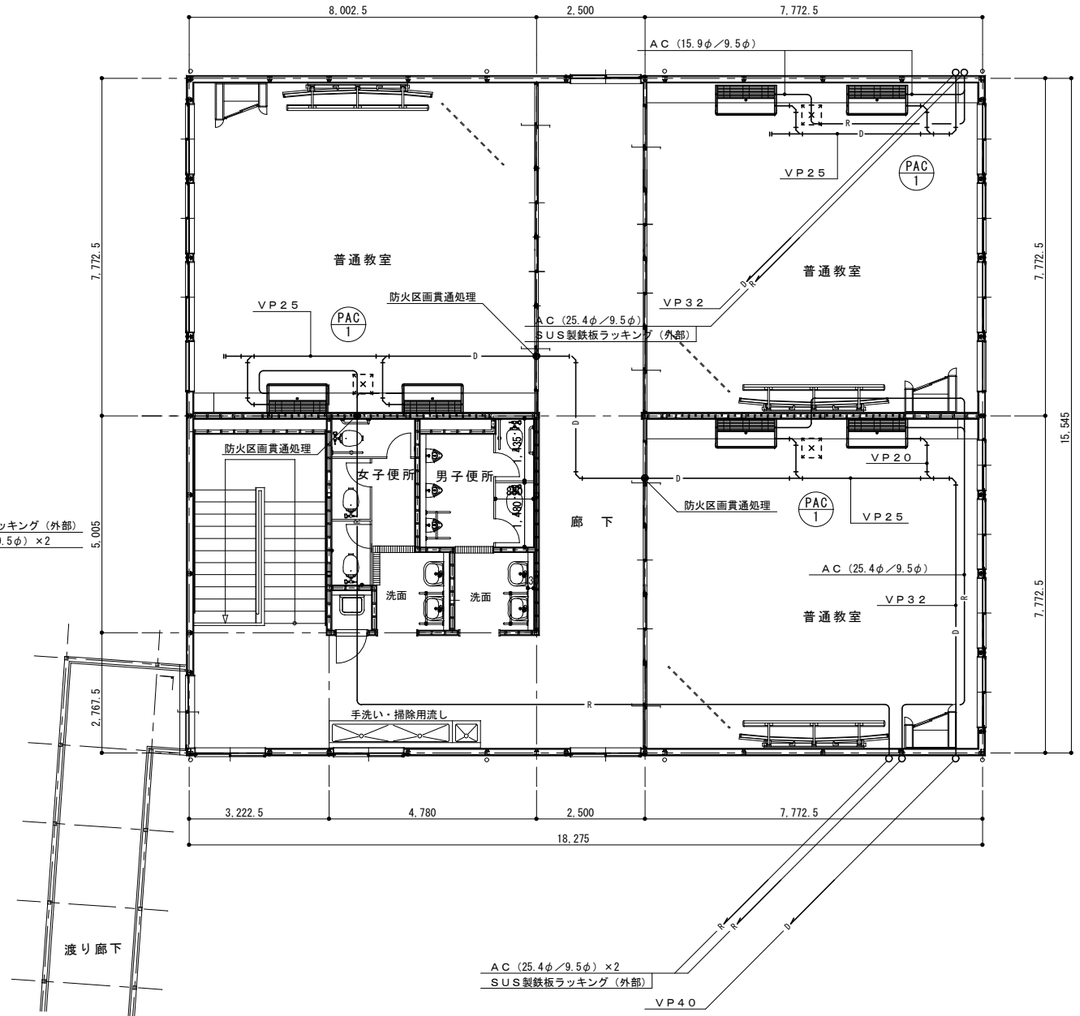
■桝リスト　　※桝深さは参考とし現場実測のうえ施工のこと

記号	名称	仕様	深さ	蓋	備考	特記事項
A	塩ビ製小口径桝	φ125-200　90Ｌ	H640	鋳鉄製φ200	インバート桝 防護ハット	○ 設計ＧＬ＝87.77を基準とした深さとする ○ 屋外排水管はＶＵ管とする。
B	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H820	塩ビ製φ200		
C	塩ビ製小口径桝	φ125-200　90Ｌ	H860	鋳鉄製φ200		
D	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H970	塩ビ製φ200		
E	塩ビ製小口径桝	φ125-200　45L	H1,060	塩ビ製φ200		
F	既設	コンクリート製800角	H1,100	グレーチング	改修	
1	塩ビ製小口径桝	φ125-200　90Ｌ	H360	化粧蓋	インバート桝	
2	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H380	化粧蓋	インバート桝	
3	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H400	化粧蓋	インバート桝	
4	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H420	化粧蓋	インバート桝	
5	塩ビ製小口径桝	φ125-200　ＳＴ	H540	化粧蓋	インバート桝	

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	給排水衛生設備平面図	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｍ－４

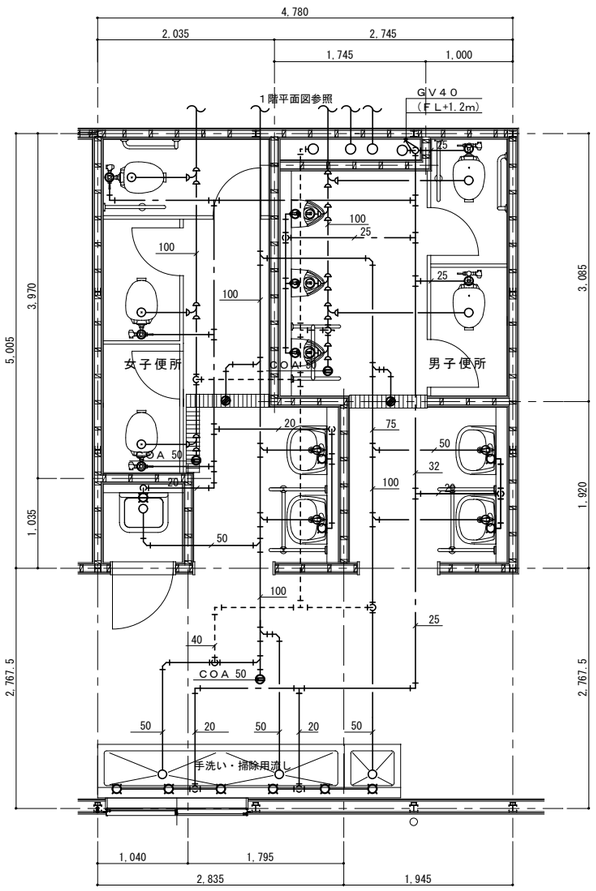


空調設備　配置兼１階平面図　　1：100

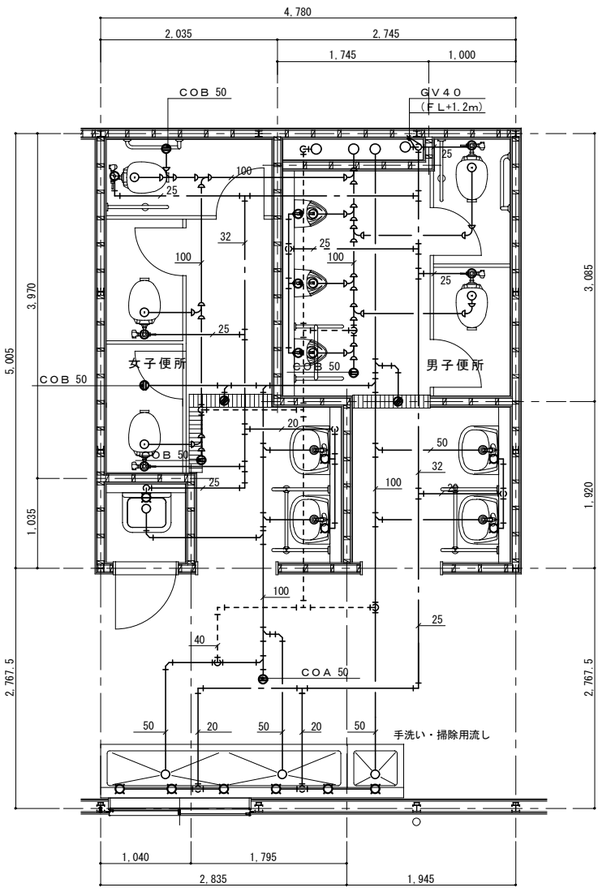


空調設備　２階平面図　　1：100

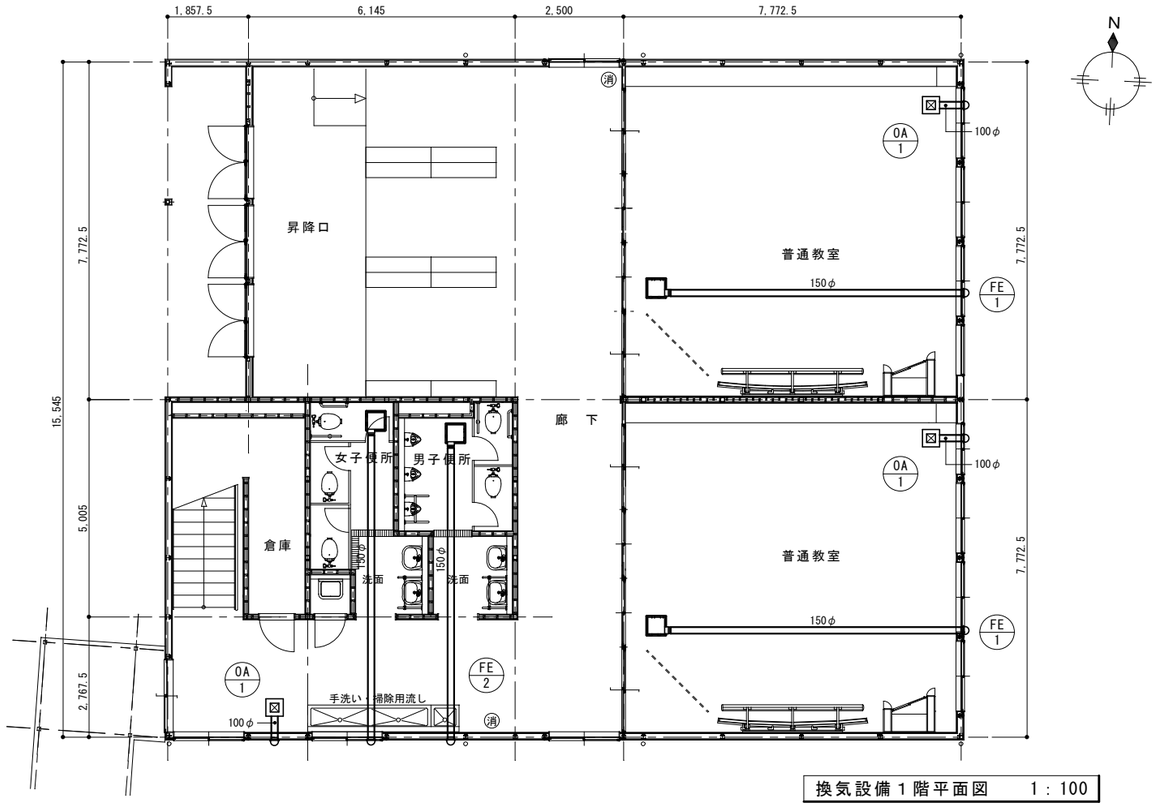
PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	空調設備平面図	1:100	2010.9	10018	* * * * * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川　佳永	M－5



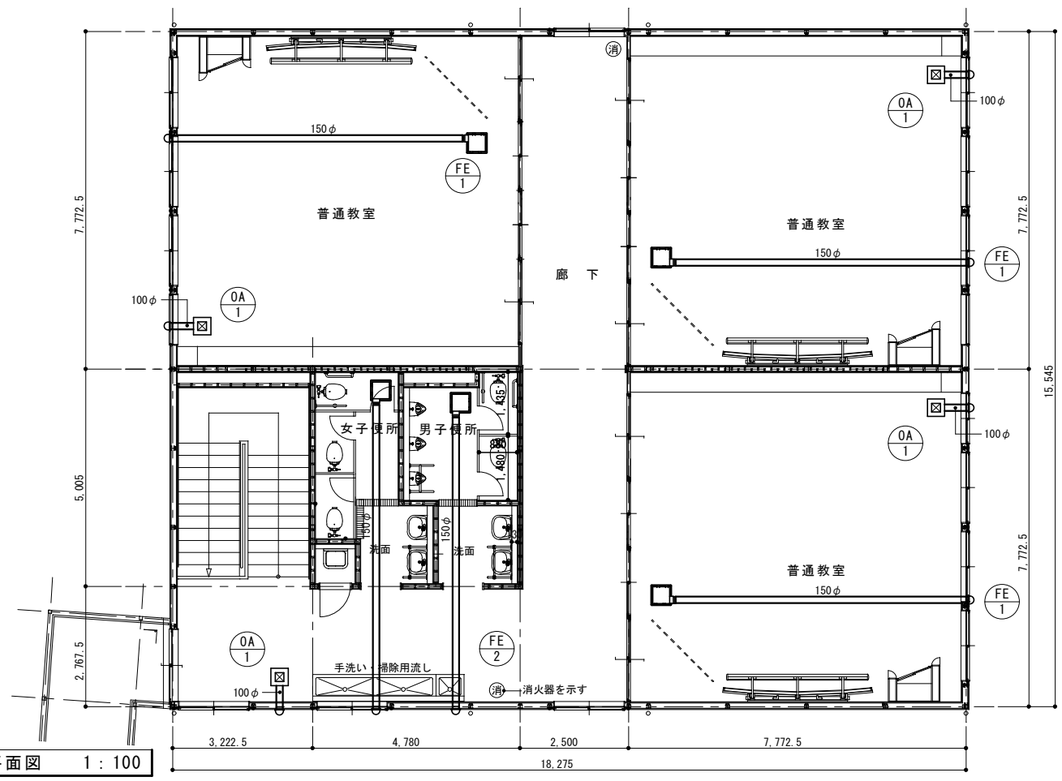
1階便所平面詳細図　1：50



2階便所平面詳細図　1：50

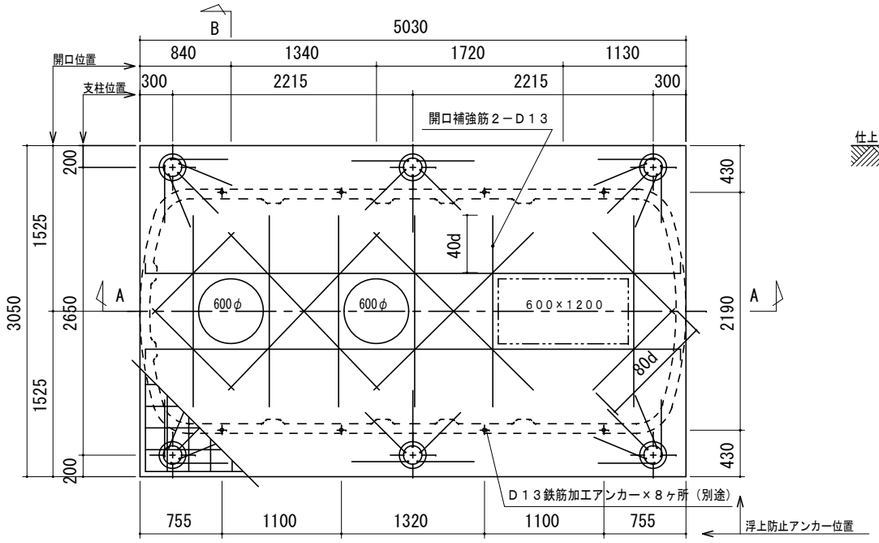


換気設備1階平面図　1：100



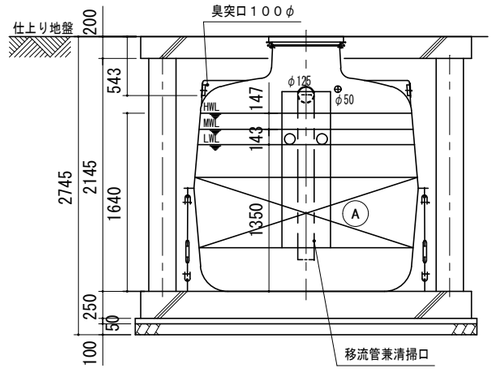
換気設備2階平面図　1：100

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK		PAGE
二上小学校増築工事	便所廻り平面詳細図・換気設備平面図	1:100・50	2010.9	10018	* * * * * *	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所 一級建築士 第216100号 尾川 佳永	M－6



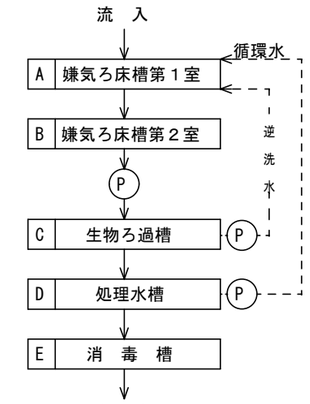
頂版開口図

S=1／40



Ｂ－Ｂ断面図

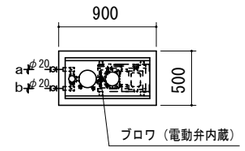
S=1／40



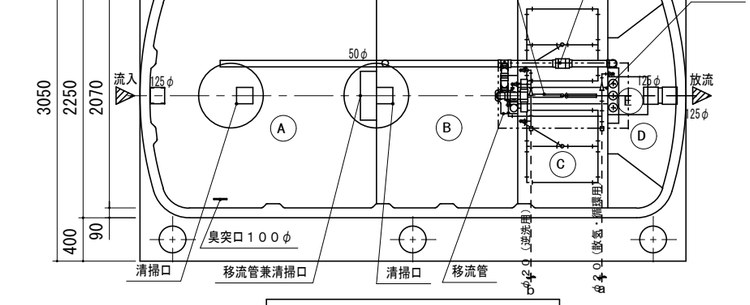
フローシート

合併処理浄化槽仕様	
名　称	ニッコー小規模合併処理浄化槽
型　式	ＮＳＲ－４５型
処理方式	建築基準法施行令第３５条第１項の大臣認定による流量調整型嫌気ろ床生物ろ過循環方式
処理対象人員	４５　人
単位汚水量	２００　Ｌ／人・日
日平均汚水量	９．０　ｍ３／日
流入ＢＯＤ濃度	200　mg/L
放流ＢＯＤ濃度	20　mg/L
除　去　率	90.0％

槽容量表		
記　号	槽　名　称	有効容量（ｍ３）
A	嫌気ろ床槽第１室	5.829
B	嫌気ろ床槽第２室	3.809
C	生物ろ過槽	2.620
D	処　理　水　槽	1.167
E	消　毒　槽	0.106
－	流量調整部	0.930

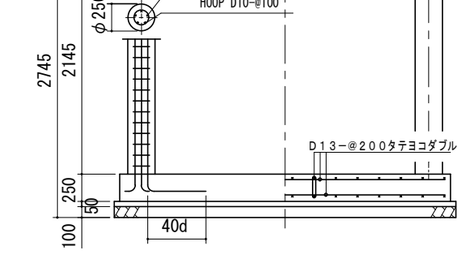


機　器　仕　様		
名　称	仕　様（５０ＨＺ／６０ＨＺ）	
ブロワ（電動弁内蔵）	φ２０×０．３０ｍ３／分×０．０２ＭＰａ×０．４／０．４ｋｗ×１台	単相１００Ｖ



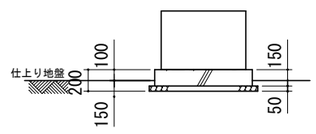
平　面　図

S=1／40



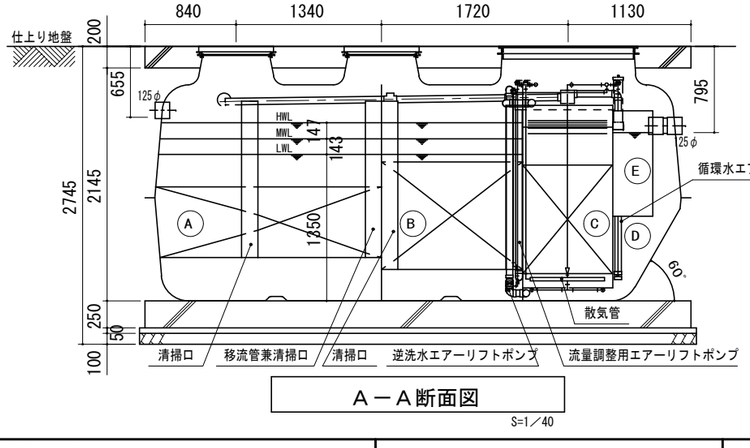
断面配筋図

S=1／40



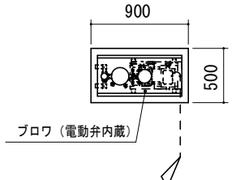
機器基礎図

S=1／40



Ａ－Ａ断面図

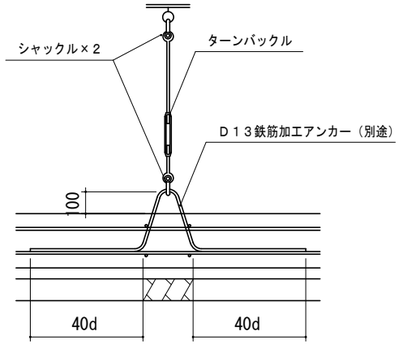
S=1／40



１φ　２Ｗ＋Ｅ　５０／６０ＨＺ　１００Ｖ（一次側別途工事）
＊但し、ブロワーには１．０ｍのプラグ付ケーブル付属。

電気配線図

S=1／40



注）Ｄ１３鉄筋加工アンカーは材・工共底版配筋工事請負業者手配とする。

アンカー詳細図　N.S

特記事項

１．槽内配管、バルブ類は浄化槽メーカー標準設定品とする。
２．ブロワーカバーは、メーカー標準品（全カバー）仕様とする。
３．流入管および放流管、臭突管は本体ソケット止めとし、以降別途工事とする。
４．浮上防止具必要の有無は打ち合わせによる。

躯体仕様

上部用途	安全荷重１５００Ｋ（破壊荷重６ｔｏｎ）／３ｔトラック以下
鉄筋コンクリート	Fc=21N/mm2
捨てコンクリート	Fc=18N/mm2
鉄筋	SD295A
継手	重ね継手
定着長さ	４０ｄ以上

マンホール仕様

形　状	荷　重	蓋	受　枠	ロック方式
丸型マンホール	安全荷重１５００Ｋ（破壊荷重６ｔｏｎ）	FC200	FC200	＊２）ボルトロック
角型マンホール	安全荷重１５００Ｋ（破壊荷重６ｔｏｎ）	FCD600	*1)SS400	＊２）ボルトロック
	＊１）受枠は溶融亜鉛メッキ２種仕様　／　＊２）ボルトはＳＵＳ３０４製とする。			

注記事項

・本浄化槽流入管底は仕上り天端-６５５～-９００迄となります、これ以上深くなる場合は別途原水ポンプ槽が必要とします。
・本浄化槽放流管底は仕上り天端-７９５～-１０４０迄となります、管勾配が取れない場合は別途放流ポンプ槽が必要とします。
・臭突管（ファン共）は別途工事とします。
・屋外附属機器の防護フェンス等は別途工事とします。
・地盤改良及びウェルポイント工事等の特殊工事は別途工事とします。
・本浄化槽構造は上部積載補強仕様ですが、工事中の重機等の乗入れがある場合の養生費は別途工事とし、工事車両積載による浄化槽破損の場合の修繕費は別途費用とします。
・本浄化槽重量は１７００ｋｇ（内部水別）となります。

PROJECT NAME	TITLE NAME	SCALE	DATE	PROJECT	REFERENCE	DRAW	CHECK			PAGE
二上小学校増築工事	浄化槽平面・断面図	1：40	2010.9	10018	＊ 本図は参考図であり、同等品とする。	山縣	尾川	株式会社 尾川建築設計事務所	一級建築士 第216100号 尾川　佳永	Ｍ－７